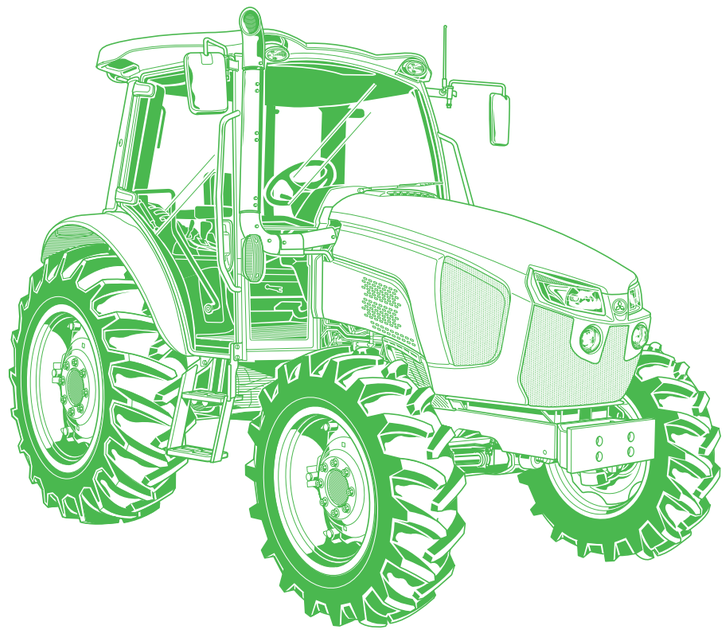
トラクタ

取扱説明書

GVE 860 1010



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- 注意マーク
- システム異常警告
- 火気厳禁
- 高速又は高
- 低速又は低
- クリープ
- 取扱説明書を参照
- 固定（ロック）
- 入（ON）
- 切（OFF）
- ディーゼル軽油
- 燃料残量警告
- 燃料計（残量）
- アワーメータ（積算時間計）
- 水温計
- エンジン低温規制
- エンジンオイル圧力
- ウォータセパレータ
- エンジン異常
- エンジン回転
- エンジン回転メモリA
- エンジン回転上限
- エンジン過回転
- エンジン回転上げ要求
- パワーアシスト
- エンジン予熱
- 再生状態
- 再生禁止
- 駐車再生
- 駐車再生要求
- 尿素水（AdBlue）残量／品質警告
- 尿素水（AdBlue）残量警告
- 尿素水（AdBlue）品質不良警告
- SCR システム警告
- 尿素水（AdBlue）解凍
- 4WD
- 倍速ターン
- 傾き自動
- クラッチ
- ブレーキ
- 駐車ブレーキ
- ブレーキ連結解除
- デフロック
- チルトステアリング
- PTO（切）
- PTO（入）
- 3 点リンク（上げ）
- 3 点リンク（下げ）
- 油圧補助コンシリンダ（縮み）
- 油圧補助コンシリンダ（伸び）
- バッテリ充電異常
- ヘッドライト上向き照射
- ヘッドライト下向き照射
- 作業灯
- 方向指示器表示
- ハザードランプ
- ホーン
- フロントワイパ
- 間欠ワイパ
- ウインドウオッシャ
- デフォッガ

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

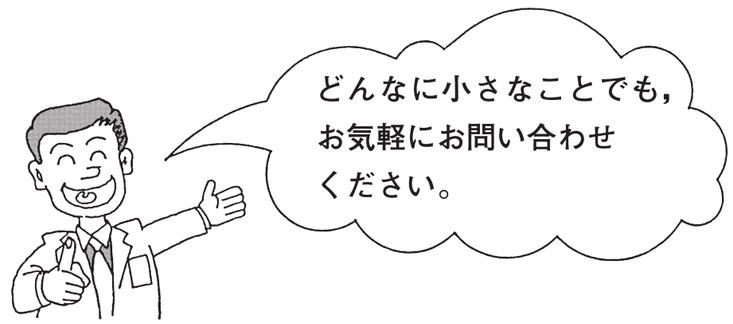
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

GVE860SE/1010SE
BB．D．1-1．0．AK

はじめに

このたびは、三菱マヒンドラ農機製品をお買い上げいただきありがとうございます。

製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保管してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げいただいた購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は GVE1010SELH を基本とし、GVE1010SELH と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

● エンジン出力（PS）によって ····· GVE860 仕様、GVE1010 仕様
● タイヤ

仕　様	前輪タイヤ	後輪タイヤ
LH	11.2 - 24	13.6 - 38H
LA	12.4 - 24	16.9 - 34

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう、一般目次以外に下記 3 つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上、必要な情報の検索にご活用ください。

1. 目的目次　　困った事、知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。
困ったときの参照頁一覧（目的別、場所別）（9 ページ）を参照。

2. 絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても、イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。
トラクタ装置の名称（31 ページ）を参照。

3. 索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
記号・数字・アルファベット・あいうえお順の索引（174 ページ）を参照。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

困ったときには 9
困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別） 9
安全に作業をするために 11
サービスと保証 27
ご相談窓口 27
補修用部品の供給年限について 28
農機型式名一覧表 28
小型特殊自動車としての取扱い 29
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 29
低速車（SMV）マーク 29
運転免許 29
損害賠償保険について 29
公道走行時の注意 29
輪距 30
装置の名称と取扱い 31
トラクタ装置の名称 31
1. トラクタの外観 31
2. ハンドル部 33
3. 運転席部 34
4. 安全キャブ部 35
排ガス後処理装置 36
1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ 36
1.1 DPF マフラの取扱いポイント 36
1.2 DPF マフラの再生方式 37
1.2.1 自動再生モードの操作 38
1.2.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 39
1.2.3 再生禁止モードの操作 40
1.2.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 41
1.2.5 駐車再生の操作手順 42
1.3 DPF の再生に関する豆知識 42
2. 尿素 SCR システム 43
2.1 尿素 SCR システムの概要 43
2.2 尿素水(AdBlue)について 44
2.3 尿素水(AdBlue)の取扱い 44
2.4 尿素水(AdBlue)の品質について 44
2.5 SCR の警告表示 44
2.5.1 尿素水(AdBlue)残量低下時の警告表示 44
2.5.2 SCR 警告情報 45
2.5.3 SCR の警告情報一覧と対応 46
2.6 尿素水(AdBlue)の補給 48
2.7 尿素水(AdBlue)の排出 48
2.8 購入した尿素水(AdBlue)の保管 48
2.9 尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管 49
2.10 尿素水(AdBlue)の廃棄 49
2.11 エンジン停止後の取扱注意点 49
2.12 寒冷地での使用時の注意点 49
2.13 尿素 SCR システムの関連部品のメンテナンス 50
トラクタ装置各部の取扱い 50
1. 運転席周りの調節 50
1.1 シート 50
1.2 安全キャブとシートベルト 50

1.3 インストラクタシート（オプション） 51
1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順 51
1.4 チルトステアリングハンドル 53
1.5 バックミラー 53
2. 灯火類の操作 53
2.1 ヘッドライトスイッチ 53
2.2 ウインカスイッチ 53
2.3 ハザードスイッチ 54
2.4 ホーンボタン 54
2.5 バックランプ 54
2.6 ブレーキランプ 55
2.7 車幅灯・尾灯 55
3. キースイッチ 55
4. ブレーキペダル 55
4.1 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯 56
5. 駐車ブレーキ 56
6. クラッチペダル 57
7. アクセルレバー 57
8. アクセルペダル 57
9. トランスミッションシフトレバー 57
9.1 エンジン回転規制 57
9.2 主変速レバー 57
9.3 副変速レバー 58
9.3.1 クリープ速度 58
9.4 シャトルレバー 59
9.5 デュアルスピード（DS）ボタン 59
9.6 走行モード切換スイッチ 59
9.6.1 4WD（4 輪駆動）の使い方 60
9.6.2 倍速ターンの使い方 60
9.7 クラッチボタン 60
10. デフロック 60
11. 電子メータ 62
11.1 液晶モニタ 63
11.2 液晶モニタの初期設定 63
11.2.1 時計の設定 64
11.2.2 時計の表示/非表示設定（ON/OFF） 64
11.2.3 タイヤ周長の確認と設定 64
11.2.4 表示単位の設定 65
11.2.5 PTO 回転数の設定 65
11.2.6 エンジン始動セキュリティの設定 65
11.3 パフォーマンスモニタ 66
11.4 エンジン過回転警告 67
11.5 イージーチェッカ 67
11.6 燃料計 68
11.7 尿素水(AdBlue)ゲージ 68
11.8 エンジン回転計 69
11.9 水温計 69
11.10 モニタランプ 70
12. エンジン始動セキュリティ機能 71
12.1 暗証番号の入力方法 71
12.2 エンジン始動セキュリティの設定 72
12.3 エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON/OFF） 73
12.4 エンジン始動セキュリティの暗証番号設定 74
13. 電子エンジン制御 75
13.1 エンジン回転メモリ 75
13.1.1 エンジン回転メモリの設定方法（設定回転数の変更） 75
13.1.2 エンジン回転メモリの解除方法 76
13.2 パワーアシスト制御 76

14. 作業機昇降装置 77
14.1 ポジションレバー 77
14.1.1 レバーストッパの使い方 77
14.2 ドラフトコントロールレバー 77
14.2.1 フローティングの使い方（プラウのスキ込みをよくするために） 78
14.2.2 ドラフト感度の調整 78
14.3 ミックスコントロール 78
14.4 落下速度調整グリップ 78
14.4.1 油圧ロックの取扱い 79
14.5 傾き自動 80
14.5.1 傾き自動の各部の名称 80
14.5.2 傾き自動切替スイッチ 81
14.5.2.1 傾き自動切替スイッチ**[水平]** 82
14.5.2.2 傾き自動切替スイッチ**[傾斜地]** 82
14.5.2.3 傾斜地傾き自動の微調整設定手順 82
14.5.2.4 傾き自動切替スイッチ**[切]** 83
14.5.2.4.1 位置制御 83
14.5.3 傾き自動角度調節ダイヤル 83
14.5.4 傾き手動スイッチ 83
14.5.5 平行復帰スイッチ 83
14.5.6 傾き自動の安全ロック機能 84
14.5.7 作業機昇降装置のランプ表示一覧 84
15. 外部油圧取出し 84
15.1 油圧補助コントロールレバー 84
15.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ 85
15.3 流量調節バルブ（オプション） 85
15.3.1 流量調節バルブの流量調節のしかた 86
15.3.2 流量調節バルブの装着位置と特徴 86
16. 外部電源取出端子 87
16.1 電源取出し 87
16.2 トレーラカプラ電源 87
運転のしかた 88
運転前の点検 88
1. トラクタへの乗降 88
エンジンの始動と停止 88
1. 始動のしかた 88
2. 寒冷時の始動のしかた 91
2.1 エンジン低温規制 92
2.2 尿素水(AdBlue)凍結警告 92
3. 停止のしかた 92
トラクタの発進と走行 93
トラクタの停止と駐車 94
寒冷時の暖機運転 95
バッテリ上がりの処置 95
ならし運転（最初の約 50 時間） 95
運転中の作動確認 96
状況に応じた操作 96
1. 片側の車輪がスリップするとき 96
2. 旋回のしかた 96
3. 坂道での運転 96
4. ほ場への出入り時の注意 96
5. 道路走行中の注意 96
6. トラックへの積み・降ろし 97
7. パワーステアリングの取扱い 97
8. ローダ作業を安全に行うための注意事項 98
作業のしかた 99

3 点リンク 99
1. 3 点リンクの各部の名称 99
2. 作業機の取付け 100
2.1 ロアーリンク取付け穴の選択 100
2.2 リフトロッド（左）の長さ調整 100
2.3 トップリンク 100
2.4 傾き自動外部操作スイッチ 101
2.5 チェックチェーンの調整 101
2.6 作業機を取り付けないときの注意 102
けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション） 102
PTO 102
1. PTO クラッチコントロールスイッチ 102
2. 上昇 PTO 停止モード 103
3. PTO 変速レバー 104
4. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ 104
タイヤ 104
1. タイヤの空気圧 104
2. タイヤの取外しの注意 105
輪距の調整 105
1. 前輪輪距一覧表 107
2. 後輪輪距一覧表 108
ウエイト（オプション） 109
1. 前部ウエイト（オプション） 109
2. 後輪ウエイト（オプション） 109
安全キャブ装備品の取扱い 110
ドア・窓の開閉とロック 110
1. ドア 110
2. リヤウインド 110
3. クォータウインド 111
4. ルーフパネル 111
ルームランプ 111
ワイパ 111
1. フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 111
2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ（オプション） 112
3. 寒冷時のワイパの使用 112
4. リヤデフォッガスイッチ（オプション） 112
作業灯 112
1. 作業灯スイッチ 112
2. 作業灯（前） 113
3. 作業灯（後） 113
エアコン 113
1. フロンの取扱いの注意 113
2. 空気の流れ 113
3. 風向調整 114
3.1 フロント吹出口 114
4. エアコンコントロールパネルの名称と働き 114
5. エアコンコントロールパネルの操作方法 114
6. ヒータ使用上の注意 115
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ（オプション） 115
1. AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ取扱い上の注意 115
2. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのラジオモード・CD モード共通部 116
2.1 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの基本操作部 116
2.2 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの音質調整部 117
2.3 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの時計設定部 118
2.4 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのスピーカとスクリーンセーバー設定部 119
3. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのラジオモード 120
4. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの CD モード 122

5. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ 124
アンテナ 124
作業機の装着 124
1. 作業機用操作ボックスの取付け 124
トラクタの点検・整備のしかた 125
廃棄物の処理について 125
洗車時の注意 125
定期点検箇所一覧表 126
1. 早見表 128
給油（水）一覧表 129
1. トラクタの給油（水） 129
推奨オイル・尿素水・グリース一覧表 130
ボンネットの開閉およびサイドカバーの外し方 131
1. ボンネットの開閉 131
2. サイドカバーの取外し 131
日常点検 131
1. 前日の異常箇所の点検 131
2. トラクタの周囲の点検 131
3. エンジンオイル量の点検および補給 132
4. ミッションオイル量の点検および補給 132
5. 冷却水量の点検および補給 132
6. メータ・ランプ類の作動点検 133
7. ウォータセパレータの水の排出 133
8. バキュエータバルブの清掃 134
9. ダストインジケータの点検 134
10. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検・交換 134
11. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検 135
12. ラジエータ用防虫網とエアコンコンデンサ用防虫網およびオイルクーラの清掃 135
12.1 パネルの着脱 135
12.2 エアコンコンデンサの引出し 136
12.3 エンジン前周りの清掃 136
13. DPF と SCR の点検 136
14. ブレーキペダルの遊びの点検 136
15. 駐車ブレーキの作動点検 137
16. 燃料の補給時の注意点 137
17. 尿素水(AdBlue)の点検と補給 137
50 時間後の点検・整備（初回のみ） 138
1. エンジンオイルの交換（初回 50 時間運転後） 138
2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換（初回 50 時間運転後） 138
50 時間ごとの点検・整備 139
1. エンジン始動システムの点検 139
2. タイヤ取付けボルトの点検 139
3. タイロッドゴムブーツの点検 139
100 時間ごとの点検・整備 139
1. エンジンの始動確認 139
2. エンジンの排気状態の確認 140
3. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認 140
4. グリースの注入 140
5. ダブルエアクリーナエレメントの清掃手順 141
6. ファンベルトの点検・調整 142
7. 油圧ブレーキの点検 142
7.1 遊び量の点検 142
7.2 踏込み量の点検 142
7.3 イコライザの作動量の点検（片効き防止装置） 143
8. 駐車ブレーキの点検・調整 143
9. バッテリ電解液の点検 143
9.1 バッテリの取付け・取外し時の注意点 144

9.1.1 エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意 144
9.2 バッテリの補充電のしかた 144
200 時間ごとの点検・整備 144
1. トーインおよびタイロッドの点検・タイロッドのトーイン調整 144
1.1 タイロッドのトーイン調整手順 145
2. 燃料タンクの水抜き 145
3. 室内エアフィルタの清掃 145
4. 外気フィルタの清掃 146
5. エアコンベルトの張りの点検・調整 146
6. エアコンコンデンサの清掃 146
400 時間ごとの点検・整備 147
1. ウォータセパレータの清掃 147
2. 燃料電磁ポンプ内フィルタの清掃 147
500 時間ごとの点検・整備 148
1. エンジンオイルの交換 148
2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 149
3. 燃料フィルタカートリッジの交換 149
4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換 149
5. 燃料ホースの点検・交換 150
6. ラジエータホースの点検・交換 150
7. 吸気ホースの点検・交換 151
8. パワーステアリングホースの点検・交換 152
9. ブレーキホースの点検 152
10. リフトシリンダホースの点検 153
11. 傾き自動シリンダホースの点検 153
12. エアコン配管、ホースの点検 153
600 時間ごとの点検・整備 153
1. 前部デフケースの前後遊びの点検・調整 153
1000 時間ごとの点検・整備 153
1. ミッションオイルの交換 153
2. 前部デフケースのオイル交換 154
3. 前輪ケース左・右のオイル交換 154
4. エンジンバルブクリアランスの点検 154
1000 時間ごとまたは 1 年ごとの点検・整備 154
1. ダブルエアクリーナエレメントの交換時期 154
2. エキゾーストマニフォールドの点検 155
1500 時間ごとの点検・整備 155
1. 燃料インジェクタの点検 155
2. 尿素水インジェクタの清掃 155
3. 尿素水ホースの点検 155
4. オイルセパレータエレメントの交換 155
5. PCV バルブの点検 156
6. EGR クーラの点検・清掃 156
2000 時間ごとまたは 2 年ごとの点検・整備 156
1. ラジエータ洗浄剤 156
2. 冷却水の交換 156
2.1 不凍液 157
3000 時間ごとの点検・整備 157
1. ターボチャージャの点検 157
2. サプライポンプの点検 158
3. インテークエアヒータの点検 158
4. EGR システムの点検・清掃 158
5. DPF マフラの清掃 158
6. 尿素水インジェクタの点検 158
7. 尿素水ポンプエレメントの交換 158
8000 時間ごとの点検・整備 158
1. 尿素水タンクサクションフィルタの交換 158
3 か月ごとの点検・整備 158

1. エアコン機器の簡易点検 158
2. 尿素水(AdBlue)の品質の点検 158
1 年ごとの点検・整備 159
1. DPF 差圧センサパイプの点検 159
2. EGR パイプの点検 159
3. キャブマウントゴムの点検 159
4. オイルセパレータの不凍結用ヒータ（オプション） 159
2 年ごとの点検・整備 159
1. オイルセパレータホースの交換 159
2. PCV バルブホースの交換 159
3. ブーストセンサホースの交換 159
4. DPF 差圧センサホースの交換 159
5. EGR クーラホースの交換 159
3 年ごとの点検・整備 159
1. 駐車ブレーキワイヤの交換 159
4 年ごとの点検・整備 159
1. 燃料ホースの交換 159
2. ラジエータホースの交換 159
3. 吸気ホースの交換 159
4. パワーステアリングホースの交換 159
5. 傾き自動シリンダホースの交換 159
6. リフトシリンダホースの交換 159
7. ブレーキホースの交換 159
8. マスタシリンダ / イコライザキットの交換 160
9. ブレーキシール 1 、 2 の交換 160
10. エアコンホースの交換 160
必要に応じた点検・整備 160
1. 燃料の空気抜きのしかた 160
2. ブレーキの空気抜き 160
3. クラッチハウジングの水抜き 161
4. ヒューズの交換 161
5. スローブローヒューズの交換 162
6. ランプ類の交換 163
6.1 ランプ一覧 163
7. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油 163
8. ウォッシャ液の補充 163
9. 冷媒（ガス）量の点検・充てん 163
格納 164
1. 長期格納時の手入れ 164
不調と処置 166
1. エンジンの不調と処置 166
2. トラクタの故障と処置 167
3. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置 169
付表 170
主要諸元 170
1. トラクタの主要諸元 170
2. 走行速度表 171
3. 標準付属品 173
索引 174

困ったときには

困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別）

目的・場面		項目	参照頁
エンジン始動時に	尿素水(AdBlue)の取扱い方法を知りたい	尿素水(AdBlue)	44
		警告表示と対応	44
		尿素水(AdBlue)の保管と取扱い	44 48 49
	寒冷時の始動方法について知りたい	寒冷時の始動のしかた	91
	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	95
	エンジンの回転が上がらない	エンジン低温規制	92
	エンジンの調子が悪い	エンジンの不調と処置	166
道路走行時に	2WD、4WD または倍速ターンに切り換えたい	走行モード切換スイッチ	59
	作業機の落下防止を施したい	油圧ロック	78
	トレーラ用電源コンセントを接続したい	トレーラ用カプラ	87
作業時に	作業時のエンジン回転数を記憶させたい	エンジン回転メモリ設定	75
	車速や PTO 回転をできるだけ一定に保ちたい	パワーアシスト制御	76
	ドラフトコントロールを使いたい	作業機昇降装置	77
	傾き自動の調整要領を知りたい	傾き自動	80
	作業機を装着したい	作業機の取り付け	100
	油圧取出しを使いたい	外部油圧取出し	84
	作業機に電源を接続したい	外部電源取出端子	87
	作業機用操作ボックスを取り付けたい	作業機用操作ボックスの取付け	124
	作業機がロックされて降下できない	油圧ロック	78
	タイヤがスリップする	デフロックの使い方	60
	電子メータや液晶モニタの見方を知りたい	電子メータ	62
	電子メータ内のランプが点灯（点滅）している	ランプ表示一覧	70
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した	イージーチェッカ	67
	走行速度が知りたい	液晶モニタの切替え	63
	PTO 軸回転数が知りたい	液晶モニタの切替え	63
	PTO 回転数を変更したい	PTO 変速レバー	104
	燃費や作業効率を把握したい	パフォーマンスモニタ	66
	DPF マフラ内の PM 堆積量を知りたい		
	時計をセットしたい	初期設定	63
メンテナンス時に	ボンネットの開け方を知りたい	ボンネットの開閉	131
	日常点検ですべきことは	日常点検	131
	オイル、冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	129
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル・尿素水・グリース一覧表	130
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の空気抜きのしかた	160

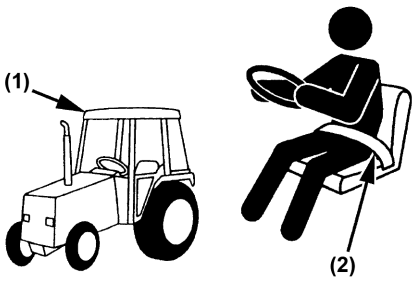
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は次の通りですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

安全キャブについての注意事項

1. 安全キャブの目的

安全キャブは、万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって、転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って、安全運転を心がけてください。

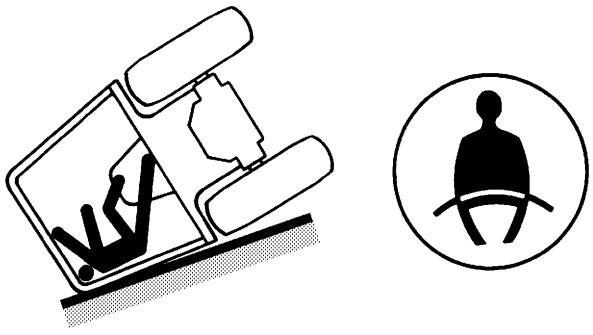


1RGMA00002A01

(1) 安全キャブ
(2) シートベルト

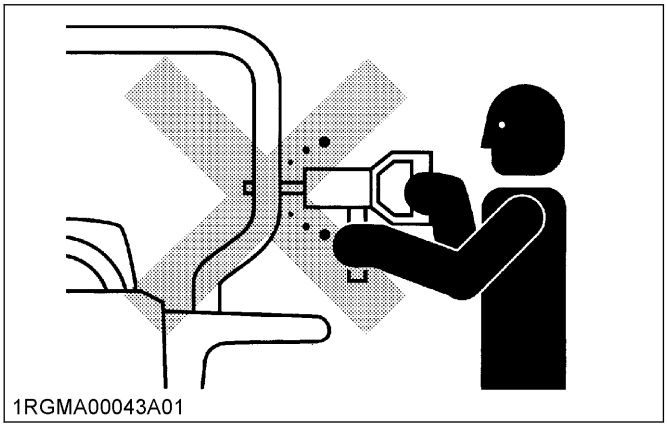
2. シートベルトを併用すること

- 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1RGMA00042A01

3. 安全キャブの改造禁止

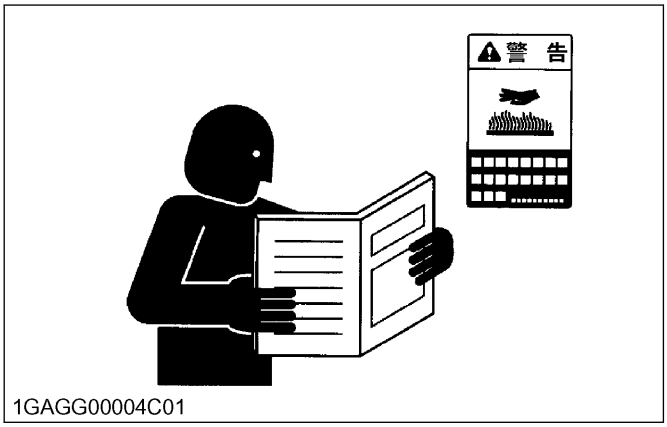
- 安全キャブを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。


1RGMA00043A01

運転前の注意事項

1. 正しい運転方法、運転してはいけない人

- トラクタを動かす前に、トラクタおよび装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- トラクタ、作業機を他人に貸すとき、また、運転させるときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読ませてください。
- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。

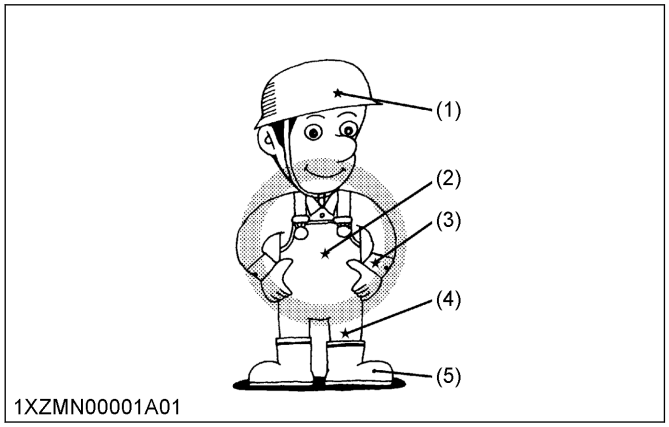


1GAGG00004C01

2. 作業に適した服装

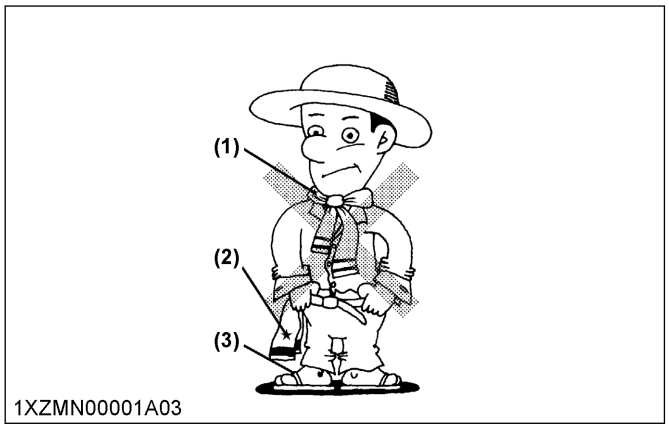
- ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
  回転部分や操縦装置にひっ掛かり事故の原因になります。
  安全のため、ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護めがねや手袋などを使ってください。

作業時の服装［良い例］



(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) 袖口きっちり
(4) スソきっちり
(5) 滑りにくい靴

作業時の服装［悪い例］



(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

3. トラクタの改造禁止

- トラクタを改造しないでください。改造すると、過度の出力アップによる動力伝達系の破損、冷却性能を超える出力の運転によるオーバーヒート、排出ガス後処理の制御不具合等、機器の破損・不具合・事故が生じます。また排ガス規制の違反になりかねません。改造に起因した事故や故障について、メーカーは一切保証しません。

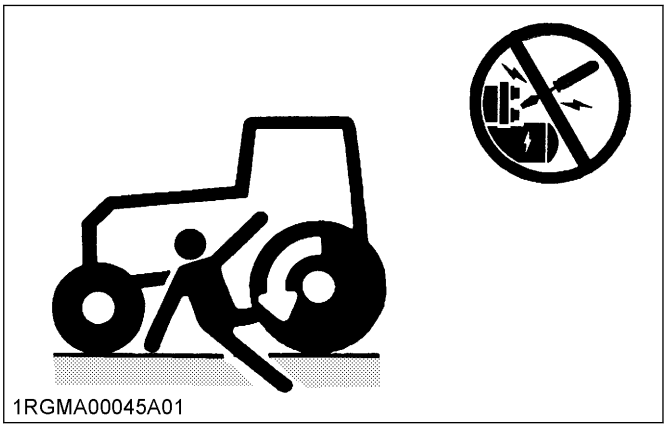
4. 作業前の点検・確認

- 安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。
  紛失したり損傷した部品は交換してください。
  ブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行い摩耗や損傷している部品があれば、交換してください。
  また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
  （詳細はトラクタの点検・整備のしかた（125 ページ）を参照）
- トラクタは常に清掃しておいてください。
  バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

始動時の注意事項

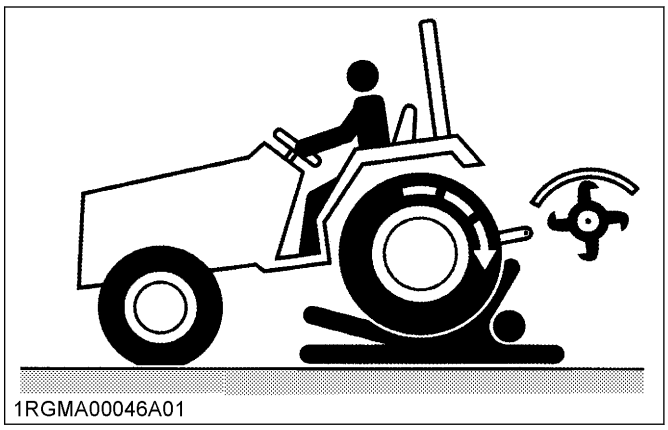
1. レバー、スイッチやブレーキの確認

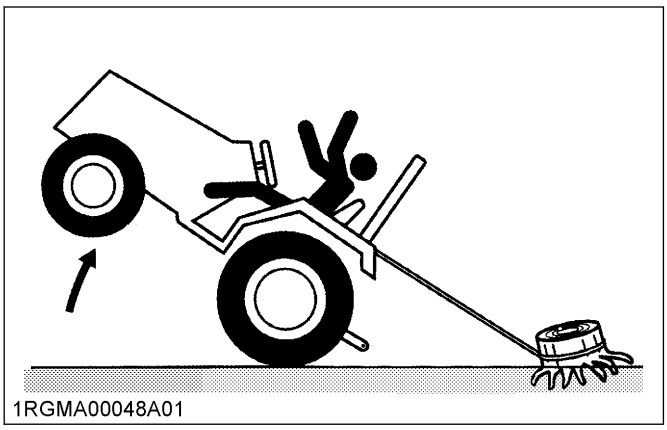
- エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバーや主変速レバーが“中立”かどうか、PTOクラッチコントロールスイッチが“切”（**[OFF]**位置）かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- 地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
  トラクタが突然動き出すおそれがあります。



2. 周囲の安全確認

- トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。
  もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
  また、安全キャブに当たる障害物が無いかも確認してください。

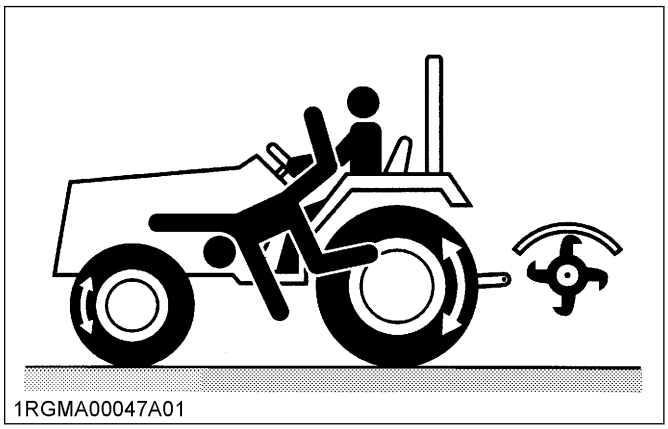

1RGMA00046A01


1RGMA00048A01

運転時の注意事項

1. 同乗禁止

- 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
  また、必ずシートに座って運転してください。
- オプションのインストラクタシートを付けた場合でも道路走行時の二人乗りはできません。インストラクタシートは作業中での指導者席としてオプション採用しています。

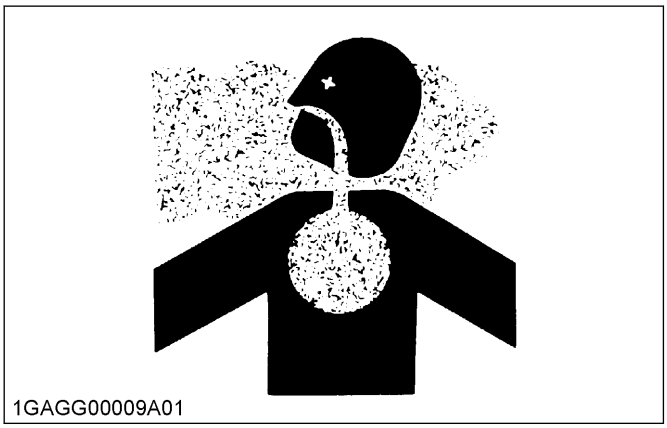

1RGMA00047A01

2. けん引作業時の注意

- けん引作業には、けん引ヒッチ（別売）を用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引っ張らないでください。
  トラクタの破損や転覆の原因となります。

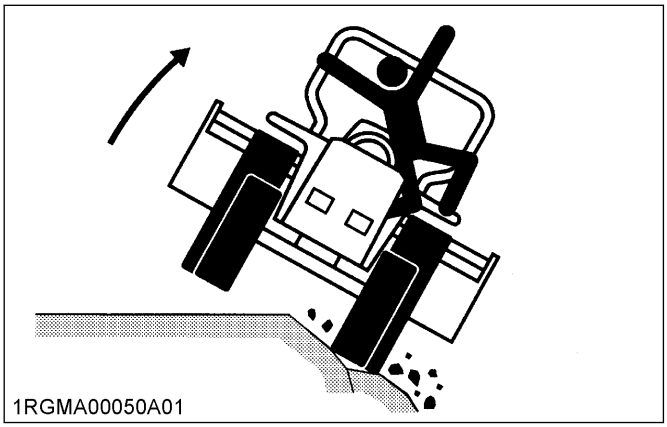
3. 屋内で運転するとき

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
  排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。


1GAGG00009A01

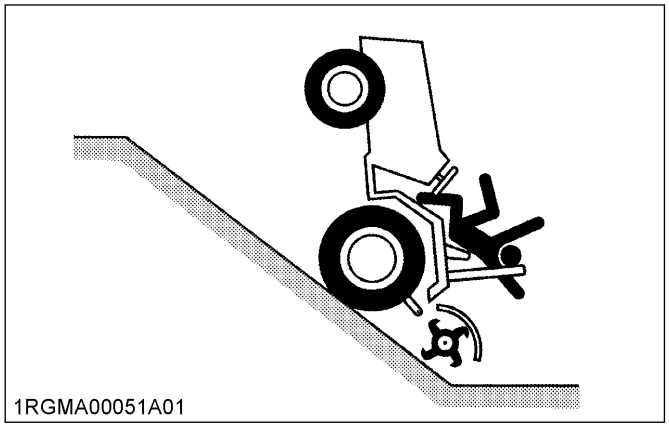
4. 運転に不適切な場所

- 溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
  また、草の繁った所や水たまりなどには、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1RGMA00050A01

5. 後方転覆の危険、共同作業時の注意

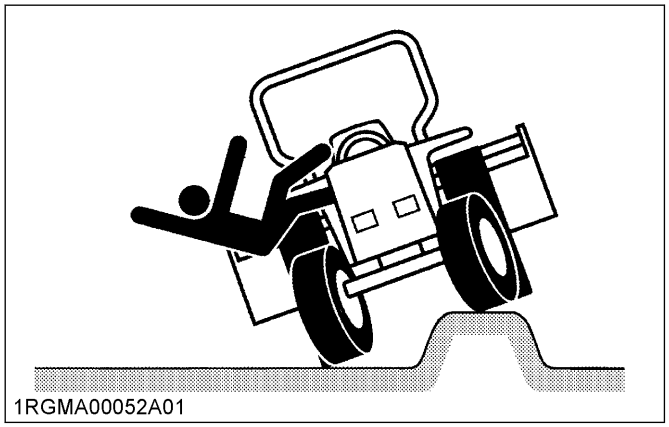
- 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では、バックで運転してください。



- 共同で作業をするときは、声を掛け合って、お互いにしようとしていることを知らせてください。

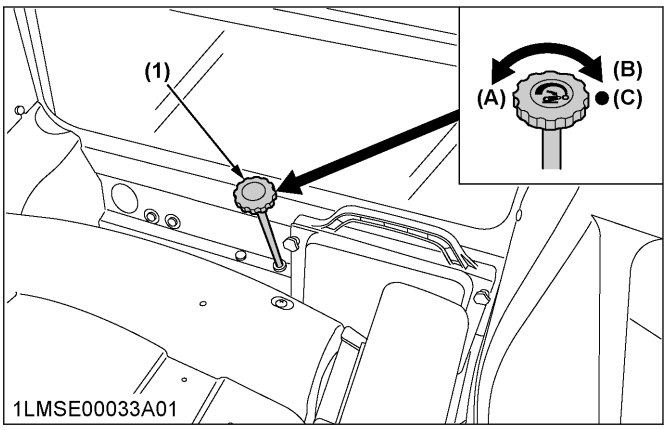
6. ほ場の出入り

- ほ場の出入りなどで、急傾斜の上り降りや溝越えは、低速にして直角に進行してください。その際、必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。



7. ほ場外での作業機落下防止

- ほ場外では、落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。“遅い”方向に締めきるとロック（停止）します。

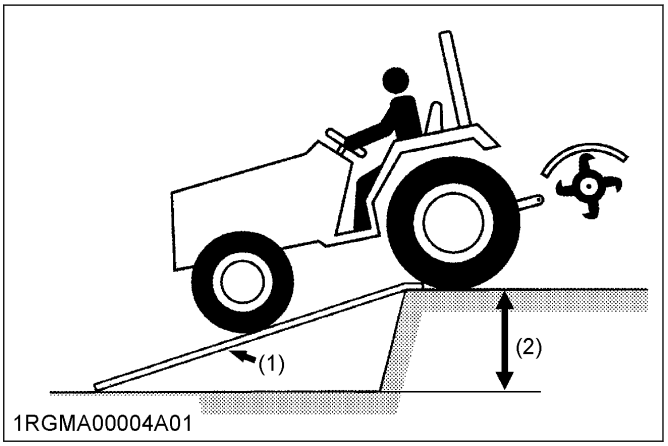


(1) 落下速度調整グリップ

(A) 速い
(B) 遅い
(C) 油圧ロック

8. あゆみ板の使用、途中変速の危険

- ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の上り降りや、溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行ってください。
あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さのものを使用してください。

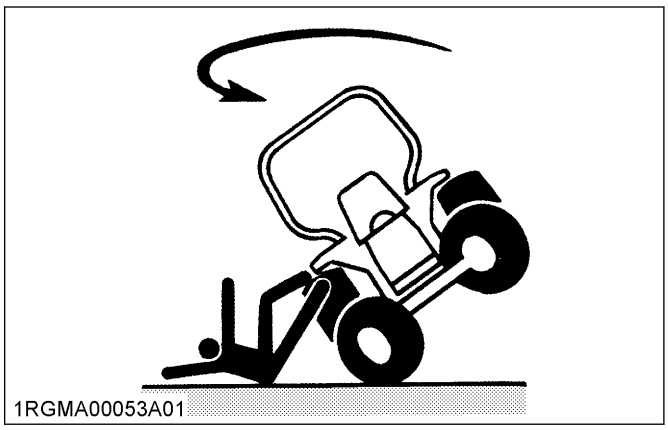


(1) あゆみ板
(2) 段差

- 急な坂道、車両への積込み積降ろし、ほ場への出入り、畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

9. 急旋回禁止

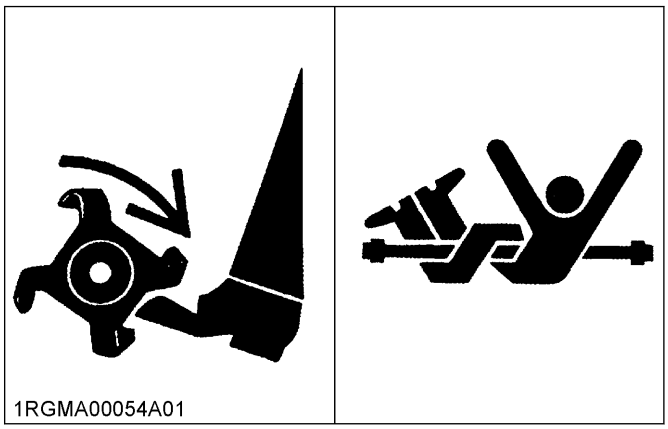
- 倍速ターンはほ場以外では“切”にし、使用しないでください。また、高速では倍速ターンを使用しないでください。


1RGMA00053A01

作業機使用時の注意事項

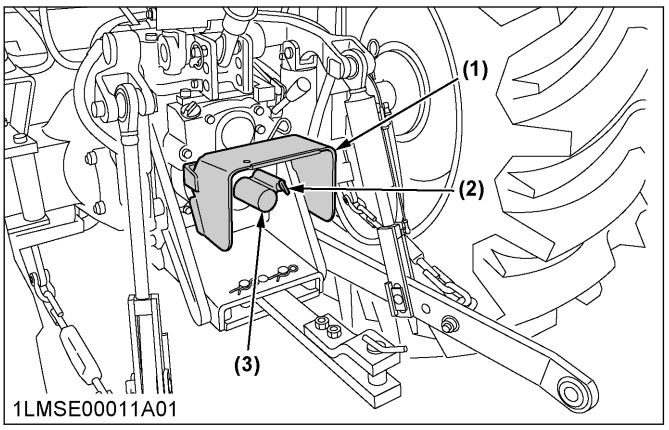
1. 作業機の着脱

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。
- トラクタから降りるときや、ロータリなど PTO 作業機の装着、取外し、調整、掃除または修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。


1RGMA00054A01

2. PTO 軸の保護と回転数

- PTO を使用しないときは、PTO 軸キャップを装着しておいてください。
- PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。
- PTO 作業機は、その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。
  機械の破損や人身事故のおそれがあります。

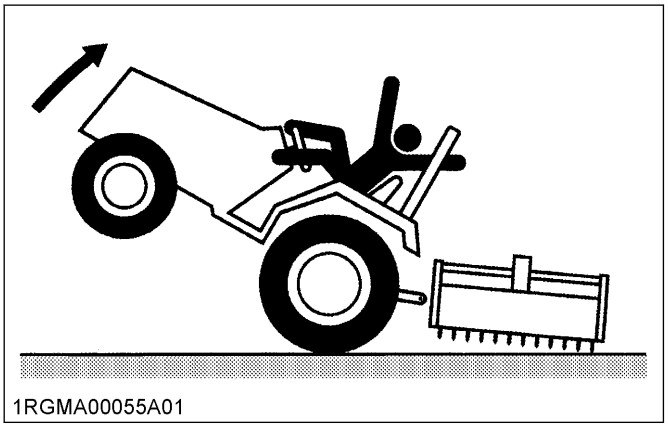


1LMSE00011A01

(1) PTO 軸カバー
(2) 蝶ボルト
(3) PTO 軸キャップ

3. 転倒防止のための重量バランス

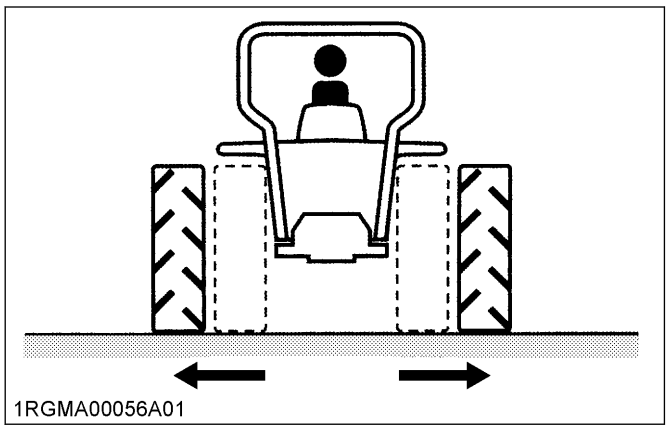
- トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。
  前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。


1RGMA00055A01

- 作業機はトラクタに推奨されている物を使用してください。
  大きすぎたり、小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
  詳細は購入先にご相談ください。

4. 傾斜地作業、フロントローダ作業時の注意

- 傾斜地作業、フロントローダ作業などでは、安定を良くするために、支障の無い範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

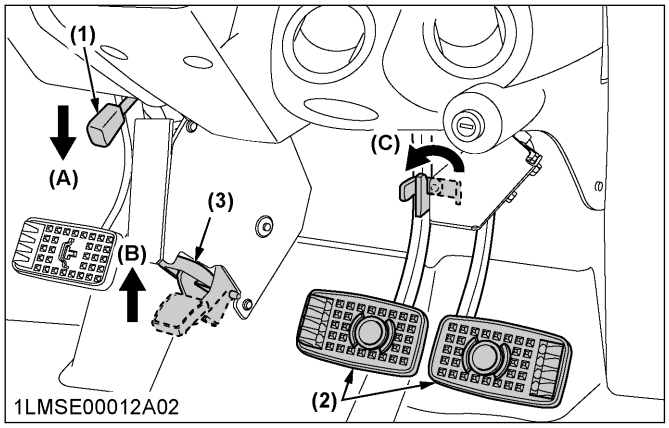

1RGMA00056A01

道路走行時の注意事項

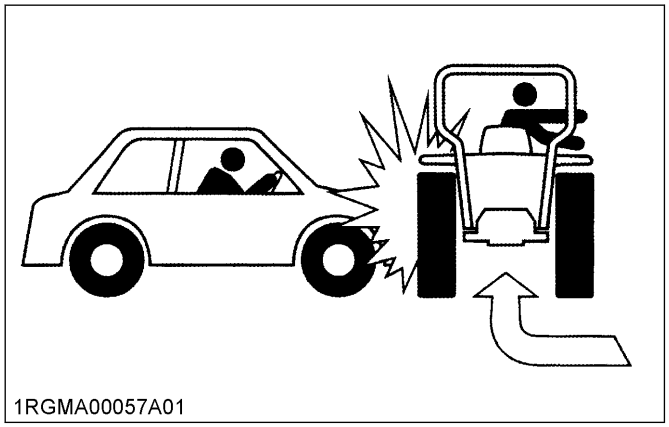
1. ブレーキペダルの使い方

- 道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーをロック位置にし、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
  高速走行で誤って片ブレーキを掛けるとトラクタが振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

道路走行時はロックレバーを必ずロック位置にする



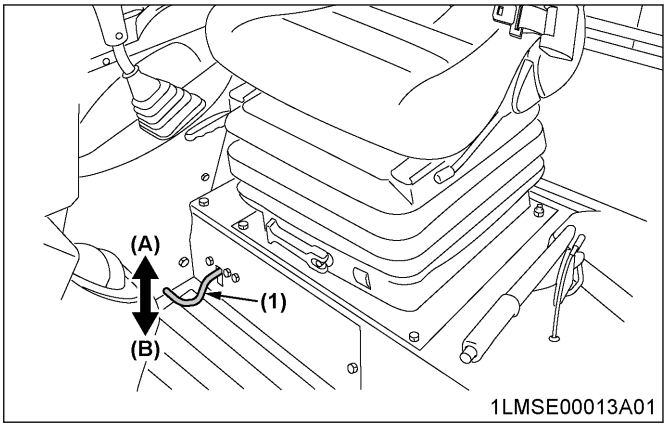
(1) 連結解除ペダルロックレバー
(2) ブレーキペダル
(3) 連結解除ペダル
(A) ロック
(B) 連結解除ペダル格納位置
(C) 連結


1RGMA00057A01

- 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

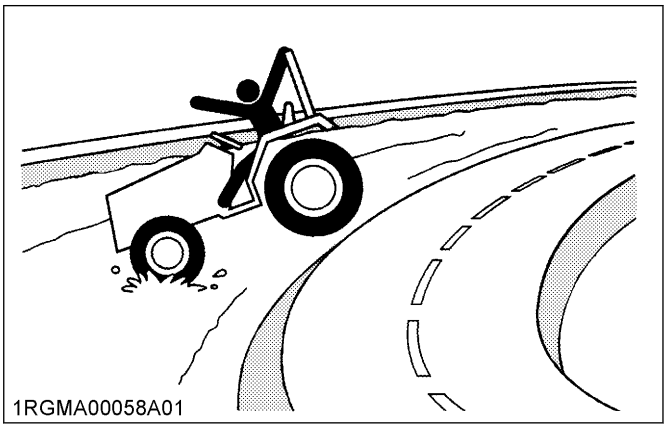
2. デフロックの禁止、旋回速度注意

- 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
  ハンドル操作ができなくなります。



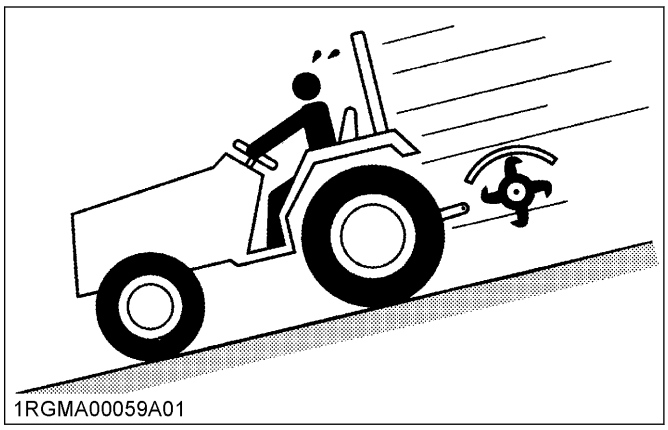
(1) デフロックペダル
(A) 離す（解除）
(B) 踏む（ロック）

- 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
  高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。


1RGMA00058A01

3. 坂道走行、交通法規遵守

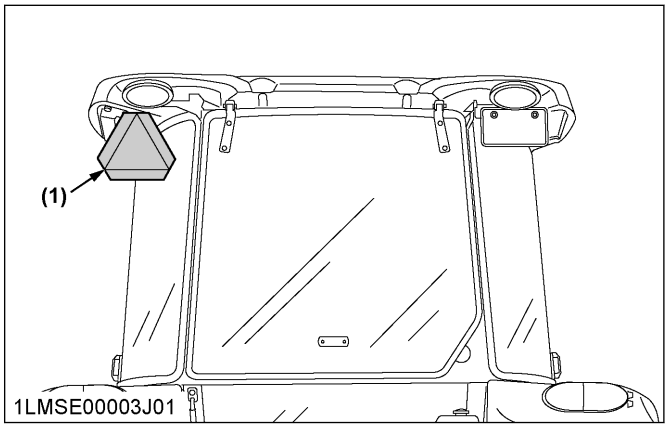
- 坂を降りるとき、クラッチを切ったり、変速を“中立”にして惰性で走行しないでください。
  操縦ができなくなるおそれがあります。


1RGMA00059A01

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組合せごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
- 交通や安全規則を守ってください。
  運転免許証（大型特殊自動車）は、必ず携行してください。
- 作業灯は点灯しないでください。

4. 低速車（SMV）マークの表示

- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる低速車（SMV）マークを取り付けてください。
  また、夜間ヘッドライトに低速車（SMV）マークがよく反射するように、マークは常に清掃しておいてください。



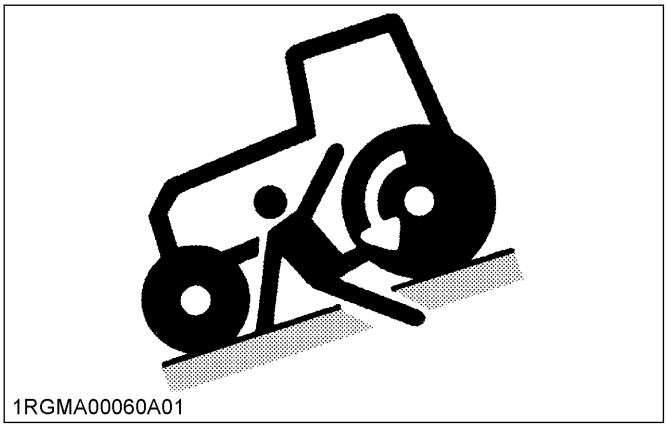
1LMSE00003J01

(1) 低速車（*SMV*）マーク

駐車、格納時の注意事項

1. 駐車場所、レバーの状態、シートの掛けかた

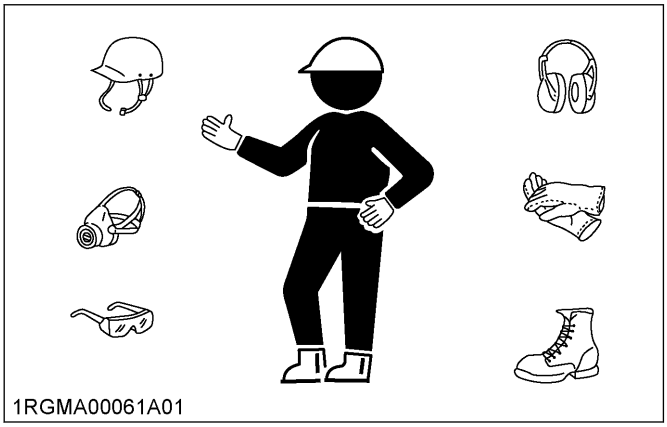
- 駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、PTO を“切”、作業機を“下げ”、各変速レバーを“中立”、駐車ブレーキを“掛け”、エンジンを“停止”してキーを“抜いて”ください。
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。
- 格納などでトラクタにシートを掛ける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。


1RGMA00060A01

点検・給油・整備時の注意事項

1. 適した服装、安全確認

- 点検・整備には帽子と安全な服装を着用してください。
  作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護めがね、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。


1RGMA00061A01

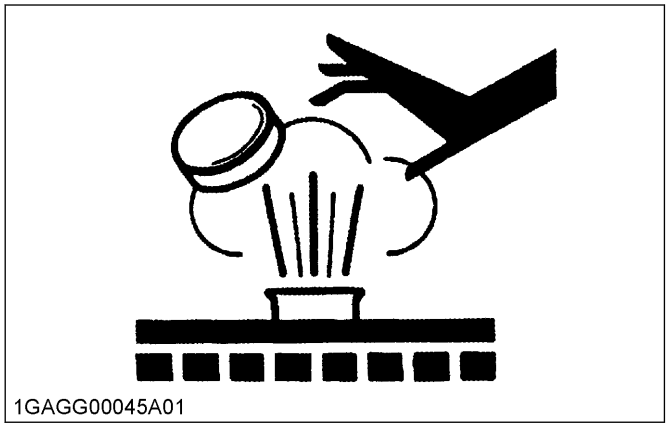
- エンジンを停止し、キーを抜き安全を確認してから作業を行ってください。

2. 燃料補給時の注意

- 燃料を補給するときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。

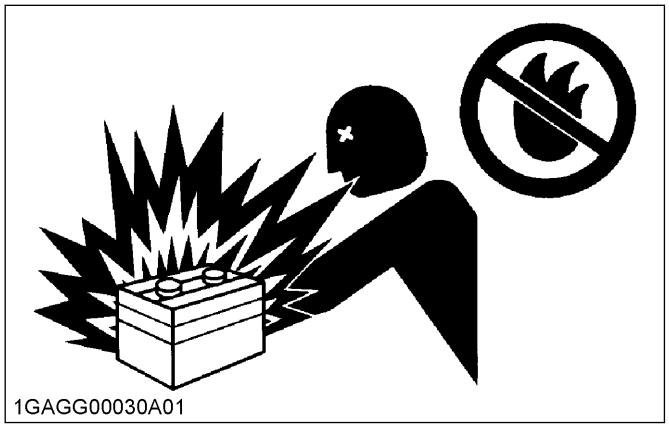
3. エンジン停止時の注意

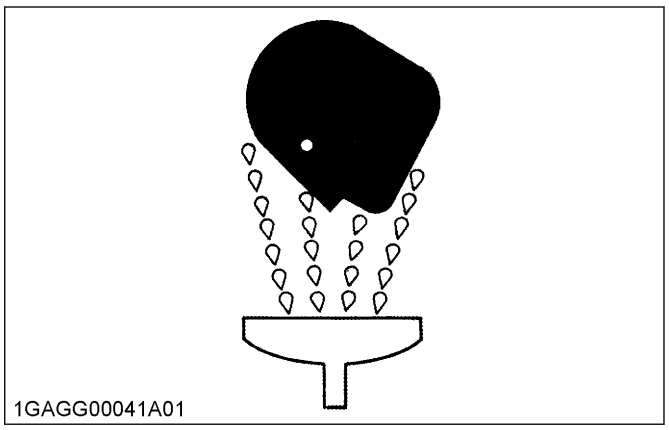
- 平たんな場所に駐車し、作業機を“下げ”、駐車ブレーキを“掛け”、各変速レバーを“中立”にし、そしてエンジンを“停止”してください。
- エンジン、マフラ、ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検・整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1GAGG00045A01

4. バッテリの取扱い

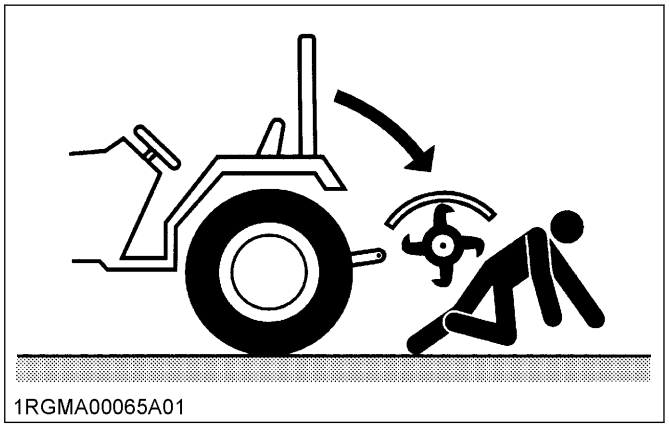
- バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。
  バッテリは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。
  詳細はバッテリ上がりの処置（95 ページ）を参照してください。
- バッテリを外すときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリのマイナスコードを外し、接続するときは最後に接続してください。
- バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、すみやかに医師の診療を受けてください。


1GAGG00030A01


1GAGG00041A01

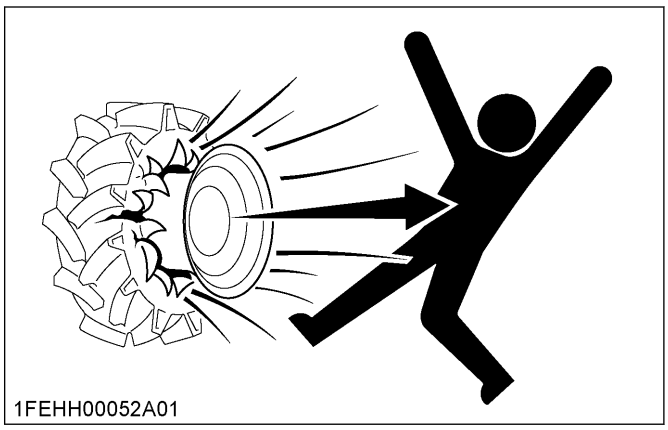
5. 3 点リンク作業機の注意

- 3 点リンク作業機を上げた状態で点検・整備を行う場合、必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。


1RGMA00065A01

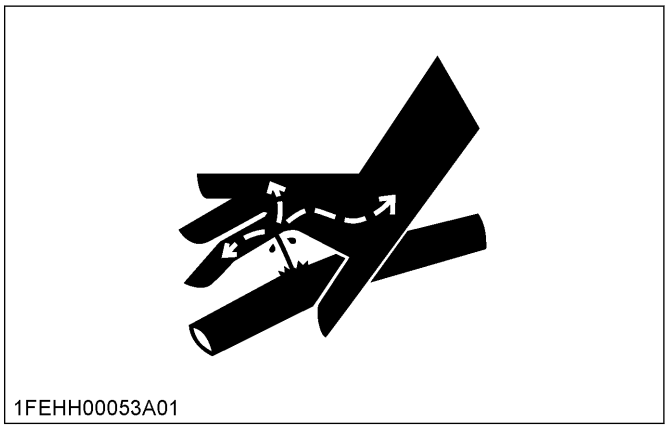
6. タイヤの確認

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
  （タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検（135 ページ）参照）
  空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
  タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
  （特別教育を受けた人が行うように、法で決められています）


1FEHH00052A01

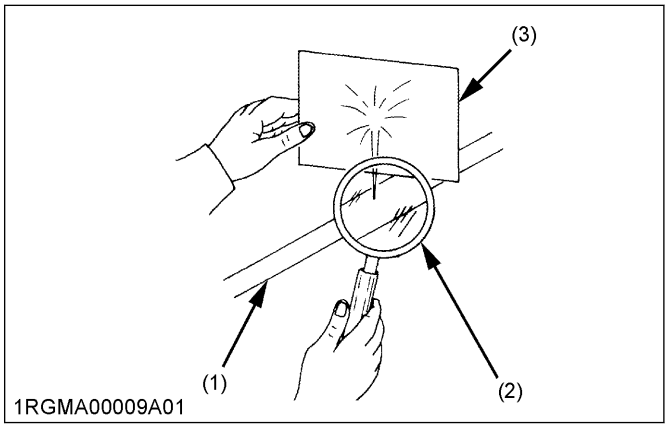
7. 油圧部品を外すときの注意

- 圧力が掛かり噴出した油は、皮膚を貫通するほどの力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。


1FEHH00053A01

8. 油漏れの点検

- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねを掛け、ボール紙などを利用してください。万一、油が皮膚を貫通したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



1RGMA00009A01

(1) 高圧ホース
(2) 虫めがね
(3) ボール紙

9. 後輪を浮かせての始動禁止

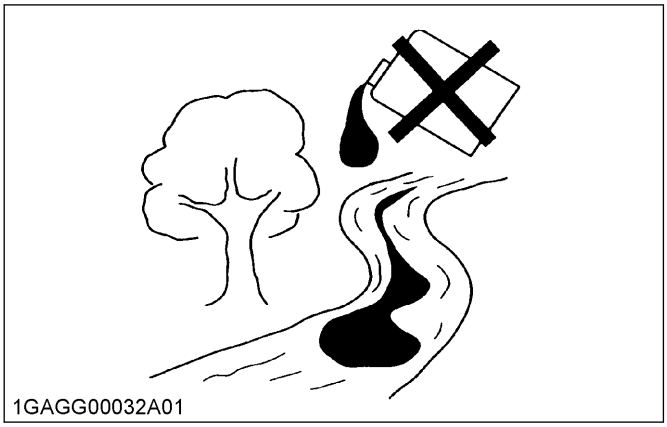
- 点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し、トラクタが動き出すおそれがあります。

10. 作業後・高圧洗浄後の注意事項

- 枯草・小枝などがボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。
  作業後・高圧洗浄後などは、排気管周辺に燃えやすいものがないかじゅうぶん注意してください。

11. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

12. コモンレール仕様の注意事項

- コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
  次の注意事項を守らないと、感電事故や高圧燃料の漏れによるケガをするおそれがあります。
  - 掃除などでエンジンを制御する電子部品や、そのコネクタ、ハーネスを触る場合は、キースイッチを**[切]**位置にしてください。
  - エンジンの高圧燃料が通る部品は、分解や修理を行わないでください。

付近のボルト、ナット類もゆるめないでください。
高圧燃料が通るのは、燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。

– エンジンの不調時は、購入先にご相談ください。

13. ディーゼルパーティキュレートフィルタについての注意事項

- ディーゼルパーティキュレートフィルタ（以下本文中では DPF と表記します）再生中は排ガスや DPF が高温になります。やけどや周囲のわらくず、異物などの発火、溶解に注意してください。
- 高温の排ガスがあたらないようにトラクタの周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
- 火災防止のため、DPF マフラと尿素 SCR マフラの周囲は可燃物を取り除き常にクリーンにしておいてください。
  尿素選択触媒還元（Selective Catalytic Reduction）は、以下本文では尿素 SCR と表記します。
- 枯草・小枝などがボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。作業後・高圧洗浄後などは、排気管周辺に燃えやすいものがないかじゅうぶん注意してください。
- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF 再生中はトラクタから離れないでください。

安全ラベル

1. 安全ラベルと貼付け位置

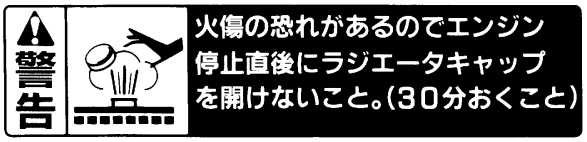
(1)品番 99900006250



(2)品番 99900007440

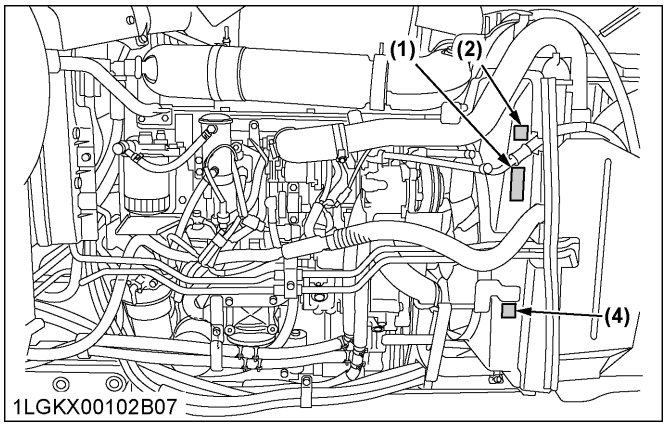


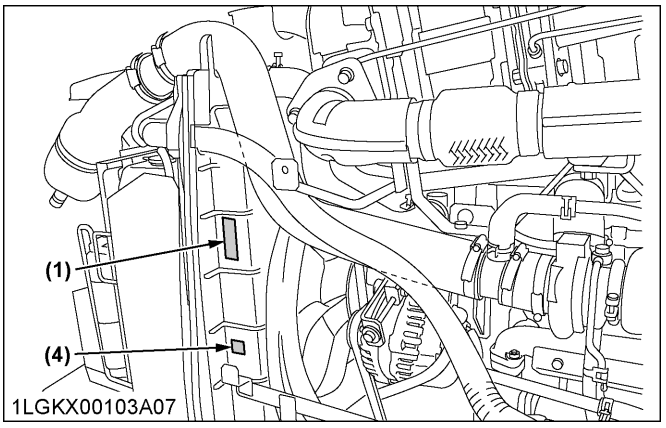
(3)品番 K3N89549540

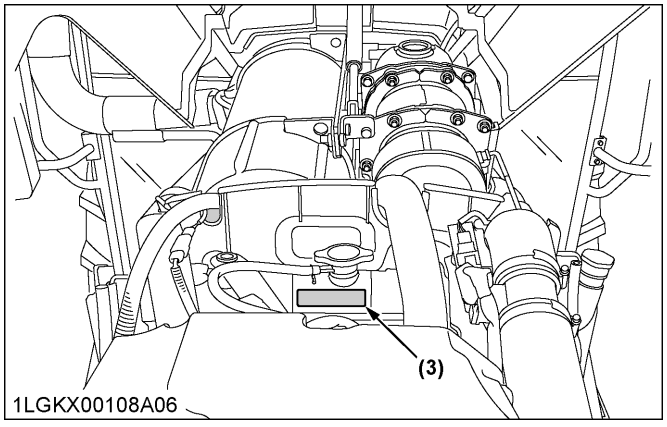


(4)品番 99900006260







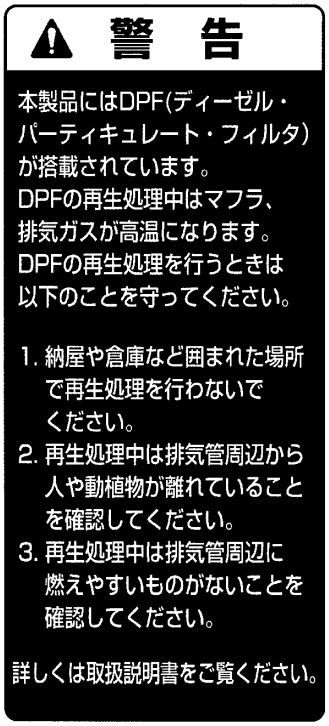


⚠ 安全に作業をするために

(1)品番 99870005910



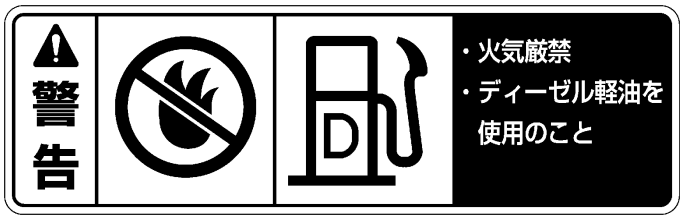
(2)品番 99900007450



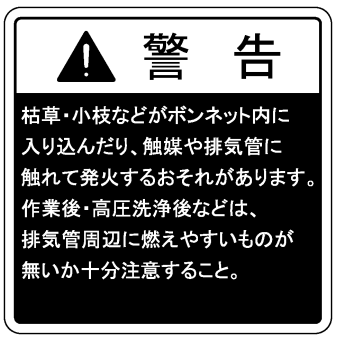
(3)品番 99900007440

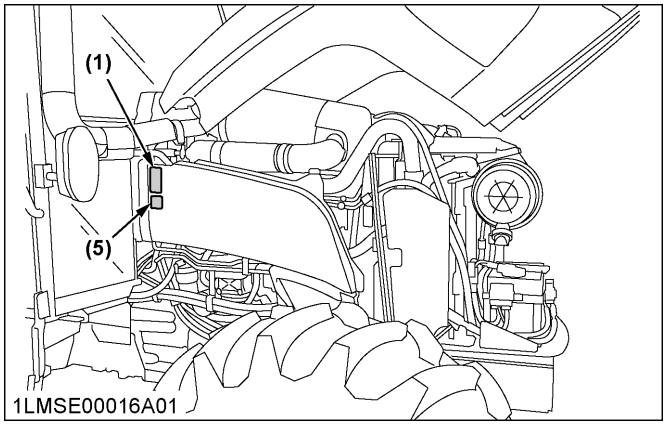


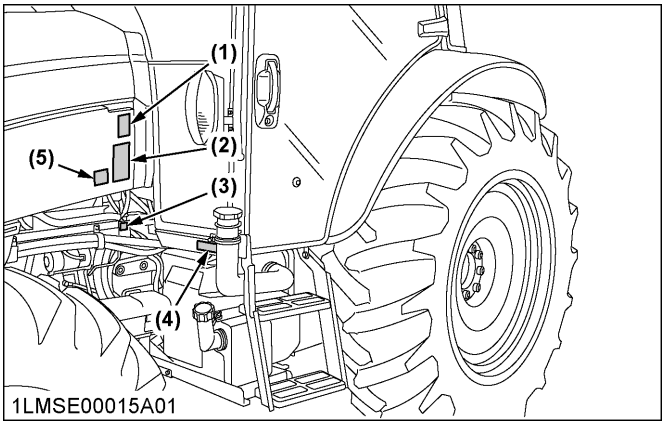
(4)品番 99900006190



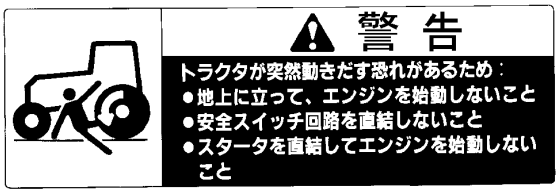
(5)品番 95270000250



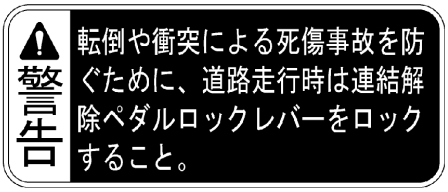




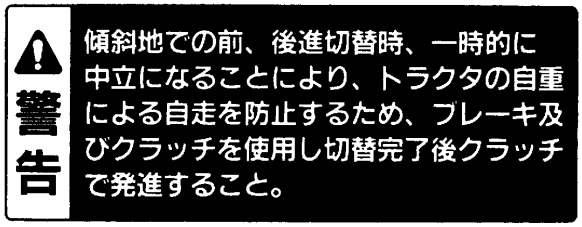
(1)品番 99660027950



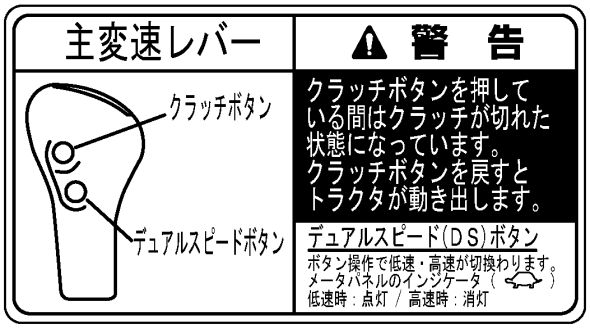
(2)品番 99900007770

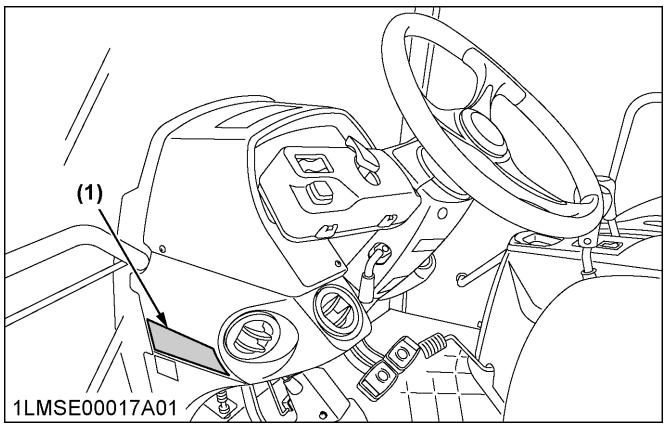


(3)品番 99100012240

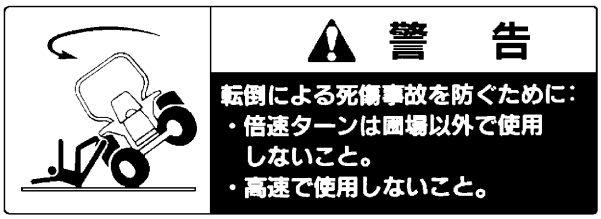


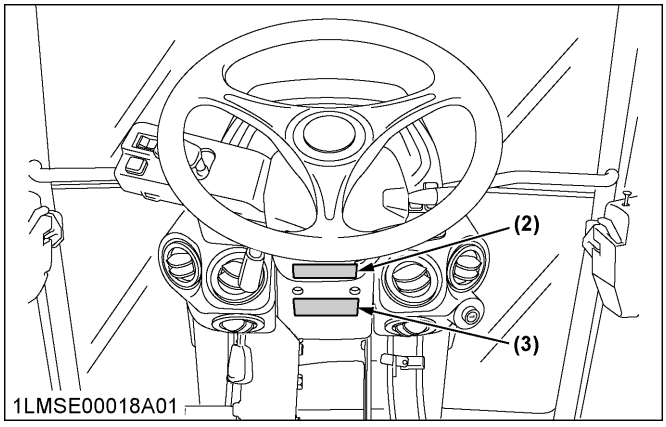
(4)品番 95430000020

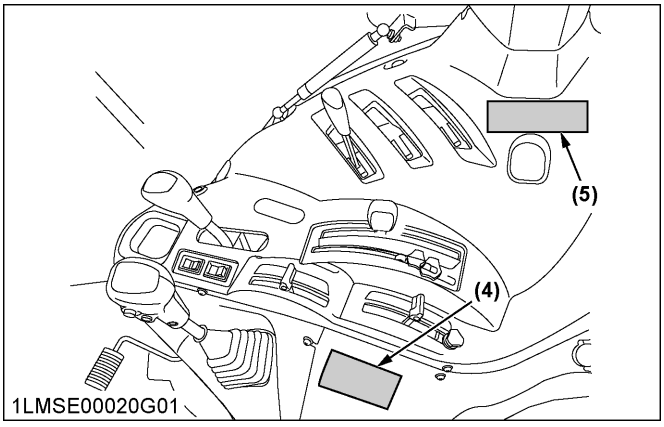




(5)品番 95430000030







⚠ 安全に作業をするために

(1)品番 99870006630

⚠ 警　告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 道路走行時は運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行時はSMVマークを装着すること
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

(2)品番 99660021930

⚠ 警　告

点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

(3)品番 99900007650

⚠ 警告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

(4)品番 95210001440

⚠ 注　意

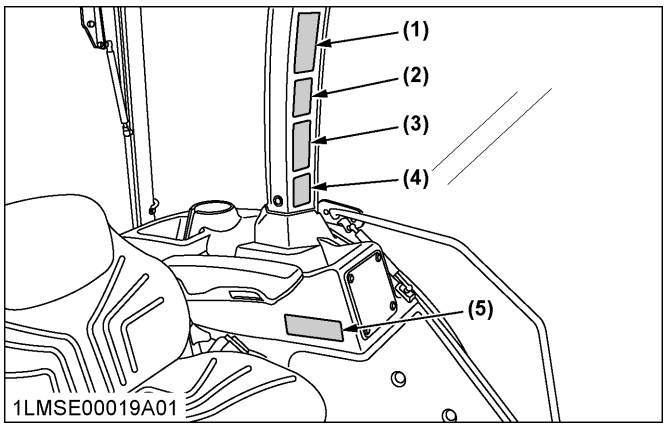
尿素水が少なくなるとエンジン出力規制がかかり、その後、エンジン回転数が上がらなくなります。
指定の尿素水を速やかに補給して下さい。
詳しくは取扱説明書をご覧ください。

(5)品番 95210001440

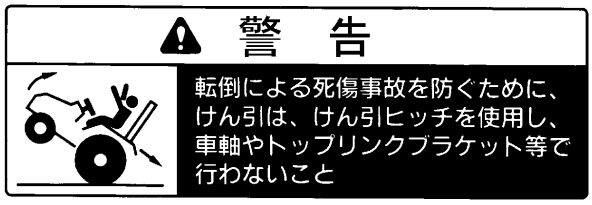


⚠ 警　告

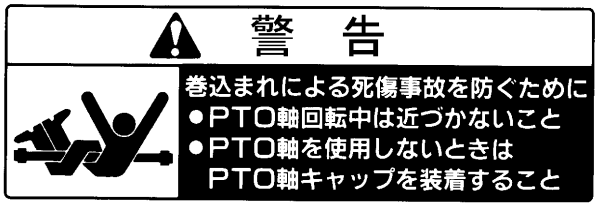
駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません



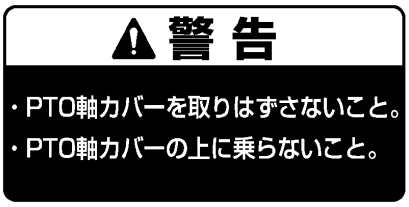
(1)品番 99660028630



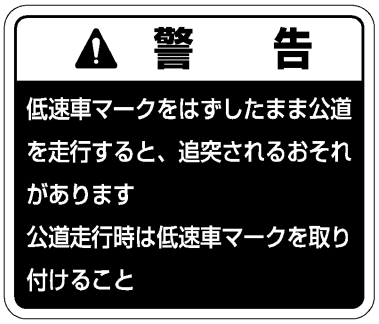
(2)品番 99660028670



(3)品番 99870005870

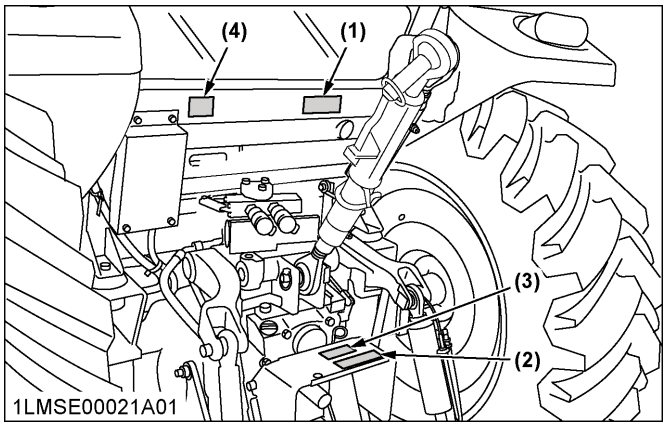


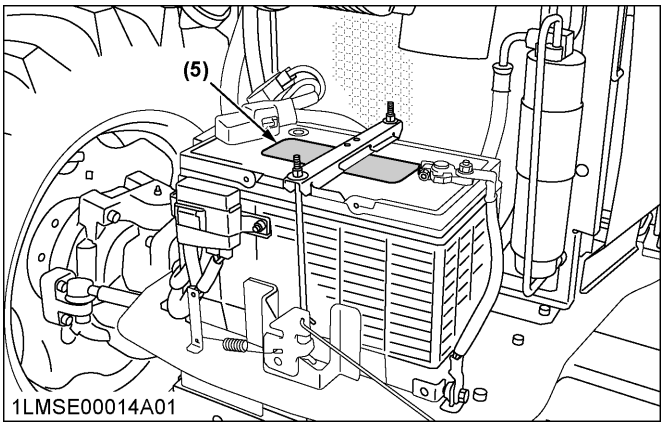
(4)品番 95430000040



(5)品番 99900007190







2. 安全ラベルの取扱い

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルに掛けないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

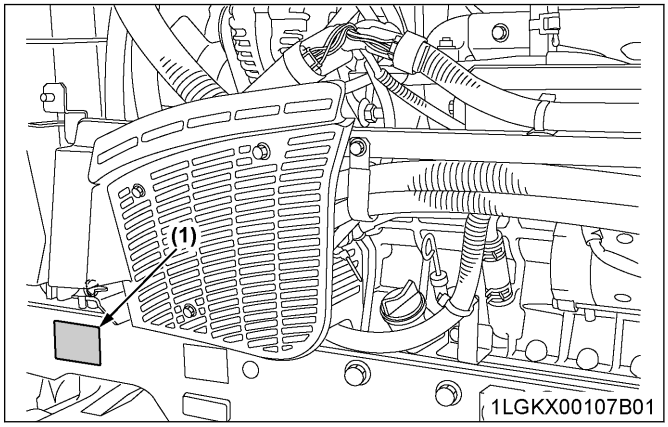
⚠ 警告

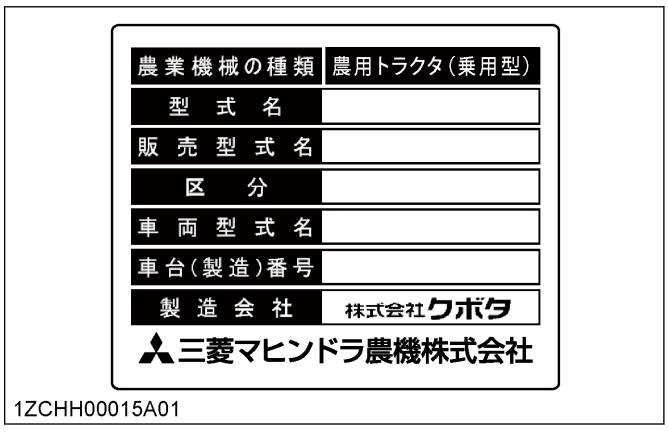
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している

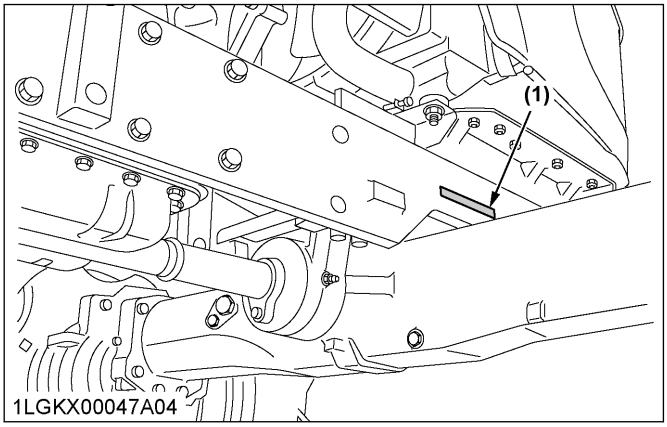
- 型式名
- 車台（製造）番号

を併せてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

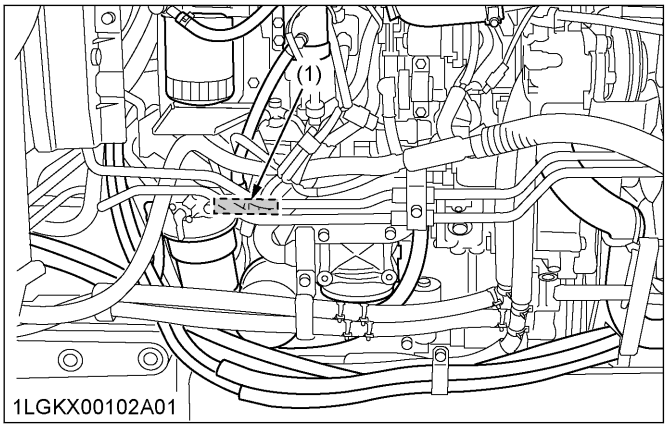




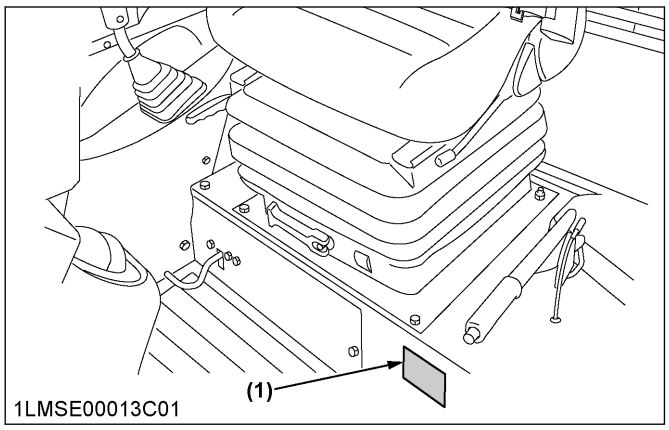
(1) 銘板



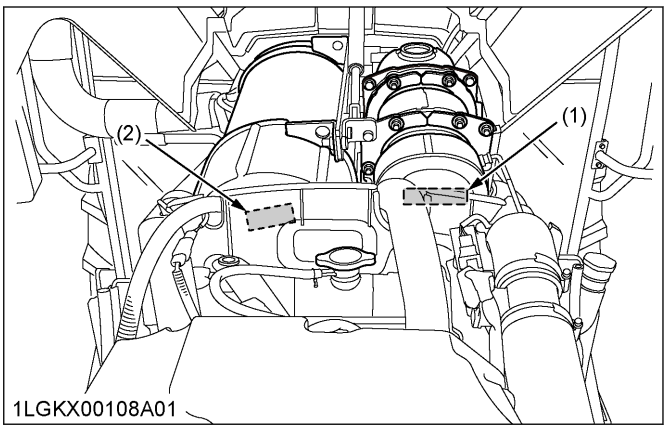
(1) 車台（製造）番号



(1) エンジン番号



(1) 安全キャブ銘板



(1) *DPF* 番号
(2) *SCR* 番号

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 12 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に前述の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

農機型式名一覧表

農機型式名	安全性検査合格番号	安全キャブ・フレーム検査合格型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
GVE860	NARO 19/143	クボタ IC-M5101	クボタ YDP-MWS	農 3494
GVE1010	NARO 19/142	クボタ IC-M5101	クボタ YDR-MWS	農 3495

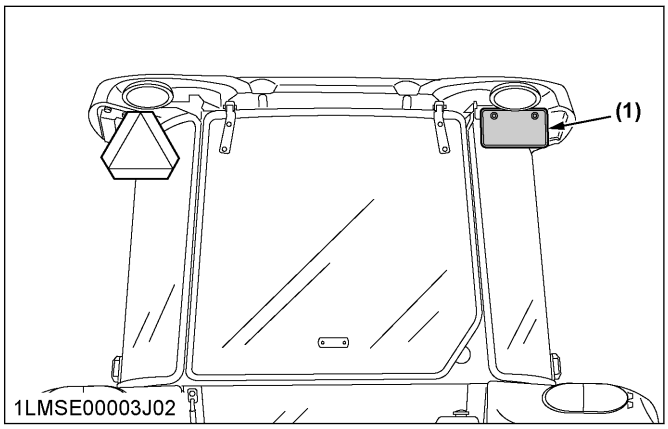
小型特殊自動車としての取扱い

本機は、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により異なりますので、詳細は購入先にご相談ください。

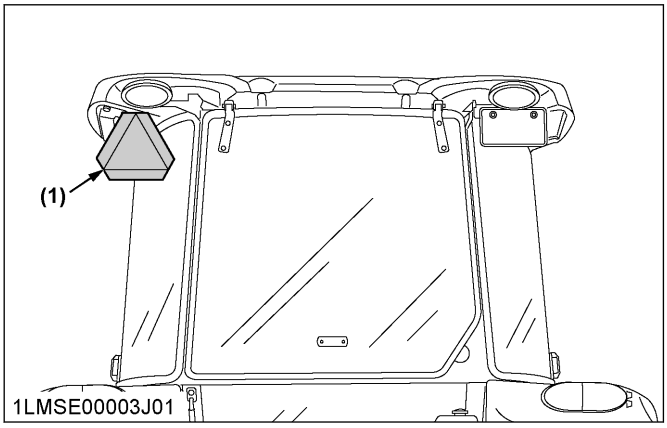
1. 小型特殊自動車を購入したときは、販売証明書など（購入先で発行）に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は、車体の取付け位置に取り付けてください。



(1) 標識（ナンバープレート）取付け位置

低速車（SMV）マーク

公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる低速車（SMV）マークを取り付けてください。



(1) 低速車（*SMV*）マーク

運転免許

重要：

- **本機は道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが、道路交通法では、大型特殊自動車に該当します。したがって公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。**

公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

損害賠償保険について

重要：

- **エンジンで封印されている所は触らないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証は致しません。**

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。
- 作業灯は [道路運送車両法の保安基準] 第 42 条（灯火の色等の制限）において、走行中に使用しない灯火とされ、点灯したまま道路走行するとほかの交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されております。

輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は次表のとおりです。この輪距どおりでない場合は道路運送車両法の保安基準違反になり、道路を走行することができません。

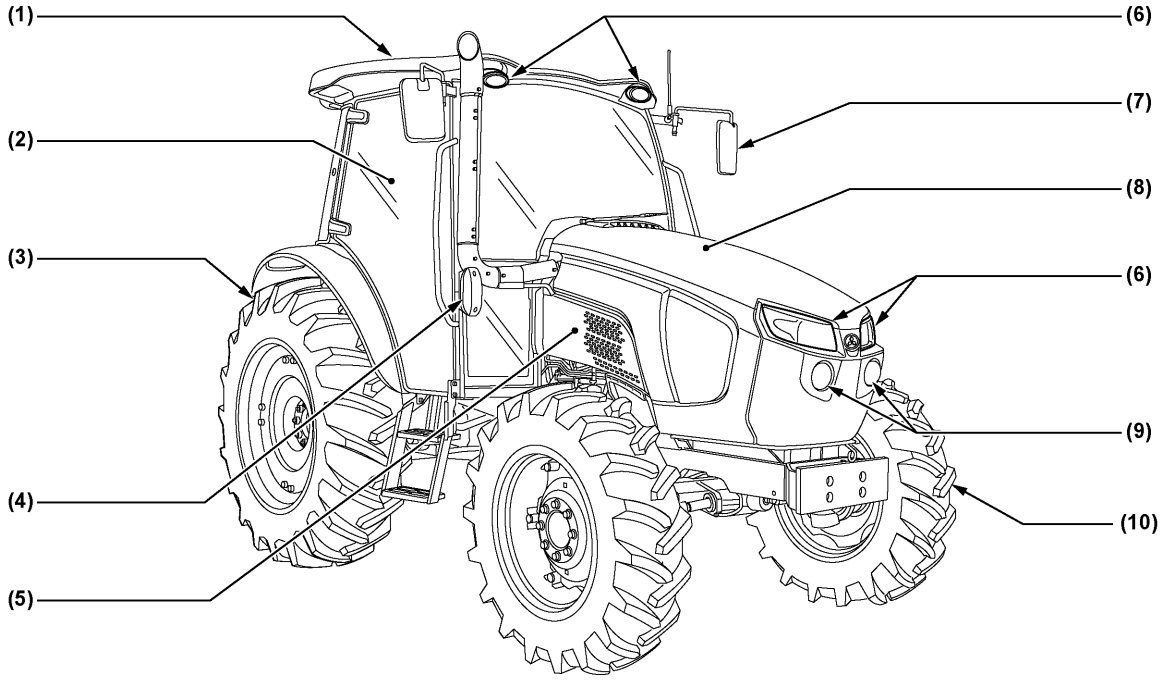
前後輪タイヤ組合せ表

仕様	前輪		後輪	
	タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)
LH	11.2-24	1640	13.6-38H	1600
LA	12.4-24	1660	16.9-34	1600

装置の名称と取扱い

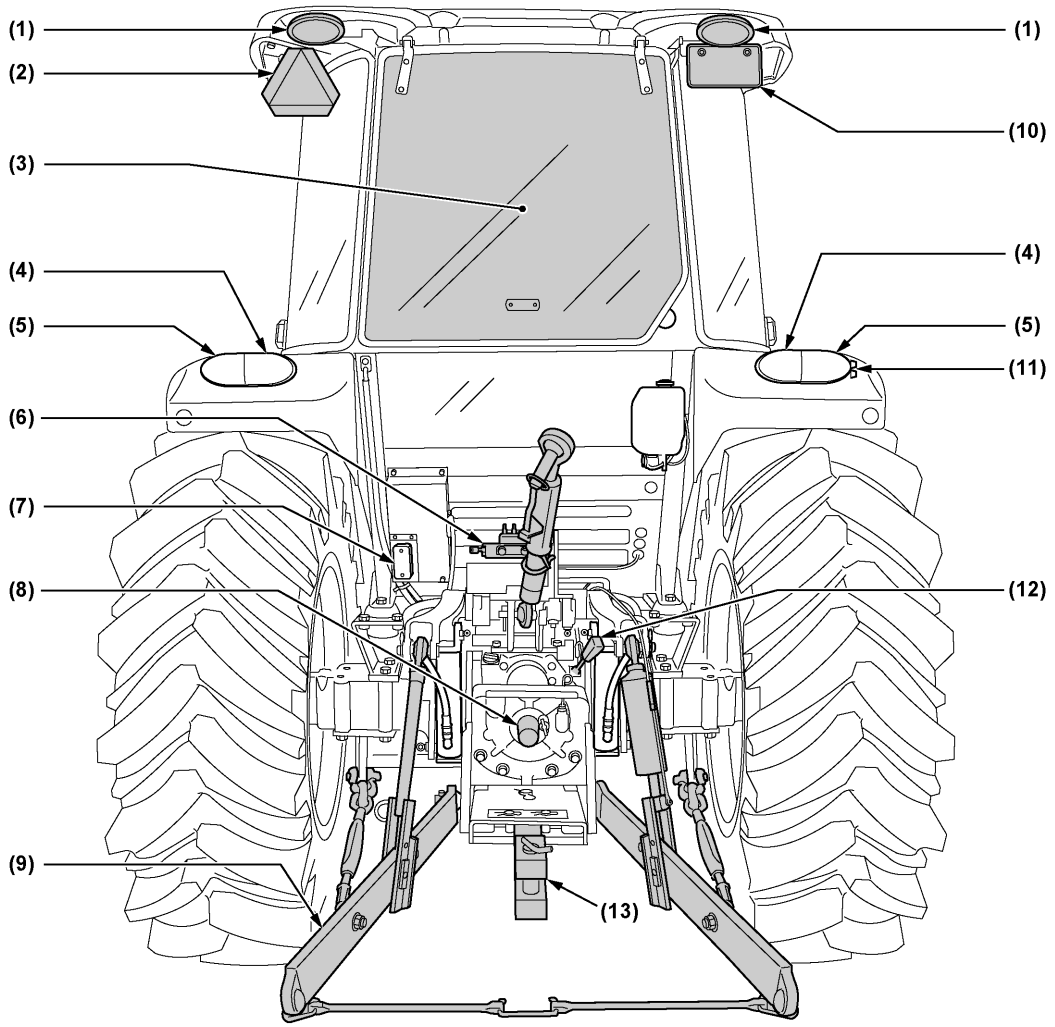
トラクタ装置の名称

1. トラクタの外観



1LVFN00002A01

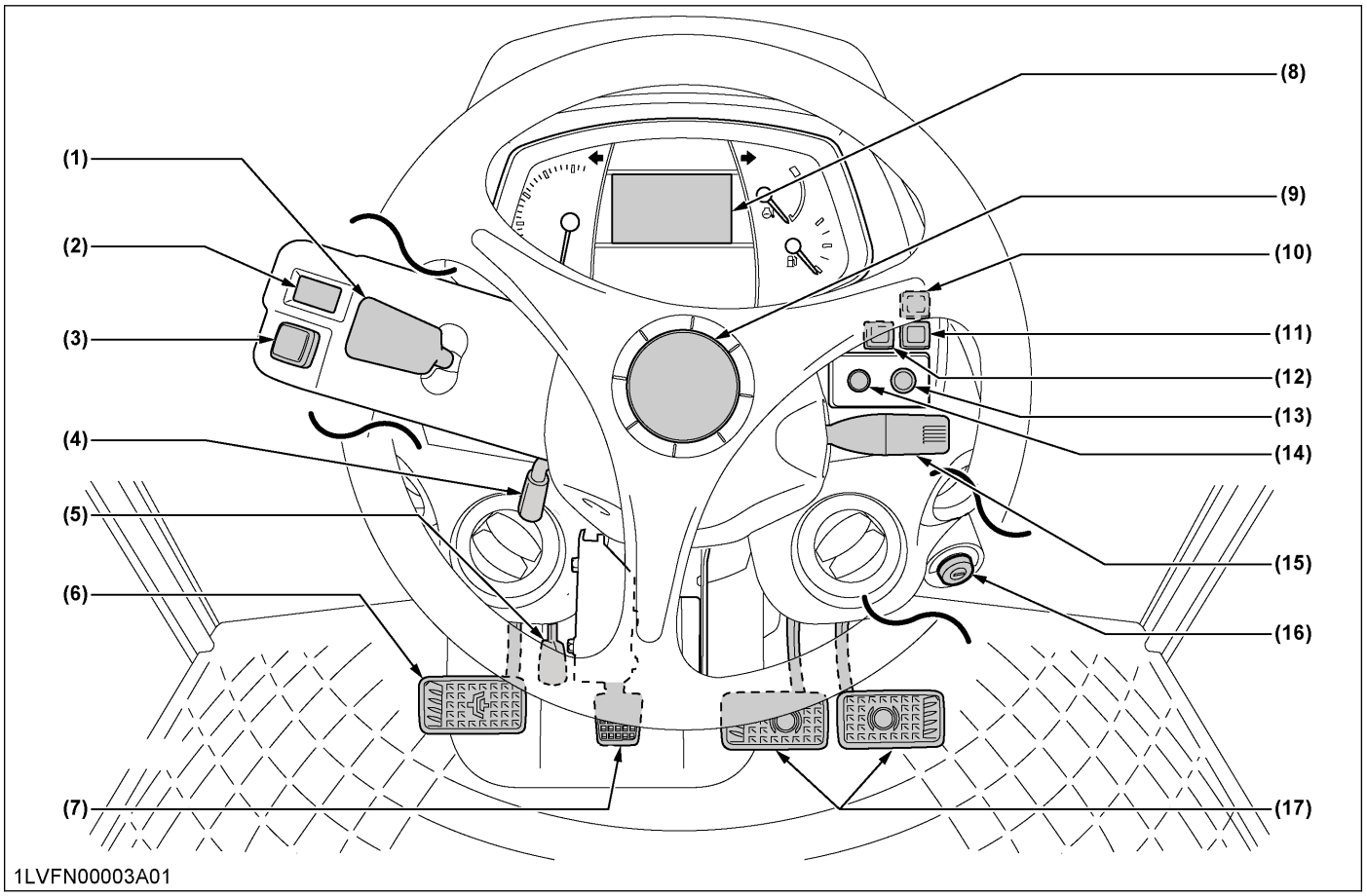
(1) 安全キャブ *110*
(2) ドア *110*
(3) 後輪タイヤ *104*
(4) ウインカ（前） *53*
車幅灯 *55*
(5) サイドカバー *131*
(6) 作業灯（前） *112*
(7) バックミラー *53*
(8) ボンネット *131*
(9) ヘッドライト *53*
(10) 前輪タイヤ *104*



1LMSE00003A01

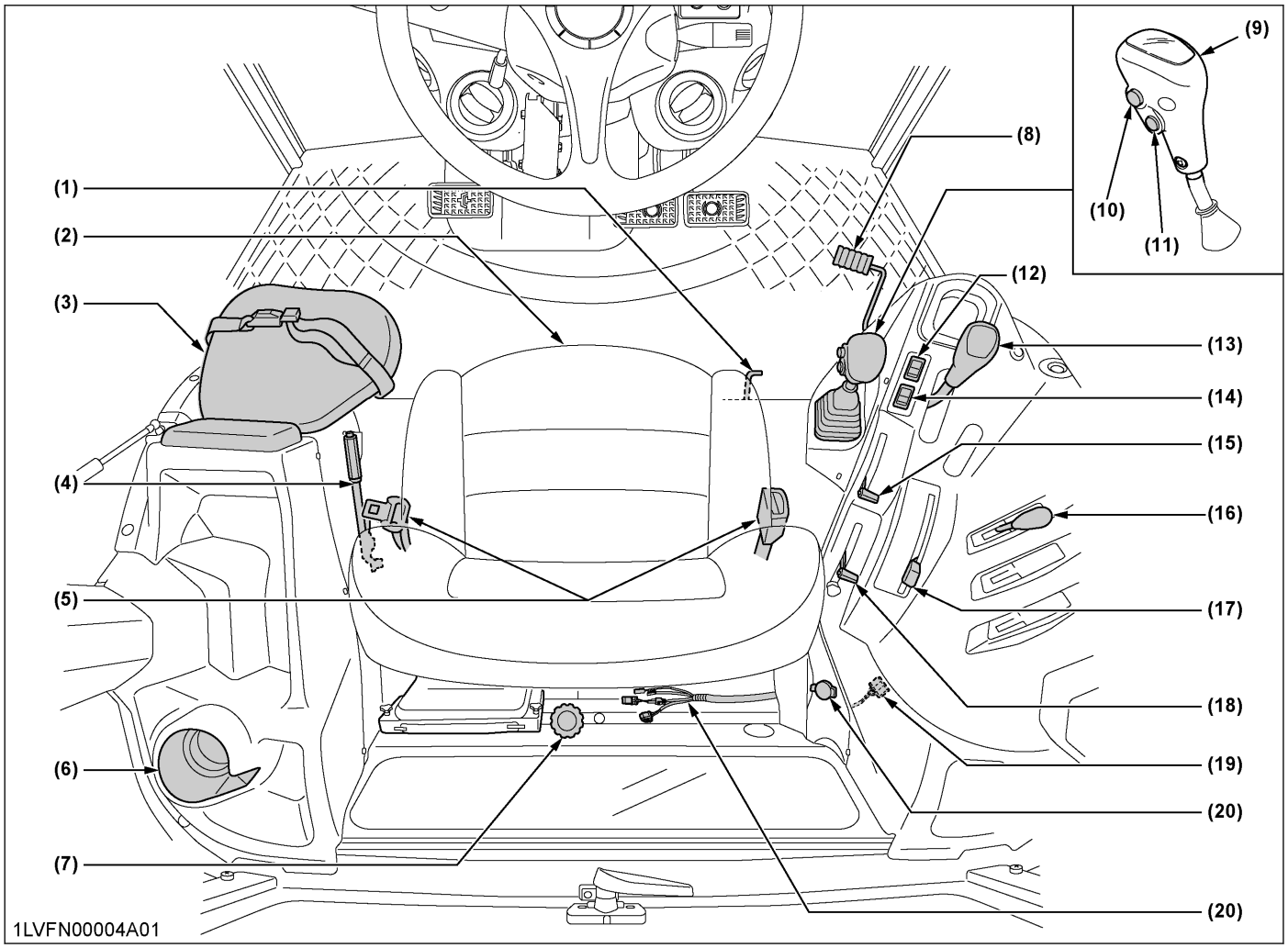
(1) 作業灯（後） *112*
(2) 低速車（*SMV*）マーク *29*
(3) リヤウインド *110*
(4) ブレーキランプ *55*
尾灯 *55*
(5) ウインカ（後） *53*
(6) 外部油圧取出し *84*
(7) バックランプ *54*
(8) *PTO* *102*
(9) *3* 点リンク *99*
(10) ナンバープレート *29*
(11) 傾き自動外部操作スイッチ *101*
(12) *PTO* 変速レバー *104*
(13) けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション） *102*

2. ハンドル部



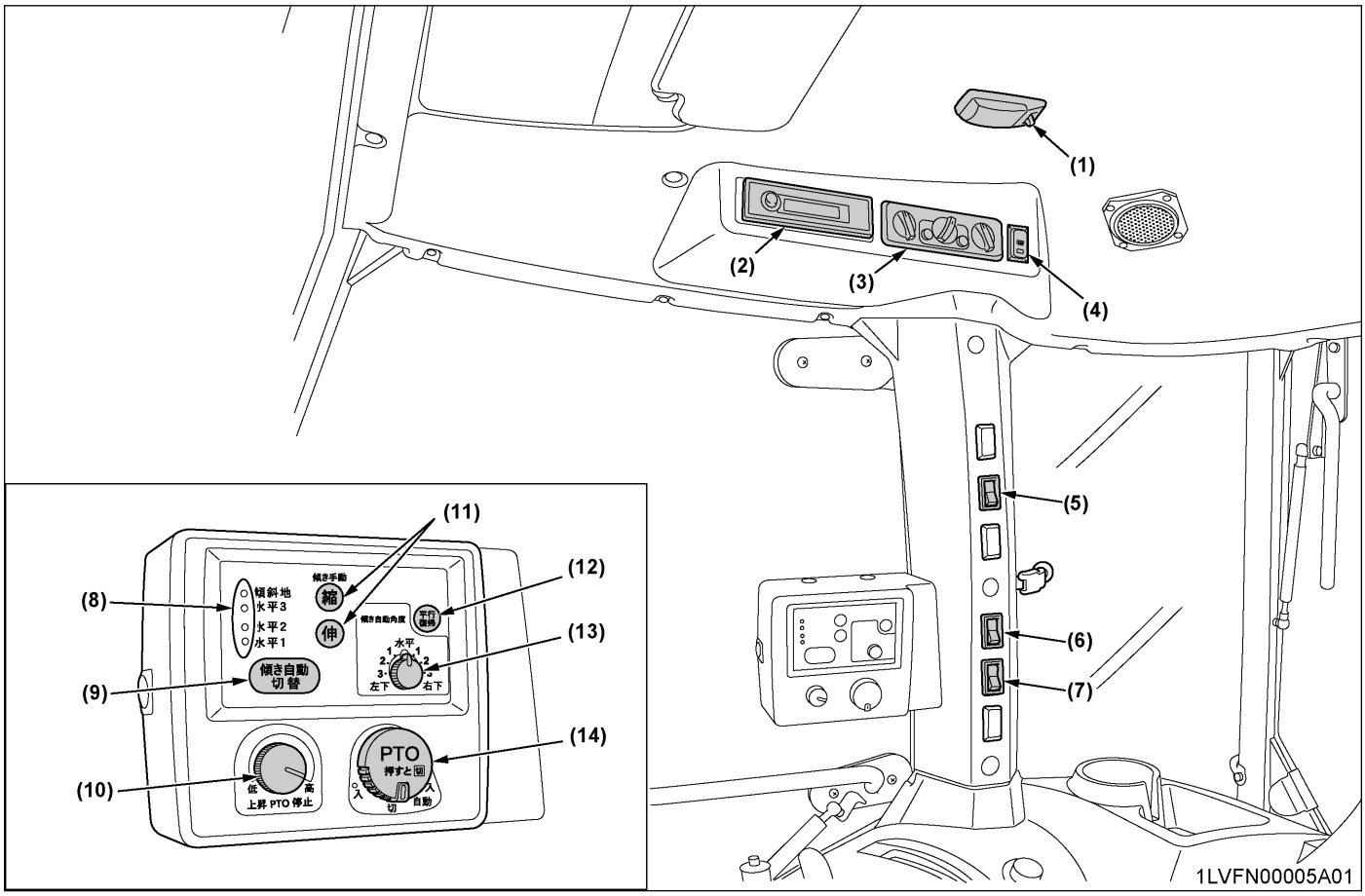
(1) シャトルレバー *59*
(2) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ *111*
(3) ハザードスイッチ *54*
(4) チルトレバー *53*
(5) 連結解除ペダルロックレバー *55*
(6) クラッチペダル *57*
(7) 連結解除ペダル *55*
(8) 電子メータ *62*
(9) ホーンボタン *54*
(10) パワーアシストスイッチ *76*
(11) 再生禁止スイッチ *40*
(12) 駐車再生スイッチ *38*
(13) 設定スイッチ *66*
(14) 表示切替スイッチ *63*
(15) ヘッドライト・ウィンカスイッチ *53*
(16) キースイッチ *55*
(17) ブレーキペダル *55*

3. 運転席部



(1) デフロックペダル *60*
(2) シート *50*
(3) インストラクタシート（オプション） *51*
(4) 駐車ブレーキレバー *56*
(5) シートベルト *50*
(6) カップホルダ
(7) 落下速度調整グリップ *78*
(8) アクセルペダル *57*
(9) 主変速レバー *57*
(10) クラッチボタン *60*
(11) デュアルスピード（*DS*）ボタン *59*
(12) エンジン回転メモリスイッチ *75*
(13) 副変速レバー *58*
(14) 走行モード切換スイッチ *59*
(15) アクセルレバー *57*
(16) 油圧補助コントロールレバー *84*
(17) ポジションレバー *77*
(18) ドラフトコントロールレバー *77*
(19) トレーラ用カプラ *87*
(20) 外部電源取出しソケット *87*

4. 安全キャブ部



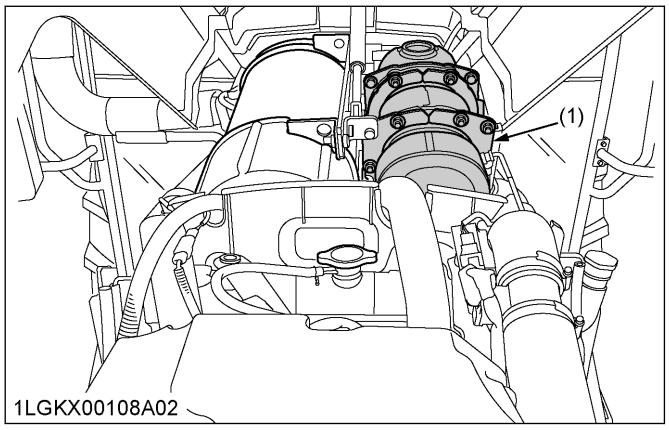
(1) ルームランプ *111*
(2) *CD* ラジオ（オプション） *115*
(3) エアコンパネル *114*
(4) リヤ／サイドデフォッガスイッチ（オプション） *112*
(5) 作業灯（前）スイッチ *113*
(6) 作業灯（後）スイッチ *113*
(7) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ（オプション） *112*
(8) スイッチランプ *81*
(9) 傾き自動切替スイッチ *81*
(10) 上昇 *PTO* 停止高さ調整ダイヤル *103*
(11) 傾き手動スイッチ *83*
(12) 平行復帰スイッチ *83*
(13) 傾き自動角度調整ダイヤル *83*
(14) *PTO* クラッチコントロールスイッチ *102*

排ガス後処理装置

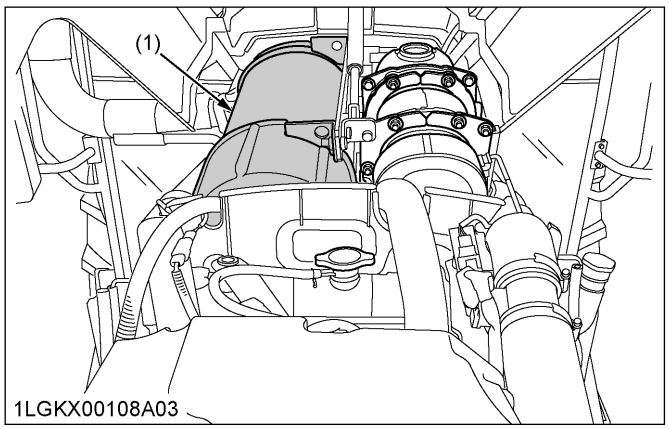
⚠ 警告

- **DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。火傷、可燃物への発火や溶解に注意してください。**
- **高温の排ガスがあたらないように、トラクタを人や動物などから離してください。**
- **再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋などでの再生は行わないでください。**
- **再生中はトラクタから離れないでください。**

デュアル排ガス後処理装置
排ガス中に含まれる PM（微粒子状物質）や黒煙は、DPF マフラで捕集・除去します。
そして、残る有害な窒素酸化物(NOx)も、尿素 SCR システムで無害な窒素(N_2)と水(H_2O)に分解・浄化します。
このデュアル排ガス後処理装置により、クリーンな排ガスを実現しています。



(1) DPF マフラ



(1) 尿素 SCR マフラ

1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ

本機には、ディーゼルエンジン排ガス中の炭化水素、一酸化炭素やほかの有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に、PM（微粒子状物質）をフィルタで捕集する DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。
排ガス後処理装置を正しく取り扱い、環境保全にも努めてください。

1.1 DPF マフラの取扱いポイント

DPF マフラ内に捕集した PM（微粒子状物質）が一定量堆積すると、PM を DPF マフラ内で燃焼させ DPF マフラをリフレッシュさせる必要があります。この燃焼作業を再生と呼びます。
この再生に到達するまでの運転時間を延ばし、DPF マフラの故障を防ぐため、必ず以下の取扱い事項を守ってください。

- **燃料**
  燃料は必ず超低硫黄ディーゼル軽油（S10）（サルファーフリー軽油）を使用してください。

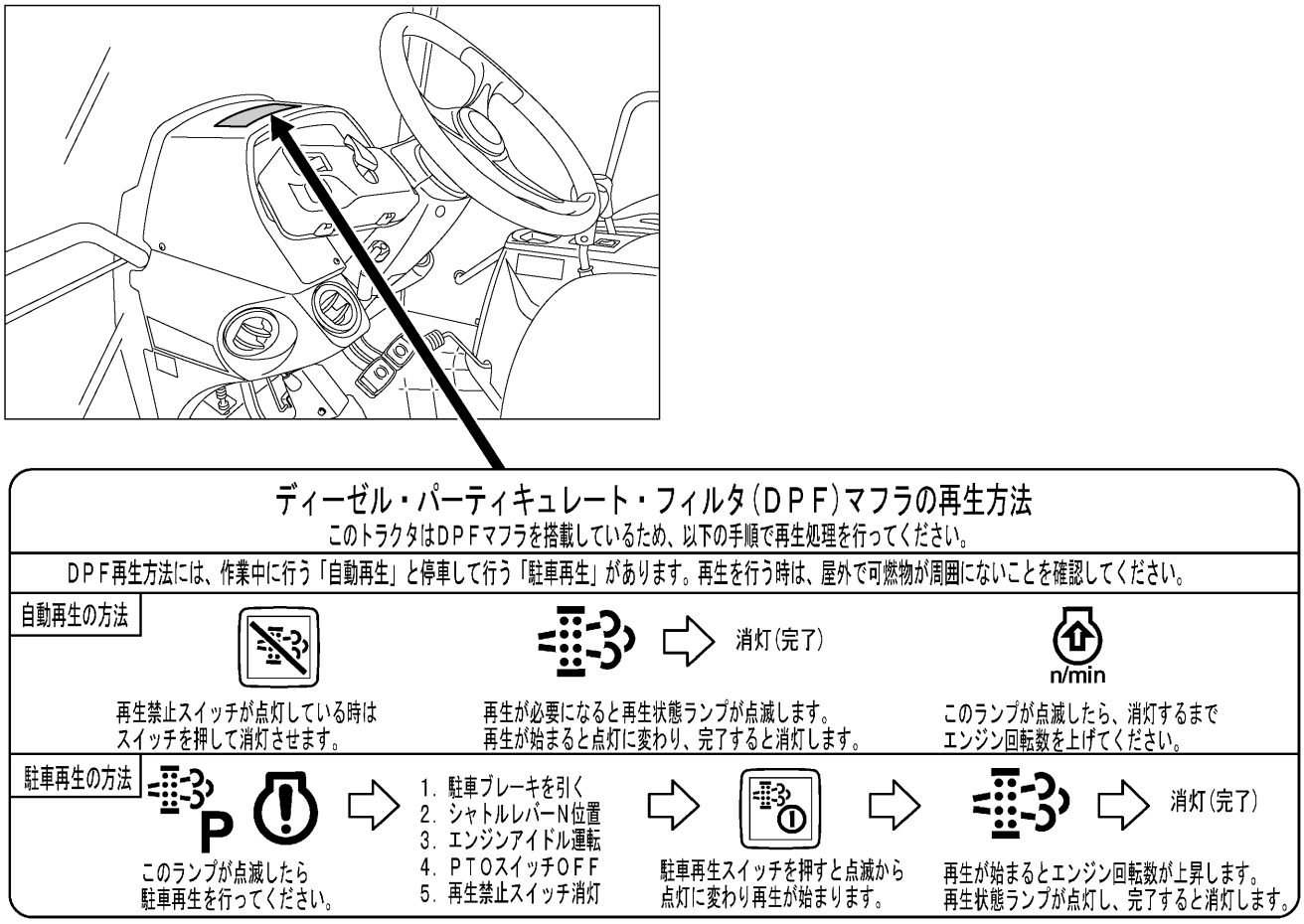
  重要：
  - **超低硫黄ディーゼル軽油（S10）以外の軽油を使用した場合、エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え、故障の原因となります。また、排ガスの浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。**
- **エンジンオイル**
  DPF 搭載のディーゼルエンジンには、指定ディーゼルエンジンオイル **D10W-30 DH-2** を必ず使用してください。

  重要：
  - **指定のエンジンオイル以外を使用すると DPF の早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。**
- **不必要なアイドリング運転の禁止**
  一般にエンジン回転が低いほど排ガス温度も低く、排ガス中の PM（微粒子状物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。したがって、不必要なアイドリング運転はしないでください。
- **再生**
  ランプやブザーで再生の指示サインが出たときは、速やかに再生を行ってください。

  重要：
  - **再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

1.2 DPF マフラの再生方式

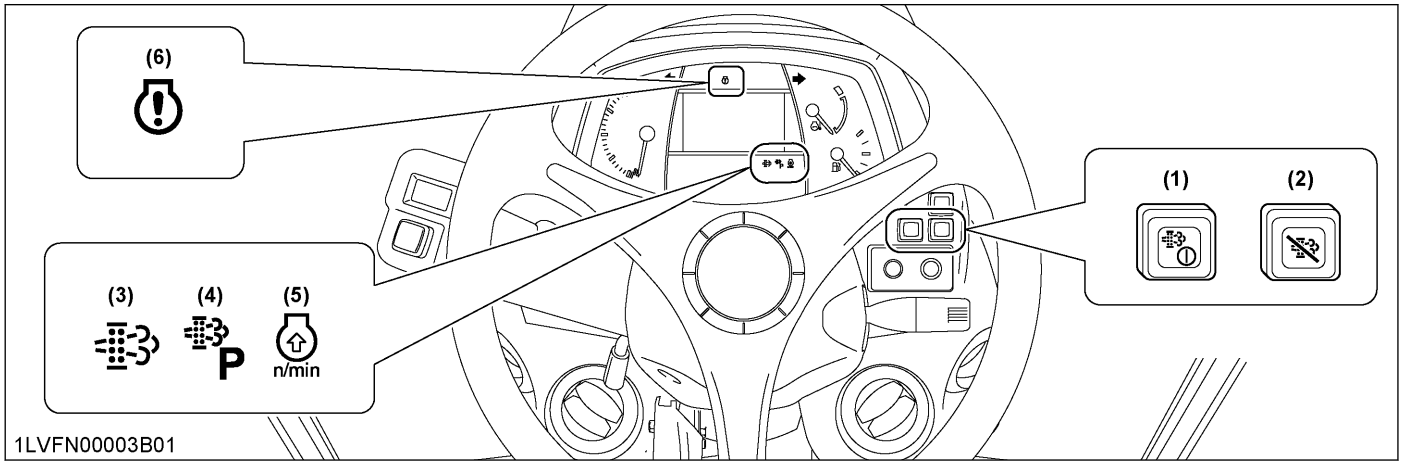
DPF マフラの再生方式は、作業に応じ**自動再生**または**再生禁止**のいずれかが選択できます。
再生に伴う排ガスの高温が作業に適さない場合を除き、**自動再生**の使用を推奨します。



1LMSE00017A02

1.2.1 自動再生モードの操作

エンジンを始動すると（スイッチ類の操作不要）自動再生モードが自動的に選択されます。
自動再生モードでは PM が一定量堆積し、再生に必要な条件が整うと、トラクタの走行や停車に関係なく自動的に再生処理されます。
（再生に必要な条件は DPF の再生に関する豆知識（42 ページ）を参照）



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。

   （再生禁止スイッチランプ  が消灯している事を確認する。）

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   補足：
   - **エンジンを始動すると自動的に自動再生モードが選択されます。**
   - **再生禁止スイッチランプはエンジン始動後、スイッチを押すごとに切り替わります。**

2. 再生状態ランプ  が点滅表示した場合、そのまま運転を続行してください。

   DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
   再生に必要な条件が整うと自動的に再生が開始されます。
   DPF や排ガスの温度が上昇しますので安全な場所で作業してください。

3. エンジン回転上げ要求ランプ  が点滅した場合、消灯するまでエンジン回転を上げてください。

補足：
- **自動再生モードでも、トラクタの運転状態によっては、再生に必要な条件が整わず再生されない場合もあります。**
- **エンジン負荷が高い場合、エンジン回転上げ要求ランプが点滅していても再生条件を満たすこともあります。（詳細は DPF の再生に関する豆知識（42 ページ）を参照）**

1.2.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

自動再生モードで運転時、PM が一定量堆積すると自動で再生処理されますが、再生を中断したり再生条件が整わなかった場合、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

重要 :

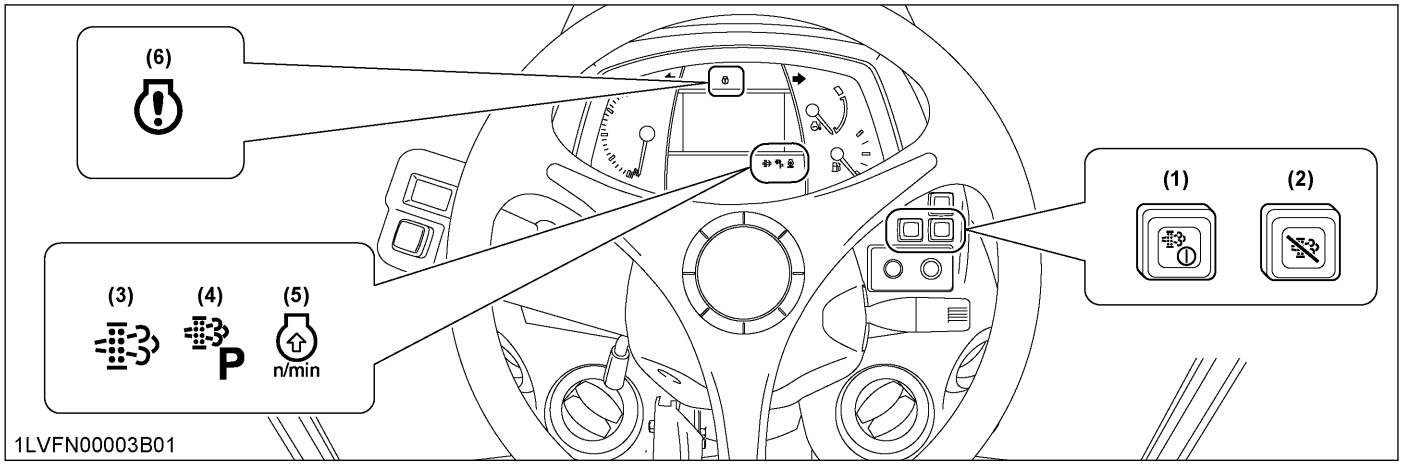
- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

自動再生モード		
状態		**処置**
警告レベル : 1 ブザー音 : 無し	 再生状態ランプが点滅する。	DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。
	 エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	消灯するまでエンジン回転を上げてください。
	 再生状態ランプは点滅から点灯に切り替わる。	再生が開始され、完了すると消灯します。
警告レベル : 2-1 ブザー音 : 5 秒に 1 回鳴る	再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。	
	 再生状態ランプが点滅する。	警告レベル 1 を参照し**再生**を行ってください。
警告レベル : 2-2 ブザー音 : 3 秒に 1 回鳴る	 エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。 再生条件が整わない場合は**駐車再生**を行ってください。 • 駐車再生操作は駐車再生の操作手順（42 ページ）を参照してください。
	 駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル : 3 ブザー音 : 1 秒に 1 回鳴る エンジン出力 : 50%	警告レベル 2 での再生ができなかった場合	
	 エンジン異常警告灯が点滅する。	DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し**駐車再生**を行ってください。 • 駐車再生操作は駐車再生の操作手順（42 ページ）を参照してください。 この段階では**自動再生モード**は作動しません。 これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。
	 駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル : 4 ブザー音 : 1 秒に 1 回鳴る エンジン出力 : 50%	警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合	
	 エンジン異常警告灯が点灯する。	直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。 これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。

1.2.3 再生禁止モードの操作

補足：
- **いったんエンジンを停止すると自動再生モードに切り替わります。**

エンジン始動後、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させると、再生禁止モードに切り替わります。このモードに切り替えると、PM は DPF 内に堆積され、オペレータの意思で再生操作を行わないかぎり再生されません。換気の悪いビニールハウス内作業や牛舎内作業に有効です。



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。
2. 再生禁止スイッチを押し、スイッチランプ  を点灯させます。

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

3. 運転中、駐車再生要求ランプ  が点滅表示した場合、DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。

   トラクタを安全な場所に移動させ、駐車再生の操作に従い DPF マフラの再生を行ってください。
   （詳細は駐車再生の操作手順（42 ページ）を参照）

1.2.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

再生禁止モードで運転時、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

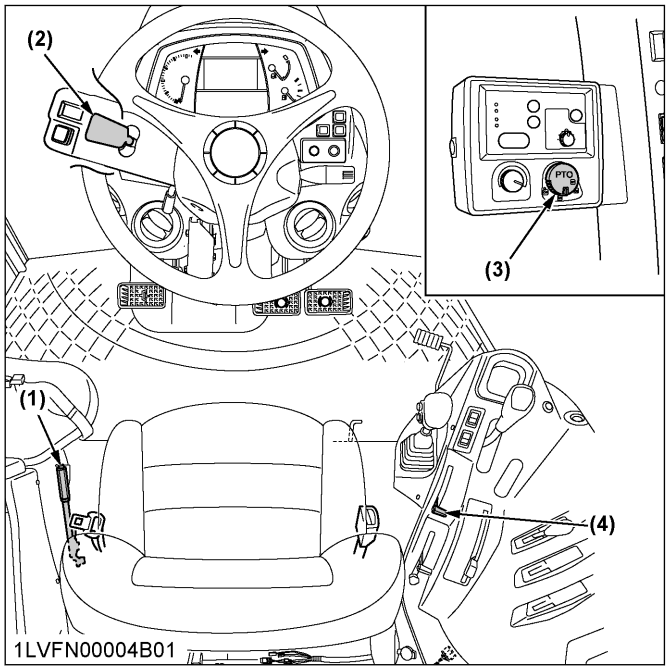
重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

<table>
<tr><th colspan="3">再生禁止モード</th></tr>
<tr><th colspan="2">状態</th><th>処置</th></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：1
ブザー音：無し</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">警告レベルが［1～2-2］の範囲内であれば、再生禁止スイッチ を自動再生モードに切り替え、自動再生を行うことも可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">警告レベル：2-1
ブザー音：5 秒に 1 回鳴る

警告レベル：2-2
ブザー音：3 秒に 1 回鳴る</td><td colspan="3">再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td rowspan="2">トラクタを安全な場所に移動し、駐車再生を行ってください。
• 駐車再生操作は駐車再生の操作手順（42 ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">警告レベル：3
ブザー音：1 秒に 1 回鳴る
エンジン出力：50%</td><td colspan="3">警告レベル 2 での再生ができなかった場合</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン異常警告灯が点滅する。</td><td rowspan="2">DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し駐車再生を行ってください。
• 駐車再生操作は駐車再生の操作手順（42 ページ）を参照してください。
これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：4
ブザー音：1 秒に 1 回鳴る
エンジン出力：50%</td><td colspan="3">警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。</td></tr>
</table>

1.2.5 駐車再生の操作手順



(1) 駐車ブレーキ
(2) シャトルレバー
(3) *PTO* クラッチコントロールスイッチ
(4) アクセルレバー

1. トラクタを建物、人や動物から離れた安全な場所に停車させます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. シャトルレバーを中立位置にします。
4. PTO クラッチコントロールスイッチを**切**（**[OFF]**位置）にします。
5. エンジン回転をアイドリングにします。
6. 作業機を下げます。
7. 再生禁止スイッチ を押し**消灯**させます。
8. 駐車再生手順（手順 2.～5.と 7.）が整うと駐車再生スイッチランプ が点滅します。
9. 駐車再生スイッチ を押し、再生を開始します。（スイッチランプは点灯に変わる。）
10. エンジン回転が自動的に上昇し、再生が開始されます。
11. 再生中はランプ 、 が点灯し、再生が終了すると消灯します。
12. ランプが消灯後、作業を開始してください。
    なお、**再生禁止**モードで運転する場合、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させてください。

補足：

- **緊急時以外、再生中は前述のレバーやスイッチ（手順 2.、3.、4.）、エンジン回転数を操作しないでください。もし操作すると、再生が中断されます。**
- **駐車再生中はトラクタから離れないでください。**
- **駐車再生を中断させた場合、約 30 秒間エンジン回転がアイドリングで固定されます。この 30 秒間はアクセルレバーやアクセルペダルをアイドリング位置で保持し操作しないでください。30 秒経過後は正常に作動します。**

1.3 DPF の再生に関する豆知識

- **運転**
  エンジンは高速、高負荷運転するほど、排ガス温度は高温となるため、排ガス中の PM（微粒子状物質）は DPF マフラ内で燃焼します。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が長くなります。
  逆にエンジン回転が低く負荷も低いほど、排ガス温度も低くなるため、排ガス中の PM（微粒子状物質）は、DPF マフラ内で燃焼されず堆積しやすくなります。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が短くなるので、不必要なアイドリング運転などは推奨しません。
- **再生に必要な条件**
  次の条件がすべて整うと再生が始まります。再生途中に 1 つでも条件から外れると中断します。
  - エンジン冷却水温がじゅうぶん暖まっているとき
  - DPF 温度が高温になっているとき
  - エンジン回転数が約 1200 rpm 以上のとき
- 再生は通常 15～20 分で終了します（再生時間は外気温度、排ガス温度やエンジン回転数により異なります）。
- 再生は、エンジンがじゅうぶんに暖まっているときに行うことを推奨します。
- 不必要な再生・中断操作を繰り返し行わないでください。エンジンオイルに微量の燃料が混ざり、オイルの質を低下させます。
- DPF 再生時は、エンジンの空気流入量を自動的に制限し、排気温度が高くなるように制御されています。このとき、エンジン音が変化しますが異状ではありません。
- 再生終了直後は、DPF マフラが高温になっていますので、約 5 分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。

2. 尿素 SCR システム

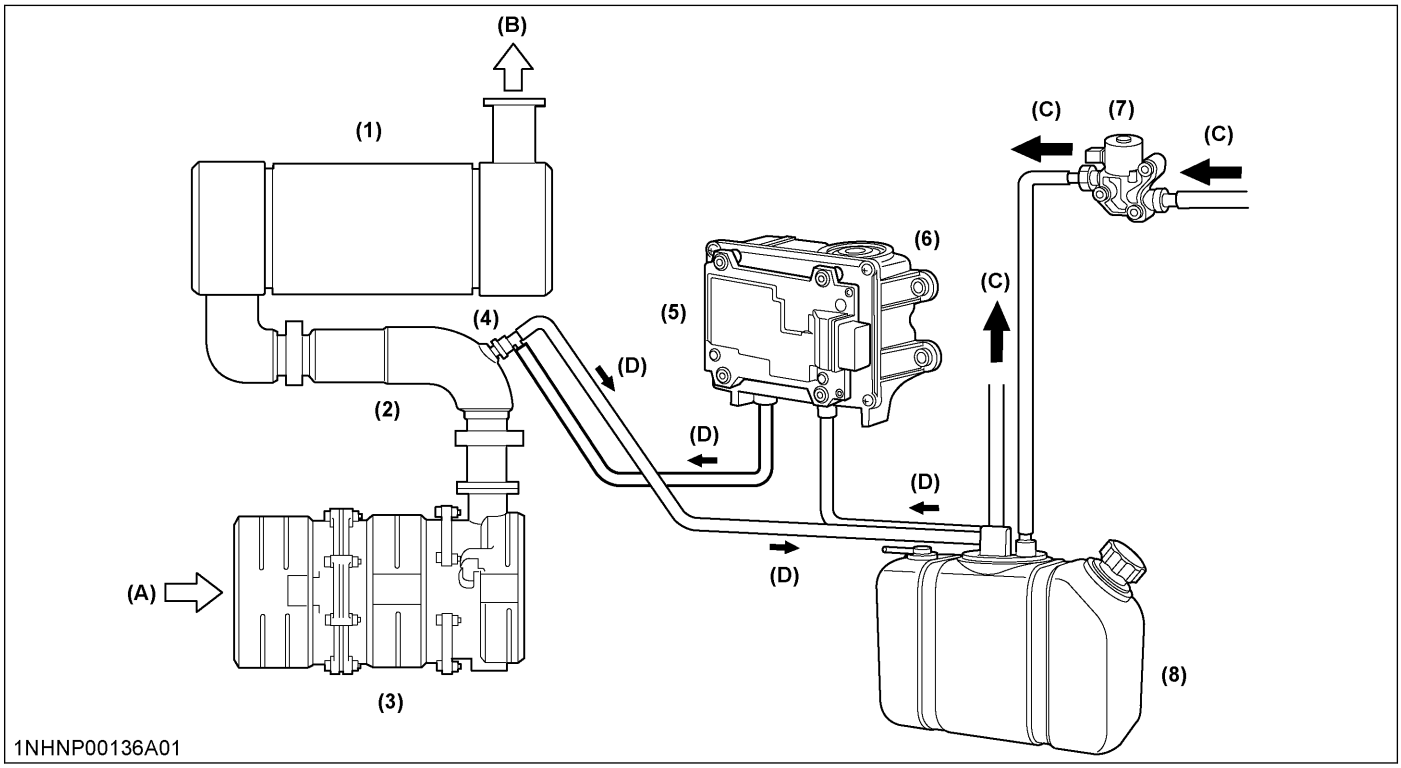
2.1 尿素 SCR システムの概要

重要 :

- **尿素 SCR システムを改造することは違法です。絶対に改造しないでください。**
- **尿素水タンクが空の状態でエンジンを運転しないでください。**
- **尿素水(AdBlue)の残量不足や品質不良、または尿素 SCR システムに異常が生じた場合、DPF マフラの自動再生機能や駐車再生機能が正常に作動しない場合があります。**

- 尿素 SCR システムは、排ガス中の窒素酸化物(NOx)を浄化するシステムです。
  尿素水(AdBlue)を還元剤として排ガスの熱で加水分解し、アンモニア(NH_3)を生成します。
  生成したアンモニアが窒素酸化物(NOx)を還元して、窒素と水に分解し浄化します。
  この排ガス浄化機能により、尿素 SCR マフラから排出される排ガスの臭いは従来のディーゼルエンジンと異なります。
- 尿素水(AdBlue)は、-11 ℃で凍結しますが、エンジンの始動には影響しません。
  凍結した尿素水(AdBlue)は、エンジンの冷却水の熱により運転中に融解されます。

構造図



(1) *SCR*（選択還元触媒）マフラ
(2) ミキサーパイプ
(3) ディーゼルパティキュレートフィルタ *(DPF)*
(4) 尿素水インジェクタ
(5) *ACU*（後処理制御装置）
(6) 尿素水ポンプ
(7) 冷却水バルブ
(8) 尿素水タンク
(A) 浄化前の排ガス
(B) 浄化後の排ガス
(C) 冷却水の流れ
(D) 尿素水*(AdBlue)*の流れ

2.2 尿素水(AdBlue)について

- 尿素 SCR システムの還元剤として用いる尿素水(AdBlue)は、32.5%の尿素水溶液です。
- 尿素水(AdBlue)の取扱資格は不要です。また、危険物としての指定もありません。
- ISO22241、または JIS K2247-1 に適合した尿素水(AdBlue)を使用してください。

補足：

- **NOx 還元剤の高品位尿素水は、日本市場ではアドブルー(AdBlue)の商品名で販売されています。**

2.3 尿素水(AdBlue)の取扱い

⚠ 注意

尿素水(AdBlue)の取扱いに関して、次の点にご注意ください。

- **目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。**
- **絶対に飲まないでください。**
  誤って飲んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。
- **皮膚に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。**
  まれに皮膚を刺激する場合があります。
- **衣服や靴に掛かったときは、すぐに洗い流してください。**
  そのまま拭き取ったり、乾かしたりすると、白い残留物が残ります。

詳細については、尿素水(AdBlue)の購入先から安全データシート(SDS)を入手してご確認ください。

尿素水(AdBlue)をこぼした場合は、すぐに水道水で洗い流してください。そのまま放置すると、金属部が錆びたり、塗装面が腐食する可能性があります。また、樹脂部分やゴム部品が変形する可能性があります。

2.4 尿素水(AdBlue)の品質について

重要：

- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)をすべて容器に排出してください。**
  （尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（48 ページ）を参照）
  その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。
- **3 か月以上機械を使用しない場合は、尿素水(AdBlue)を尿素水タンクからすべて排出してください。**
- 尿素水(AdBlue)を購入する場合は、ガソリンスタンド、トラックステーション、専門店で入手できますが、必ず ISO 22241、または JIS K2247-1 の適合品を使用してください。適合品以外のものを使用すると、エンジンが故障する原因となります。
- 尿素水(AdBlue)を保管する環境は、-5 ℃～30 ℃が適切です。次の表をご参考ください。30 ℃を超える環境では保管有効期間が短くなるため避けてください。
  （尿素水(AdBlue)の保管方法については、購入した尿素水(AdBlue)の保管（48 ページ）、または尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管（49 ページ）を参照）

周囲温度	保管有効期間
≦10 ℃	36 か月
≦25 ℃	18 か月
≦30 ℃	12 か月
≦35 ℃	6 か月
≦40 ℃	3 か月

- 尿素水(AdBlue)を希釈しないでください。
- 尿素水(AdBlue)の品質が低下した場合、エンジン出力の低下や故障が生じる可能性があります。

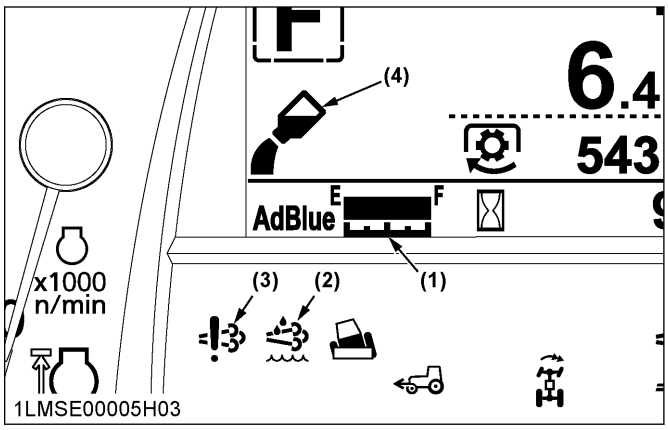
補足：

- **尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流し、新しい、または良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。**

2.5 SCR の警告表示

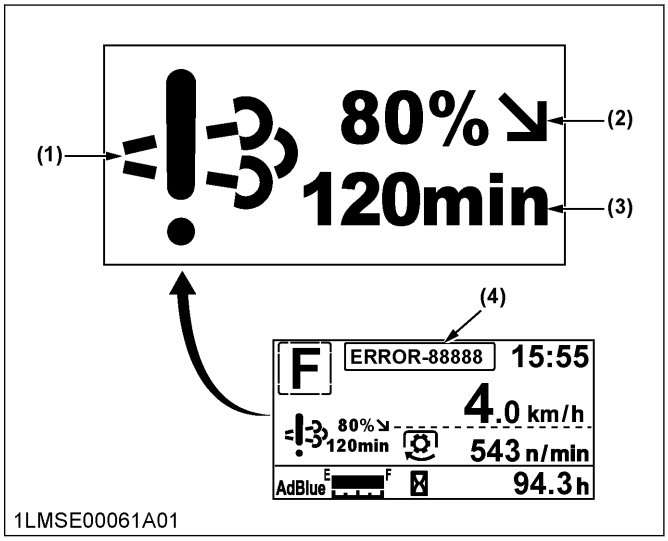
2.5.1 尿素水(AdBlue)残量低下時の警告表示

排ガス規制に対応するため、本機は尿素水(AdBlue)の残量によるエンジン出力制御を行っています。
エンジン始動後、電子メータの尿素水(AdBlue)ゲージで尿素水(AdBlue)の残量を確認してください。
尿素水(AdBlue)の残量が少なくなると残量警告アイコンが点灯し、ブザーが鳴ります。そのまま運転を続けるとエンジン出力が約 50%に制限されます。さらに運転を続けるとエンジンがアイドリング状態になります。
なお、このような制限は、日本国内の排ガス規制に沿って行っています。



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(2) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(3) *SCR* システム警告
(4) 尿素水*(AdBlue)*残量警告

2.5.2 SCR 警告情報



(1) *SCR* システムアイコン
(2) エンジン出力レベル
(3) 次の規制が作動するまでの時間
(4) 故障診断コード*(DTC)*

表示される SCR システムアイコンの種類

	尿素水(AdBlue) 残量警告			SCR システム警告
	尿素水(AdBlue) 品質不良警告			尿素水(AdBlue) 解凍

補足：

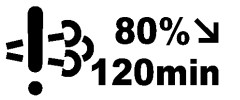
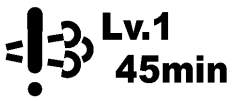
- **故障診断コード(DTC:Diagnostic Trouble Code)は、エンジンや尿素 SCR システムの故障診断に使われるコードです。**
  例："ENG P-208B"
  DTC の頭文字は[P]または[U]から始まります。

2.5.3 SCR の警告情報一覧と対応

尿素 SCR システムは、尿素水(AdBlue)の残量、品質や機械のトラブルを見張っています。もし、運転中に不具合が生じると次の警告を発します。警告内容に従って正しく処置してください。

表示アイコン	インジケータ	現象と処置
		尿素水(AdBlue)の残量が 40%になった場合、左記警告表示が点灯します。 尿素水(AdBlue)を補充すると警告表示が消えます。*1 トラクタの性能を維持するため、点灯後できるだけ早く、尿素水(AdBlue)を補充してください。 もし補充を行わず運転を続けるとエンジン出力が制限されます。
		尿素水(AdBlue)の残量が 5%になった場合、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）
		もし補充を行わず運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウンが開始され、ディスプレイにも表示されます。 （エンジン出力制限レベル 2 までの移行時間は最低 30 分間確保していますが、作業条件により 30 分より延びる場合もあります）
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2）。 トラクタを安全な場所に止め、尿素水(AdBlue)を補充してください。*1
		ディーゼル軽油や粗悪な尿素水(AdBlue)を補充すると、左記警告表示が点灯します。 すぐ良質な尿素水(AdBlue)と交換してください。 もし交換せずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 へのカウントダウン(195 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		カウントダウンが終了すると、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1） もし交換せずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウン(45 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2） トラクタを安全な場所に止め、尿素水(AdBlue)を補充してください。

*1　尿素水(AdBlue)の補充や良質な尿素水(AdBlue)と交換した場合、警告表示が消灯し、エンジンの出力制限も解除されます。

表示アイコン	インジケータ	現象と処置
		SCR システムに異常が生じると、左記警告表示が点灯します。ディスプレイに表示される DTC を確認のうえ、購入先へ連絡してください。 エンジン出力は制限されません。 もし処置を行わずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 へのカウントダウン(195 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		重要な排ガス制御部品に故障が生じると、エンジン出力制限レベル 1 に達するまでのカウントダウン中でも、エンジン出力が制限されます。 左記警告例では、エンジン出力が 80%に制限中です（故障内容により制限値(%)は異なります）。 そして、120 分後にはエンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）。
		カウントダウンが終了すると、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）。 もし処置を行わずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウン(45 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2）。 トラクタを安全な場所に止め、ディスプレイに表示される DTC を確認のうえ、購入先へ連絡してください。
	–	極低温のため尿素水(AdBlue)が凍結すると、左記表示が点灯します。 トラクタを停止したまま暖機運転を行ってください。
	–	尿素水(AdBlue)が凍結のため、エンジン出力が 80%に制限されています（凍結状態により制限値(%)は異なります）。 作業に支障がなければ運転可能です。

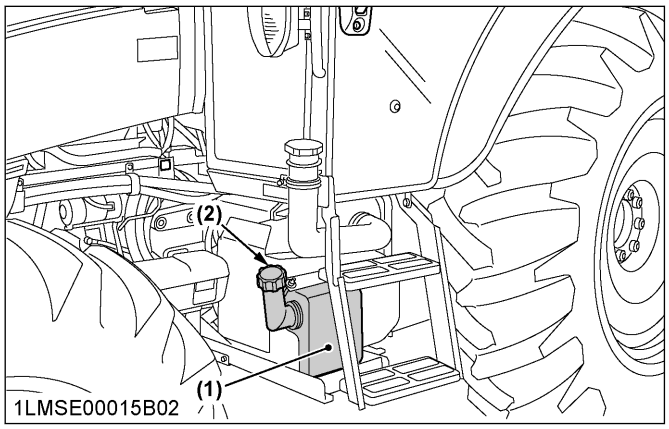
補足：

- **エンジンの出力規制について：**
  表示アイコンの[Lv.1]と[Lv.2]は、エンジン出力制限レベルを表しています。
  [Lv.1](レベル 1)：最大トルクが 50%、エンジン回転数も 60%に制限される。
  [Lv.2](レベル 2)：エンジン回転数がアイドリング状態に規制される。
- **故障が生じると、エンジン出力を[Lv.2](レベル 2)に制限する場合もあります。**
  故障箇所とその内容によって、インジケータでの警告やエンジン出力の制限値などが異なる場合があります。
  SCR システム警告は警告順にエンジン出力も下がります。
  SCR システムに異常が生じると、エラーコードが表示されエンジン出力をアイドリング状態（[Lv.2]：レベル 2）に制限する場合もあります。
  例：エラーコード"ENG-P204F"が表示されると、エンジン出力は[Lv.2]に制限が掛かります。
- **処置後のポイント：**
  タンクの尿素水(AdBlue)を交換した場合、補充量が排水量より少なかったときは、SCR システム異常が表示されます。（"P20F5"エラーコードが表示される）エラーコードが表示されたときは、キースイッチを切にし数分間待ちます。再度キースイッチを入にするとエラーコードが消えます。
- **尿素水(AdBlue)の残量不足、品質不良品の補充または、SCR システムに異常が生じた場合、DPF マフラの自動再生や駐車再生が作動しない場合があります。**
- **表示アイコンの右下の時間は規制が掛かるまでの最短の時間を表しています。**
- **SCR システム警告（40 時間内の警告記録）について：**
  - **基本的に、故障箇所が修復されると警告や制限された運転は解消します。**
  - **ただし、修復から 40 時間内に同じ故障を検出した場合は、前回警告が検出された状態を呼び戻し、カウントダウンが再スタートします。**
  - **40 時間内の警告記録は、修復から 40 時間以上経過すると初期状態に戻ります。**

2.6 尿素水(AdBlue)の補給

重要：

- **尿素水タンクのキャップは青色です。燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを微量でも混入してエンジンを始動すると、尿素 SCR システムが故障します。エンジンを始動させず、すぐに購入先に連絡してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを混入した場合、保証対象外となります。修理、メンテナンスに掛かる費用はお客様負担となりますのでご注意ください。**



(1) 尿素水タンク
(2) 尿素水タンクキャップ（青色）

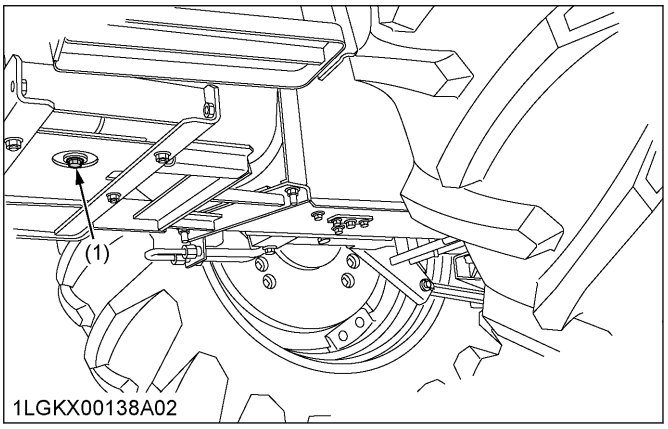
- 尿素水(AdBlue)を尿素水タンクへ補給する前に、土やホコリなどの異物が混入しないよう、ノズルや補給口周辺を清掃してください。
- 尿素水(AdBlue)の補給は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。
  エンジン停止後、最大約 15 分間尿素 SCR システムが作動します。
  尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。
- 尿素水(AdBlue)の保管容器や補給容器は清潔にしてください。容器が汚れている場合、蒸留水で洗浄してください。尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流してください。
- 尿素 SCR システムの性能を維持するために、燃料タンクに燃料を補給するたびに尿素水タンクに尿素水(AdBlue)を補給することをお勧めします。

2.7 尿素水(AdBlue)の排出

重要：

- **尿素水タンクが空の状態でエンジンを運転しないでください。**
- 尿素水(AdBlue)を排出するときは、図のドレーンプラグを外して容器に排出してください。
- ドレーンプラグのゴム製 O リングに油が付着しないよう注意してください。
- ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。

ドレーンプラグ締付けトルク	4.0 N·m～6.0 N·m (0.41 kgf·m～0.61 kgf·m)



(1) ドレーンプラグ

- 尿素水(AdBlue)を排出する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。
- 尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)を排出して交換する際、補給量が排出量より少ない場合は、電子メータに尿素 SCR システム異常"P20F5"が表示されます。エラーコード"P20F5"が表示された場合は、10 分間エンジンを運転させるとエラーコードが消えます。10 分以上エンジンを運転させてもエラーコードが消えないときは購入先に連絡してください。このエラーを回避するために、尿素水(AdBlue)を交換する場合、毎回満タンにすることをお勧めします。
- 排出した尿素水(AdBlue)を廃棄する場合は、尿素水(AdBlue)の廃棄（49 ページ）を参照してください。

2.8 購入した尿素水(AdBlue)の保管

- 尿素水(AdBlue)を保管する場合、次の点に注意してください。
  - 容器をしっかりと密閉する。
  - 直射日光を避ける。
  - 風通しの良い屋内に保管する。
  - 温度変化の少ない場所に保管する。
- 次に該当する尿素水(AdBlue)は、未使用であっても使用しないでください。尿素水(AdBlue)が劣化しており、尿素 SCR システムが故障する可能性があります。
  - 保管期間が不明な場合
  - 保管していた環境が不明な場合（特に高温環境下）
  - 強いアンモニア臭がする場合

- 尿素水(AdBlue)を保管、携帯する場合は、購入時の容器を使用してください。また、ほかの容器を使用する場合は専用容器を準備してください。専用容器は、水やゴミなどの異物が付着していないきれいなポリエチレン樹脂タンク(PE)、またはステンレス鋼の容器をご使用ください。
- 尿素水(AdBlue)の保管や補給に使用する容器は、汚れやほこりがないようにしてください。汚れを洗浄する際は、蒸留水を用いて洗浄してください。尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、きれいな水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流してください。
- 尿素水(AdBlue)を保管する環境は、-5 ℃～30 ℃が適切です。次の表をご参考ください。30 ℃を超える環境では保管有効期間が短くなるため避けてください。

周囲温度	保管有効期間
≦10 ℃	36 か月
≦25 ℃	18 か月
≦30 ℃	12 か月
≦35 ℃	6 か月
≦40 ℃	3 か月

補足：
  - **保管有効期間は目安です。尿素水(AdBlue)の保管状態によっては、目安より保菅有効期間が短くなることがあります。**

- 尿素水(AdBlue)は-11 ℃以下になると凍結します。尿素水(AdBlue)は凍結しても品質に問題はありません。融解後、そのまま使用してください。

2.9 尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管

重要：
- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)をすべて容器に排出してください。（尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（48 ページ）を参照）その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **3 か月以上機械を使用しない場合は、尿素水(AdBlue)を尿素水タンクからすべて排出してください。その後、機械を使用する際は新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を満タンまで補給してください。**

補足：
- **尿素水(AdBlue)の品質が低下した場合、エンジン出力の低下や故障が生じる可能性があります。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)を排出して交換する際、補給量が排出量より少ない場合は電子メータに尿素 SCR システム異常"P20F5"が表示されますが故障ではありません。（詳細は、尿素水(AdBlue)の排出（48 ページ）を参照）**

2.10 尿素水(AdBlue)の廃棄

環境汚染につながる可能性があるため、使用済みの尿素水(AdBlue)は適切に処分してください。廃棄方法については、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談してください。

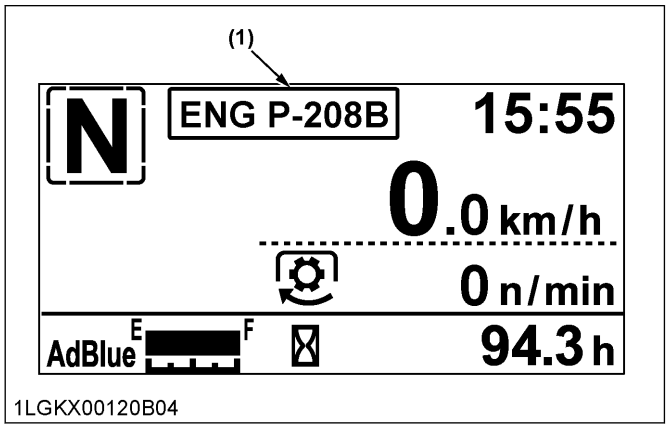
2.11 エンジン停止後の取扱注意点

エンジン停止後最大約 15 分間、尿素 SCR システムが自動で作動し、凍結や詰まりを防止するために配管の中の尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに戻します。
エンジン停止後も尿素 SCR システムから作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。エンジン停止後は次の点に注意してください。
- 尿素 SCR システムが停止するまで、バッテリ端子を外さないでください。システム機器が故障するおそれがあります。
- 尿素 SCR システムが停止してから尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。

2.12 寒冷地での使用時の注意点

- 寒冷時、尿素水(AdBlue)は-11 ℃以下で凍結しますが、エンジンの始動には影響しません。
- 凍結した尿素水(AdBlue)は運転中に自動で融解されます。
- 融解中は尿素 SCR システム保護のため、出力制限が掛かる場合があります。
- -30 ℃以下では完全に融解されない場合があり、その際故障診断コード"ENG P-208B"が電子メータに表示されます。
  故障コード"ENG P-208B"が表示されたときは、エンジンを停止し、10 秒後に再始動してください。
  エンジンを再始動すると故障診断コード"ENG P-208B"の表示が消え、尿素水(AdBlue)を再度融解します。

エンジンの再始動を数回繰り返しても故障診断コード"ENG P-208B"の表示が消えないときは購入先に連絡してください。



(1) 故障診断コード*(DTC)*

2.13 尿素 SCR システムの関連部品のメンテナンス

尿素 SCR システムの関連部品を定期的に点検、清掃、および交換してください。
メンテナンスの詳細については、トラクタの点検・整備のしかた（125 ページ）でご確認ください。

トラクタ装置各部の取扱い

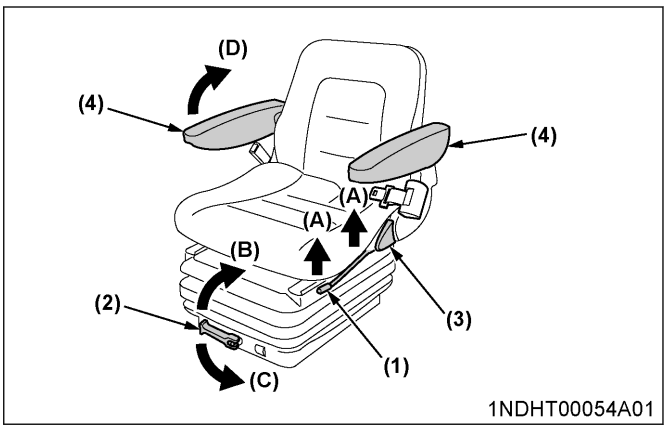
1. 運転席周りの調節

1.1 シート

シートはトラクタを運転するときに使用する座席です。

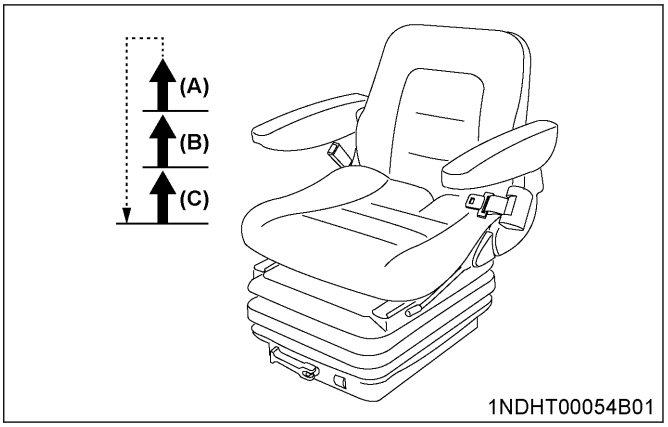
調整方法

- 前後調節レバーを引くと、シートが前後に調節できます。
- 体重調節ハンドルを回すと、クッションの強さが調節できます。
- リクライニング調節レバーを上げると、背もたれの角度が調節できます。
- アームレストは、後方へ向けられます。



(1) 前後調節レバー
(2) 体重調節ハンドル
(3) リクライニング調節レバー
(4) アームレスト
(A) 解除
(B) 強くなる
(C) 弱くなる
(D) 上がる

- シートの高さは、シート全体を持ち上げるだけで、3 段階に変えられます。
  低い位置に戻すには、いったん最上昇位置まで持ち上げると最下位置まで下がります。



(A) 高
(B) 中
(C) 低

1.2 安全キャブとシートベルト

安全キャブは、万一トラクタが転倒したときに事故の被害を軽減するものです。シートベルトは、作業者をシートに固定するためのベルトです。

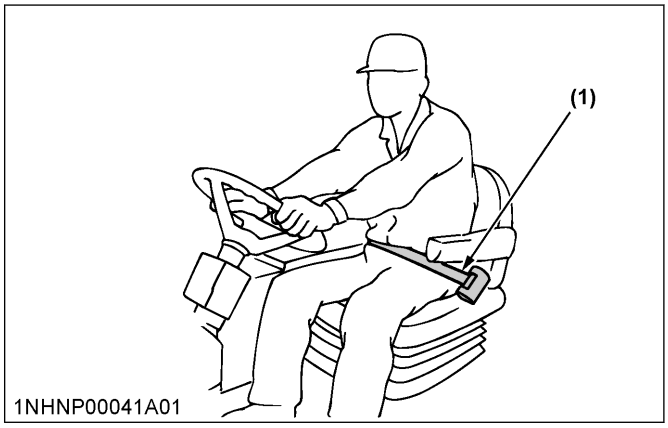
⚠ 警告

転倒・転落による死傷事故防止のため、次のことを守ってください。

- **トラクタを使用するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
- **安全キャブの改造を絶対にしないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。**
- **シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**

補足：

- **安全キャブは、万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって、すべての傷害を防げるものではありません。**



(1) シートベルト

1.3 インストラクタシート（オプション）

インストラクタシートは、機械の操作を教える人、教わる人、またはサービスを行う人が、ほ場内での教習を目的に供給されているものです。転倒する可能性がまったくない平たんで安全な場所で使用してください。公道で走行するときは使用しないでください。

主な禁止事例

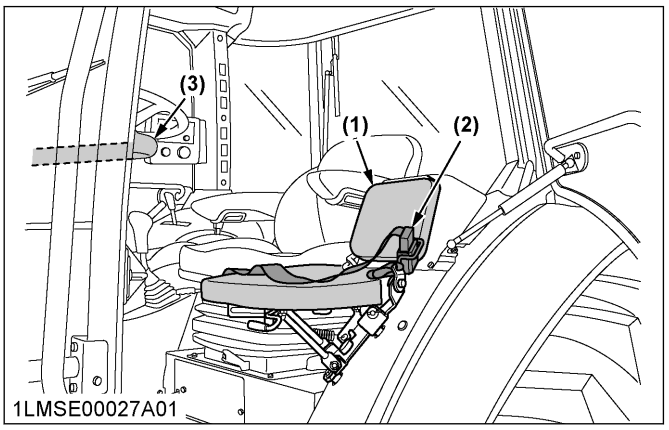
- 教える人、教わる人、またはサービスを行う人以外の人間や動物は乗せないでください。
  - 子供は絶対に乗せないでください。
  - 物を運搬する用途に使用しないでください。
- 人を運搬するなど教習以外の目的では使用しないでください。
- 転倒のおそれがある場所や使い方は絶対に行わないでください。
  - 傾斜地、凸凹の多い場所、ハイスピード、急旋回、牽引、急発進や急停車など。
- 悪天候（雨・霧など）や夕方など周囲の視界が悪い場合は使用しないでください。

1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順

⚠ 警告

インストラクタシート使用時は次のことを守ってください。

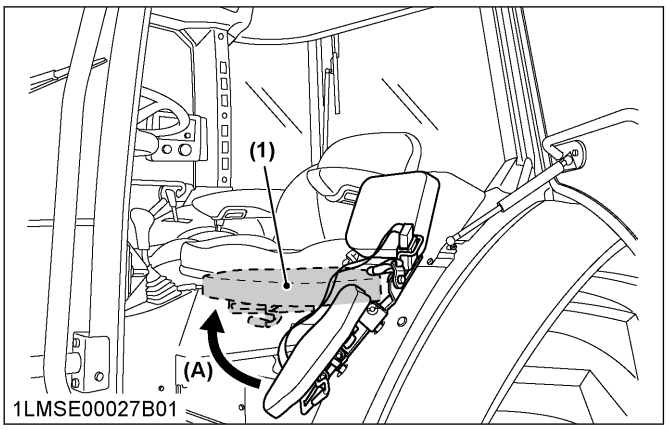
- **必ずシートベルトを締め、安全キャブ内の手すりを持ってください。**
- **どのような理由があっても子供や大人の移動手段として使用しないでください。**
- **シートに着座時は常に安全キャブの左ドアは施錠してください。**
- **シートに着座した人以外は乗せないでください。**
- **運転者の視界をさえぎったり運転操作の妨げにならないよう注意してください。**
- **急発進、急停止や急旋回は行わないでください。**
- **シートベルトやドアロックが破損時は、使用しないでください。**
- **このシートを運搬用に使用しないでください。**
- **シートを使用しないときは、乗降時の障害にならないように折りたたんでください。**
- **シートに座ってのドアの開閉は、ゆっくりと静かに行い、手や身体をドアに挟まないようにしてください。**



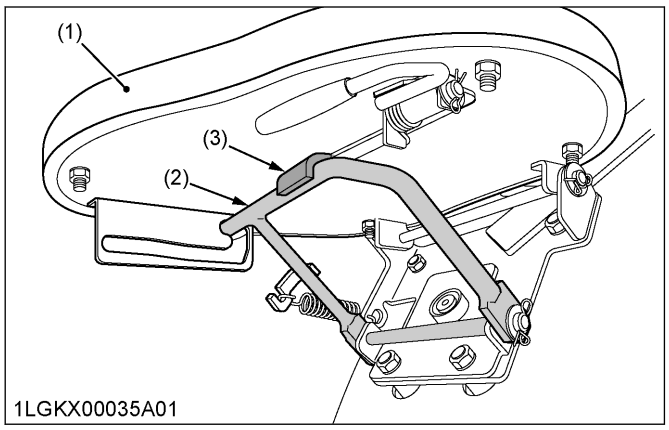
(1) インストラクタシート
(2) シートベルト
(3) 手すり

組立て手順

1. シート裏面のロッドがブラケットで固定される位置までシートを持ち上げます。
2. シート上面を押し、シートが確実に固定されていることを確認してください。



(1) シート　　*(A)* 持ち上げる



(1) シート
(2) ロッド
(3) ブラケット

乗車時の手順

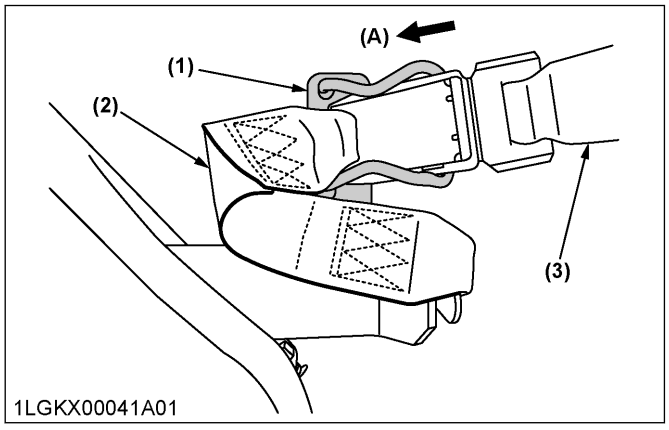
1. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、乗車してください。
2. 乗車前にシートが確実に固定されていることを確認してください。また、乗車時操作レバー類に体が触れないようにしてください。
3. シートベルトを装着してからドアを閉め、ドアロックを施してください。

運転中の注意事項

- オペレータの運転の妨げにならないように配慮し、シートに座って教習を進めてください。
- 教習中は、シートベルトを装着し、常時手すりをつかみ、身体の揺れを防いでください。
- トラクタは低速で運転してください。

降車時の手順

1. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、降りてください。
2. ドアにシートベルトが挟まれないように、左右のシートベルトはつなぎ、ホルダに収納してください。

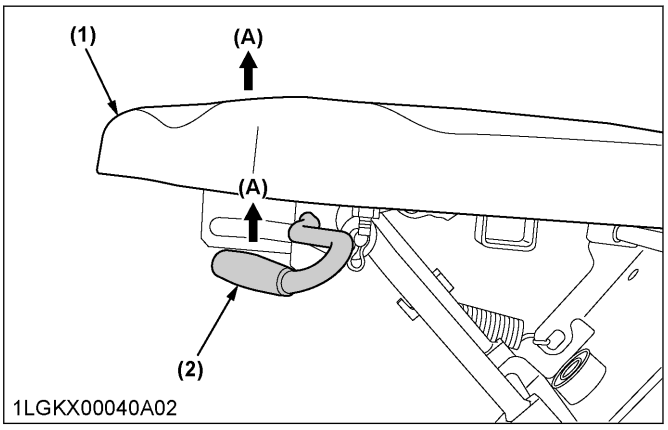


(1) シートベルトホルダ　　*(A)* 差し込む
(2) シートベルト（左）
(3) シートベルト（右）

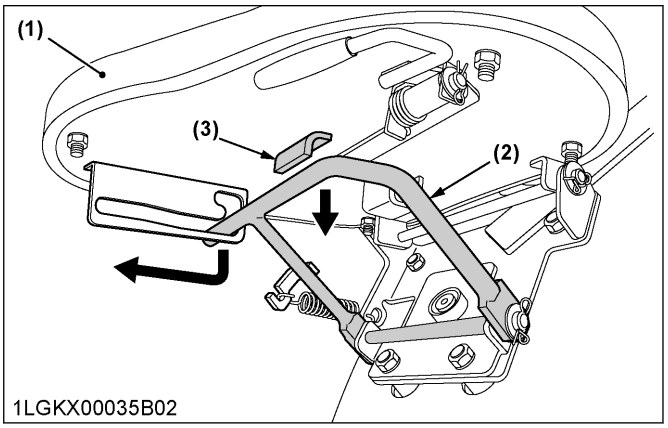
収納手順

シートを折りたたみ時、手や指を挟まないように注意してください。

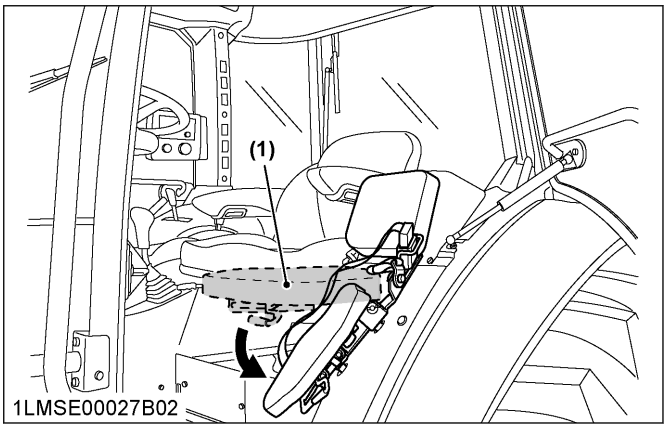
1. シートの前部とレバーを同時に上方へ引き上げます。
2. シート下部のロッドをブラケット部より解放し、そのままシートを下方へ折りたたみます。



(1) シート　　*(A)* 持ち上げる
(2) レバー



(1) シート
(2) ロッド
(3) ブラケット



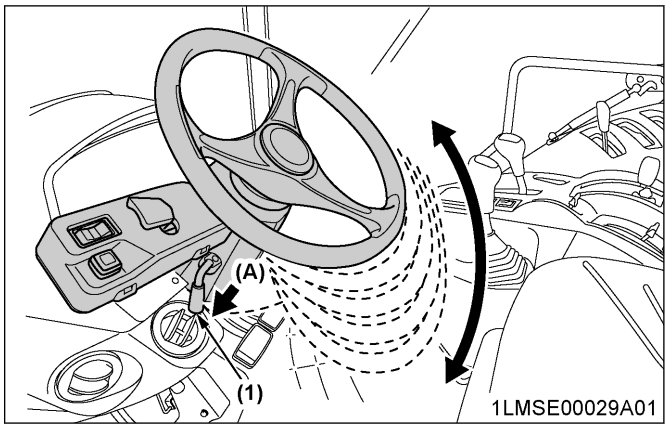
(1) シート

1.4 チルトステアリングハンドル

作業者の体格や運転姿勢に合わせて、ハンドルの角度を変える機能です。

⚠ 警告
- **走行中の調節はしないでください。**
- **調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください**

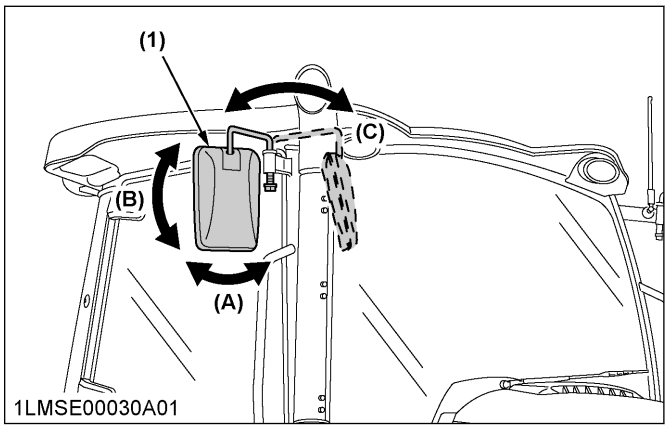
チルトステアリングハンドルの操作はチルトレバーを引っ張り適当な位置でレバーをはなして位置を決めてください。



(1) チルトレバー　　*(A)* 下げる（ロック）

1.5 バックミラー

後方の状況を確認するための鏡です。
- バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- 狭い場所へ格納時は折りたたんでください。

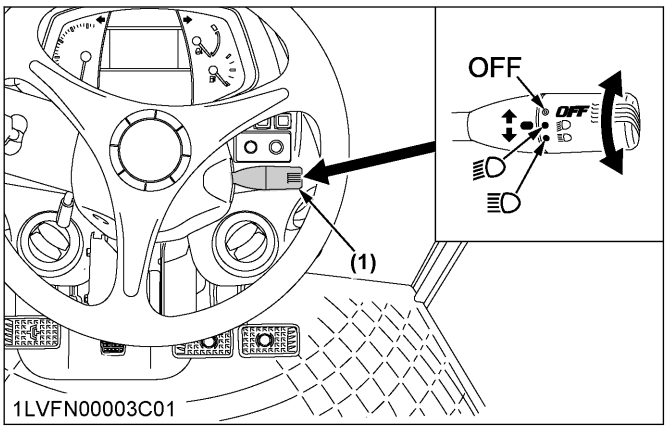


(1) バックミラー
(A) 左右
(B) 上下
(C) 格納位置

2. 灯火類の操作

2.1 ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを点灯するためのスイッチです。
ノブを回すとスイッチが入り、位置によって次のランプが点灯します。

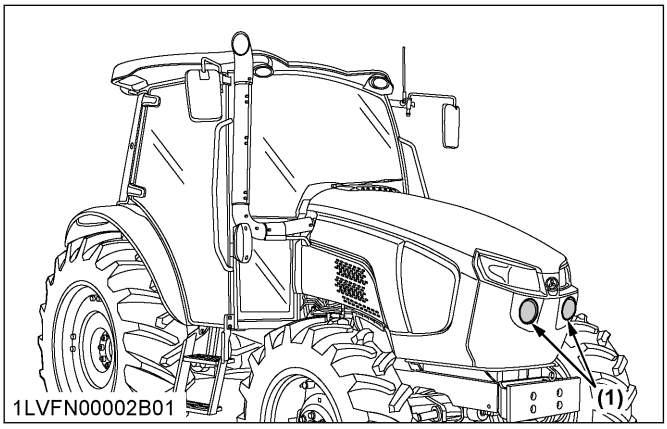


(1) ヘッドライトスイッチ

[OFF]
ヘッドライト消灯位置

ヘッドライト下向き照射位置

ヘッドライト上向き照射位置



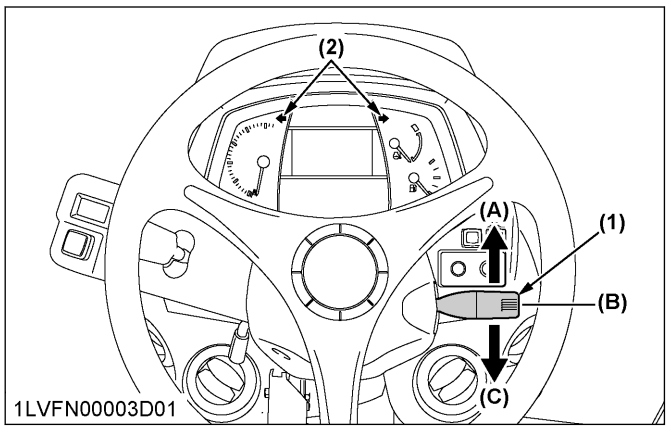
(1) ヘッドライト

補足：
- **ヘッドライトが上向き照射時、電子メータ内の ランプが点灯します。**
- **キースイッチが[切]位置でも点灯します。**

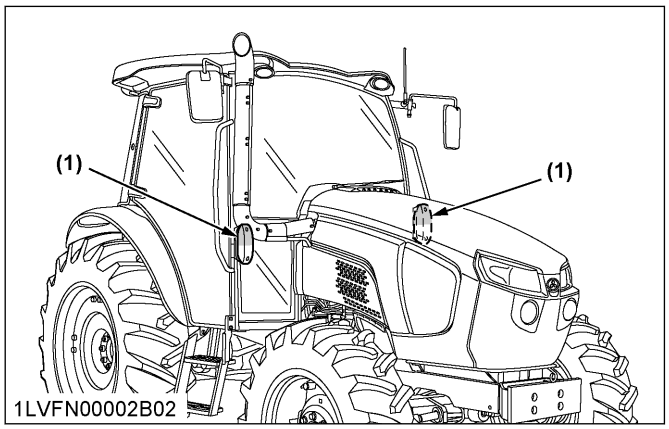
重要：
- **ヘッドライトスイッチの切り忘れによるバッテリ上がり防止のため、必ずスイッチを[OFF]位置にしてください。**

2.2 ウインカスイッチ

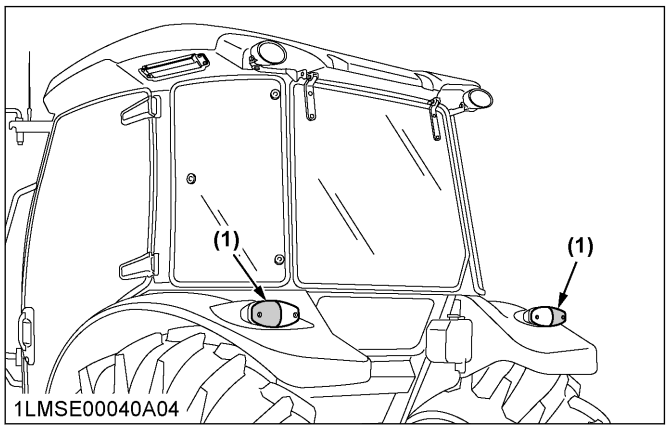
ウインカランプを点滅するためのスイッチです。
- スイッチを操作すると、ウインカランプおよび電子メータ内のパイロットランプが点滅します。
- スイッチはハンドルを戻すと、自動的に中立に戻る、オートリターン機構になっています。



(1) ウインカスイッチ
(2) パイロットランプ
(A) 左折
(B) 中立
(C) 右折



(1) ウインカ（前）

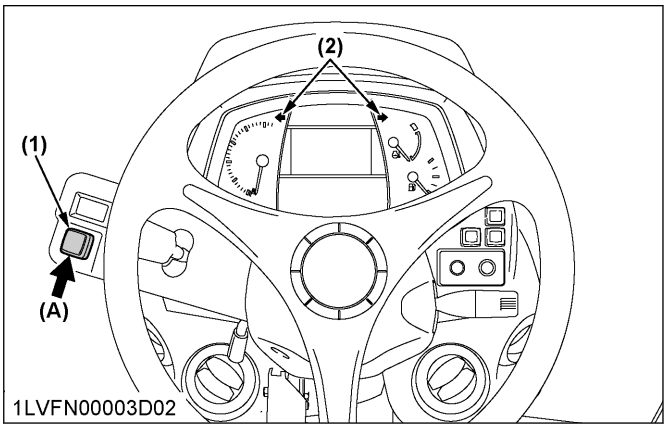


(1) ウインカ（後）

補足：
- **ハンドルを切る角度が小さいとスイッチが中立に戻らない場合があります。戻らないときはスイッチを手で戻してください。**

2.3 ハザードスイッチ

故障などで停止した場合、事故を防止するため、非常停止中を知らせるときに使用します。
スイッチを押すとウインカ前後および電子メータ内のウインカ作動パイロットランプが点滅します。
再度スイッチを押すと消灯します。

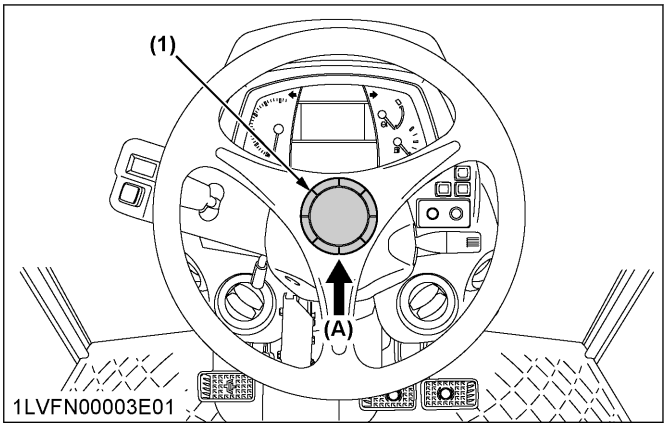


(1) ハザードスイッチ
(2) パイロットランプ
(A) *ON／OFF*

補足：
- **ハザードランプはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.4 ホーンボタン

警笛を鳴らすためのボタンです。
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

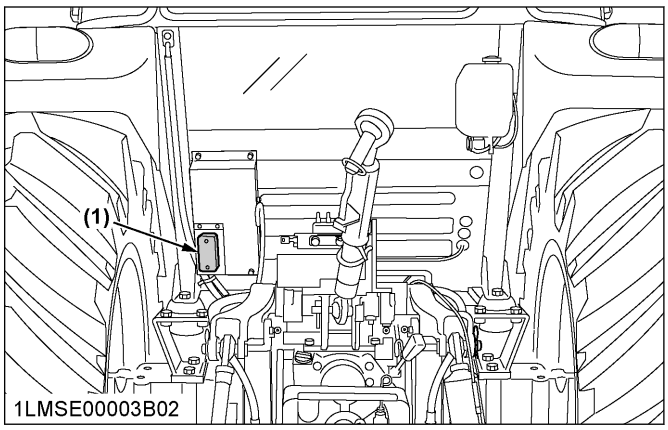


(1) ホーンボタン
(A) 押す

補足：
- **ホーンはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.5 バックランプ

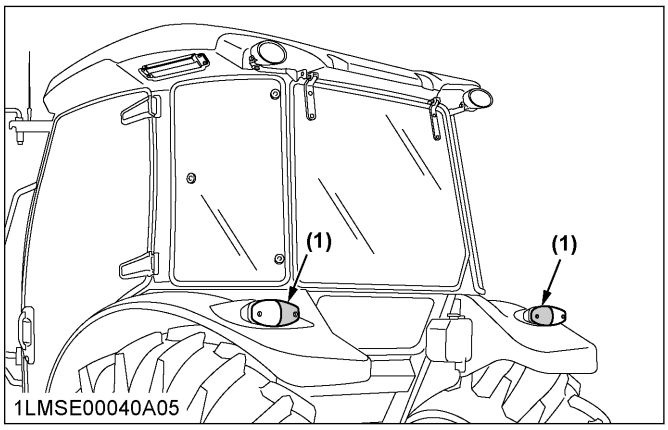
後進を知らせるためのランプです。
シャトルレバーを**後進**の位置に入れると、バックランプが点灯します。



(1) バックランプ

2.6 ブレーキランプ

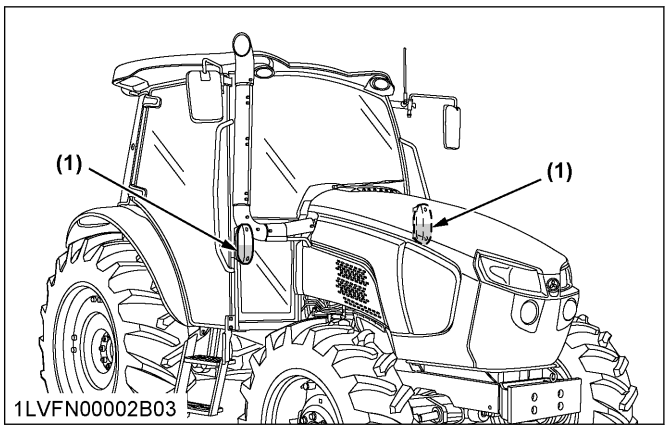
ブレーキ踏込み時に点灯するランプです。
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。



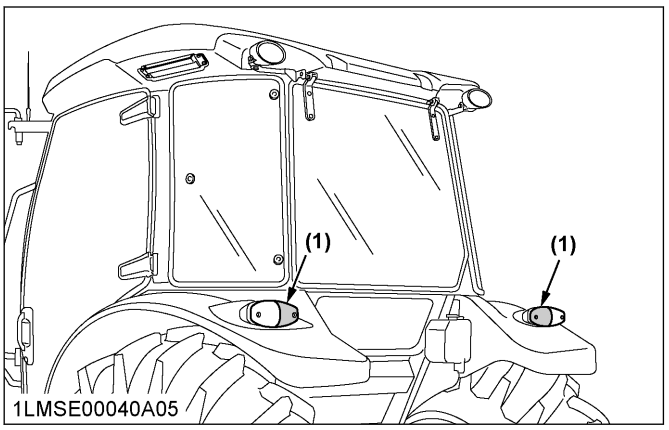
(1) ブレーキランプ

2.7 車幅灯・尾灯

車幅灯は、夜間などの視界が悪い状況で周囲にトラクタの大きさを知らせるためのランプです。尾灯は、後方にトラクタの存在を知らせるためのランプです。
ヘッドライトに連動して点灯します。

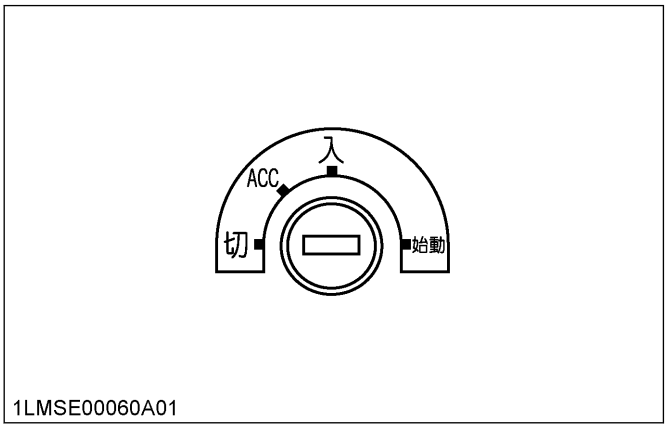


(1) 車幅灯



(1) 尾灯

3. キースイッチ



[切]
エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。

[ACC]
エンジン停止中、オーディオや作業灯などのアクセサリが使えます。
この位置で長時間使用しないでください。バッテリ上がりの原因になります。

[入]
燃焼室内を予熱する位置です。
エンジン回転中の位置、すべての電気装置が使えます。

[始動]
エンジンを始動する位置です。手を離せば自動的に**[入]**位置に戻ります。

4. ブレーキペダル

ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置です。

⚠ 警告

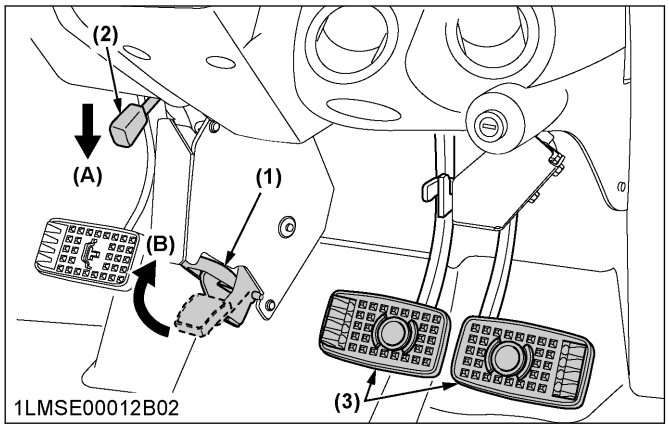
- **道路走行中・登り坂・下り坂およびあぜ越え中は、連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**

道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

本機の場合、一般車両と異なり、ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込まないときは、左右のブレーキペダルは連結されており、左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを上げて、連結解除ペダルを解除位置まで踏み込んだときのみ、後輪の片輪だけにブレーキを掛けることができます。

ブレーキ連結時（両ブレーキ）

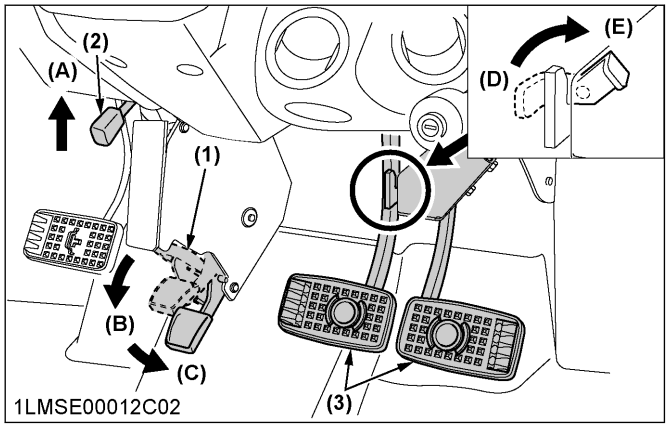
- 道路走行時、片ブレーキ操作が不要な農作業時。
- 左右両輪のブレーキが同時に働きます。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) 連結解除ペダル格納位置

ブレーキ非連結時（片ブレーキ）

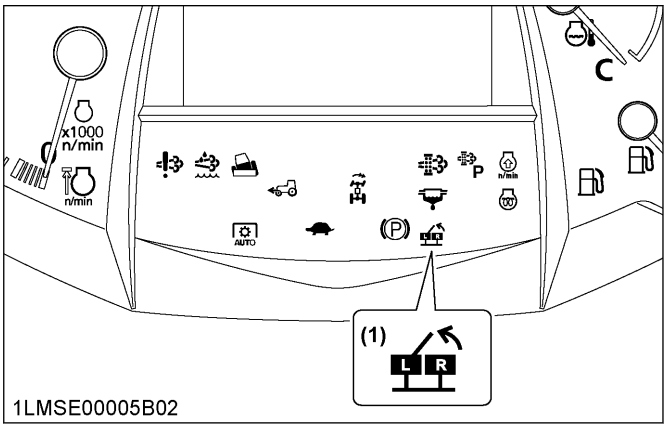
- 片ブレーキ操作が必要な農作業時。
- 連結解除ペダルロックレバーを上げて連結解除ペダルを引き出し、連結解除ペダルを踏み込むと、片ブレーキ操作が可能です。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 上げる
(B) 連結解除ペダル引出位置
(C) 連結解除ペダル踏込位置
(D) 左右ブレーキ連結
(E) 左右ブレーキ連結解除

4.1 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯

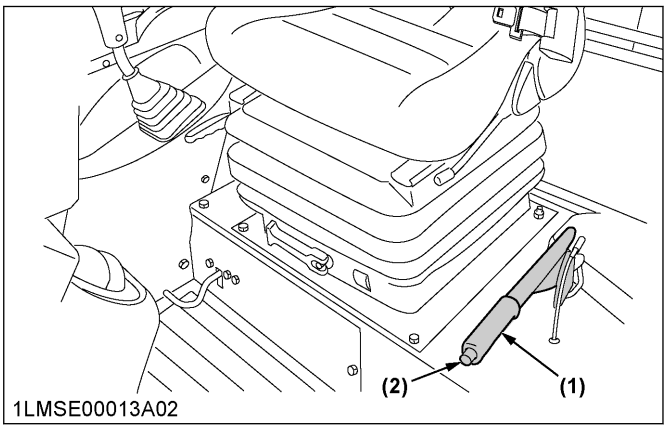
連結解除ペダルロックレバーを上げると連結解除ペダルロックレバー解除警告灯が点灯します。
道路走行時などでは連結解除ペダルロックレバーを下げて、連結解除ペダルロックレバー解除警告灯の消灯を確認してから、走行してください。



(1) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯

5. 駐車ブレーキ

駐車時にトラクタを止めておくためのブレーキです。
トラクタを駐停車時は必ず駐車ブレーキを掛けてください。
駐車ブレーキを掛けるときは、駐車ブレーキレバーを引いてください。
駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを踏んでから、解除ボタンを押し込みながら駐車ブレーキレバーを下げてください。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 解除ボタン

補足：

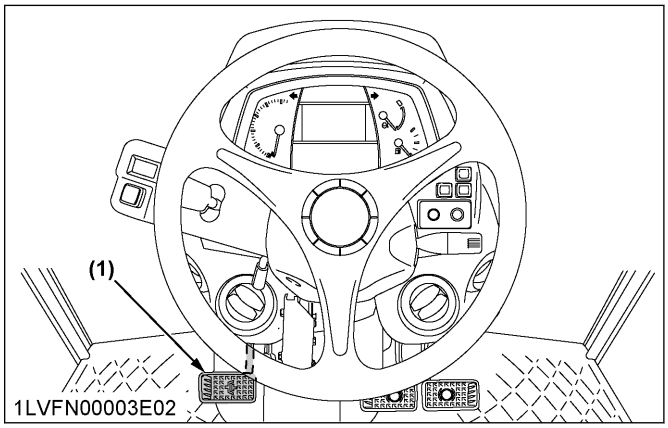
- **駐車ブレーキ警告灯は、駐車ブレーキを掛けると点灯し解除時消灯します。**
- **駐車ブレーキを掛けたまま発進すると、警告ブザーが鳴ります。**

6. クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を走行部（車輪）に断続する装置です。

ペダルを踏み込む
クラッチが切れる。

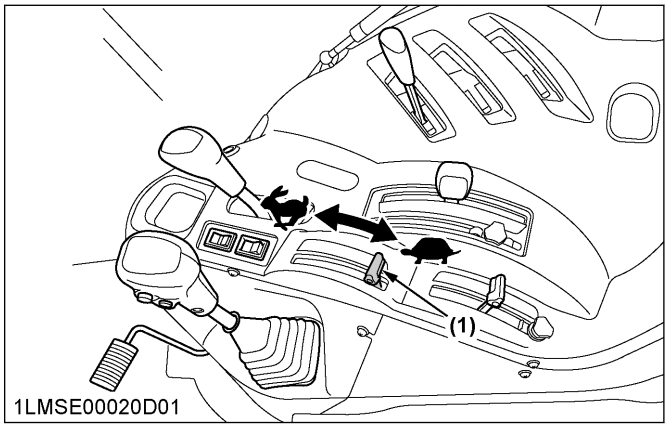
ペダルから足を離す
クラッチがつながる。



(1) クラッチペダル

7. アクセルレバー

アクセルレバーはエンジン回転を調整するためのレバーです。主に農作業時に使用します。



(1) アクセルレバー

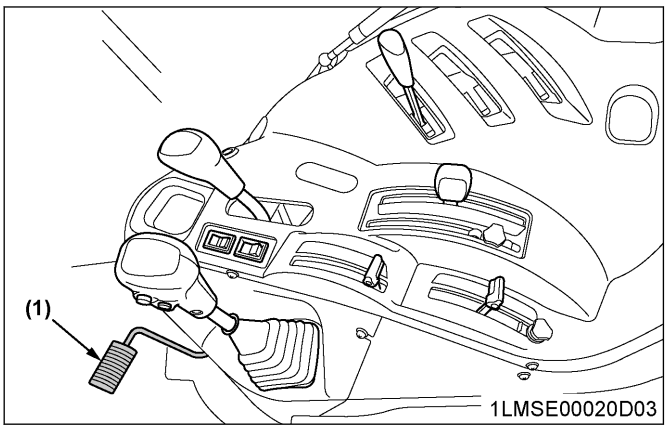
高速
低速

レバーを前側に押す
エンジン回転が上がる。

レバーを手前に引く
エンジン回転が下がる。

8. アクセルペダル

アクセルペダルはエンジン回転を調整するためのペダルです。主に走行時に使用します。



(1) アクセルペダル

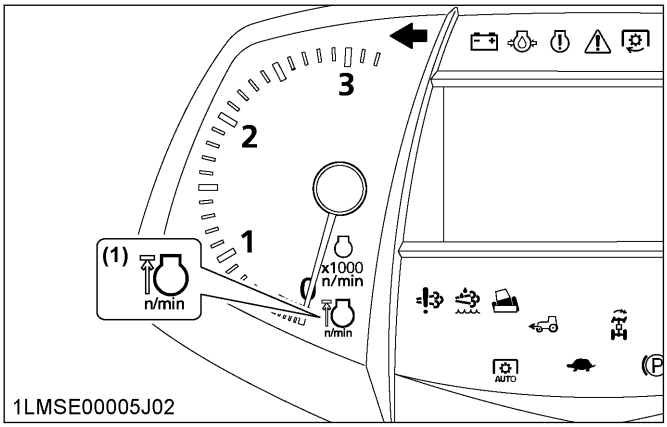
ペダルを踏み込む
エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す
アイドリング状態。

9. トランスミッションシフトレバー

9.1 エンジン回転規制

副変速レバーと主変速レバーの位置が最高速段（🐇-6）のときは、エンジン回転が中速域でほぼ最高車速が得られるようになっています。そのため道路走行やトレーラ走行などで省エネ運転ができます。
アクセルペダルを踏むとエンジン回転の上昇とともに車速も上がっていきますが、約 1800 rpm まで上がるとそれ以上はアクセルペダルを踏んでも上がらなくなります。
副変速レバーを🐇位置にするとメータパネル内のエンジン回転規制インジケータが点灯します。

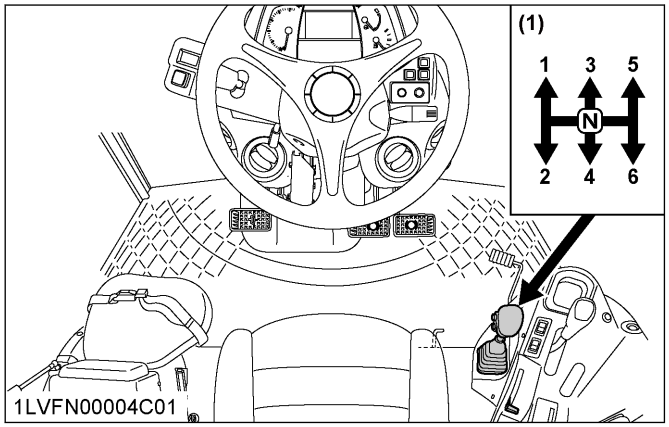


(1) エンジン回転規制インジケータ

9.2 主変速レバー

主変速レバーはトランスミッションの主変速ギヤを変えるためのレバーです。

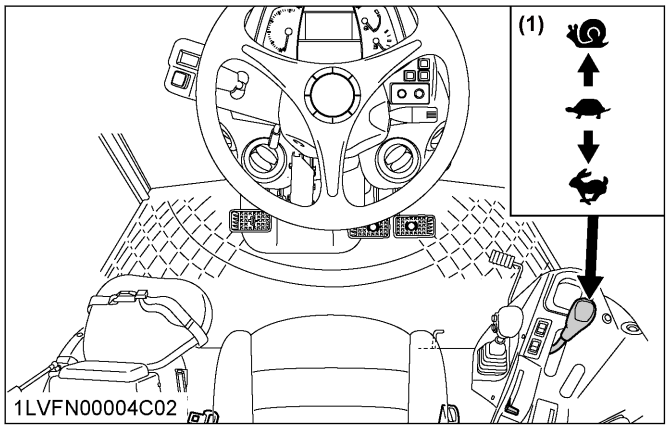
フルシンクロメッシュ付きのため、走行時でも変速できます。
変速時は、クラッチペダルをいっぱい踏み込んでから（または、クラッチボタンを押しながら）レバーを操作してください。



(1) 主変速レバー　　*(N)* 中立

9.3 副変速レバー

副変速レバーはトランスミッションの副変速ギヤを変えるためのレバーです。
操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行ってください。走行中に操作するとトランスミッションの損傷につながります。



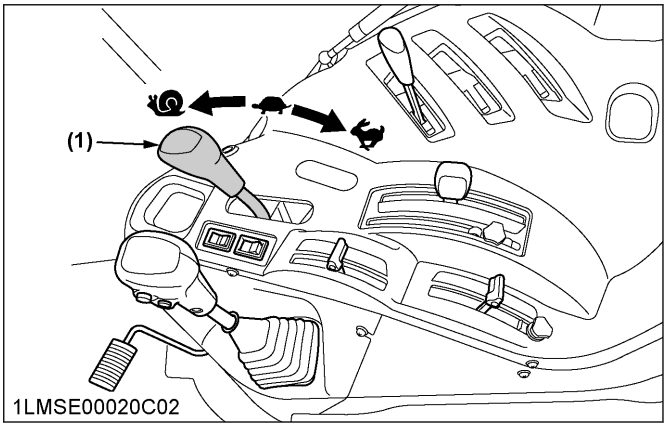
(1) 副変速レバー
クリープ
低速
高速

9.3.1 クリープ速度

⚠ 警告
- **クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキは効きません。**
- **停止は必ずクラッチを切ってからブレーキを掛けてください。**

重要：
- **クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。**
- **クリープ速度では、けん引作業をしないでください。クリープ速度で無理な負荷を掛けると故障の原因になります。**

副変速レバーを 位置に変速すると、クリープ速度が得られます。
変速にはクラッチ操作が必要です。



(1) 副変速レバー　　クリープ *ON*

クリープ速度使用時の注意事項
クリープ速度は、使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。
- 使用できる作業
  - ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
  - ロータリで、ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
  - プランタによる移植作業。
  - 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
  - 車への積み・降ろしをするとき。
- 使用できない作業（故障の原因になります）
  - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
  - けん引・トレーラ作業。
  - フロントローダ作業。
  - フロントブレード作業（除雪作業）。
  - 土木作業。
  - ほ場への出入り。
- クリープ速度を使用するときは、必ず次のことを守ってください。
  - 変速は、クラッチペダルをいっぱい踏んでから行ってください。
  - 発進は、必ず駐車ブレーキを外してから行ってください。
  - クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキは効きません。
    停止は、必ずクラッチを切ってからブレーキを掛けてください。

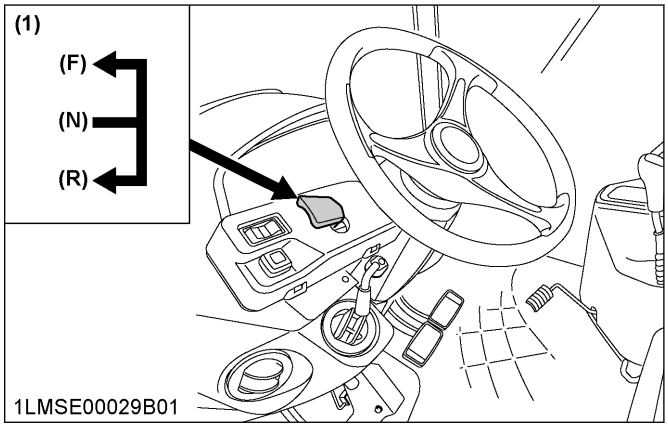
9.4 シャトルレバー

シャトルレバーはトラクタの進行方向を選択するレバーです。

⚠ 警告

- **急発進を避けるため、エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。**
- **前進と後進のシフト操作は、いったん中立位置にして、トラクタの停止を確認してから操作してください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。**
  後進する場合は、周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。
  また後進中は、特に周囲の状況をよく注意して運転してください。
- **急傾斜地で前進・後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行うと、前進・後進が切り換わるときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行い、クラッチペダルで発進してください。**

レバーを持ち上げ、前に押して前進、手前（後）に引いて後進です。レバー操作は、クラッチペダルを踏まなくても（ノンクラッチ）変速することができます。

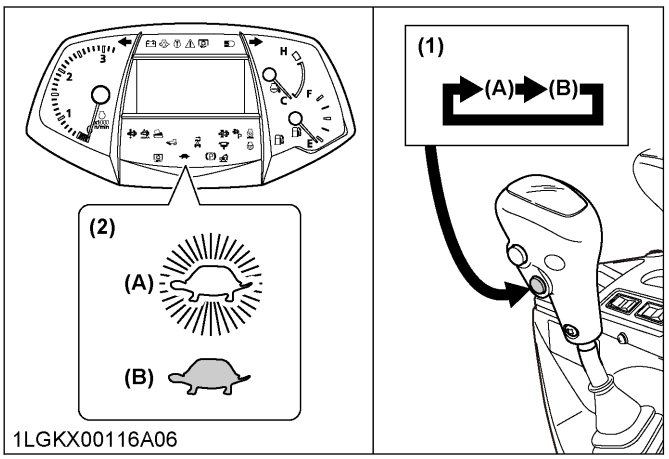


(1) シャトルレバー
(F) 前進
(N) 中立
(R) 後進

9.5 デュアルスピード（DS）ボタン

走行中、クラッチペダル操作なしで、ボタンを押すごとに、車速を高速と低速の 2 段階に切り換えることができます。
車速は高速から低速に切り換えることにより約 17%減速されます。

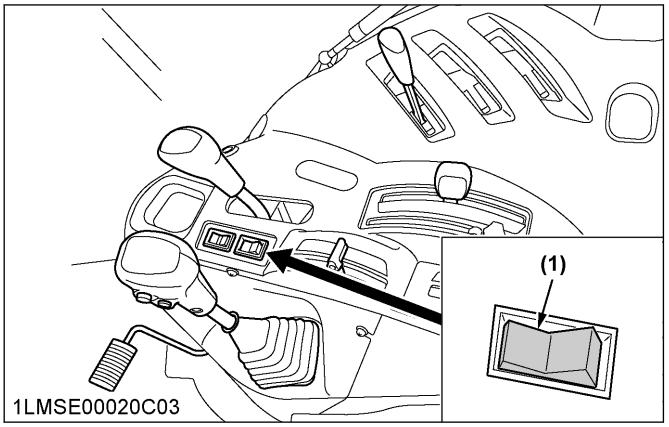
デュアルスピードインジケータ
デュアルスピードボタンで低速を選択時、インジケータが点灯します。高速を選択時は消灯します。



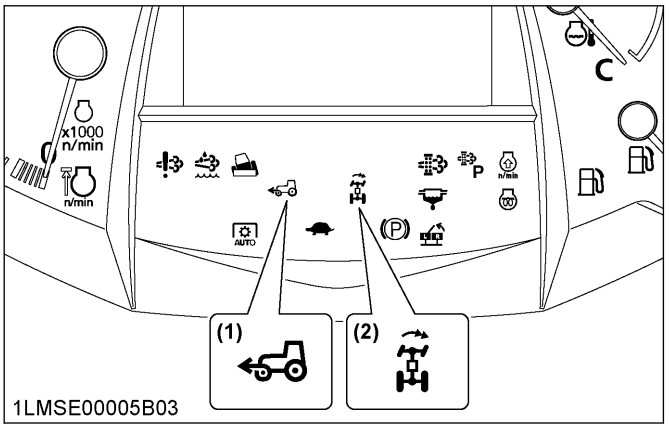
(1) デュアルスピードボタン
(2) デュアルスピードインジケータ
(A) 低速
(B) 高速

9.6 走行モード切換スイッチ

スイッチを押すごとに 2 輪駆動→4 輪駆動→倍速ターン→2 輪駆動の順に切り換わります。
4 輪駆動選択時は、4WD（4 輪駆動）ランプが点灯します。
2 輪駆動選択時は、4WD（4 輪駆動）ランプと倍速ターンランプが消灯します。
倍速ターン選択時は、4WD（4 輪駆動）ランプと倍速ターンランプが点灯します。



(1) 走行モード切換スイッチ



(1) *4WD（4 輪駆動）ランプ*
(2) 倍速ターンランプ

9.6.1 4WD（4 輪駆動）の使い方

⚠ 警告
- **舗装道路や高速走行時の 4 輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因になります。走行モードスイッチを 2 輪駆動に切り換え、4WD ランプと倍速ターンランプが消えていることを確認してから走行してください。**
  また、タイヤの摩耗を早める原因にもなります。ただし、走行時ブレーキ性能向上のため、左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に 4WD に切り換わります。

4WD は、次のような場合に威力を発揮します。
- 傾斜地、湿田、トレーラの運搬・フロントローダ作業時で、けん引力が必要な場合。
- 砂地で作業をする場合。
- 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- ほ場への出入りおよび、あぜ越えを行う場合。

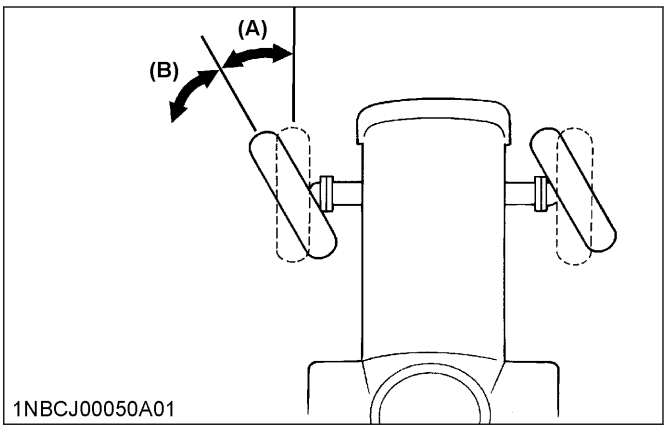
9.6.2 倍速ターンの使い方

倍速ターンは畑作耕うん作業などの旋回時に、隣接耕をするときに威力を発揮します。

⚠ 警告
- **倍速ターンに入れたままでは、ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを 2 輪駆動または 4 輪駆動に切り換えてください。**
- **倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。**

重要：
- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には、使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。**

倍速モードでは、前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは、通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動します。さらにステアリングハンドルを切ると、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動します。小さくスムーズな旋回が行えます。



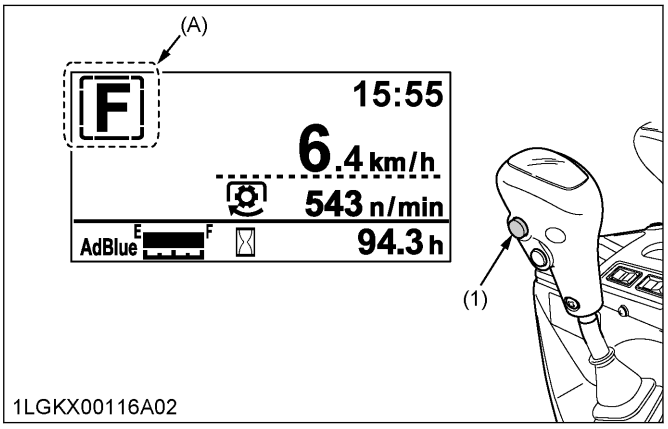
(A) 通常の *4* 輪駆動
(B) 倍速作動

補足：
- **倍速は危険防止のため、旋回開始時の車速が 10 km/h 以下のときのみ作動します。**

9.7 クラッチボタン

クラッチボタンを押すとクラッチペダルを踏まずに変速操作ができます。
クラッチボタンを押している間、クラッチが切れます。
クラッチボタンを離すとクラッチが繋がります。

補足：
- **クラッチボタンを押している間、液晶モニタのシャトルレバー位置の表示が点滅します。**



(1) クラッチボタン　　*(A)* 点滅

10. デフロック

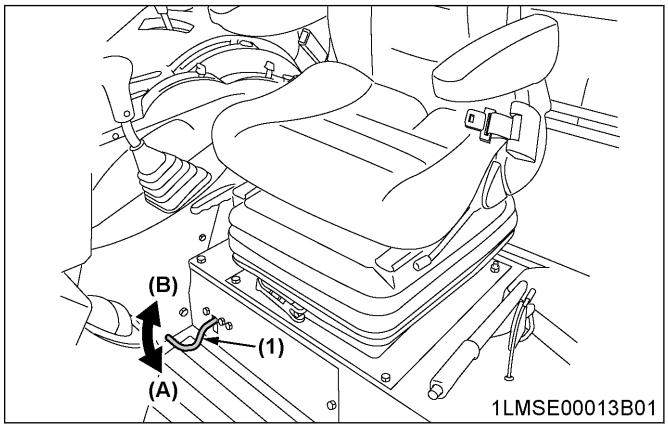
⚠ 警告
- **デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。**
- **道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。**

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

重要：
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。**
- **デフロックが抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。**
- **使用しないときは、足をペダルにのせないでください。**
- **片ブレーキを効かすときは、デフロックを必ず解除してください。**

ペダルを踏み込む
ロックされる。

ペダルから足を離す
デフロックが解除される。

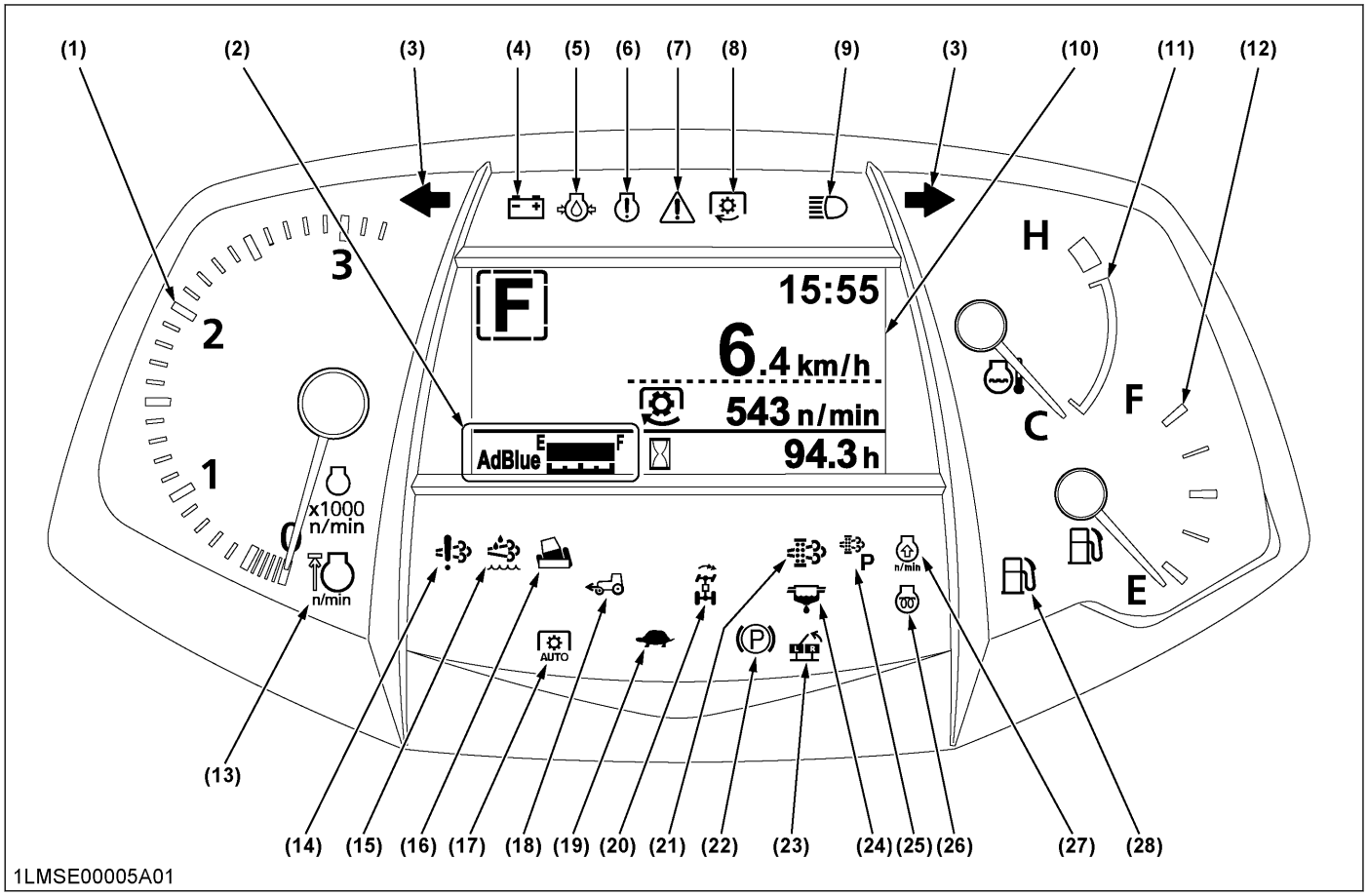


(1) デフロックペダル
(A) 踏む（ロック）
(B) 離す（解除）

デフロックの使い方
デフロックは、次のような場合に役立ちます。
- ほ場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
- ほ場の一部軟弱な所に片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。

11. 電子メータ

電子メータは、トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに、各種警報や万一故障した場合にも故障箇所を表示しますので、表示に従って正しく取り扱ってください。
なお、次表のメッセージ以外が表示された場合は、不調と処置（166 ページ）を参照してください。

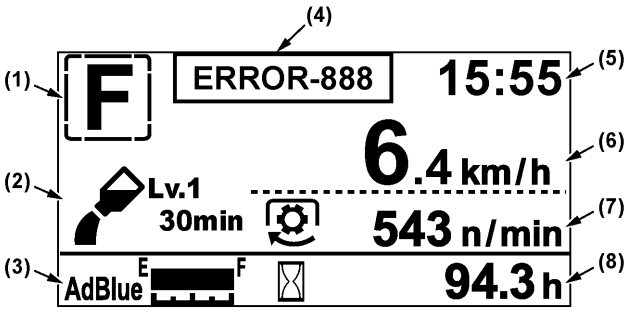


1LMSE00005A01

(1) エンジン回転計 *69*
(2) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ *68*
(3) ウインカパイロットランプ *53*
(4) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） *67*
(5) エンジンオイル油圧警告灯 *68*
(6) エンジン異常警告灯 *67*
(7) システム異常警告灯 *68*
(8) *PTO* ランプ *102*
(9) ヘッドライト上向き照射ランプ（ハイビーム） *53*
(10) 液晶モニタ *63*
(11) 水温計 *69*
(12) 燃料計 *68*
(13) エンジン回転規制インジケータ *57*
(14) *SCR* システム警告灯 *67*
(15) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ *67*
(16) 傾き自動ランプ *80*
(17) 上昇 *PTO* 停止ランプ *102*
(18) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ *59*
(19) デュアルスピード（*DS*）インジケータ *59*
(20) 倍速ターンランプ *59*
(21) 再生状態ランプ *37*
(22) 駐車ブレーキ警告灯 *68*
(23) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯 *68*
(24) ウォータセパレータ警告灯 *68*
(25) 駐車再生要求ランプ *37*
(26) エンジン予熱ランプ *91*
(27) エンジン回転上げ要求ランプ *37*
(28) 燃料残量警告灯 *67*

11.1 液晶モニタ

トラクタの運転に必要な各種情報をオペレータに提供します。また、表示情報の一部はオペレータが任意に変更する事もできます。



1LGKX00120C01

No.	内容		参照ページ
(1)	F	シャトルレバーが**前進**を選択時表示されます。	–
	R	シャトルレバーが**後進**を選択時表示されます。	–
	N	シャトルレバーが**中立**を選択時表示されます。	–
	P	駐車ブレーキレバーが駐車位置にあるとき表示されます。	–
	P	駐車ブレーキレバーが駐車位置で、シャトルレバーが前進または後進を選択時表示されます。(ブザーも吹鳴)	–
	点滅	クラッチボタンを押している間点滅します。	–
	表示無し	シャトル変速のトラブルが予測されます。	–
(2)		尿素水(AdBlue)残量警告	45
		尿素水(AdBlue)品質不良警告	45
		尿素水(AdBlue)解凍	45
		SCR システム警告	45
		エンジン低温規制	92

(次へ続く)

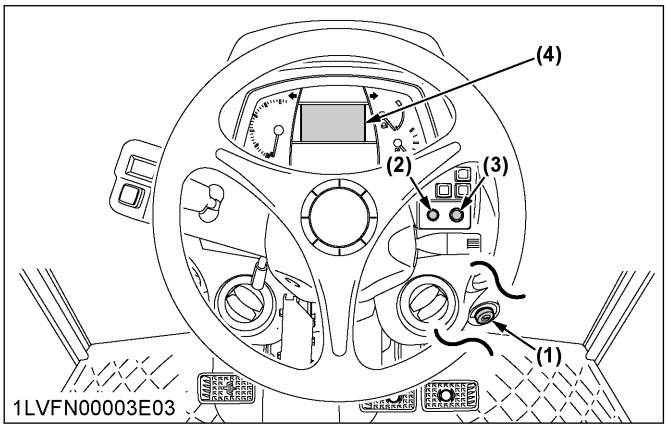
No.	内容		参照ページ
(2)	n/min	エンジン過回転警告	67
(3)	**尿素水(AdBlue)ゲージ** 尿素水タンクの残量を表示します。		68
(4)	故障時エラーコードが表示されます。		167
(5)	時計		63
(6)	車速		64
(7)	PTO 回転数		65
(8)	パフォーマンスモニタ **パフォーマンスモニタ**表より任意に選択した情報が表示できます。		66

補足：

- **表示される瞬間燃料消費は使用条件などにより誤差が生じます。特に、総燃料消費量は目安としてください。**
- **タイヤがスリップ時、表示されている車速は実車速とは異なります。**
- **低温時、液晶モニタの応答性や可視性は暖気時より低下します。**

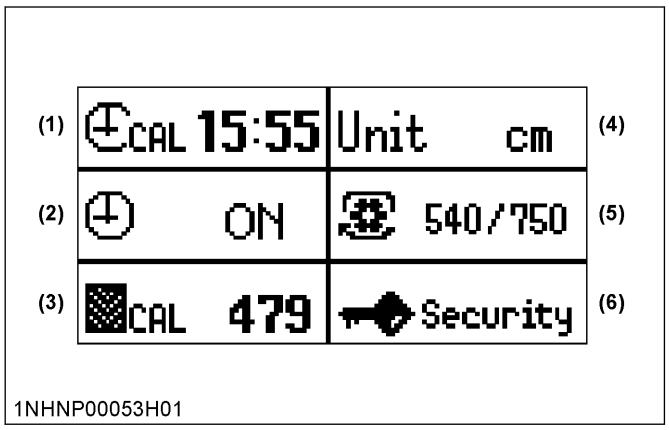
11.2 液晶モニタの初期設定

表示切替スイッチを押しながらキースイッチを**[入]**位置にすると、液晶モニタに 6 種類の各種設定モードが表示されます。
キースイッチを**[切]**位置に戻すと終了します。



1LVFN00003E03

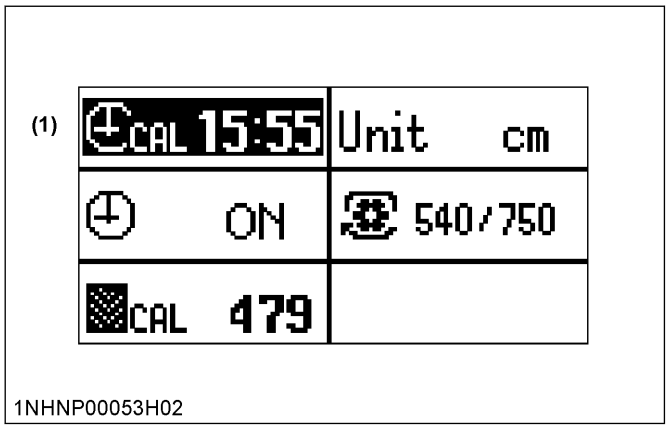
(1) キースイッチ
(2) 表示切替スイッチ
(3) 設定スイッチ
(4) 液晶モニタ



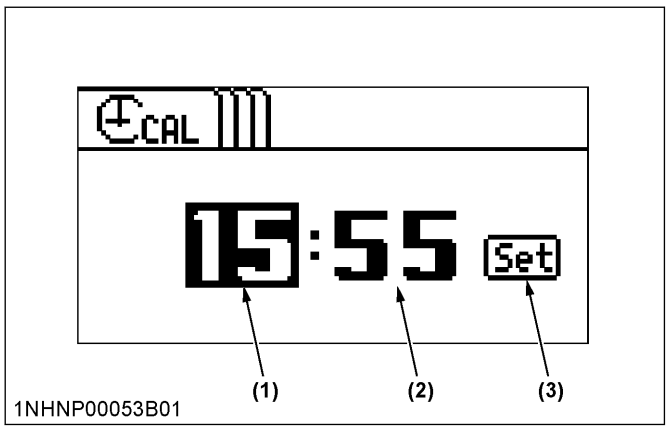
(1) 時計の設定
(2) 時計の表示/非表示設定
(3) タイヤ周長の設定
(4) 単位記号の設定
(5) *PTO* 回転数の設定
(6) エンジン始動セキュリティの設定

11.2.1 時計の設定

1. 表示切替スイッチで**時計の設定**を反転表示させてから、設定スイッチを押すと、**時計の設定画面**が表示されます。



(1) 時計の設定

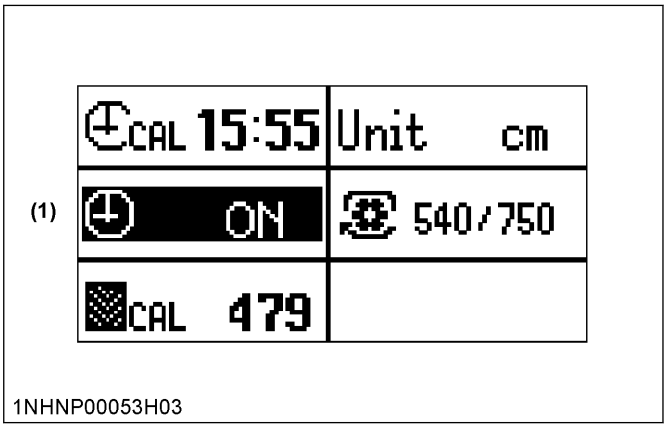


(1) 時間
(2) 分
(3) *Set* スイッチ

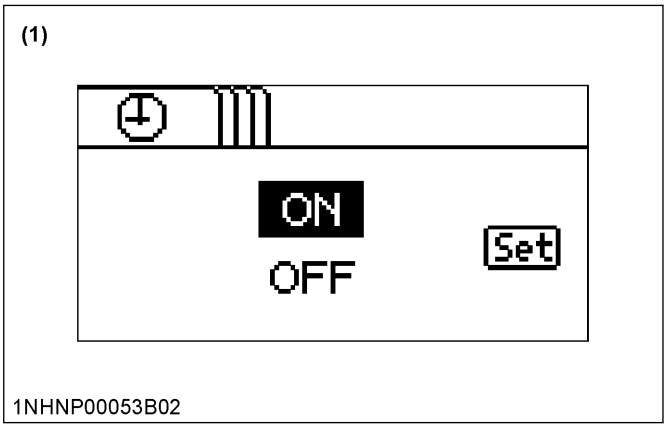
2. 時計の**時間**設定：
   a. 表示切替スイッチで**時間**を反転表示させます。
   b. 設定スイッチを押し**時間**を合わせます。
3. **分**の設定
   a. 表示切替スイッチで**分**を反転表示させます。
   b. 設定スイッチを押し**分**を合わせます。
4. 表示切替スイッチで**[Set]**を反転表示させます。
5. 設定スイッチを押すと時計が設定され、各種設定モード画面に戻ります。

11.2.2 時計の表示/非表示設定（ON/OFF）

1. 表示切替スイッチで**時計の表示/非表示**を反転表示させてから、設定スイッチを押すと、**時計の表示/非表示設定画面**が表示さ れます。



(1) 時計の表示/非表示設定



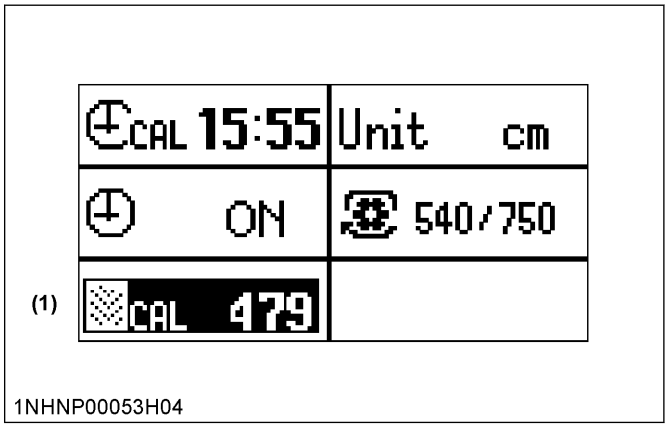
(1) 時計の表示/非表示設定画面

2. 設定スイッチで**[ON]**または**[OFF]**を反転表示させます。
3. 表示切替スイッチで**[Set]**を反転表示させます。
4. 設定スイッチを押すと時計の表示または非表示が設定され、各種設定モード画面に戻ります。

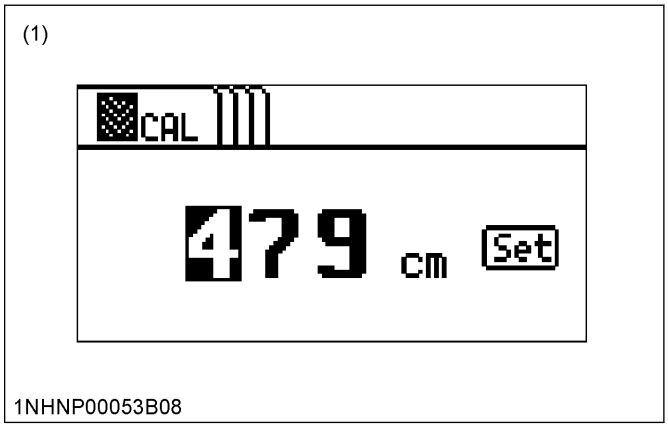
11.2.3 タイヤ周長の確認と設定

タイヤ周長が正しく設定されていないと、車速が正しく表示されません。タイヤ周長は工場出荷時正しく設定していますので変更しないでください。

1. 表示切替スイッチで**タイヤ周長の設定**を反転表示させてから、設定スイッチを押すと、**タイヤ周長の設定画面**が表示されます。表示された値と次の表で示す装着タイヤのタイヤ周長（入力値）が合っているか確認してください。もし異なる場合は修正してください。



(1) タイヤ周長の設定



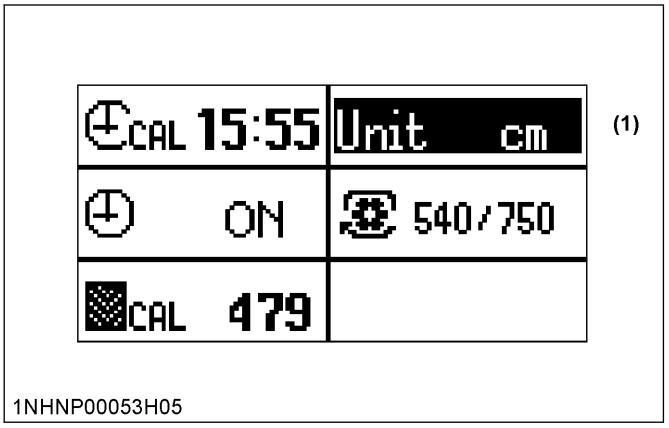
(1) タイヤ周長の設定画面

2. 修正方法
   a. 表示切替スイッチで修正する桁を反転表示させます。
   b. 設定スイッチを押し**タイヤ周長（入力値）**を修正します。（スイッチは押す毎に 0 ～ 9 に切り替わります）
   c. 表示切替スイッチで**[Set]**を反転表示させます。
   d. 設定スイッチを押すとタイヤ周長が修正され、各種設定モード画面に戻ります。

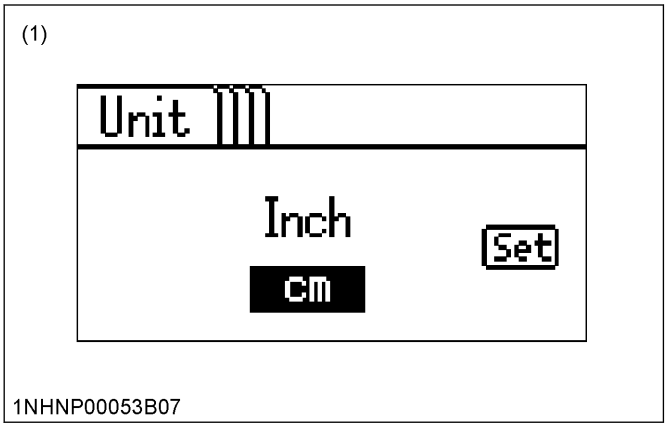
後輪タイヤサイズ	後輪タイヤサイズタイヤ周長（入力値）
13.6-38H	466 cm
16.9-38	504 cm

11.2.4 表示単位の設定

1. 表示切替スイッチで**表示単位の設定**を反転表示させてから、設定スイッチを押すと、**表示単位の設定画面**が表示されます。



(1) 表示単位の設定



(1) 表示単位の設定画面

2. 設定スイッチで**[cm]**または**[Inch]**を反転表示させます。
3. 表示切替スイッチで**[set]**を反転表示させます。
4. 設定スイッチを押すと時計が設定され、各種設定モード画面に戻ります。

11.2.5 PTO 回転数の設定

PTO 回転数の設定は自動で行われますので操作は不要です。

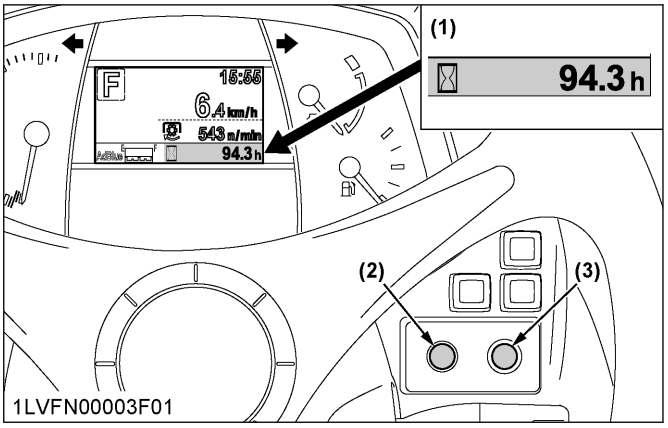
11.2.6 エンジン始動セキュリティの設定

詳細はエンジン始動セキュリティ機能（71 ページ）を参照してください。

11.3 パフォーマンスモニタ

表示の切替え
次の表に示す表示項目より表示させたい情報を**表示切替スイッチ**と**設定スイッチ**で選択してください。

優先表示
1. **エンジン回転メモリ（A/B）**を設定（ON）している場合は、設定回転数が優先表示されます。前述の操作でアワーメータや PM 堆積量などほかの情報も表示させることができますが、約 5 秒後にメモリ回転数の表示に戻ります。
2. メモリ回転以外の情報を常に表示させたい場合は、**エンジン回転メモリ設定（A/B）**を**切**にしてください。
   詳細はエンジン回転メモリ（75 ページ）を参照してください。



(1) パフォーマンスモニタ *(3)* 設定スイッチ
(2) 表示切替スイッチ

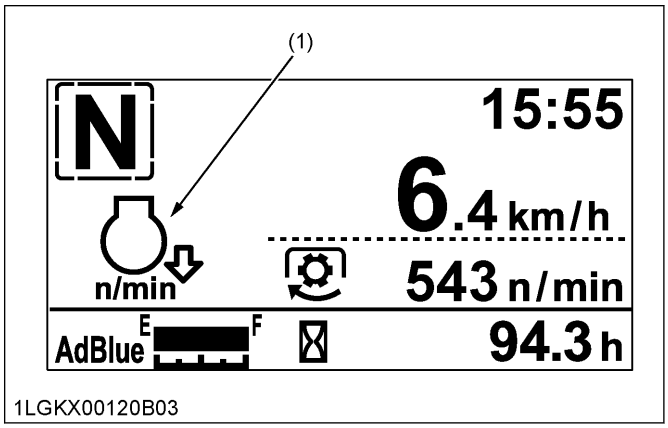
表示項目

表示切替スイッチによる選択	設定スイッチによる選択	備考		参照ページ
1/4		アワメータ（積算時間）	• 6 桁の数字で使用時間を表示します。（最後の 1 桁は 1/10 時間を表示）	–
	TRIP	トリップ時間	• 以前にリセットした以降の運転時間を表示します。	–
2/4		燃料消費量	• 1 時間当たりの瞬間燃費を表示します。	–
	Av.	平均燃料消費量	• 以前にリセットした以降の 1 時間当たりの平均燃費を表示します。	–
		総燃料消費量	• 以前にリセットした以降の総燃料消費量を表示します。	–
3/4	PM	PM 堆積量 PM 堆積量グラフ	• DPF マフラ内の PM 堆積量を表示します。 • 100 %に達すると再生が必要です。 • グラフは右に伸びる程 PM が堆積しています。	–
4/4	A n/min	A 回転メモリ回転数	A 側設定のエンジンメモリ回転数を表示します。	75
	B n/min	B 回転メモリ回転数	B 側設定のエンジンメモリ回転数を表示します。	75

補足：
- **トリップ時間/平均燃料消費量/総燃料消費量を表示時、表示切替スイッチを 2 秒以上押すと数値がリセットされます。**

11.4 エンジン過回転警告

エンジンが過回転状態に陥ったとき、インジケータと警告ブザーでオペレータに知らせます。
もし、警告が発せられた時は、すぐにブレーキ操作などでエンジン回転を下げてください。エンジン回転が下がると警告も止まります。



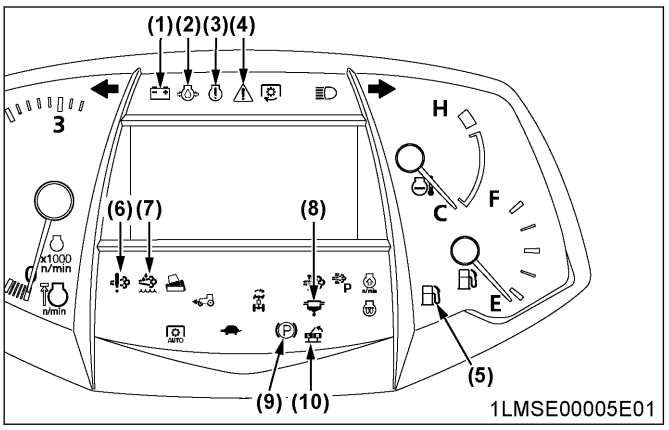
(1) エンジン過回転警告インジケータ

補足：

- **通常の運転操作では過回転状態には陥りませんが、例えば全速でトレーラ走行時急なシフトダウン操作を行うと、トレーラでトラクタが押され過回転状態になる場合があります。**
- **過回転状態で運転を続けるとエンジンの致命的なトラブルにつながります。**

11.5 イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の次の警告ランプが点灯したとき、すみやかにエンジンを止め、点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは、購入先にご相談ください。



(1) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(2) エンジンオイル油圧警告灯
(3) エンジン異常警告灯
(4) システム異常警告灯
(5) 燃料残量警告灯
(6) *SCR* システム警告灯
(7) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(8) ウォーターセパレータ警告灯
(9) 駐車ブレーキ警告灯
(10) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯

燃料残量警告灯
燃料の残量が約 20 L 以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

重要：

- **燃料残量警告灯が点灯したらすぐに燃料を補給してください。もし燃料切れでエンストを起こすと、エンジン各部に高温状態が生じ、エンジンの早期破損につながる恐れがあります。**

尿素水(AdBlue)インジケータ
尿素水(AdBlue)の残量が少なくなったとき、ディーゼル軽油や粗悪な尿素水(AdBlue)を補充した場合、点灯して警告します。
点灯したままのときは尿素水(AdBlue)の補充や良品と交換を行ってください。

SCR システム警告灯
SCR システムに異常が生じると、点灯して警告します。インジケータが消灯しない場合、購入先へご相談ください。

バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
充電系統に異常があれば、エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯
この警告灯は次の 2 つの機能を持っています。もし警告灯が点灯した場合、原因がどちらにあるかを調べ、適切な処置を行ってください。

エンジン・コントロールシステムの異常
運転中、水温計の指針が常温範囲内を示しているが、エンジン異常警告灯が点灯した場合、いったんエンジンを止め、再始動を行ってください。警告灯が消灯しない場合、購入先へご相談ください。

重要：
警告灯が点灯時、エンジンの故障箇所により次の現象が現れます。
- **エンジンが突然止まった。**
- **エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。**
- **エンジン出力がじゅうぶんでない。**
- **エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。**

エンジン出力がじゅうぶんでない場合、ただちに作業を中断し、安全な場所にトラクタを移動させ、エンジンを止めてください。

エンジンのオーバーヒート
水温計の指針がレッドゾーンを示し、警告灯が点灯した場合、エンジンのオーバーヒートが予測されます。
エンジンの不調と処置（166 ページ）を参照し、トラクタを点検してください。

連結解除ペダルロックレバー解除警告灯
連結解除ペダルロックレバーが解除位置の場合、警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結解除ペダルロックレバーをロック位置にして、警告灯の消灯を確認してから走行してください。

ウォータセパレータ警告灯
ウォータセパレータ内の水が排出レベルに達すると警告灯が点灯すると共にブザーが鳴り続けます。

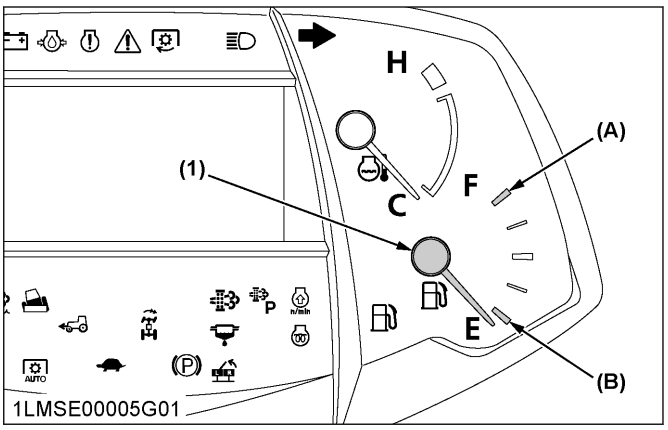
Ⓟ 駐車ブレーキ警告灯
駐車ブレーキが掛かっているとき、点灯して警告します。
点灯したままのときは、駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エンジンオイル油圧警告灯
エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

⚠ システム異常警告灯
エンジン、ミッション、油圧などの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動を行っても回復しない場合、購入先にご相談ください。

11.6 燃料計

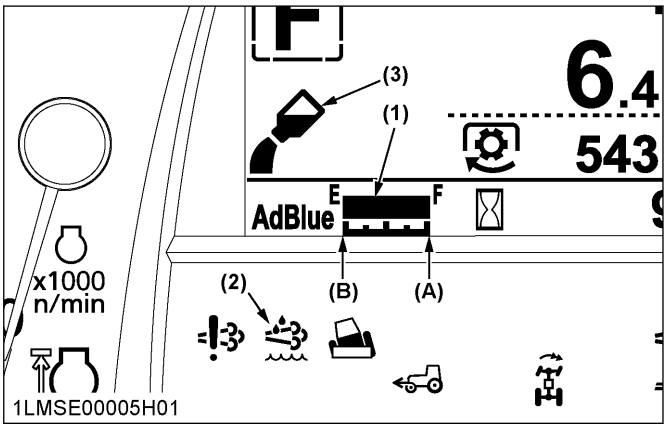
燃料タンクの残量を表示します。
指針が下方向に近づいたら早めに燃料を補給してください。
燃料タンクを空にすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。
（空気抜きは燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）を参照）



(1) 燃料計
(A) 満タン
(B) 空

11.7 尿素水(AdBlue)ゲージ

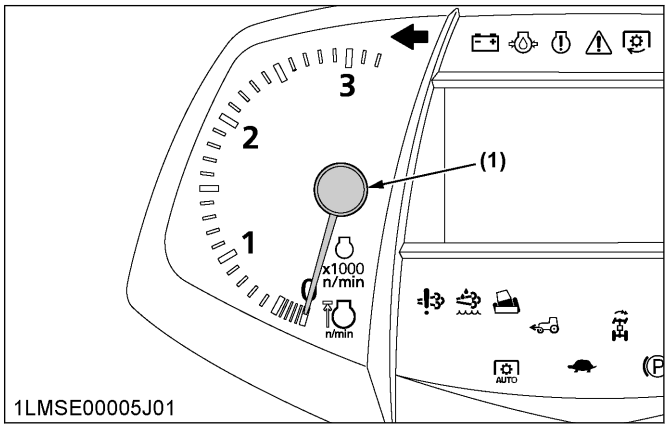
尿素水タンクの残量を液晶ゲージで表示します。
尿素水(AdBlue)が少なくなるとエンジン出力制限が掛かりますので、タンクが空にならないように注意してください。
タンクの残量が 40%未満になると、電子メータの尿素水(AdBlue)インジケータと残量警告アイコンが点灯し、ブザーが鳴ります。トラクタの性能を維持するため、点灯後できるだけ早く、尿素水(AdBlue)を補給してください。



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(2) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(3) 尿素水*(AdBlue)*残量警告アイコン
(A) 満タン
(B) 空

11.8 エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。



(1) エンジン回転計

11.9 水温計

冷却水の水温を表示します。

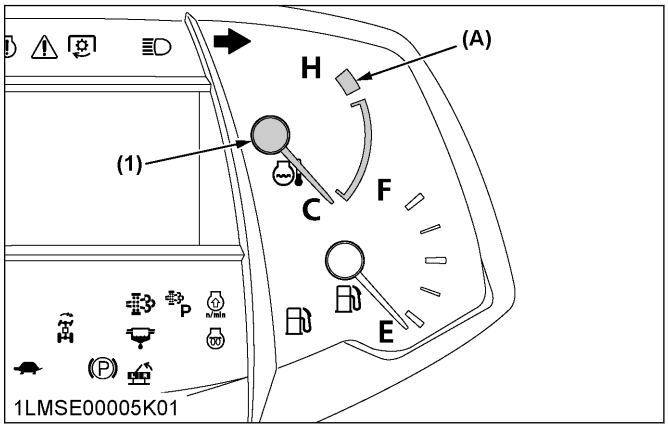
警告

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

重要：

- **ラジエータのオーバーフローパイプから蒸気が噴き出たら、オーバーヒートしたときの処置を行ってください。**

指針がレッドゾーンを示すときは、オーバーヒート状態であるため次に従って点検してください。



(1) 水温計　　*(A)* レッドゾーン

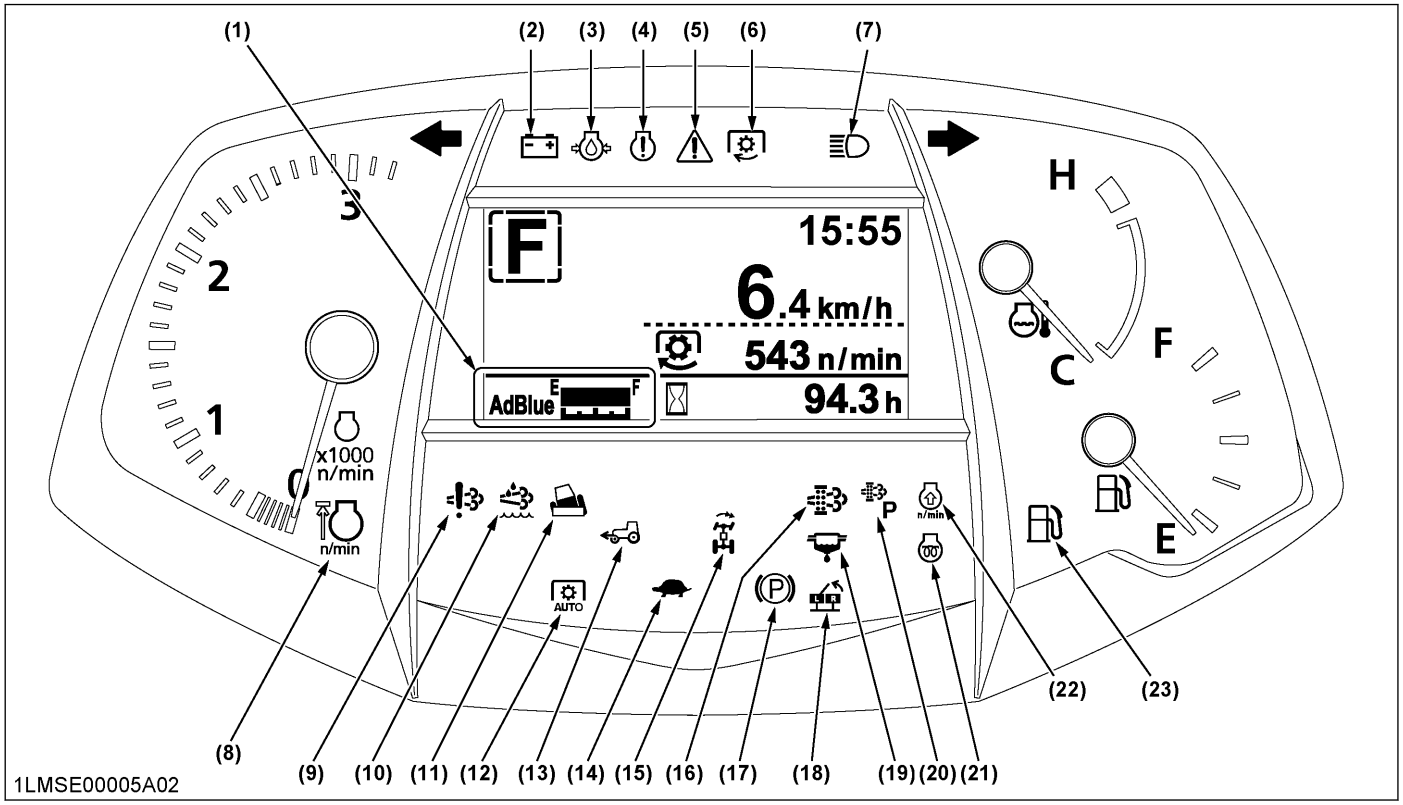
オーバーヒートしたときの処置

水温計の針がレッドゾーンを示したときは、作業を中止し、エンジンを約 5 分間アイドリング回転にしてからエンジンを停止します。停止後 30 分以上たって冷えてから、次の点検・整備をしてください。

- リザーブタンク、ラジエータの冷却水の量（不足）、および水漏れがないか。
- フロントグリル、防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に、泥やごみが付着していないか。
- ファンベルトのゆるみがないか。

11.10 モニタランプ

重要：
- **ランプに異常があるときは、購入先に点検・整備を依頼してください。**



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ *68*
(2) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） *67*
(3) エンジンオイル油圧警告灯 *68*
(4) エンジン異常警告灯 *67*
(5) システム異常警告灯 *68*
(6) *PTO* ランプ *102*
(7) ヘッドライト上向き照射ランプ（ハイビーム） *53*
(8) エンジン回転規制インジケータ *57*
(9) *SCR* システム警告灯 *67*
(10) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ *67*
(11) 傾き自動ランプ *80*
(12) 上昇 *PTO* 停止ランプ *102*
(13) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ *59*
(14) デュアルスピード（*DS*）インジケータ . *59*
(15) 倍速ターンランプ *59*
(16) 再生状態ランプ *37*
(17) 駐車ブレーキ警告灯 *68*
(18) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯 *68*
(19) ウォータセパレータ警告灯 *68*
(20) 駐車再生要求ランプ *37*
(21) エンジン予熱ランプ *91*
(22) エンジン回転上げ要求ランプ *37*
(23) 燃料残量警告灯 *67*

キースイッチが**[入]**位置のとき、次のランプが点灯または消灯しているか確認してください。

点灯ランプ
- (Ⓟ) ランプが消灯しているときは、駐車ブレーキを掛けてください。
- ランプは冷却水が 5 ℃以上のときは点灯しません。

消灯ランプ
- ランプが点灯しているときは、PTO クラッチコントロールスイッチを**切**（**[OFF]**位置）にしてください。
- ランプが点灯しているときは、購入先に連絡してください。
- ランプが点灯しているときは、液晶モニタを確認してください。
  （SCR の警告情報一覧と対応（46 ページ）を参照）
- ランプが点灯しているときは、連結解除ペダルロックレバーをロック位置にしてください。
- ランプが点灯しているときは、ウォータセパレータから水を排出してください。
- ランプが点灯しているときは、燃料を補給してください。

補足：
- **レバーやスイッチの位置により、点灯または点滅するランプもあります。**

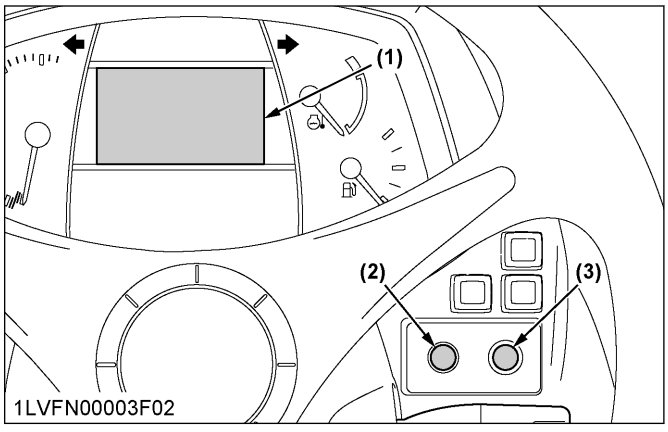
12. エンジン始動セキュリティ機能

本機能はお客様があらかじめ設定した暗証番号を入力しないとエンジンが始動しないシステムです。トラクタの自走による盗難を抑制する効果があります。

重要：

- **本機能はトラクタ盗難そのものを防止するものではありません。本機能が作動しているにも関わらず、トラクタ盗難が発生したとしても当社では責任を一切負いかねますのでご了承ください。**
- **本機能は入/切の切替えが可能です。[切]状態ではトラクタの自走による盗難を抑制する効果はありません。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなります。この状態になったり、暗証番号を忘れた場合は、お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。**
- **暗証番号の入力によってエンジン始動セキュリティを解除したあとは、キースイッチを[切]位置にしても 10 分間は本機能が解除状態になり、暗証番号を入力しなくても再始動が可能となります。ただし、バッテリを取り外した場合は 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。**
- **本機能の入/切を確認する場合は、エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON/OFF）（73 ページ）を参照してください。**
- **暗証番号は定期的に変更し、他人から類推されやすい番号（ゾロ目など）を避けるなどしていただくと、盗難を抑制するのに効果的です。また暗証番号そのものや、簡単に推測できるものをトラクタに貼り付けるなどの表示をしないように注意してください。**

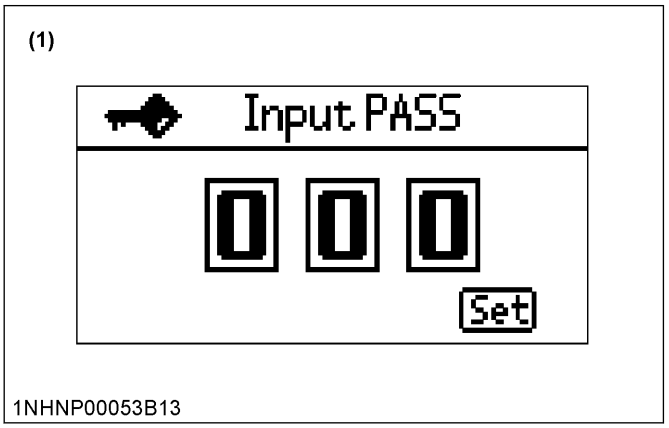
操作や設定はメータコントロールの表示切替スイッチと設定スイッチで行い、暗証番号やメッセージは電子メータの液晶モニタに表示されます。



(1) 液晶モニタ
(2) 表示切替スイッチ
(3) 設定スイッチ

12.1 暗証番号の入力方法

1. キースイッチを**[入]**位置にすると暗証番号入力画面が液晶モニタに表示されます。



(1) 暗証番号入力画面

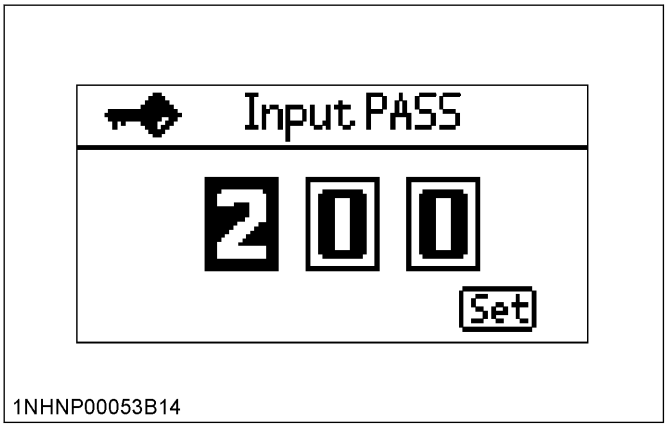
2. 暗証番号を 100 の位から順番に入力します。
   なお、暗証番号は 3 桁の数字になります。

   設定スイッチの短押し
   数字の入力で使います。スイッチを 1 回押すたびに、数字が 1 繰り上がります。

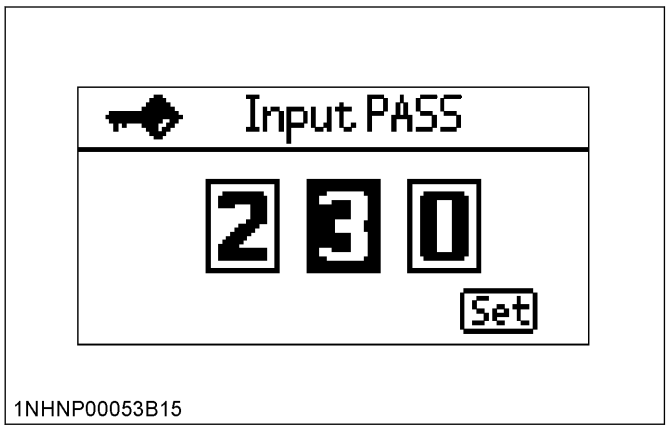
   表示切替スイッチの短押し
   位の送りで使います。スイッチを 1 回押すたびに、入力できる位が変わります。また 1 の位の次は**[Set]**へカーソルが移ります。

   例：暗証番号を「234」に設定する場合。

   a. 設定スイッチを短押しして 100 の位に「2」を入力します。

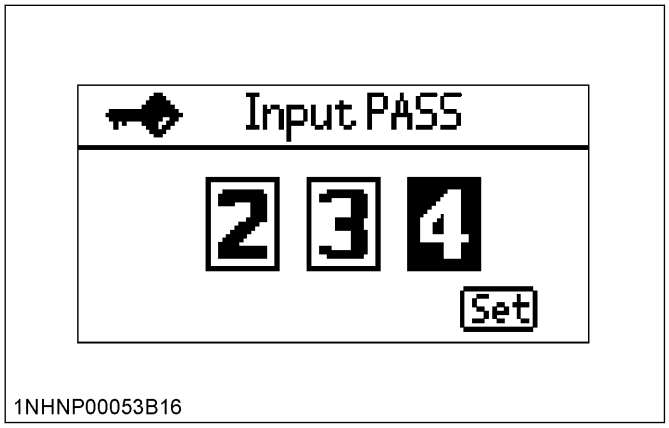


   b. 表示切替スイッチを短押しして、10 の位を反転表示させます。
   c. 設定スイッチを短押しして 10 の位に「3」を入力します。



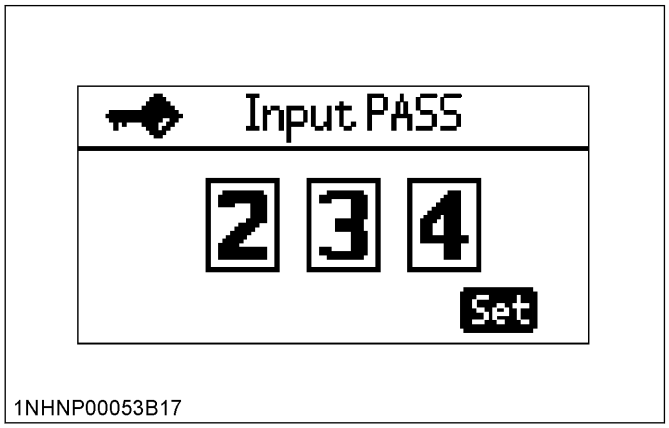
1NHNP00053B15

d. 表示切替スイッチを短押しして、1 の位を反転表示させます。
e. 設定スイッチを短押しして 1 の位に「4」を入力します。



1NHNP00053B16

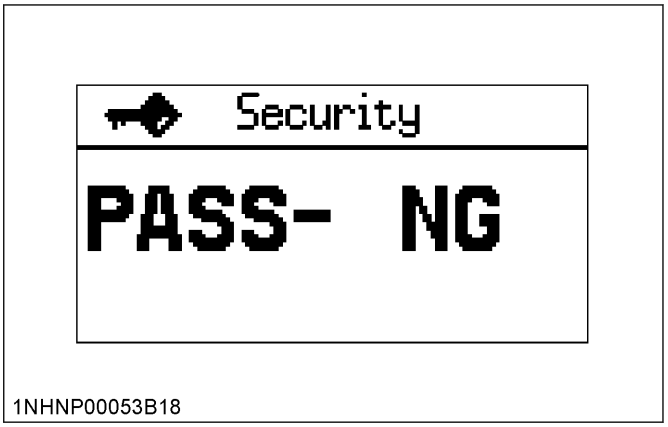
3. 表示切替スイッチを短押しして、**[Set]**を選択し、設定スイッチを短押しして、暗証番号を確定します。



1NHNP00053B17

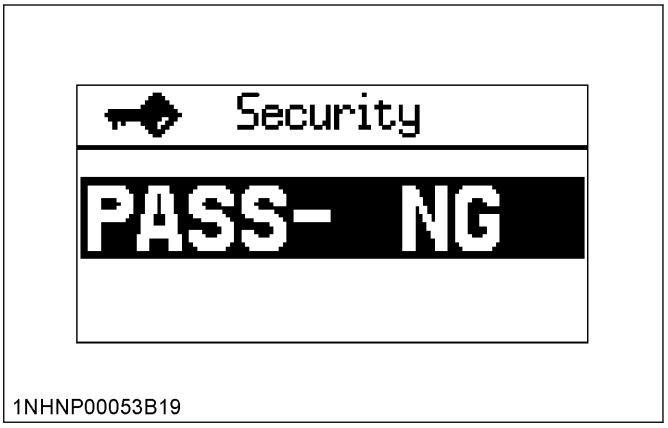
暗証番号が一致すると、「ピピッ」と音が鳴り、約 2 秒後通常の電子メータ表示となり、エンジンを始動することができます。
暗証番号が一致しないと、"PASS-NG"と表示され、その後、手順 1.の表示に戻ります（数字は誤入力した数字）ので、暗証番号が一致するまで手順 2.以降の操作を繰り返してください。
なお、暗証番号は連続して 10 回間違えると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなり、液晶モニタは"PASS-NG"と反転表示されます。この場合お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。

暗証番号が正しくない場合



1NHNP00053B18

暗証番号を連続して 10 回間違った場合



1NHNP00053B19

12.2 エンジン始動セキュリティの設定

エンジン始動セキュリティ機能の**入**と**切**は次の状態となります。

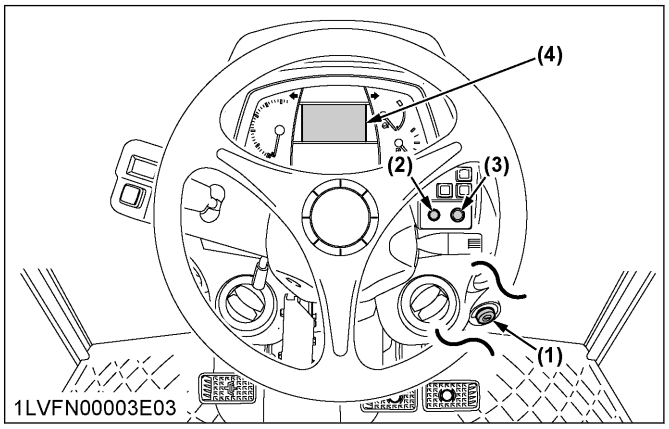
入の場合：
暗証番号を入力しないとエンジンは始動しません。ただし、キースイッチを**[切]**位置にしてから 10 分以内であれば暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。

切の場合：
暗証番号入力を必要とせず、キースイッチを**[入]**位置にしてからすぐにエンジンの始動が可能です。

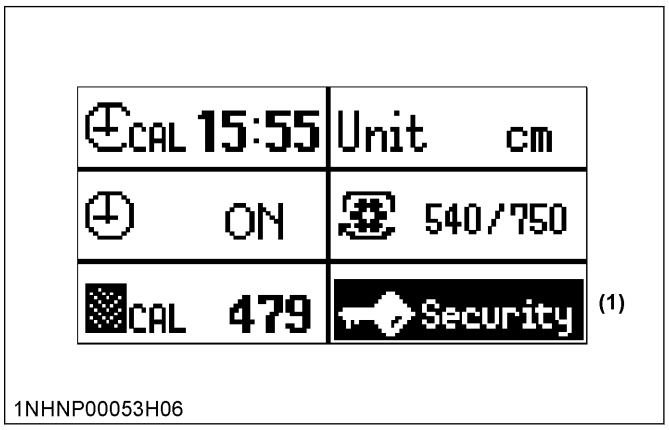
補足：
- **工場出荷時、エンジンセキュリティ機能は[切]に設定しています。**

エンジン始動セキュリティの入/切設定と暗証番号設定は、次の手順で行ってください。
1. 表示切替スイッチを押しながらキースイッチを**[入]**位置にすると、液晶モニタに 6 種類の各種設定モードが表示されます。

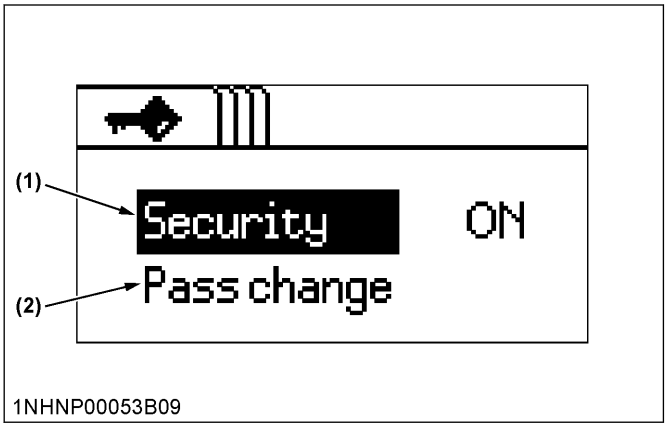
2. 表示切替スイッチで**エンジン始動セキュリティの設定**を反転表示させてから、設定スイッチを押すと**エンジン始動セキュリティの入/切設定**と**エンジン始動セキュリティの暗証番号設定**が表示されます。
   それぞれ設定をしてください。
   - エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON/OFF）（73 ページ）
   - エンジン始動セキュリティの暗証番号設定（74 ページ）
3. キースイッチを**[切]**位置に戻すと終了します。



(1) キースイッチ
(2) 表示切替スイッチ
(3) 設定スイッチ
(4) 液晶モニタ



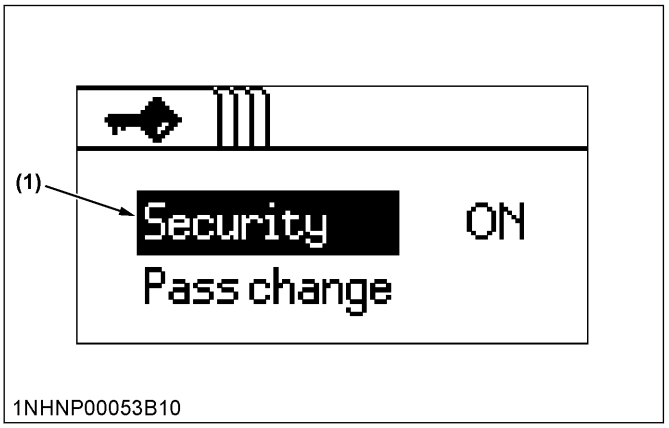
(1) エンジン始動セキュリティの設定



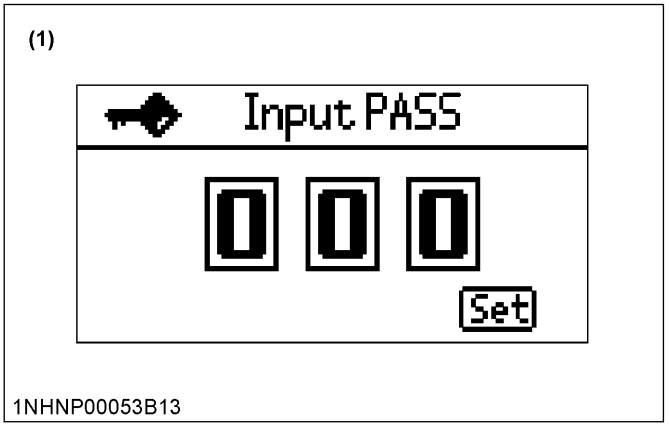
(1) エンジン始動セキュリティの入/切設定
(2) エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

12.3 エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON/OFF）

1. 表示切替スイッチで**エンジン始動セキュリティの入/切設定**を反転表示させてから、設定スイッチを長押しすると、**暗証番号の入力画面**が表示されます。



(1) エンジン始動セキュリティの入/切

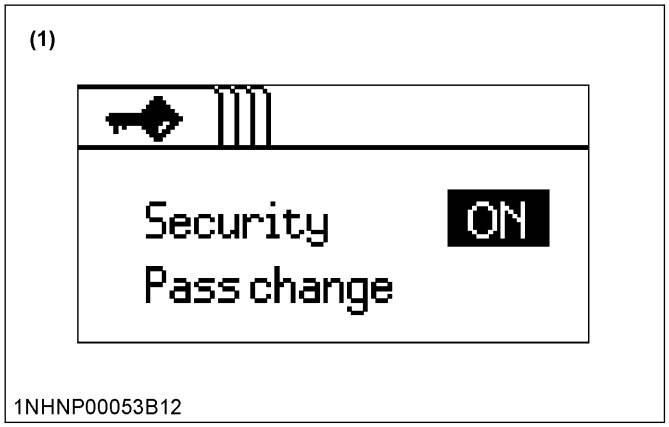


(1) 暗証番号の入力画面

2. 暗証番号を入力します。
   （詳細は暗証番号の入力方法（71 ページ）を参照）

   補足：
   - **出荷時の暗証番号は「000」です。**

3. 暗証番号が一致すると、約 2 秒後に**エンジン始動セキュリティの入/切設定画面**が表示されます。

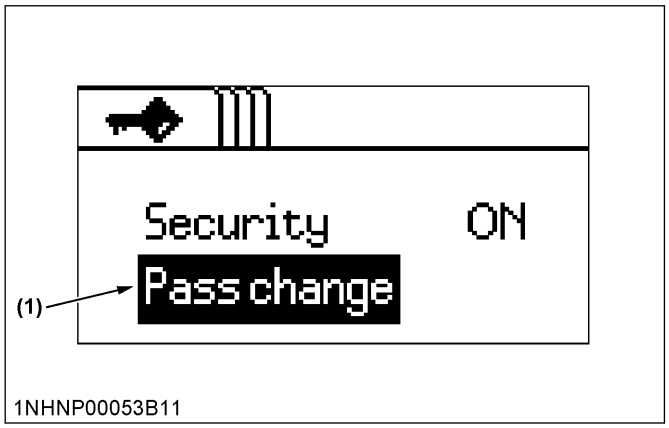


(1) エンジン始動セキュリティの入/切設定画面

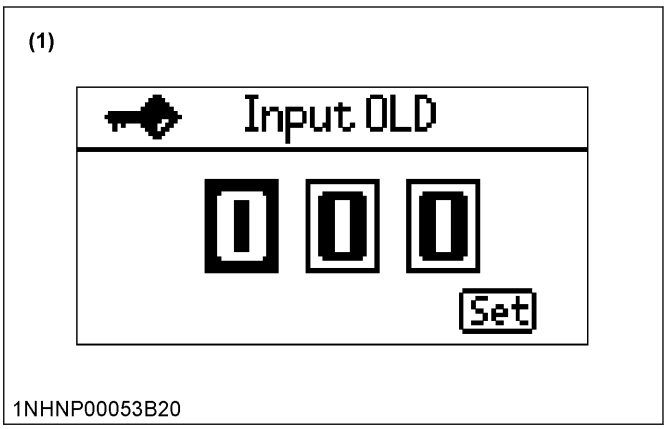
4. 表示切替スイッチで**[ON]**または**[OFF]**を反転表示させます。
5. 設定スイッチを長押しすると約 2 秒後に、各種設定モード画面に戻ります。

12.4 エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

1. 表示切替スイッチで**エンジン始動セキュリティの暗証番号設定**を反転表示させてから、設定スイッチを長押しすると、**旧暗証番号の入力画面**が表示されます。

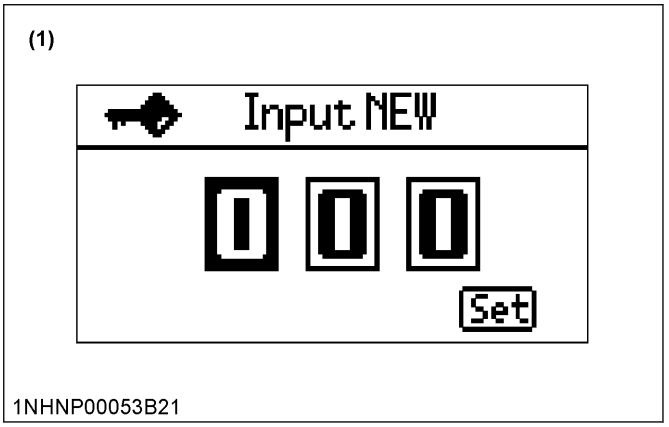


(1) エンジン始動セキュリティの暗証番号設定



(1) 旧暗証番号の入力画面

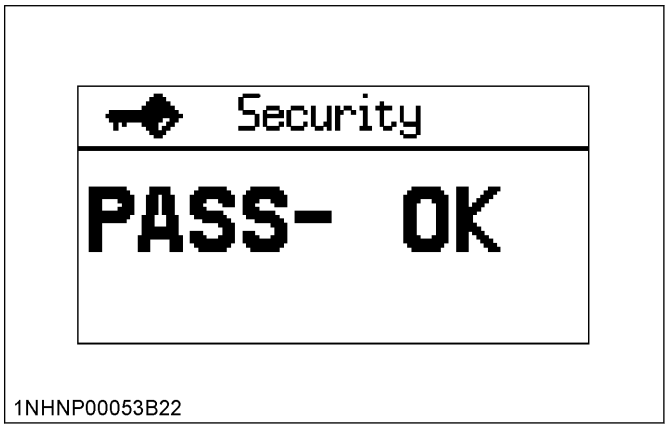
2. 旧暗証番号を入力します。
（詳細は暗証番号の入力方法（71 ページ）を参照）
3. 暗証番号が一致すると、約 2 秒後に**新暗証番号の入力画面**が表示されます。



(1) 新暗証番号の入力画面

4. 新暗証番号を入力します。
（詳細は暗証番号の入力方法（71 ページ）を参照）
5. 新暗証番号は 2 回入力が必要ですので、手順 2.と同じ要領で、再度新暗証番号を入力・確定します。

6. 1 回目と 2 回目に入力した暗証番号が一致しない場合は設定が完了できていないので、手順 2.以降の操作を再度行ってください。
   2 回入力した新暗証番号が一致すると、約 2 秒後に"PASS-OK"と液晶モニタに表示され、さらに約 2 秒後に各種設定モードの画面に戻ります。



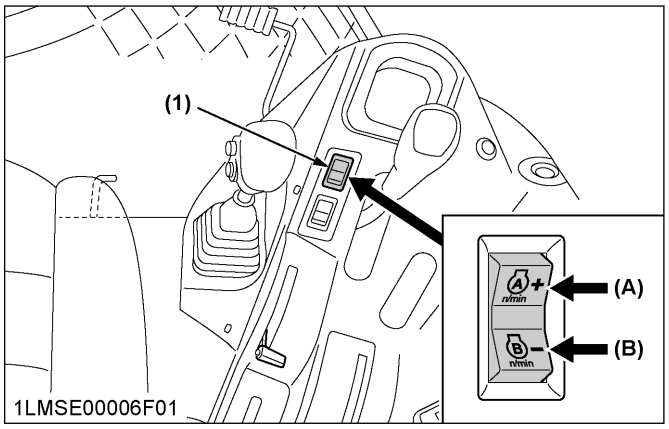
1NHNP00053B22

13. 電子エンジン制御

このトラクタに搭載している電子制御式エンジンは次の 2 つの制御を行っています。
必要に応じ正しく設定の上ご使用ください。
- エンジン回転メモリ（75 ページ）
- パワーアシスト制御（76 ページ）

13.1 エンジン回転メモリ

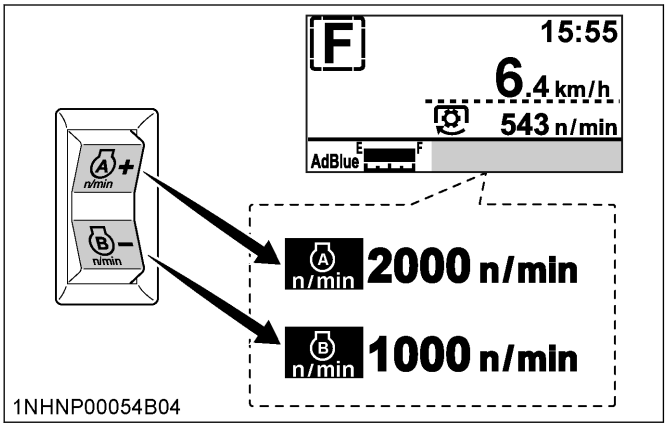
エンジン回転メモリスイッチの（A）と（B）に、異なる 2 つのエンジン回転数を設定することができます。ワンタッチでエンジン回転を切り換えることができるので面倒なアクセル操作が不要となります。



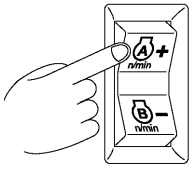
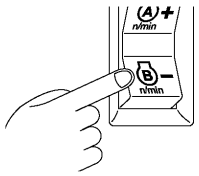
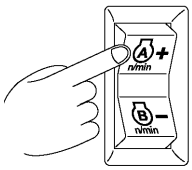
1LMSE00006F01

(1) エンジン回転メモリスイッチ
(A) スイッチ
(B) スイッチ

使用例
例えばスイッチ（A）側に 2000 回転、（B）側に 1000 回転をセットしたとします。



1NHNP00054B04

作業時	 1NHNP00054C01	作業時、スイッチ（A）側を押すだけで自動的に 2000 回転にセットされます。
旋回時	 1NHNP00054C02	旋回時、スイッチ（B）側を押すと 1000 回転に下がり、低速で旋回が行えます。
作業時	 1NHNP00054C01	旋回後、再度スイッチ（A）を押すと 2000 回転となります。

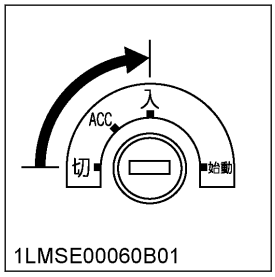
- アクセルレバーは最低速以上にしてください。最低速ではスイッチは作動しません。
- アクセルペダルを踏み込んで、設定回転数以上に回転を上げることもできます。

13.1.1 エンジン回転メモリの設定方法（設定回転数の変更）

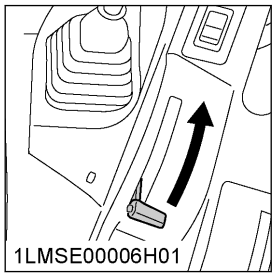
エンジン回転メモリ**スイッチ(A)**への設定手順


1NHNP00054C01

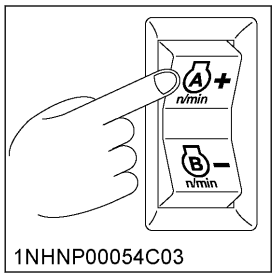
1. キースイッチを**[入]**位置にする。（設定はエンジン回転中/停止中のどちらでもできます。）



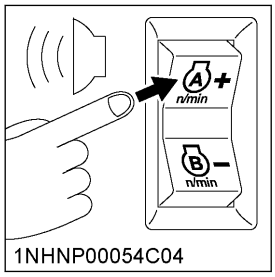
2. アクセルレバーを少し高速側にセットする。

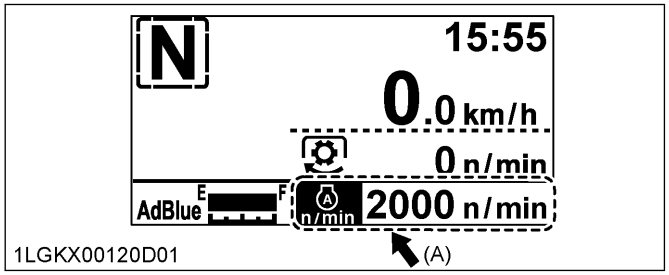


3. スイッチ(A)側を押した後、いったんスイッチより手を離す。



4. 再度スイッチ(A)側をブザー音が鳴るまで（2.5 秒間）押した後、いったんスイッチより手を離す。

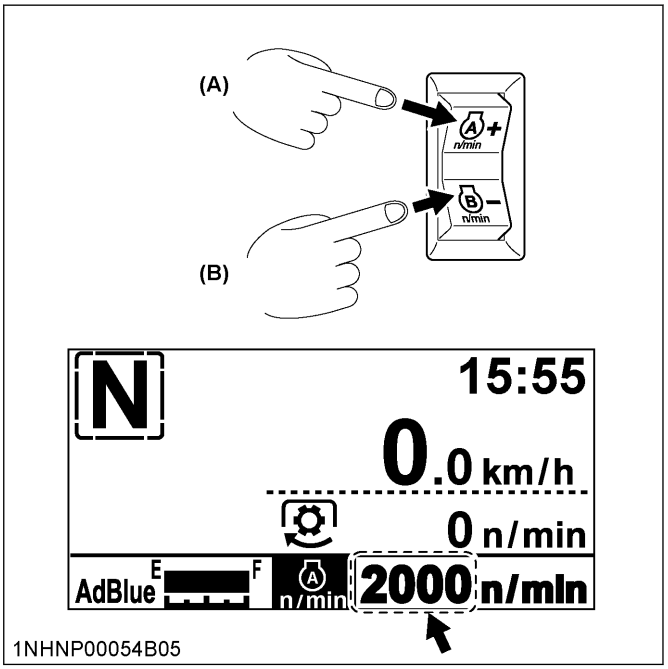




(A) 点滅

5. スイッチの(A)または(B)側を押し回転数を設定する。

スイッチを押し続けると回転数が連続的に変化し、間欠押しでは 10 回転ずつ変化します。回転数を確認しながら希望回転数をセットしてください。



(A) 回転数が上昇
(B) 回転数が下降

6. スイッチより手を離し、4 秒間スイッチ操作がなければ連続ブザー音が鳴り設定完了です。

スイッチ(B)側の設定は、スイッチ(A)側と同じ手順で行ってください。

補足：

- **エンジンを停止させても、設定回転数を記憶しています。**

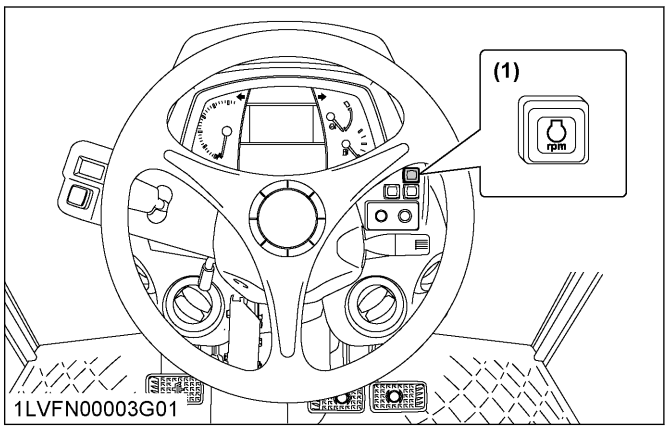
13.1.2 エンジン回転メモリの解除方法

1. 次のいずれかでエンジン回転メモリ設定を解除してください。
   - スイッチ（A）側のメモリ回転を使用の場合、再度スイッチ（A）を押して離すと解除できます。
   - スイッチ（B）側のメモリ回転を使用の場合、スイッチ（B）を押すと解除できます。

   メモリ回転が解除されると、アクセルレバー（ペダル）での設定回転に戻ります。
   （スイッチを押したとき、設定解除後の回転数が液晶モニタに表示されます）
2. アクセルレバーを最低速位置に戻す。
3. キースイッチを**[切]**位置にする。

13.2 パワーアシスト制御

スイッチ操作によりパワーアシスト**入**と**切**が選択できます。
スイッチを押すと**入**、再度押すと**切**になります。



(1) パワーアシストスイッチ

補足：

- **機械式制御エンジンでは、負荷の増減によりエンジン回転数が変化します。**
  例えば丘陵地での作業時、丘を登る場合、負荷が増加しエンジン回転がドロップします。逆に丘を下るときは負荷が減ります。このエンジン回転数の増減が車速や PTO 駆動作業機に影響を及ぼします。この影響を最小限に留めるためオペレータは車速やアクセルレバーの微調整が必要でした。
  この電子制御エンジン付トラクタに採用したパワーアシストスイッチを入にすると、ある一定レベルの負荷変動にはエンジン回転をほぼ一定に保つ事ができ、車速やアクセルレバーの煩わしい操作をすることなく作業精度の向上が図れます。
- **一定回転が保てる範囲には限界があります。エンジン性能以上の負荷が加わった場合、エンジン回転がドロップします。**
- **パワーアシストによりエンジン出力が増加するものではありません。**
- **作業中にパワーアシストスイッチの入、切を切り換えると、仕上がりが変わる場合があります。**

パワーアシスト入時
負荷変動によるエンジン回転数の変動を抑え、車速や PTO 回転をほぼ一定に保つため、安定した作業が行えます。
パワーアシストが**入**の場合、スイッチランプが点灯します。

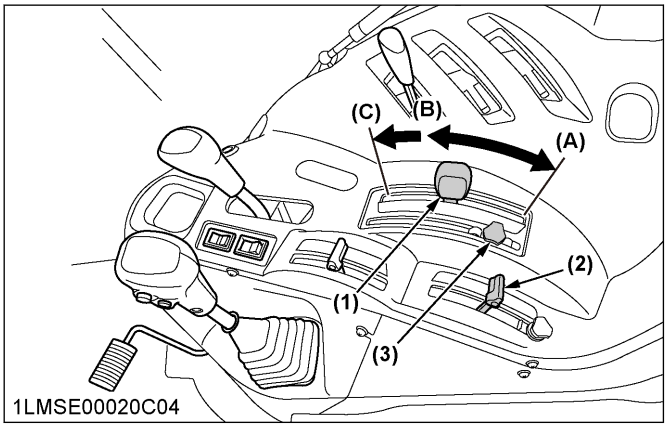
パワーアシスト切時
従来のエンジン同様、負荷の増減に応じエンジン回転も増減します。
オペレータはエンジンの回転数やエンジン音などから負荷の大きさを判断し、作業機への過負荷防止のため車速や耕深調整を行う事ができます。

14. 作業機昇降装置

油圧装置は、クラッチの断続に関係無くエンジン回転中は常に作動します。

14.1 ポジションレバー

- ポジション範囲(A)、(B)では、作業機が任意の位置に保たれます。
- フローティング範囲(C)では、作業機はいっぱいに下がります。



(1) ポジションレバー
(2) ドラフトコントロールレバー
(3) レバーストッパ
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) フローティング

補足：

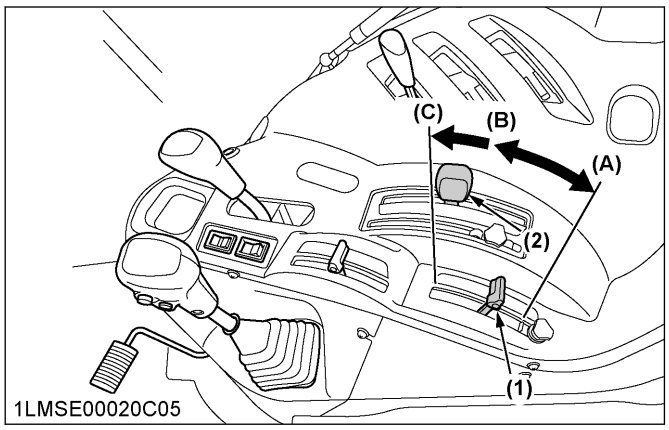
- **ドラフトコントロールレバーは最下位置まで下げておきます。**
- **ポジションレバーを上げるときの操作荷重は、エンジン回転中よりも停止時の方が重いですが、異常ではありません。**

14.1.1 レバーストッパの使い方

1. ポジションレバーで、希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は、ポジションレバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより、同一の作業位置が得られます。

14.2 ドラフトコントロールレバー

- ドラフト範囲(A)、(B)では、けん引負荷に応じて自動的に作業機を上下させ、一定のけん引力を維持します。
- フローティング範囲(C)では、作業機はいっぱいに下がります。



(1) ドラフトコントロールレバー
(2) ポジションレバー
(A) 浅くなる
(B) 深くなる
(C) フローティング

補足：
- **ポジションレバーは最下位置まで下げておきます。**

14.2.1 フローティングの使い方（プラウのスキ込みをよくするために）

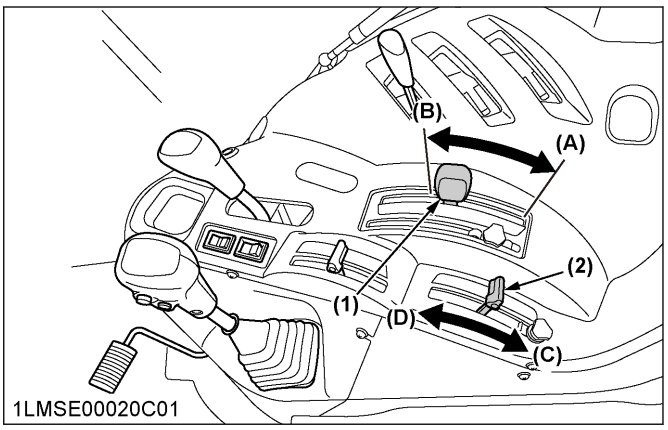
1. ドラフトコントロールレバーをフローティング位置でプラウのスキ込みを行います。
2. プラウが希望耕深に達すると、レバーをドラフト設定位置まで戻します。

14.2.2 ドラフト感度の調整

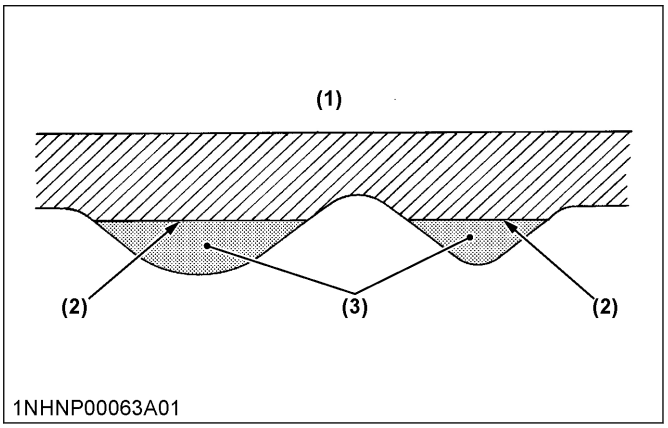
トップリンクホルダへのトップリンク取付け位置により、感度が調節できます。
（詳細はトップリンク（100 ページ）を参照）

14.3 ミックスコントロール

通常ドラフトコントロールを使用する場合、けん引抵抗が小さくなると作業機が降下して、自動的に抵抗を大きくする動きとなりますが、必要以上に降下することがあります。
この場合、ポジションコントロールで降下位置を規制することにより、作業を能率よく、きれいに仕上げることができます。
一般作業はドラフトコントロールで、抵抗に応じて自動的に油圧制御するが、けん引抵抗が小さくなった場合の作業機降下量をポジションコントロールで限定してやる、これがミックスコントロールです。



(1) ポジションレバー
(2) ドラフトコントロールレバー
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) 浅くなる
(D) 深くなる



(1) 地表面
(2) 降下を制限する
(3) 軟弱で抵抗が小さい

14.4 落下速度調整グリップ

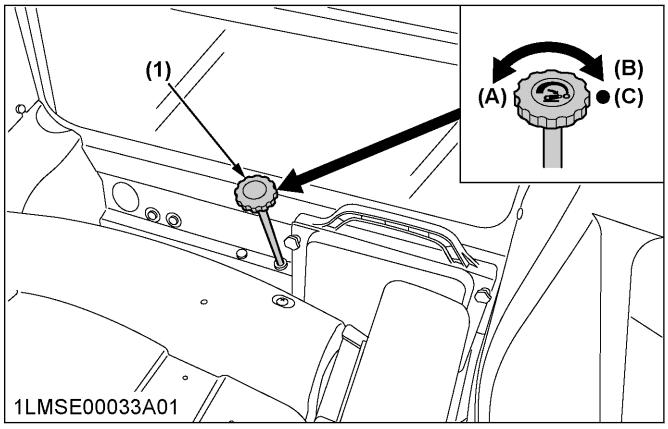
落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

⚠ 警告
- **ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下速度調整グリップで、作業機が落下しないようにロック（停止）してください。**
- **落下速度調整グリップでロックした後、ポジションレバーを前方に倒して、作業機が落下しないことを必ず確認してください。**
- **確認後、再度ポジションレバーを上げておいてください。**
- **ロックするとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。**

- **速い**方向に回すと油圧回路が開き、作業機の落下速度が速くなります。
- **遅い**方向に回すと油圧回路が閉じ、作業機の落下速度が遅くなります。
- **ロック**方向に軽く締め込むと、油圧がロック（停止）します。

補足：
- **ロータリの落下速度は、上昇位置から接地するまで2〜3 秒が適当です。**
  特に耕うん開始時、落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重要：
- **グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。**



(1) 落下速度調整グリップ

(A) 速い
(B) 遅い
(C) ロック

14.4.1 油圧ロックの取扱い

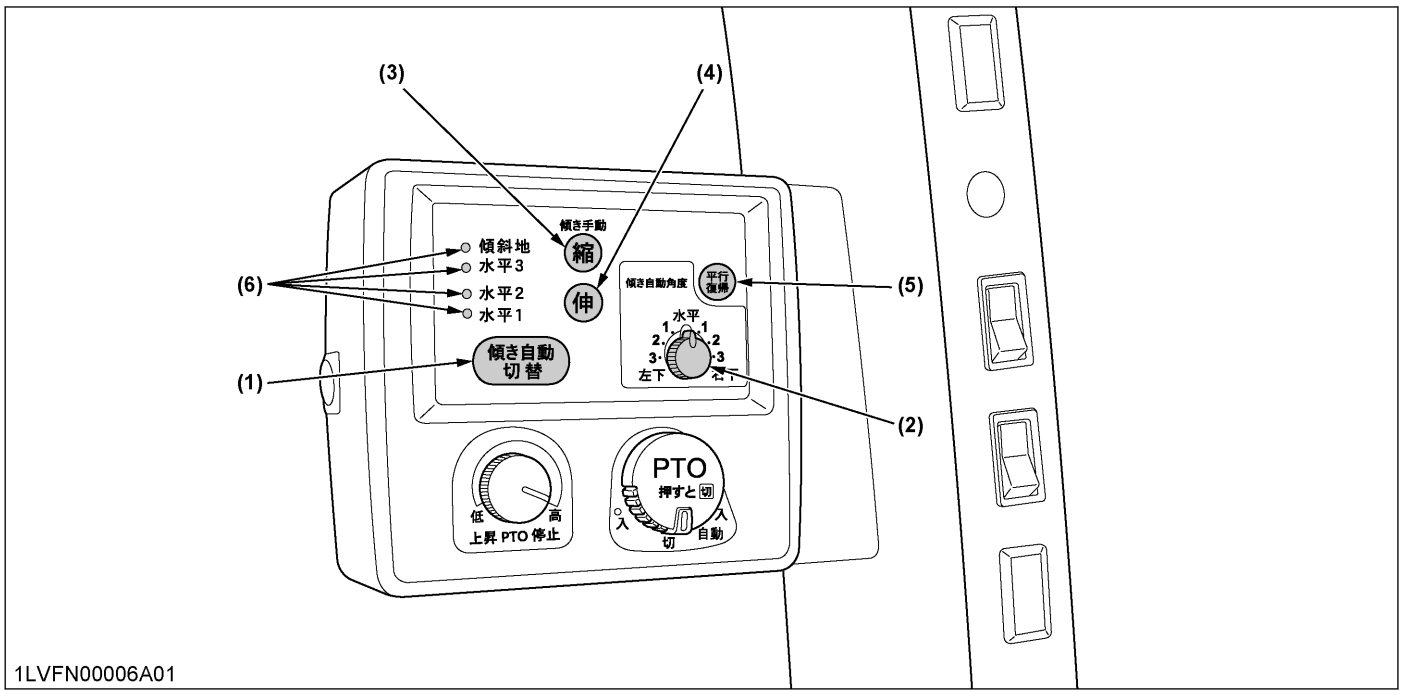
トラクタの格納は、作業機を降ろした状態で保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管すると、油圧ロックしていても下降することがあります。
作業機を上げた状態で保管する場合は、次の要領で行ってください。

1. エンジンを掛けた状態で落下速度調整グリップを油圧がロックする側に回して、軽く締め込んでください。
2. ポジションレバーを前方に倒し、作業機が下がらないことを確認してから、再度レバーを上げておいてください。
3. エンジンを停止してください。

14.5 傾き自動

傾き自動とはセンサ制御でトラクタの傾きを感知し、自動で作業機の水平を保つ機能です。

14.5.1 傾き自動の各部の名称

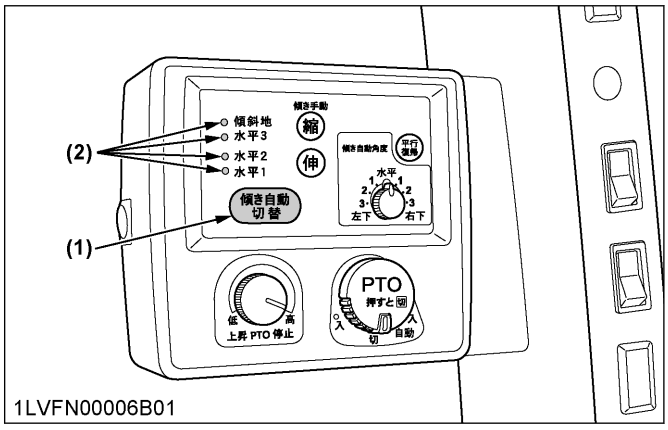


(1) 傾き自動切替スイッチ
(2) 傾き自動角度調節ダイヤル
(3) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(4) 傾き手動スイッチ***[伸]***
(5) 平行復帰スイッチ
(6) スイッチランプ

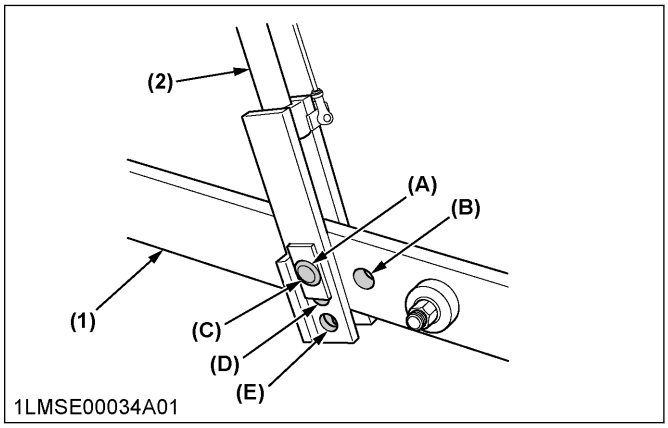
14.5.2 傾き自動切替スイッチ

使用する作業機によって定まる 3 点リンクの取付け状態（ロアーリンク穴位置とリフトロッド穴位置）に応じて、次の表を参考にスイッチを切り換えてください。

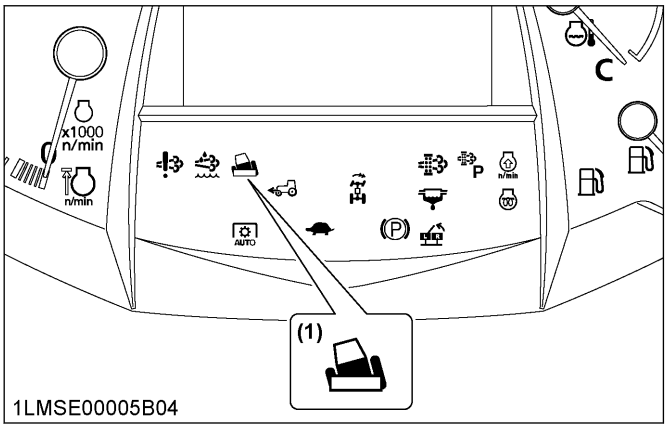
スイッチランプ	ロアーリンク穴位置	リフトロッド穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	3 点リンク	ロアーリンク内側寸法
消灯	–	–	消灯	位置制御	JIS 2 形	825 mm
傾斜地	–	–	点灯	傾斜地傾き自動		
水平 1	前穴	上穴		水平傾き自動		
水平 2	後穴	上穴				
水平 3	前穴	中穴				



(1) 傾き自動切替スイッチ
(2) スイッチランプ（選択時点灯）



(1) ロアーリンク
(2) リフトロッド
(A) 前穴
(B) 後穴
(C) 上穴
(D) 中穴
(E) 下穴



(1) 傾き自動ランプ

重要：

- **傾き自動が不要の場合（フロントローダ作業など）や走行時には、傾き自動切替スイッチを切り換え、位置制御で作業してください。（詳細は位置制御（83 ページ）を参照）**
- **チェックチェーンを張りすぎると、傾き自動作業時に 3 点リンクに無理な力が加わるので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

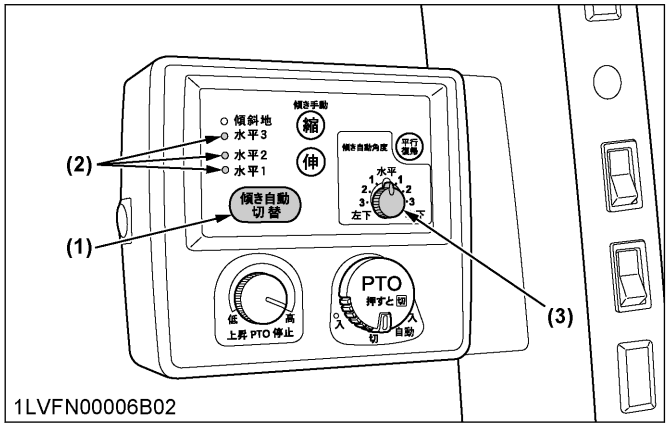
補足：

- **傾き自動ランプが点滅しているときは、平行復帰スイッチ（83 ページ）を参照してください。**

14.5.2.1 傾き自動切替スイッチ[水平]

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平、または地面に対し一定の角度に保ちたいときに使用します。

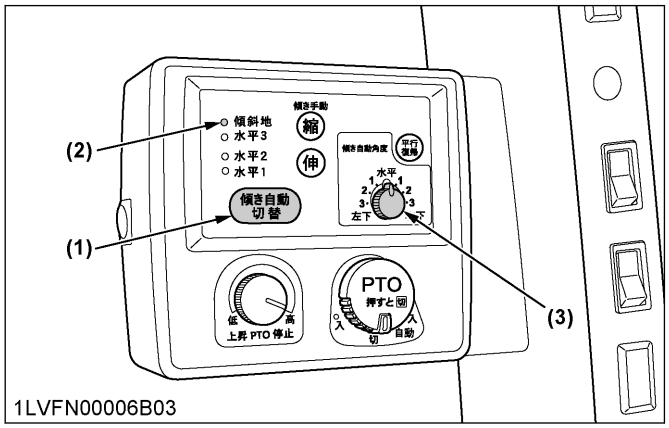
- 傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**の位置にすると、作業機は常に水平に保たれます。
- 傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**以外の位置にすると、作業機は水平面に対し常に一定の角度に保たれます。



(1) 傾き自動切替スイッチ
(2) スイッチランプ***[水平]***
(3) 傾き自動角度調節ダイヤル

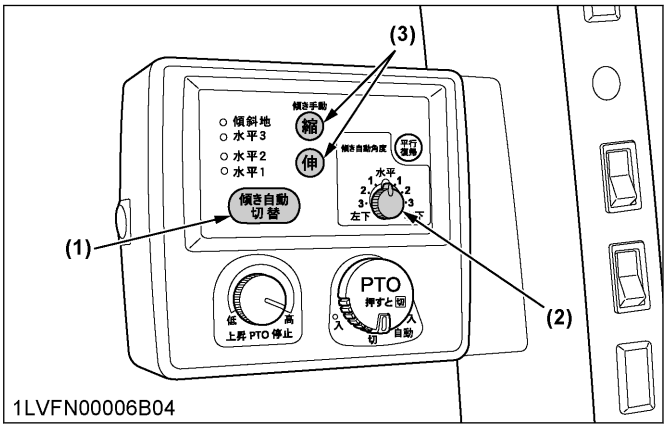
14.5.2.2 傾き自動切替スイッチ[傾斜地]

傾斜のあるほ場で作業機を常にほ場面と平行に保ちたいときに使用します。
傾き自動切替スイッチを**[傾斜地]**、傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**の位置にするとほとんどの場合きれいに仕上げられますが、やわらかいほ場やかたいほ場では作業機と斜面の傾きが合わない場合があります。そのときは傾斜地傾き自動の微調整設定を行ってください。（詳細は傾斜地傾き自動の微調整設定手順（82 ページ）を参照）

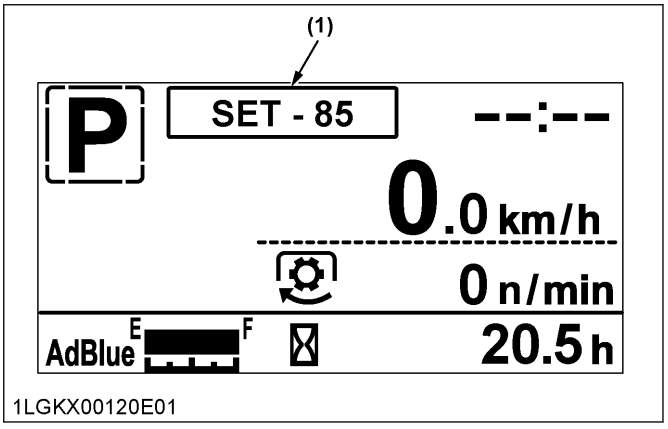


(1) 傾き自動切替スイッチ
(2) スイッチランプ***[傾斜地]***
(3) 傾き自動角度調節ダイヤル

14.5.2.3 傾斜地傾き自動の微調整設定手順



(1) 傾き自動切替スイッチ
(2) 傾き自動角度調節ダイヤル
(3) 傾き手動スイッチ



(1) 傾斜地傾き自動補正量

補足：

- **傾斜地では作業機を上端から下ろしたときの車体角度が基準となるため、作業する進行方向を向いた状態で作業機を上端から下ろしてください。**
- **トラクタが水平状態にあるときは調整できません。**
- **凹凸が激しいほ場で、じゅうぶんな精度が得られない場合は位置制御を使用してください。**
- **調整幅いっぱい動かしても傾きの差が大きいときは、位置制御を使用してください。**
- **左右のオフセット量が大きく、左右の重量バランスが悪い作業機の場合は位置制御を使用してください。**
- **キースイッチを[切]位置にすると補正値は標準値に戻ります。**
- **エラー表示中は微調整の画面が表示されません。**

1. トラクタを等高線上にそって停車します。
2. 傾き自動切替スイッチを**[傾斜地]**、傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**の位置にしてください。
3. 傾き手動スイッチを押して、斜面と作業機の傾きを合わせてください。傾き手動スイッチを押すと、電子メータに表示している補正値が変わります。

14.5.2.4 傾き自動切替スイッチ[切]

プラウ作業などで、常に傾き自動リフトシリンダ長さを一定に保ちたいときに使用します。
傾き自動ランプ消灯時、傾き自動の自動制御が解除され、傾き手動スイッチまたは外部操作スイッチによる位置制御になります。

重要：
- **位置制御で作業機を傾斜させるときに作業機を上端まで上げると、ジョイントの騒音が高くなる場合がありますので注意してください。**

14.5.2.4.1 位置制御

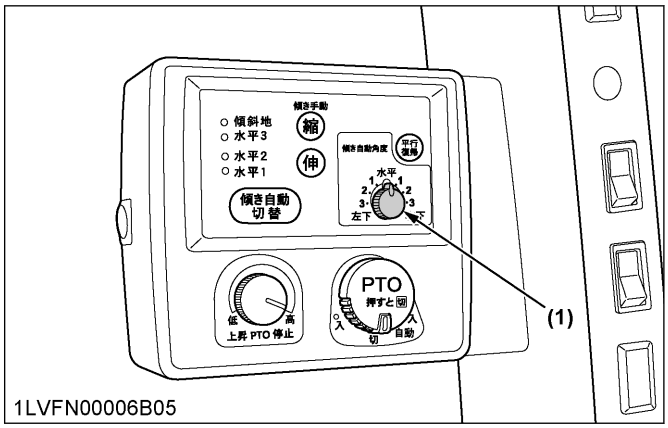
プラウ作業などで常に傾き自動リフトシリンダ長さを一定に保ちたい場合に位置制御を使用します。

1. 傾き自動切替スイッチを切り位置制御にします。
2. 傾き自動ランプの消灯を確認します。
3. 傾き手動スイッチまたは傾き自動外部操作スイッチを操作し、リフトシリンダ長さを調整します。

14.5.3 傾き自動角度調節ダイヤル

傾き自動切替スイッチで**[水平]**または**[傾斜地]**を選択している場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。
- ダイヤルを中央の位置にすると、作業機は水平に保持されます。
- ダイヤルを左下方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- ダイヤルを右下方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

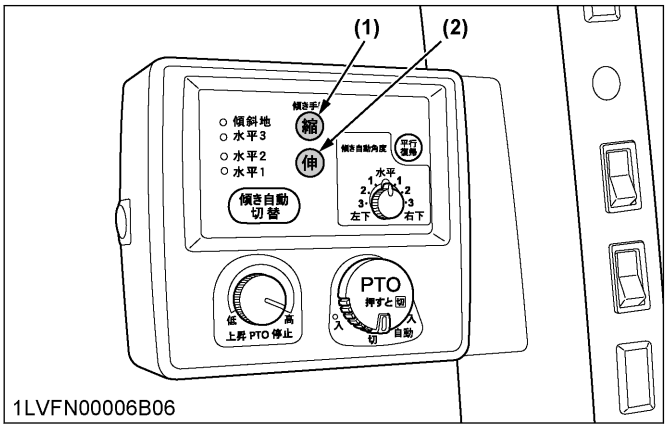
補足：
- **傾き自動切替スイッチが[水平]または[傾斜地]の場合、ポジションレバーで作業機を再上昇付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。**



(1) 傾き自動角度調節ダイヤル

14.5.4 傾き手動スイッチ

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



(1) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(2) 傾き手動スイッチ***[伸]***

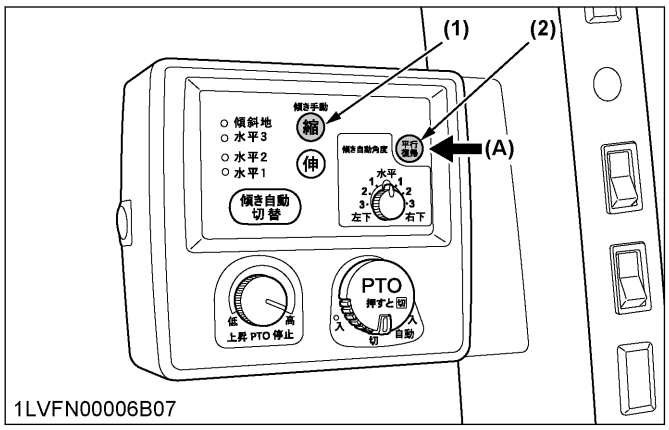
- **[縮]**スイッチを押すと、作業機の右側が上がります。
- **[伸]**スイッチを押すと、作業機の右側が下がります。

重要：
- **スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**

補足：
- **傾き自動を[水平]で運転中、いったん傾き手動スイッチまたは傾き自動外部操作スイッチを操作すると、自動水平制御が停止し保持制御となり、傾き自動ランプが点滅します。**
- **[傾斜地]の場合、キースイッチを[切]位置にして、再度キースイッチを[入]位置にしたとき、作業機の傾きが変わっていると保持制御となり傾き自動ランプが点滅します。**
- **再度自動水平制御に戻すためには、傾き自動の安全ロック機能（84 ページ）を参照してください。**

14.5.5 平行復帰スイッチ

平行復帰スイッチは、位置制御で作業したあとに作業機をトラクタと平行状態に戻すときに使用します。
使用例
位置制御で傾き手動スイッチでリフトシリンダを適切な長さに合わせ、リバーシブルプラウなどでの口開け作業を行った後に通常に耕起する場合、平行復帰スイッチを押すだけで常にプラウはトラクタと平行状態（微調整記憶値）に保たれます。



(1) 傾き手動スイッチ　　*(A)* 押す
(2) 平行復帰スイッチ

14.5.6 傾き自動の安全ロック機能

傾き自動安全ロック
傾き自動切替スイッチが**[水平]**または**[傾斜地]**のとき、傾き自動角度調節ダイヤル位置と傾き自動リフトシリンダ位置が異なる状態で、以下の操作を行ったとき、傾き自動安全ロックが働き、自動制御が停止し、傾き自動ランプが点滅（1 秒間に約 2 回点灯）します。
- エンジン始動時
- 傾き自動外部操作スイッチ操作時
- 傾き手動スイッチ操作時

傾き自動安全ロックの解除
以下のいずれかの操作で安全ロックを解除することができます。
解除後傾き自動ランプの点灯を確認してください。
- 平行復帰スイッチを押す。
- 傾き自動切替スイッチをいったん切り位置制御にしたのち、再度**[水平]**または**[傾斜地]**に入れる。

補足：
- **傾き自動安全ロックを解除したときは、傾き自動角度調節ダイヤルで設定した位置までシリンダが動きます。**

14.5.7 作業機昇降装置のランプ表示一覧

ドラフトコントロール、傾き自動の作動状態を、電子メータの各モニタランプで表示します。
次の表の各ランプ表示に基づき、適切な取扱いを行ってください。

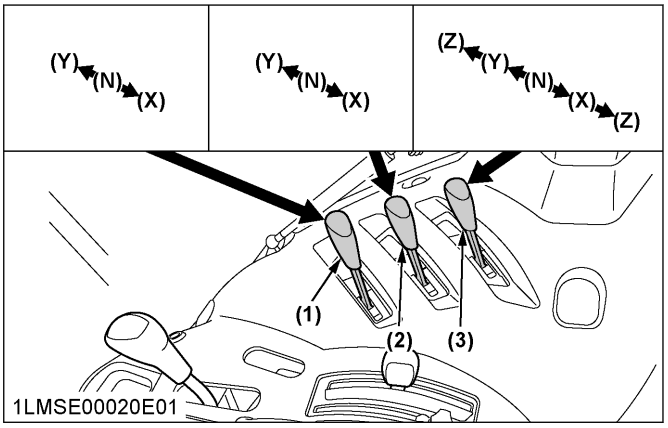
傾き自動ランプ	状態	備考
点灯	傾き自動モード状態	傾き自動切替スイッチ（81 ページ）を参照。
遅い点滅（1 秒間に約 2 回点灯）	傾き自動安全ロック状態	傾き自動の安全ロック機能（84 ページ）を参照。
速い点滅（1 秒間に約 5 回点灯）	異常検出時	• 3 点リンクのみ作動できます。 • 購入先に点検・整備を依頼してください。

15. 外部油圧取出し

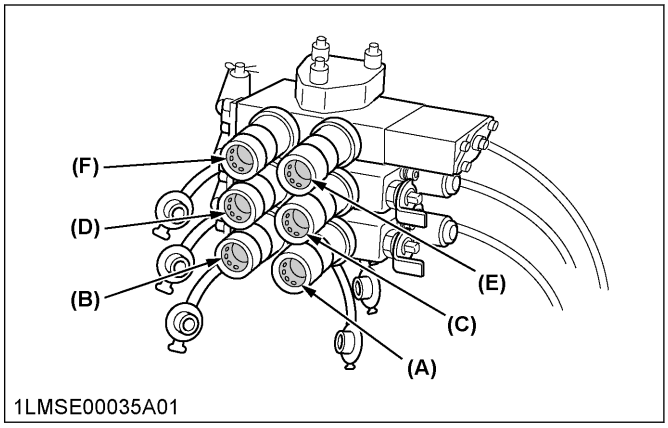
外部油圧取出しは、標準で 1 連装着しています。
オプションで 3 連まで装着できます。
1 連目：単複切換え式バルブ（標準）
2 連目：単複切換え式バルブ（オプション）
3 連目：セルフキャンセル付デテントバルブ（オプション）

15.1 油圧補助コントロールレバー

- レバーの操作方向と油の流れは次のようになっています。
  作業機側油圧ホース（吐出、戻り）の方向を確認し、接続してください。
- 1 連目レバーは、補助コントロールバルブ単複切換えつまみの切換えにより、**単動**と**複動** 2 種類の操作ができます。



(1) 油圧補助コントロールレバー（*1* 連目）
(2) 油圧補助コントロールレバー（*2* 連目）（オプション）
(3) 油圧補助コントロールレバー（*3* 連目）（オプション）



1LMSE00035A01

補足：

- **作業機の油圧シリンダが複動の場合、油圧シリンダの圧力側（負荷が掛かったとき高圧となる側または、漏れを発生させたくない側）をポート(B)、(D)または(F)に接続してください。（ポート(B)、(D)または(F)のみにチェックバルブが入っています。）**
  また、位置保持の必要なシリンダポートは単複切換えバルブのポート(B)、(D)に接続してください。（単複切換えバルブのポート(B)、(D)のみ内部圧力回り込み防止ポートが付いています。）

油圧補助コントロールレバー（1 連目）		複動		単動	
		押す（Y 方向）	引く（X 方向）	押す（Y 方向）	引く（X 方向）
ポート	(A)	➡ 吐出	⇦ 戻り	–	–
	(B)	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出

油圧補助コントロールレバー（2 連目）		複動		単動	
		押す（Y 方向）	引く（X 方向）	押す（Y 方向）	引く（X 方向）
ポート	(C)	➡ 吐出	⇦ 戻り	–	–
	(D)	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出

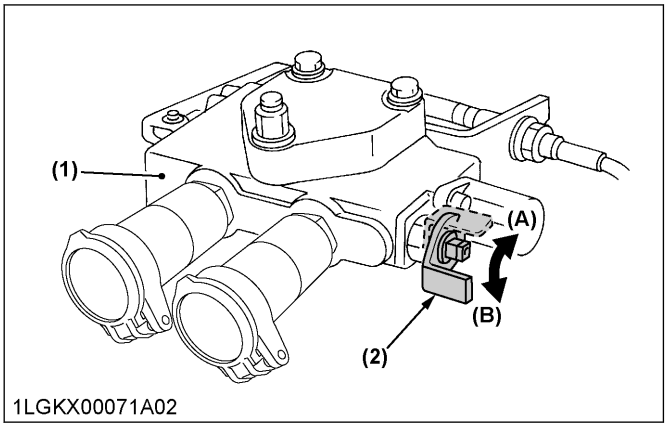
油圧補助コントロールレバー（3 連目）		複動	
		押す（Y 方向）	引く（X 方向）
ポート	(E)	➡ 吐出	⇦ 戻り
	(F)	⇦ 戻り	➡ 吐出

	ネジサイズ
ポート(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)	G3/8

15.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ

重要：

- **単動の作業機を複動の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。**
  ご使用になる作業機に合わせて、切り換えてください。



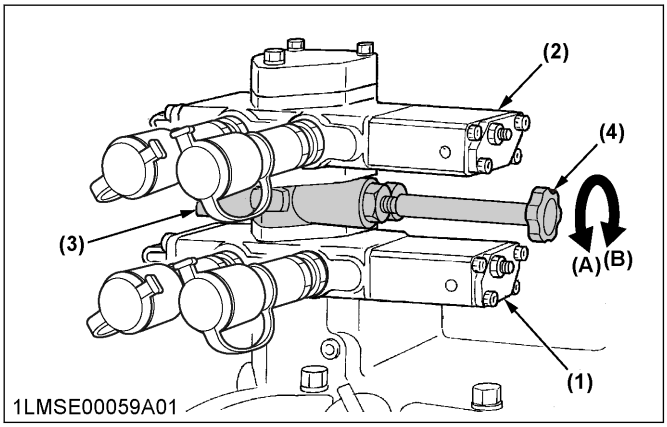
1LGKX00071A02

(1) 単複切換え式バルブ　*(A)* 単動
(2) 単複切換えつまみ　*(B)* 複動

15.3 流量調節バルブ（オプション）

流量調節バルブは一緒に装着している補助コントロールバルブの流量を調節することができます。
流量調節バルブは以下の操作ができます。

- 流量調節バルブ(3)より上の補助コントロールバルブ(2)と 3 点リンクの同時操作が行えます。
- 補助コントロールバルブ(2)と補助コントロールバルブ(1)は同時操作が行えます。補助コントロールバルブ(1)が作動中、3 点リンクの上昇操作はできません。
- 補助コントロールバルブ(2)に接続された作業機（たとえば油圧モーター）の速度を一定に保つことができます。



1LMSE00059A01

(1) 補助コントロールバルブ　*(A)* 増油
(2) 補助コントロールバルブ　*(B)* 減油
(3) 流量調節バルブ
(4) 流量調節ノブ

補足：
- **エンジン回転が低いときに補助コントロールバルブと 3 点リンクを同時に操作した場合、オイル量が不足する場合があります。このような場合はエンジン回転を上げ、オイルの流量を増やしてください。**

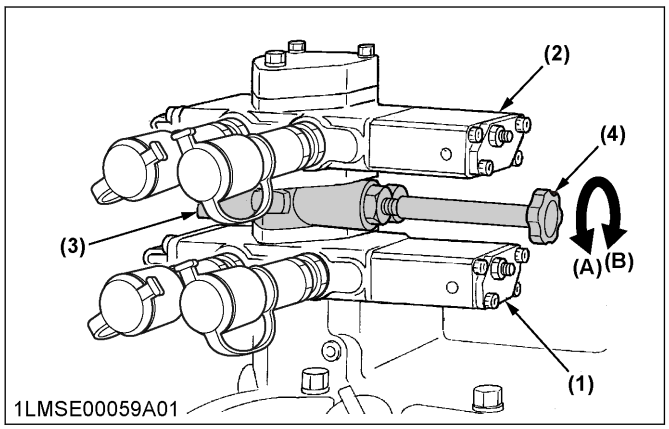
15.3.1 流量調節バルブの流量調節のしかた

⚠ 注意

傷害事故防止のため、流量調節を行うときは、次に記載するバルブの特性をよく理解してから行ってください。
- **3 点リンクの上昇速度は、流量調節バルブでの流量調節とエンジン回転数により変化します。**
- **エンジン回転数が低いと、3 点リンクの上昇速度が遅く、停止する場合もあります。**
- **エンジン加速時や流量調節時、3 点リンクが突然上昇する場合があります。**

重要：
- **流量調節が必要でないときは、流量調節ノブを反時計方向(A)にいっぱい回しておいてください。**

補足：
- **油圧ポンプからのオイルは優先流として補助コントロールバルブへ流れ、余剰流が 3 点リンクへ送られます。補助コントロールバルブが中立時、ポンプからの全流量は 3 点リンクへ送られます。**

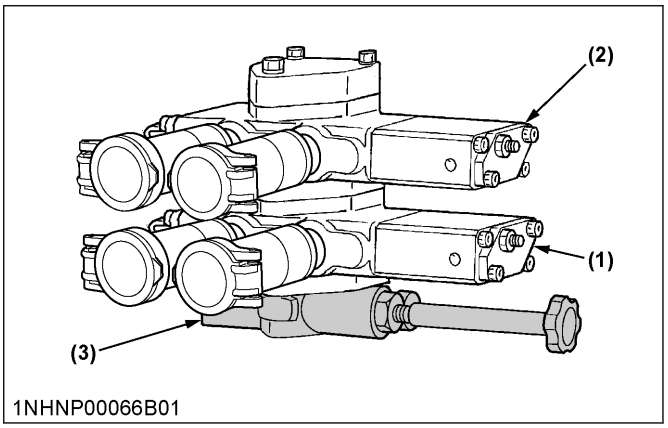


(1) 補助コントロールバルブ　*(A)* 増油
(2) 補助コントロールバルブ　*(B)* 減油
(3) 流量調節バルブ
(4) 流量調節ノブ

1. 流量調節バルブ(3)から上の補助コントロールバルブ(2)から吐出するオイル量を調節することができます。
2. 流量調節ノブ(4)を反時計方向(A)に回すと補助コントロールバルブ(2)へのオイル量が増えます。時計方向(B)に回すとオイル量は減ります。
3. 流量調節は、最初にエンジン回転を作業に適した回転数にセットします。次に、流量調節ノブをいったん(B)方向いっぱいに回し、反時計方向に徐々に回して必要な流量にセットします。

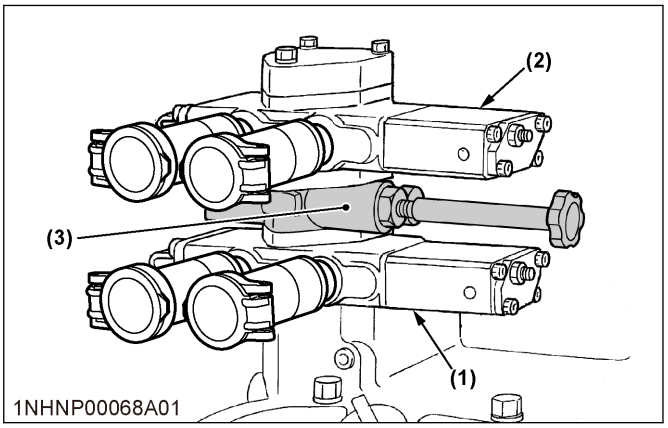
15.3.2 流量調節バルブの装着位置と特徴

組付例その 1
- 補助コントロールバルブ(1)(2)に接続した作業機（たとえば油圧モーター）の作動速度を一定に保つことができます。
- 補助コントロールバルブ(1)または(2)と 3 点リンクは同時操作ができます。ただし補助コントロールバルブ(1)と(2)の同時操作はできません。
- 同時操作時、補助コントロールバルブ(1)(2)に割り当てるオイル流量が優先されるため、3 点リンクの上昇速度が遅くなります。



(1) 補助コントロールバルブ
(2) 補助コントロールバルブ
(3) 流量調節バルブ

組付例その 2
- 補助コントロールバルブ(2)に接続した作業機（たとえば油圧モーター）の作動速度を一定に保つことができます。
- 補助コントロールバルブ(2)と 3 点リンクまたは、補助コントロールバルブ(1)と(2)の同時操作ができます。
- 同時操作時、補助コントロールバルブ(2)に割り当てるオイル流量が優先されるため、3 点リンクの上昇速度や、補助コントロールバルブ(1)の作動速度は遅くなります。

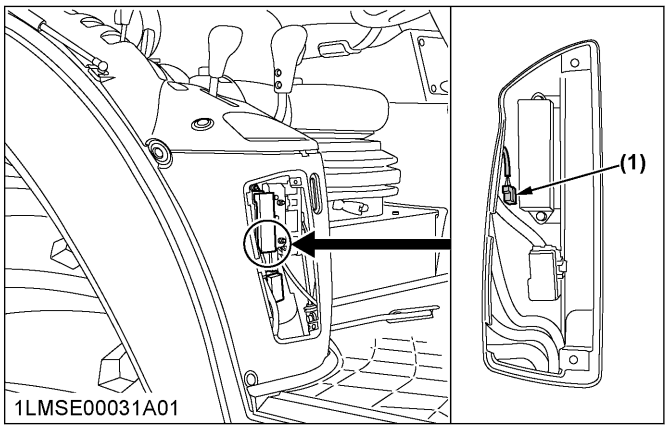


(1) 補助コントロールバルブ
(2) 補助コントロールバルブ
(3) 流量調節バルブ

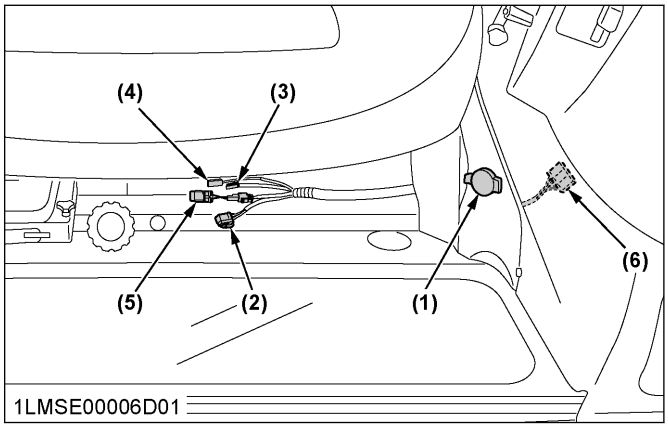
16. 外部電源取出端子

16.1 電源取出し

各種電源取出しを設けてあります。



(1) ロータ用電源カプラ（*15 A*）



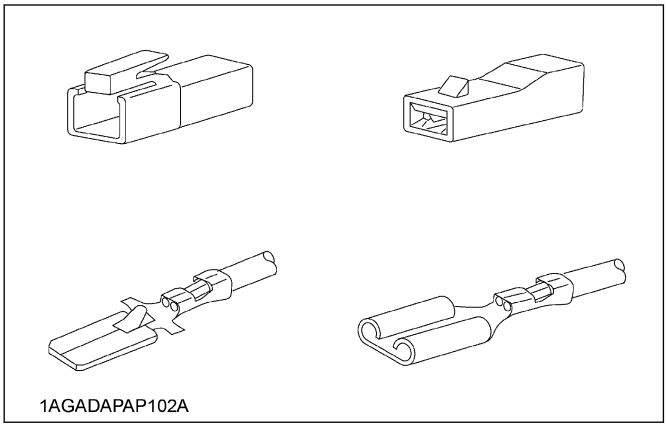
(1) 外部電源取出しソケット（*15 A*）
(2) 予備電源カプラ *3P*（*15 A*）
(3) 外部電源取出しコネクタ *2P*（*20 A*）
(4) 車速信号カプラ
(5) *AG-PORT*（アグ・ポート）
(6) トレーラ用カプラ

補足：

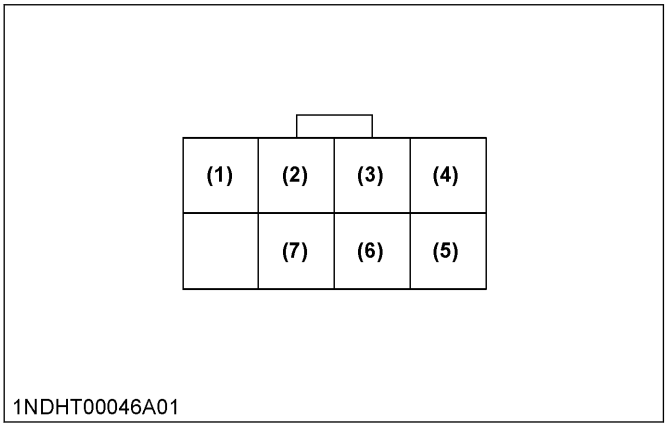
- **車速信号カプラおよび AG-PORT（アグ・ポート）は接続を必要とする専用作業機にのみ使用してください。出荷時にはキャップがしてありますので、作業機を使用しないときは必ずキャップを装着してください。故障の原因になります。**

コネクタ

電源カプラ(15 A)用コネクタが必要な場合は、次の品番でお買い求めください。
キット、コネクタ：99100014500
（次の図の部品が 1 個ずつ入っています）



16.2 トレーラカプラ電源



カプラ内ピン配置	電源
(1)、(3)	尾灯・車幅灯
(2)	アース
(4)	方向指示器（左）
(5)	制動灯
(6)	後退灯
(7)	方向指示器（右）

運転のしかた

運転前の点検

⚠ 警告

- **運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明はしないでください。**
- **燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **エンジン停止後 30 分経過してから開ける。**
  2. **点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドのおそれがないことを確認する。**

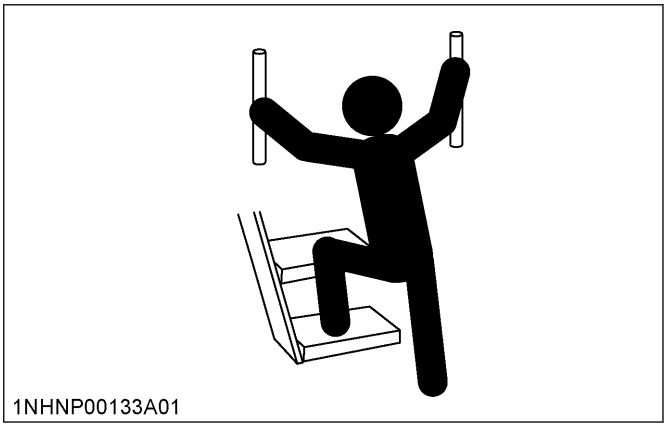
重要：
各部への給油と交換

- **点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**

故障を未然に防ぐためには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は 1 日 1 回、運転前に欠かさず行ってください。
点検方法の詳細は、トラクタの点検・整備のしかた（125 ページ）を参照してください。

1. トラクタへの乗降

1. トラクタへの飛乗りや飛降りは行わないでください。
2. 乗降はトラクタ側に顔を向けて行ってください。トラクタの不意の動きを防ぐため、変速操作レバー類をつかまないでください。
3. スリップ事故を防ぐため、ステップやフロアマットは常に清掃してください。


1NHNP00133A01

エンジンの始動と停止

⚠ 警告

- **本書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバーや主変速レバーが中立([N]位置)かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO クラッチコントロールスイッチも[切]（OFF 位置）にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため、地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気をじゅうぶんに行ってください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

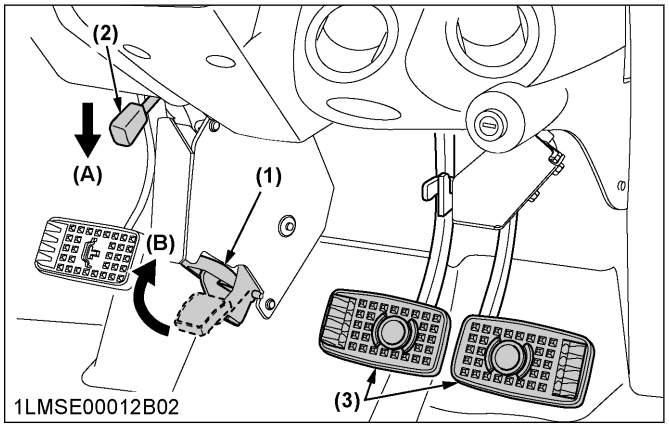
“安全に作業をするために”の詳細は、安全に作業をするために（11 ページ）を参照してください。

1. 始動のしかた

補足：

- **シャトルレバーを中立（[N]位置）、PTO クラッチコントロールスイッチを切（[OFF]位置）にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。**

1. 連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。



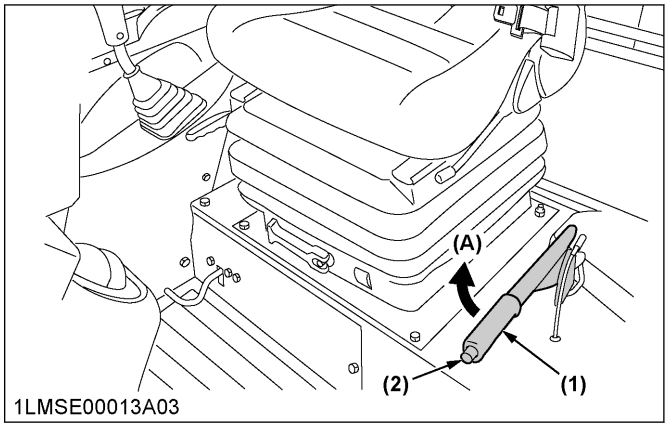
(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) 連結解除ペダル格納位置

⚠ 警告
- **道路走行時は、必ず連結解除ペダルロックレバーを下げてください。**

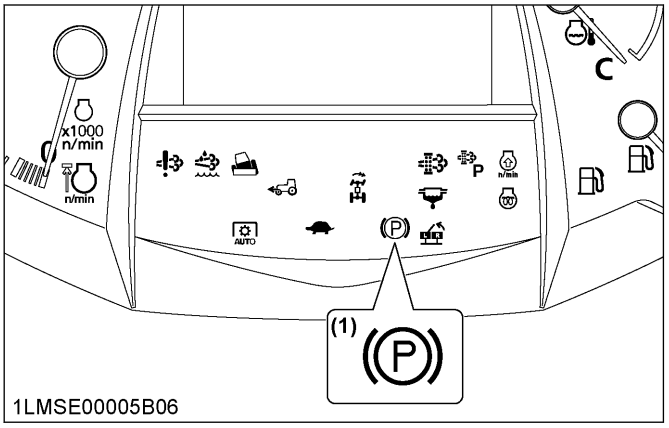
2. 駐車ブレーキを掛けます。
レバーを引くと駐車ブレーキが掛かります。
キースイッチ**[入]**位置のとき、駐車ブレーキを掛けると電子メータ内の Ⓟ ランプが点灯します。

重要：
- **駐車ブレーキを掛ける前にトラクタを確実に停止させてください。**
- **シャトルレバーが前進または後進に入っているとき、駐車ブレーキを掛けると警告ブザーが鳴ります。**

補足：
- **駐車ブレーキレバーの操作が重くなったり、軽くなったりする場合がありますが、これは故障ではありません。**

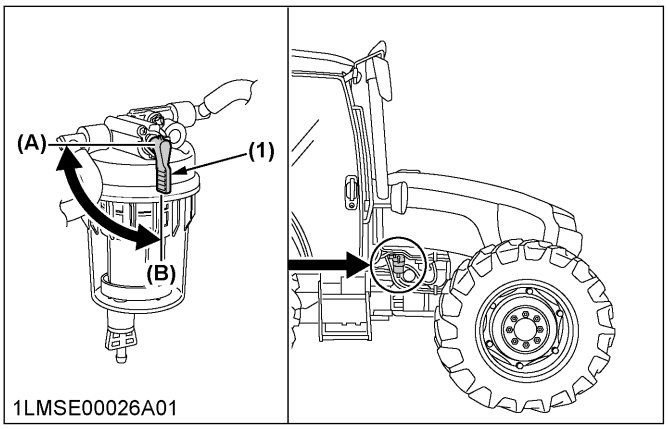


(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 解除ボタン
(A) 引く



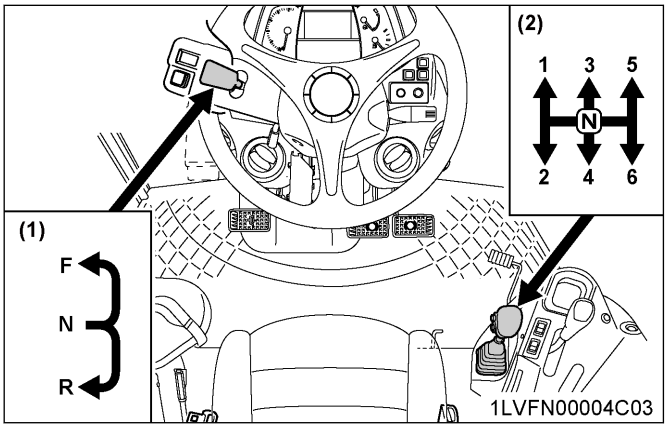
(1) 駐車ブレーキ警告灯

3. 燃料コックを**開**にします。



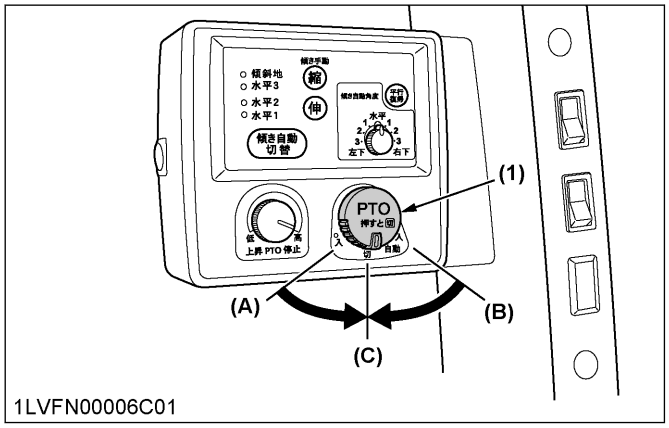
(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

4. シートに座り、変速レバーを**中立**（**[N]**位置）にします。



(1) シャトルレバー
(2) 主変速レバー
(F) 前進
(N) 中立
(R) 後進

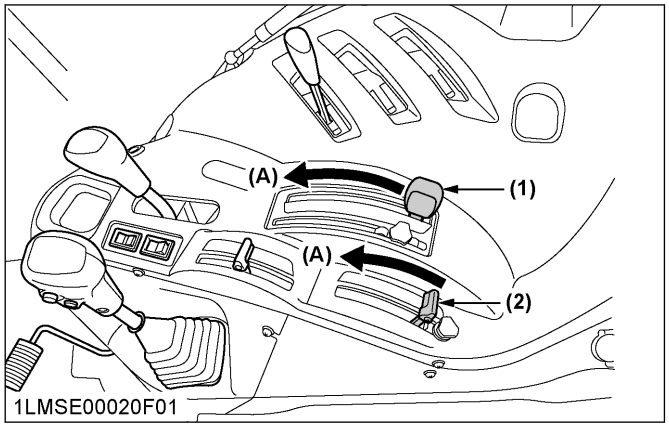
5. PTO クラッチコントロールスイッチを**切**（**[OFF]**位置）にします。



1LVFN00006C01

(1) *PTO* クラッチコントロールスイッチ
(A) 入
(B) 上昇 *PTO* 停止モード
(C) 切

6. 作業機を下げます。
油圧レバーを前方に倒すと、作業機が下がります。

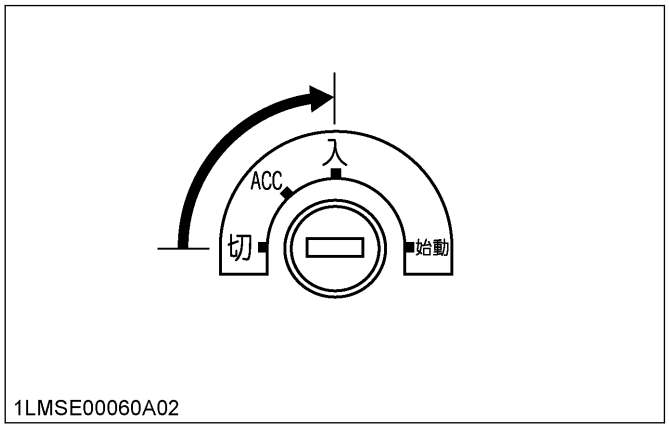


1LMSE00020F01

(1) ポジションレバー
(2) ドラフトコントロールレバー
(A) 下げ

補足：
- **油圧ロックされている場合は下がりません。（詳細は油圧ロックの取扱い（79 ページ）を参照）**

7. キースイッチにキーを差し込み**[入]**位置にします。



1LMSE00060A02

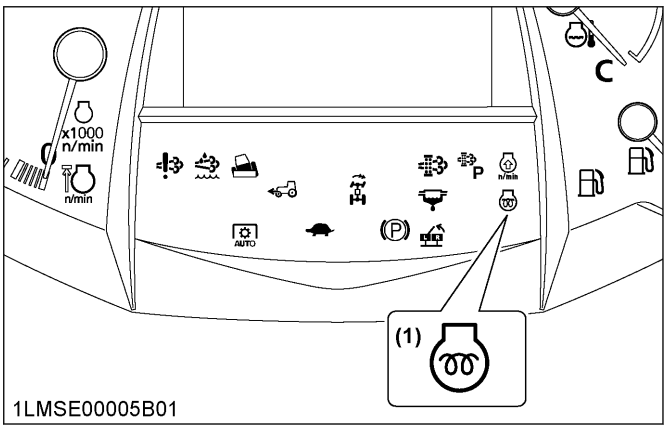
補足：
- **キースイッチを[入]位置にすると、ランプ切れチェックのため約 1 秒間点灯するランプがあります。**
各ランプの詳細については、モニタランプ（70 ページ）を参照してください。

8. 液晶モニタに暗証番号入力画面が表示された場合は、メータコントロールパネルのスイッチで 3 桁の暗証番号を入力してください。
セキュリティ機能の**入**と**切**の切替えや暗証番号入力方法や変更についての詳細は、エンジン始動セキュリティ機能（71 ページ）を参照してください。

補足：
- **工場出荷時は、セキュリティ機能は切になっています。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、液晶モニタに"PASS-NG"と点滅表示され、エンジン始動が不可能となります。この場合は購入先に連絡してください。**
- **エンジン停止後、10 分以内であれば、エンジン再始動が可能です。**

オートグロー

9. 冷却水温が低い寒冷時の場合は、エンジン予熱ランプが消灯したことを確認し、セルモータを回してください。

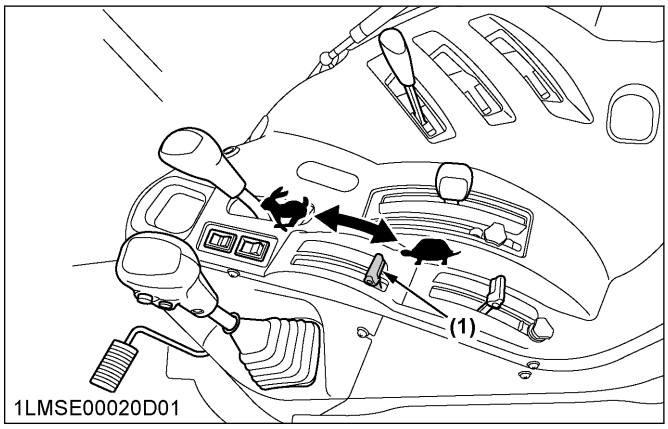


1LMSE00005B01

(1) エンジン予熱ランプ

補足：
冷却水温が低いとき、キースイッチを[入]位置にすると、エンジン予熱ランプが点灯し、予熱が完了すると、自動的に消灯します。

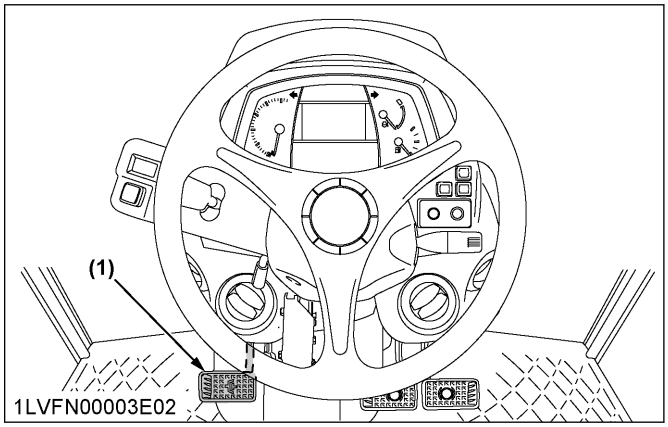
10. アクセルレバーを**低速**に合わせます。



(1) アクセルレバー　　低速

11. クラッチペダルを踏み込みます。

補足：
- **エンジンはクラッチペダルを踏み込まなくても始動できますが、安全確保のため踏み込んでください。**



(1) クラッチペダル

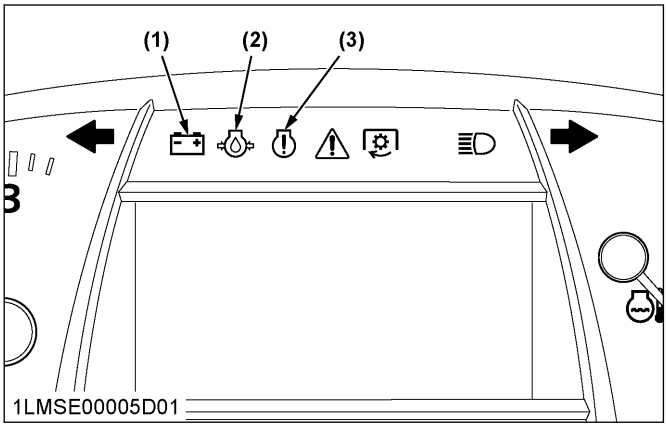
12. キーを**[始動]**位置に回します。

重要：
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。**
  10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止した後、手順 7. からの操作をくり返してください。

13. エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。
キーは自動的に**[入]**位置にもどります。

重要：
- **エンジン回転中は、キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。**

14. 以下のランプが消灯したか確認します。
もし、ランプが消灯しない場合は、エンジンを停止し、点検してください。



(1) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(2) エンジンオイル油圧警告灯
(3) エンジン異常警告灯

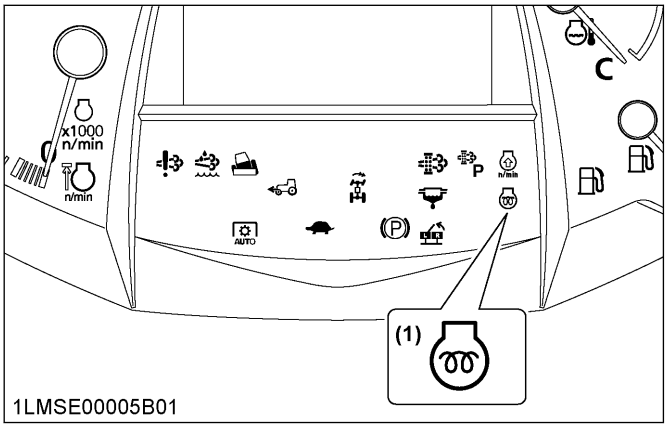
15. エンジン回転を下げ、クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま 5 分程度暖機運転してください。寒冷時は、寒冷時の暖機運転（95 ページ）を参照してください。

補足：
- **寒冷時の始動直後約 1 分程度、青白煙を排出することがありますが、異常ではありません。また、それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも、エンジンがじゅうぶんに加熱されれば、インジェクタのつまりなどの故障でないかぎり青白煙は消えます。**

2. 寒冷時の始動のしかた

外気温が 0 ℃以下でエンジンが冷えている場合、次の手順で始動してください。

1. キースイッチを**[入]**位置に回し、エンジン予熱インジケータが消灯するまで待ちます。エンジン予熱インジケータは冷却水温が 0 ℃以下のとき点灯し、予熱が完了すると消灯します。



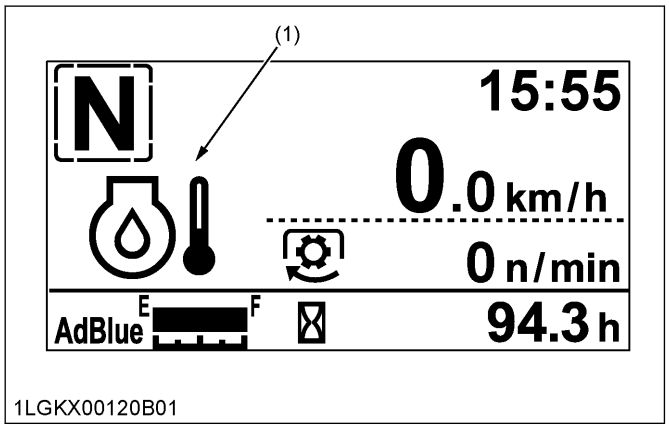
(1) エンジン予熱ランプ

2. キースイッチを**[始動]**位置に回しエンジンを始動します。

重要：
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。**
  10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。
- **外気温が-20 ℃以下の環境で使用することが想定される場合は購入先にご相談ください。**

2.1 エンジン低温規制

エンジンの急加速操作によるエンジンの損傷を防ぐため、冷却水温が約 0 ℃以下でエンジン始動時、冷却水温に応じ最大約 3 分間エンジン回転が約 1400 rpm に保持され、インジケータと間欠ブザーでオペレータに知らせます。（規制時間は冷却水温により異なります）
規制中はアクセル操作を行わずそのまま暖機運転を行ってください。規制時間が過ぎると、エンジン回転数を徐々に上げることができます。完全に規制が解除されると、インジケータが消灯しブザーも止まります。

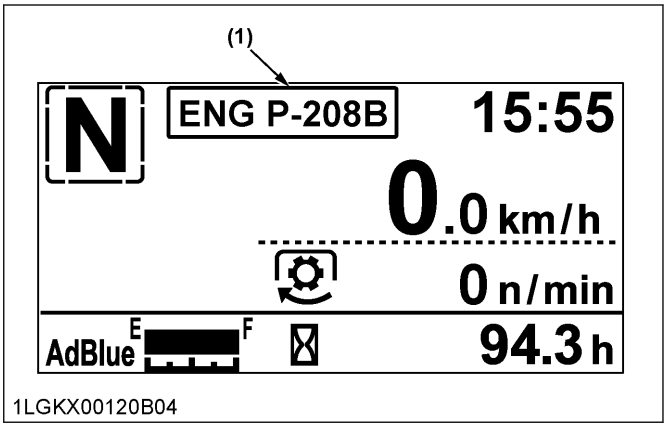


1LGKX00120B01

(1) 低温規制インジケータ

2.2 尿素水(AdBlue)凍結警告

寒冷時、凍結した尿素水(AdBlue)は運転中に自動で融解されます。しかし-30 ℃以下では完全には融解されない場合があり、その際故障診断コード（"ENG P-208B"）が液晶モニタに表示されます。この故障診断コード（"ENG P-208B"）が表示されたときは、エンジンを停止し、10 秒後に再始動してください。エンジンを再始動すると故障診断コード（"ENG P-208B"）の表示が消え、尿素水(AdBlue)が再度融解されます。
エンジン再始動を数回繰り返しても故障診断コード（"ENG P-208B"）の表示が消えないときは購入先に連絡してください。

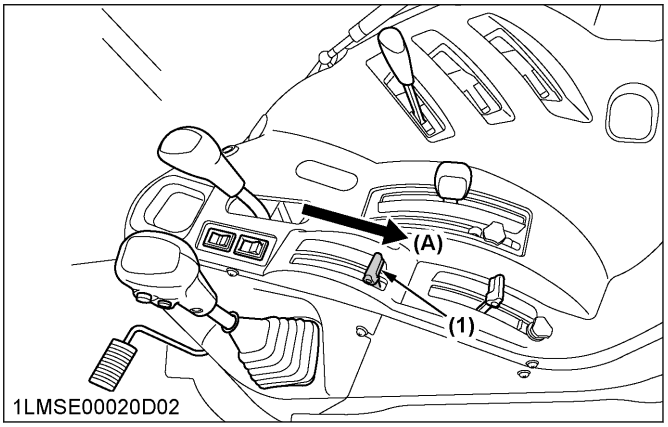


1LGKX00120B04

(1) 故障診断コード

3. 停止のしかた

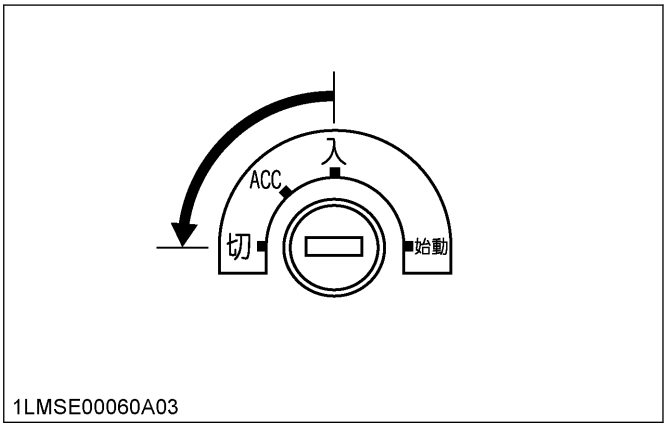
1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。



1LMSE00020D02

(1) アクセルレバー　　*(A)* アイドリング

2. キースイッチのキーを**[切]**位置にすると、エンジンは停止します。



1LMSE00060A03

重要：
- **エンジンの停止は、5 分間アイドリング運転してからにしてください。**
  高速負荷運転後、急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3. キーを必ず**抜き**ます。

重要：
- **キースイッチの切り忘れによるバッテリ上がり防止のため、必ずキーは抜いてください。**

補足：
- **エンジン停止後最大約 15 分間、尿素 SCR システムが自動で作動し、凍結や詰まりを防止するために配管の中の尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに戻します。**
- **エンジン停止後も尿素 SCR システムから作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。エンジン停止後は次の点に注意してください。**
  - **尿素 SCR システムが停止するまで、バッテリ端子を外さないでください。システム機器が故障するおそれがあります。**
  - **尿素 SCR システムが停止してから尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。**

トラクタの発進と走行

⚠ 警告
- **トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。また、安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。**
- **子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。**
- **溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。**
- **急な坂道の登坂はバックで行うか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心掛けてください。**
- **下り坂は、エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。**
- **負荷の大きいけん引をする場合や湿田から脱出する場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。**
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。周囲の状況をよくみて、安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。また後進中は、特に周囲の状況によく注意して運転してください。**
- **運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。**

1. 運転席の位置を調節し、シートベルトを着用してください。
（詳細は、運転席周りの調節（50 ページ）を参照）
2. 灯火類のスイッチの位置を確認してください。
（詳細は、灯火類の操作（53 ページ）を参照）
3. ブレーキペダルを確認してください。
（詳細は、ブレーキペダル（55 ページ）を参照）
4. ポジションレバーを後方に引き作業機を上げます。
（詳細は、ポジションレバー（77 ページ）を参照）
5. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを解除します。
（詳細は、駐車ブレーキ（56 ページ）を参照）

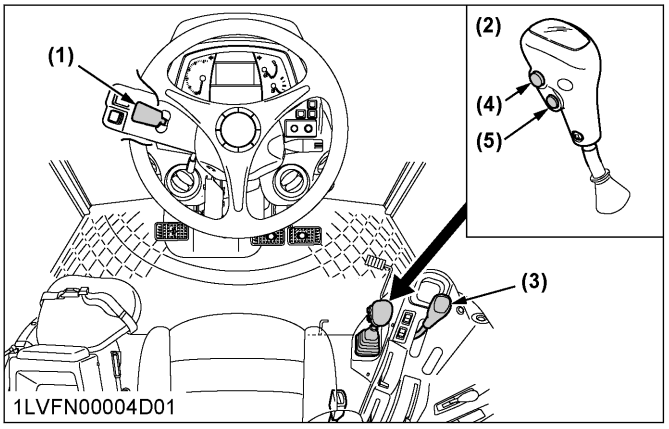
補足：
- **駐車ブレーキを掛けたまま、発進しようとすると警告ブザーが鳴ります。**
- **もしブザーが鳴ったときには、次のいずれかの操作を行うとブザーが止まります。**
  - **駐車ブレーキを解除する。**
  - **シャトルレバーを中立（[N]位置）に戻す。**
  - **主変速レバーを中立（[N]位置）に戻す。**

6. クラッチペダルを踏み込みます。

⚠ 警告
- **急にクラッチを離すと、急に飛出すおそれがあります。**
ゆっくり行ってください。

（詳細は、クラッチペダル（57 ページ）を参照）

7. 走行速度を選択します。
変速レバーと変速スイッチの組合せで前進 36 段、後進 36 段の車速段数が得られます。
（詳細は、トランスミッションシフトレバー（57 ページ）を参照）



(1) シャトルレバー
(2) 主変速レバー
(3) 副変速レバー
(4) クラッチボタン
(5) デュアルスピード（*DS*）ボタン

8. 走行モード（2WD、4WD、倍速）を選択します。
（詳細は、走行モード切換スイッチ（59 ページ）を参照）

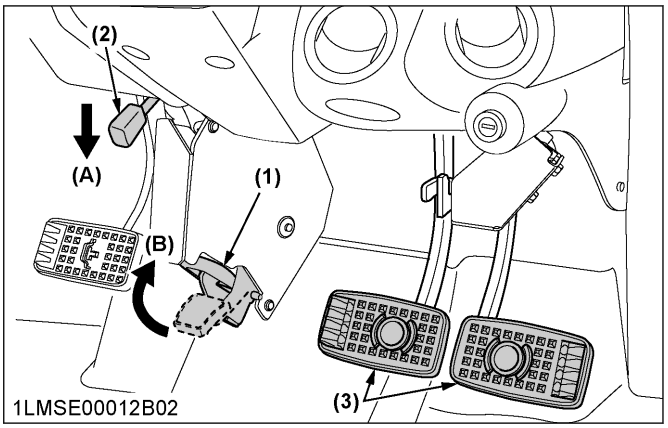
9. エンジンを加速します。
（詳細は、アクセルレバー（57 ページ）とアクセルペダル（57 ページ）を参照）
10. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重要：
- **クラッチの寿命を伸ばすため、半クラッチの使用時間・回数を少なくするように、次の点にご注意ください。**
  - **速度調節はクラッチで行わないようにしてください。**
  - **作業に応じた車速およびエンジン回転を選択してください。**
  - **クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。**
    知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
- **トレーラけん引作業時などの発進は、低速度段で行い、次に必要な車速段に入れて走行してください。**
  （クラッチの寿命が長くなります）
- **運転中、メータ類に異常がないか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**
  （詳細は、イージーチェッカ（67 ページ）を参照）

トラクタの停止と駐車

⚠ 警告
- **本機は油圧ミッションのため、変速ギヤを入れてエンジンを止めても、エンジンブレーキは効きません。駐車後トラクタが動き出さないよう、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**
- **駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、変速レバーを中立([N]位置)、PTO クラッチコントロールスイッチを切り、作業機を下げ、駐車ブレーキを引き、エンジンを停止してキーを抜いてください。**
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- **乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。**
- **格納などでトラクタにシートを掛ける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **トラクタから降りるときは、ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。**

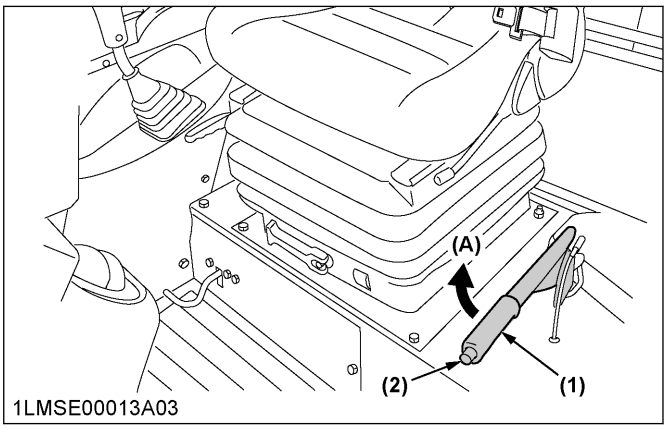
1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。
2. クラッチおよびブレーキペダルを踏み込みます。
3. 完全に停止してから、シャトルレバー、主変速レバーを中立（**[N]**位置）にします。
4. PTO を使用している場合は、PTO クラッチコントロールスイッチを**[切]**（**[OFF]**位置）にして、PTO を停止させます。
5. 作業機を取り付けている場合は、ポジションレバーをゆっくり前方に倒し作業機を下げます。
6. 連結解除ペダルロックレバーを下げて、左右のブレーキペダルを確実に連結します。（連結解除ペダルをロックします。）



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) 連結解除ペダル格納位置

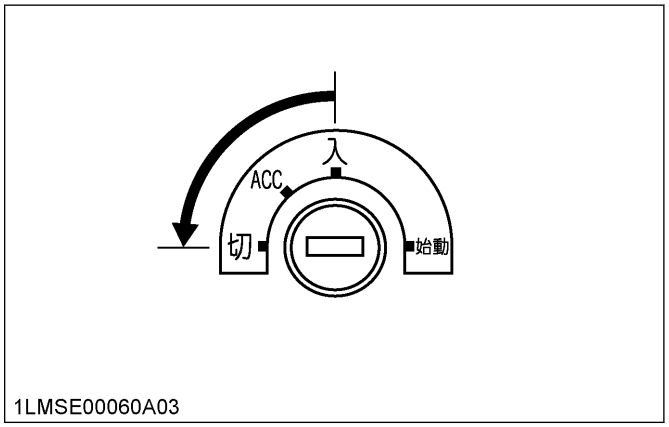
7. 駐車ブレーキを確実に掛けてください。

重要：
- **シャトルレバーが前進または後進に入っているときに駐車ブレーキを掛けると警告ブザーが鳴ります。**



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 解除ボタン
(A) 引く

8. キースイッチのキーを**[切]**位置にすると、エンジンは停止します。



1LMSE00060A03

寒冷時の暖機運転

⚠ 警告
- **換気が不十分な所では、暖機運転はしないでください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- **暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

始動後、約 10 分間は負荷を掛けずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルにじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷を掛けると、焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
本機には油圧クラッチが採用されており、油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は、アクセルレバーを低速にして必ず次の要領で暖機運転を行い、トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行わないと、満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気温	暖機運転時間
10 ℃～0 ℃	0 分間～10 分間
0 ℃～-10 ℃	10 分間～20 分間
-10 ℃～-20 ℃	20 分間～30 分間

重要：
- **外気温が-20 ℃以下の環境で使用することが想定される場合は購入先にご相談ください。**

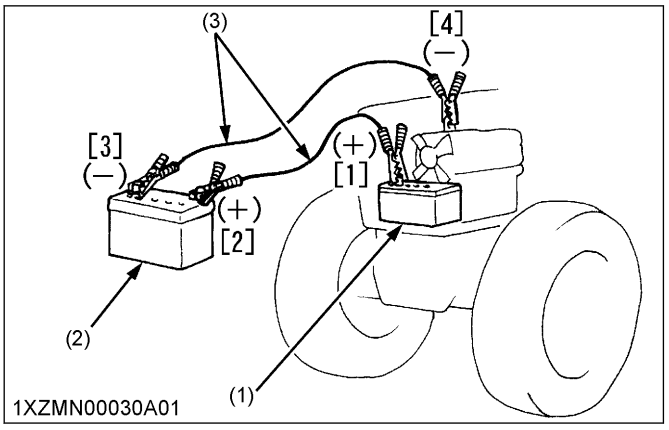
補足：
- **寒冷時の暖機運転では、マフラパイプ内で結露した水分が、水滴となって飛散することがあります。**
  アイドリング以外で暖機運転をすると、水滴の飛散量が多くなります。

バッテリ上がりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば、他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

重要：
- **救援車は必ず 12 V バッテリ車を使用してください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）と（−）端子を絶対に接触させないでください。**
- **ケーブルが冷却ファンなどに巻き込まれないようにしてください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）と（−）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。**
  逆に接続すると、トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。
- **救援車に本機を使用する場合は、必ず作業機を降ろしてください。**

1. ブースタケーブルを図の記号順で接続します。
   a. トラクタのキースイッチを**[切]**位置にします。
   b. バッテリの（+）端子同士を接続します。
   c. マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は、バッテリから離れたエンジン本体または車体に接続します。
      マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリの（−）端子に接続すると、バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。



1XZMN00030A01

(1) 放電したトラクタバッテリ
(2) 救援車バッテリ
(3) ブースタケーブル
[1] プラスケーブルの他端*[1]*
[2] プラスケーブルの他端*[2]*
[3] マイナスケーブルの他端*[3]*
[4] マイナスケーブルの他端*[4]*

2. 救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
   （詳細は始動のしかた（88 ページ）を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は、特に次のことを厳守してください。
- 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。

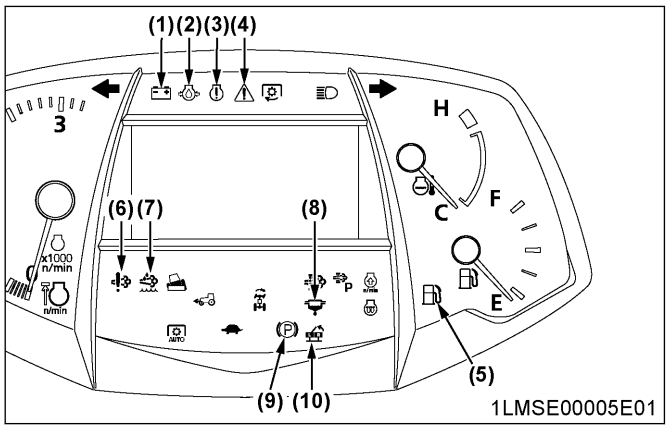
- 必要以上のスピードや負荷を掛けないようにしてください。
- 運転は、エンジンがじゅうぶん暖まってから行うようにしてください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行してください。
- 50 時間使用後、定期点検一覧表に従い各部の点検、オイル交換などを行ってください。
  （詳細は定期点検箇所一覧表（126 ページ）を参照）

運転中の作動確認

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、たえず注意してください。

重要：

- **運転中、メータ類に異常がないか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**
  （詳細はイージーチェッカ（67 ページ）を参照）



(1) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(2) エンジンオイル油圧警告灯
(3) エンジン異常警告灯
(4) システム異常警告灯
(5) 燃料残量警告灯
(6) *SCR* システム警告灯
(7) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(8) ウォーターセパレータ警告灯
(9) 駐車ブレーキ警告灯
(10) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯

次の場合は、直ちにエンジンを止めてください。

- 回転が急に下降したり上昇したりする。
- 突然、異常な音がした。
- 排気色が急に黒くなった。

状況に応じた操作

1. 片側の車輪がスリップするとき

デフロックを使用してください。
（詳細はデフロック（60 ページ）を参照）

2. 旋回のしかた

⚠ 警告

- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと旋回してください。**

3. 坂道での運転

⚠ 警告

- **必ず連結解除ペダルロックレバーをロック位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **坂道では変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして惰性で走行（惰性運転）しないでください。惰性運転をすると、スピードが出すぎて制動不能や、転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。**

- 坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担を掛けないように走行してください。
- 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしてください。
- 下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。車速を下げるほどエンジンブレーキはよく効きます。

4. ほ場への出入り時の注意

⚠ 警告

- **左右のブレーキペダルは、必ず連結しておいてください。**
- **ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。あゆみ板などを利用してください。**
- **ほ場への出入りは、トラクタをあぜと直角にして行ってください。**
- **ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

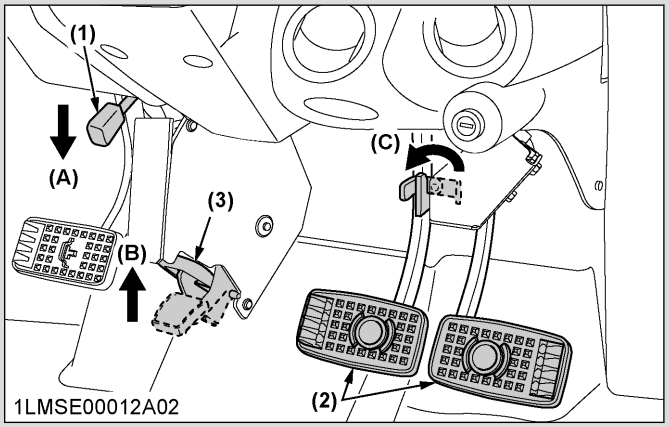
- 作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
- あぜを上がるとき、4 輪駆動の特色を生かして、バックで上がってください。
  格段に上がる能力が増します。

5. 道路走行中の注意

⚠ 警告

- **道路を走行するときは、連結解除ペダルロックレバーをロック位置にし、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**

連結を解除してブレーキを踏むと、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの事故を引き起こすおそれがあります。



(1) 連結解除ペダルロックレバー
(2) ブレーキペダル
(3) 連結解除ペダル
(A) ロック
(B) 連結解除ペダル格納位置
(C) 連結

警告

- **道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。**
- **運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。**
- **溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組合せごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。**
- **作業機を装着して道路走行する場合には、ほかの車・電柱またはガードレールなどに作業機を引掛けて、事故の原因になるので、注意してください。**
- **道路走行時には傾き自動切替スイッチを必ず切り（位置制御）にして走行してください。**
- **作業灯は道路運送車両法の保安基準第 42 条（灯火の色等の制限）において、走行中に使用しない灯火とされています。点灯したまま道路走行するとほかの交通車両の妨害となるので道路走行中は点灯しないでください。**

補足：

- **電子メータに"PTO N"と表示されたときは、すみやかにトラクタを止め、PTO クラッチコントロールスイッチを[切]（OFF 位置）にしてください。この表示は、PTO クラッチコントロールスイッチを[入]位置または[自動]位置にして車速が 15 km/h を超えて走行しているときに表示されます。**
- 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向をほかの自動車に知らせてください。
- 夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ヘッドライトを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意してください。
- 踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。
- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる低速車(SMV)マークを取り付けてください。

6. トラックへの積み・降ろし

警告

- **あゆみ板は、じゅうぶんな強度・幅・長さ（傾斜が 15°以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し、途中での変速はしないでください。**
- **道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高 3.8 m 以下で運行してください。**

1. トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを連結しバックで行ってください。
2. 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

7. パワーステアリングの取扱い

注意

- **パワーステアリングはエンジン運転中、ハンドル操作がたいへん軽くなりますので、走行は慎重に行ってください。**

重要：

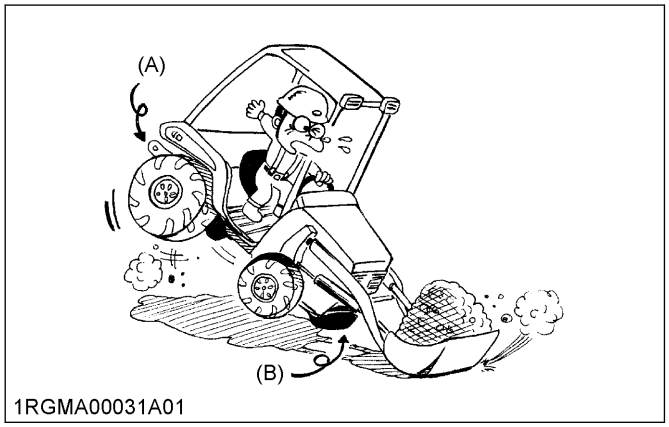
- **パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。**
- **ローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。**
- **ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません）また、ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけ避けてください。**
- **不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は、タイヤおよびリムなどの損耗を早めるので避けてください。**

- **冬期は暖機運転をじゅうぶん行ってから使用してください。**

8. ローダ作業を安全に行うための注意事項

ローダ作業時の転倒事故を防止するために、次のことがらを必ず守ってください。

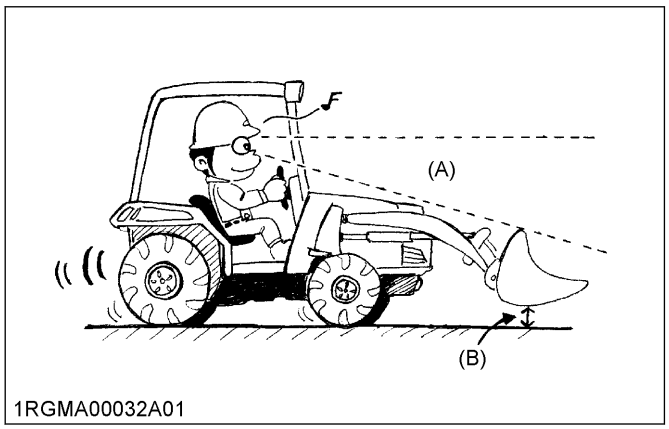
- **トラクタ後部にカウンタウエイトを取り付ける！**
  トラクタ後部に、3 点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取り付け、前・後のバランスを保つようにしてください。



1RGMA00031A01

(A) カウンタウエイトを取り付ける
(B) ウエイトを外す

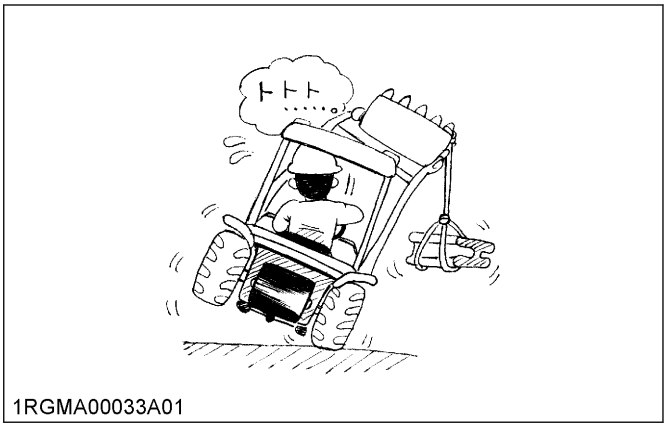
- **運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！**
  運搬・走行するときは、積荷の高さを地上から 30～50 cm にし、速度も 5 km/時以下で走行してください。
  特に傾斜地・悪路では、速度をひかえめに慎重に走行してください。



1RGMA00032A01

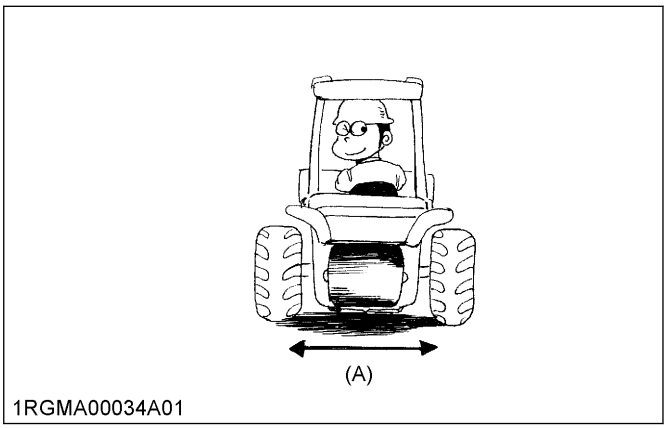
(A) 視界良好
(B) *30～50 cm*

- **片持ち作業をしない！**
  片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので、荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



1RGMA00033A01

- **後輪トレッドはできるだけ広げる！**
  作業時はトラクタの安全性を増すため、後輪トレッドはできるだけ広げてください。



1RGMA00034A01

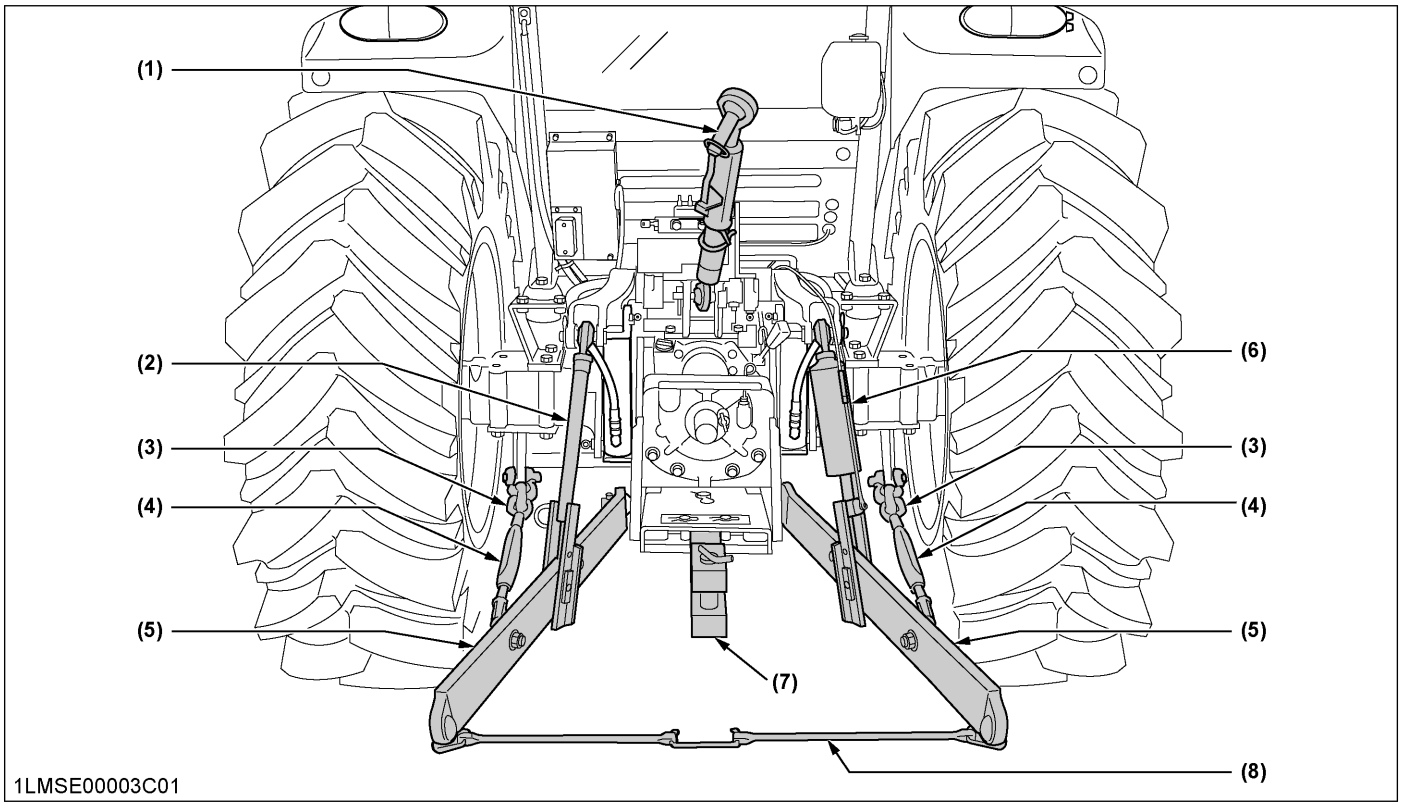
(A) できるだけ広げる

以上、ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために、主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの取扱説明書をよく読んで安全に作業をしてください。

作業のしかた

3 点リンク

1. 3点リンクの各部の名称



(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) リフトシリンダ
(7) けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション）
(8) 振止めゴム

2. 作業機の取付け

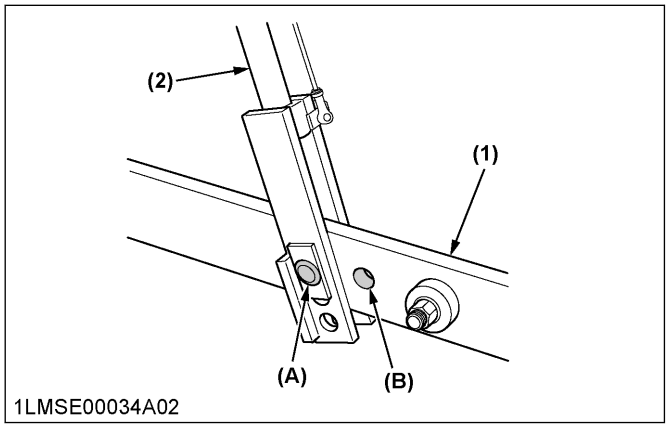
1. 作業機取付け前の準備
   - ロアーリンク取付け穴を選択します。
     （詳細は、ロアーリンク取付け穴の選択（100 ページ）を参照）
   - リフトロッドの長さを調整します。
     （詳細は、リフトロッド（左）の長さ調整（100 ページ）を参照）
2. 作業機の着脱

⚠ 警告
- **作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。また、ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキが掛かっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は、固い平たんな場所で行ってください。**
- **作業機を取り付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**

   - トップリンクを装着します。
     （詳細は、トップリンク（100 ページ）を参照）
   - ロアーリンクの高さを調整します。
     （詳細は、傾き自動外部操作スイッチ（101 ページ）を参照）
   - チェックチェーンを調整します。
     （詳細は、チェックチェーンの調整（101 ページ）を参照）

2.1 ロアーリンク取付け穴の選択

使用する作業機によって取付け穴を選択してください。一般作業機を使うときは、ロアーリンクの**前穴**を使ってください。

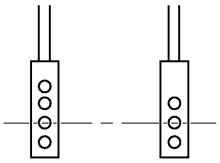
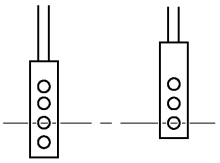


(1) ロアーリンク　　*(A)* 前穴
(2) リフトシリンダ　　*(B)* 後穴

2.2 リフトロッド（左）の長さ調整

リフトロッド穴位置で長さを調整します。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は左右対称になるようにしてください。

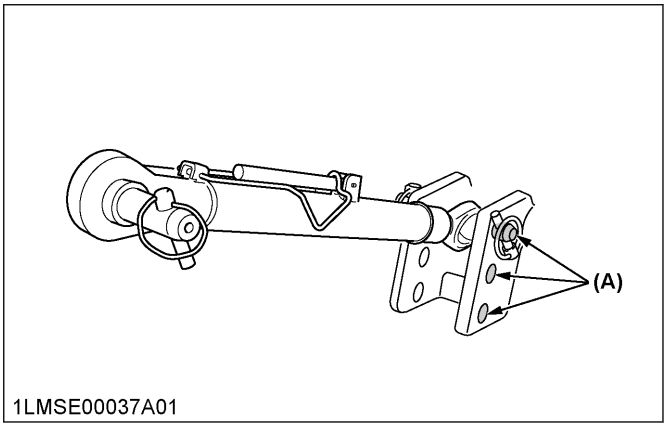
良い例	悪い例
リフトロッド　リフトシリンダ	リフトロッド　リフトシリンダ
	
1NBCJ00122A02	1NBCJ00122B02
同じ位置の穴	異なる位置の穴

リフトロッド（左）の下の 3 個の穴では作業機の高さが確保できない場合は、上 2 個の穴を使用し、リフトシリンダで作業機の水平を調整してください。

補足：
- **作業機をいっぱいまで持ち上げたい場合、傾き自動切替スイッチを切り（位置制御）にし、リフトシリンダは上穴を使い最短まで縮め、リフトロッドは上穴を使ってください。ただしトラクタと作業機のすき間に注意してください。**

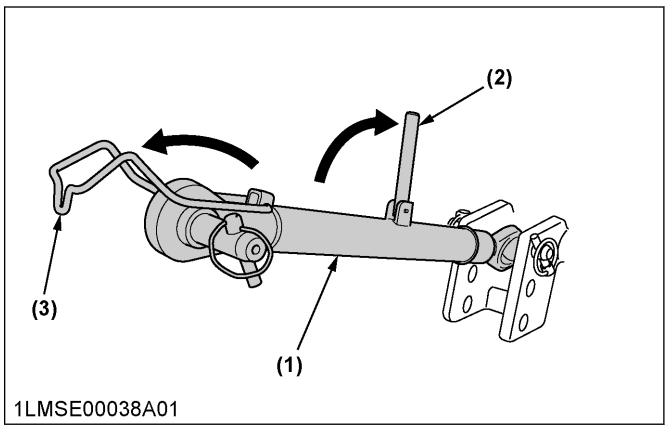
2.3 トップリンク

取付け穴の選択
使用する作業機によって取付け穴を選択してください。プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合、トップリンクブラケットの下穴を使用するほど、ドラフト感度がよくなります。



(A) 取付け穴

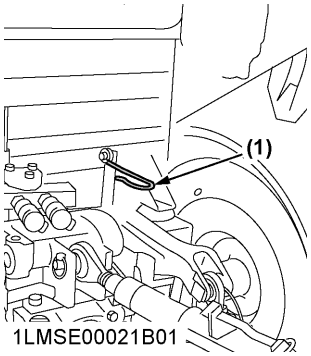
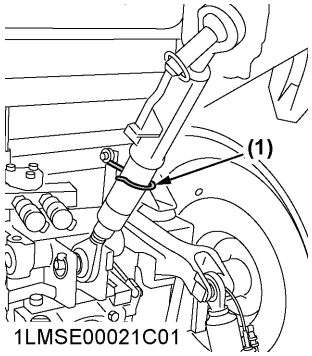
トップリンク長さの調整
ロックスプリングを外し、ハンドルを回します。
トップリンクを伸縮させて、作業機の傾きを調整してください。調整後はロックスプリングでハンドル部を確実に固定してください。



(1) トップリンク
(2) ハンドル
(3) ロックスプリング

補足：
- **トップリンクの取付け穴および長さは、取り付ける作業機の取扱説明書をご覧ください。**

トップリンクの格納
トップリンクを使用しない時は、トップリンクをトップリンクホルダで格納してください。
トップリンクを使用する時は、トップリンクホルダを下向きにしてください。

トップリンク使用時	トップリンク格納時
	
1LMSE00021B01	1LMSE00021C01

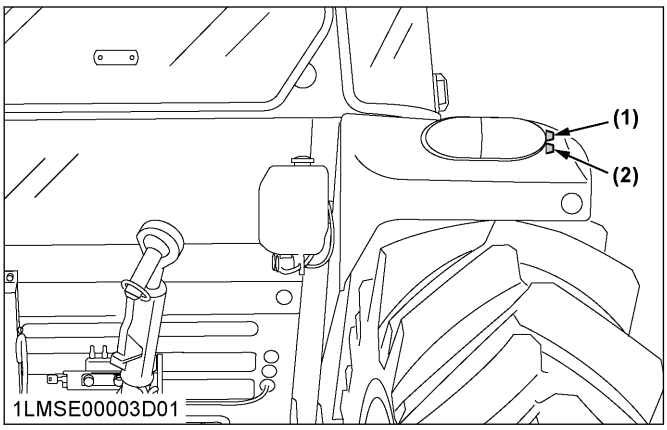
(1) トップリンクホルダ

補足：
- **トップリンクホルダを下向きにしないで 3 点リンクを上げると、トップリンクホルダが破損する場合があります。**

2.4 傾き自動外部操作スイッチ

傾き自動用リフトシリンダを伸縮するときに使用します。

⚠ 警告
- **作業機を装着しているときは、特に機械に巻き込まれるおそれがありますので、操作しないでください。**



(1) 傾き自動外部操作スイッチ（上昇側）
(2) 傾き自動外部操作スイッチ（下降側）

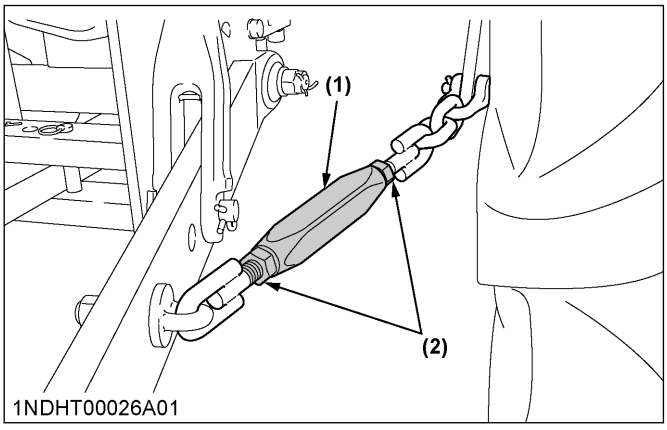
傾き自動外部操作スイッチ上昇側または下降側を押すと、傾き自動用リフトシリンダが伸縮します。
傾き自動水平制御のときにこのスイッチを操作すると、電子メータ内の傾き自動ランプが点滅します。解除方法は、傾き自動の安全ロック機能（84 ページ）を参照。

2.5 チェックチェーンの調整

作業機の種類によってチェックチェーンの張り具合を調整してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ、ハロー、サブソイラ、ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 cm～6 cm 動く程度
モーア、ヘイレーキ、テッダ、リッジャ、カルチベータ	軽く締める
ロータリ	作業機が横方向に 1 cm～2 cm 動く程度

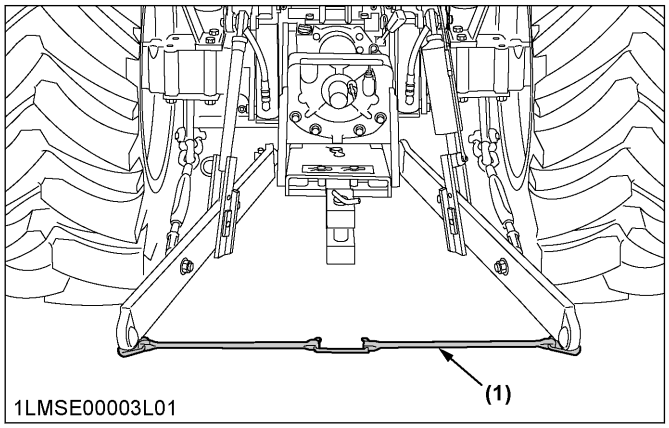
1. ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限してください。
2. 調整後はロックナットでターンバックルを固定してください。



(1) ターンバックル
(2) ロックナット

2.6 作業機を取り付けないときの注意

作業機を取り付けないときは、ロアーリンクが後輪に当たらないように、左右振止めゴムをしてください。



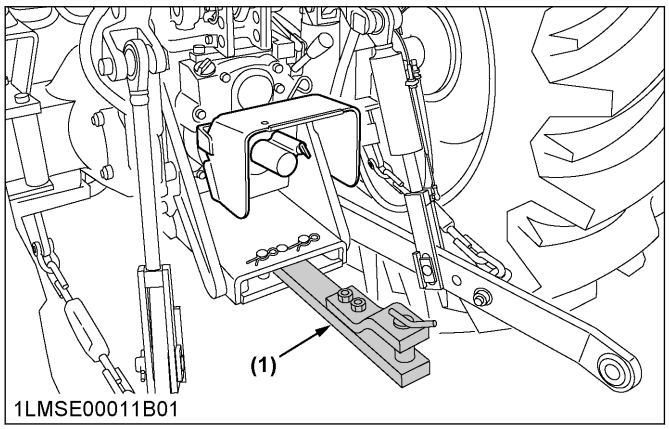
(1) 振止めゴム

けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション）

⚠ 警告

- **けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し、トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **3 点リンクに取り付け、PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取り出す作業機（ロータリ、ブロードキャスタなど）を使用するときは、けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと、ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し、事故を起こすおそれがあります。**

けん引は、このトラクタ用に採用している作業機のみにしてください。
ほかの物をけん引する場合は、必ず購入先にご相談ください。



(1) けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション）

PTO

⚠ 警告

- **巻込まれによる死傷事故を防ぐため、PTO クラッチコントロールスイッチが[入]位置または[自動]位置のときは作業機に近づかないでください。**
- **PTO クラッチコントロールスイッチが[入]位置のときは、PTO 軸には触れないでください。レバー操作などで PTO 軸が回転し巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

1. PTO クラッチコントロールスイッチ

走行に関係なく PTO クラッチコントロールスイッチを**[入]**位置または**[自動]**位置にすると、PTO クラッチが接続されます。

⚠ 警告

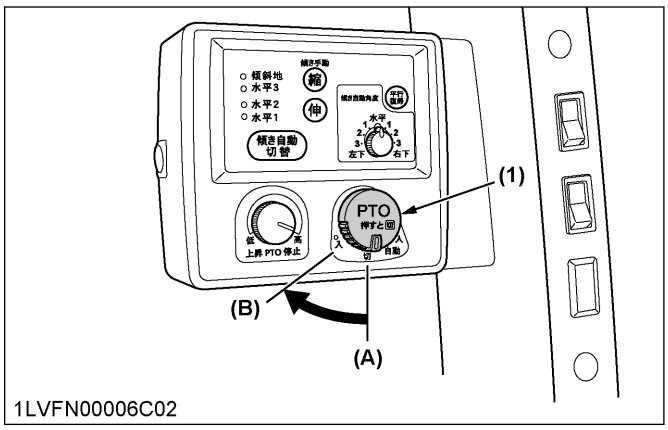
- **走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。**
  PTO を止めるには、PTO クラッチコントロールスイッチを[切]位置にしてください。
- **上昇 PTO 停止モードは、ほ場作業以外のときは使用しないでください。**
- **上昇 PTO 停止モードは、ロータリ、ハロー作業のみで使用してください。**
- **上昇 PTO 停止モードをロータリ、ハロー以外の作業に使うと作業機の破損、思わぬトラブルが起こるおそれがあるので使わないでください。**
  （ハーベスタの草わらつまり、バイブロサブソイラの地中でのロックなど。）
- **上昇 PTO 停止モードが作動のときは、作業機の昇降操作で PTO が回転します。周囲の確認をじゅうぶんに行って作業をしてください。**

補足：

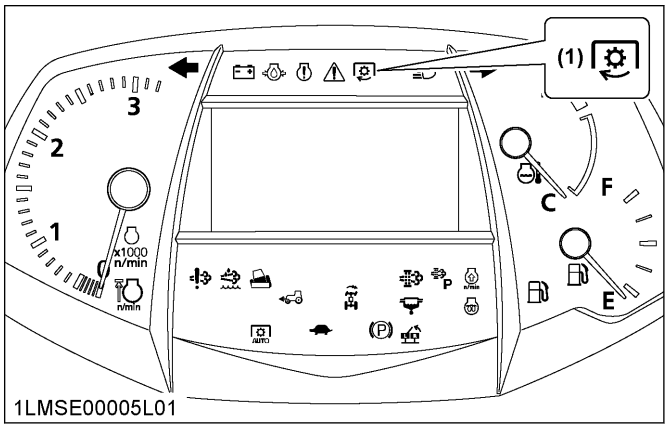
- **PTO クラッチコントロールスイッチが[切]位置でないとエンジンが始動できません。**

PTO スイッチ[入]

1. スイッチを押しながら**[入]**方向に回すと電子メータ内の PTO ランプが点灯し、PTO が作動します。
2. スイッチを押すと、**[切]**位置に戻り、PTO が停止します。



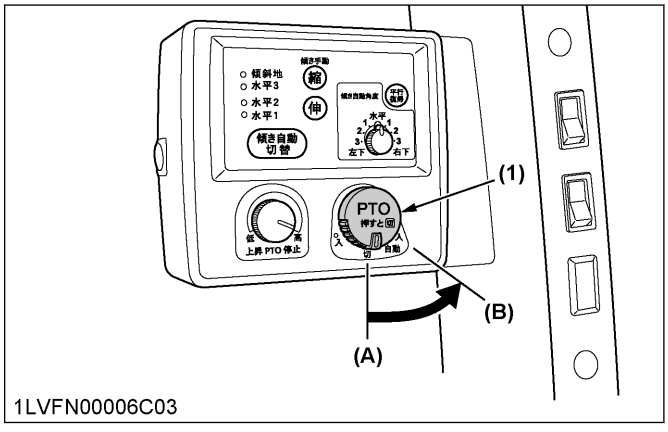
(1) *PTO* クラッチコントロールスイッチ
(A) 切
(B) 入



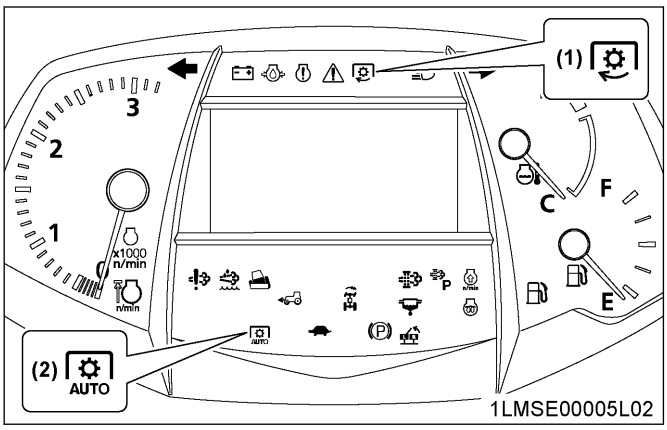
(1) *PTO* ランプ

PTO スイッチ[自動]

1. スイッチを押しながら**[自動]**方向に回すと、電子メータ内の上昇 PTO 停止ランプが点灯し、上昇 PTO 停止モードが作動します。
2. スイッチを押すと、**[切]**位置に戻り、上昇 PTO 停止モードが停止します。



(1) *PTO* クラッチコントロールスイッチ
(A) 切
(B) 自動



(1) *PTO* ランプ
(2) 上昇 *PTO* 停止ランプ

2. 上昇 PTO 停止モード

ポジションレバーの上げ操作により PTO 回転が自動停止し、ポジションレバーの下げ操作により PTO 回転が始まります。ロータリ、ハロー作業での旋回時における泥、ほこりの飛散、うっかりミスによる障害物の破損を軽減させることができます。

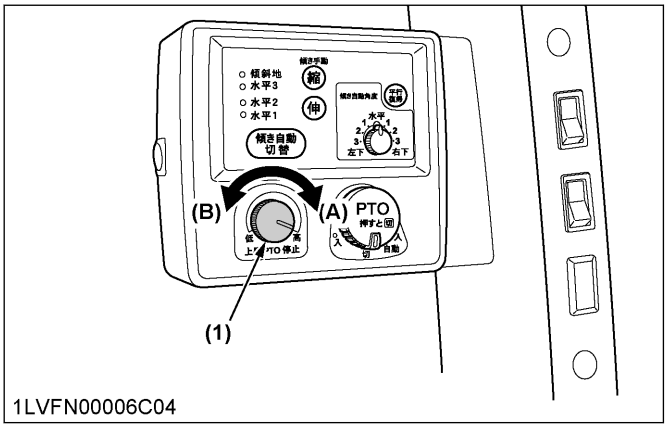
補足：

- **上昇 PTO 停止機能により PTO 回転が停止している間は、ブザーが鳴り PTO ランプが点滅します。**

上昇 PTO 停止モードの高さ設定

PTO 回転の自動停止のタイミングは、上昇 PTO 停止高さ調整ダイヤルで設定できます。

- 作業機（PTO）を高い位置から回転させたいときは、高さ調整ダイヤルを**[高]**方向に回してください。
- 作業機（PTO）を低い位置で回転させたいときは、高さ調整ダイヤルを**[低]**方向に回してください。



(1) 上昇 *PTO* 停止高さ調整ダイヤル
(A) ***[高]***
(B) ***[低]***

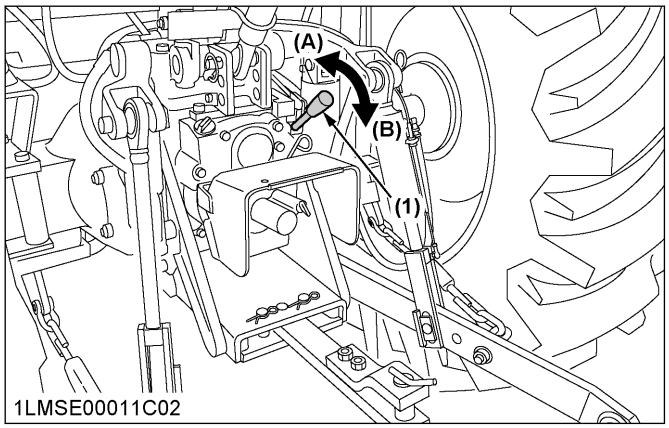
3. PTO 変速レバー

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を、2 段階に変速できます。

⚠ 警告

- **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用しないでください。**

変速操作時は、必ず PTO クラッチコントロールスイッチを切ってから行ってください。

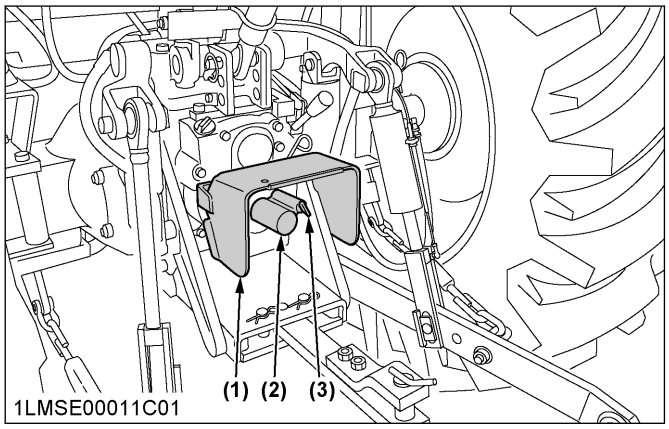


(1) PTO 変速レバー
(A) 750 rpm
(B) 540 rpm

4. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

⚠ 警告

- **PTO 軸を使わないときは、PTO 軸にグリースを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けておいてください。そうしないと、巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **PTO 軸キャップを使用しないときは、PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**
- **PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。**
- **PTO 軸カバーの上に乗らないでください。**



(1) PTO 軸カバー
(2) PTO 軸キャップ
(3) 蝶ボルト

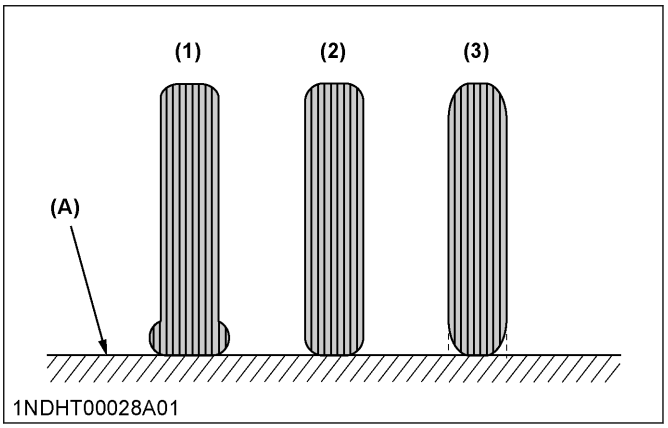
タイヤ

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。**
  （特別教育を受けた人が行うように、法で決められています）

1. タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 空気が不足
(2) 標準
(3) 空気が多い
(A) 接地面

標準空気圧

前輪

	通常時	ローダ装着時※
11.2-24	180 kPa 1.8 kgf/cm^2	200 kPa 2.0 kgf/cm^2
12.4-24	160 kPa 1.6 kgf/cm^2	180 kPa 1.8 kgf/cm^2

※ローダ装着時は前輪を適切な輪距に設定してください。
（設定方法は、前輪輪距一覧表（107 ページ）を参照してください。）

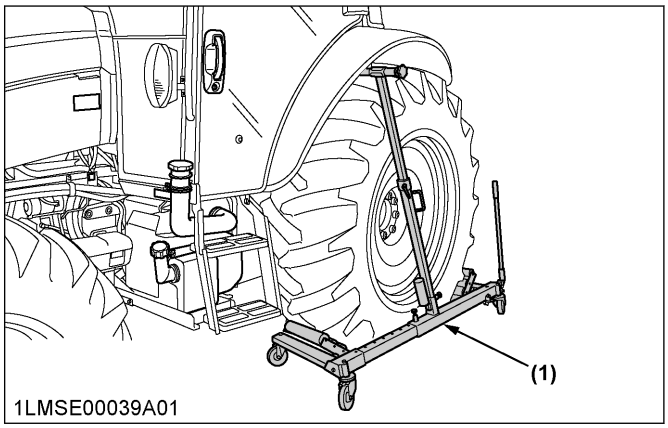
後輪

13.6-38H	140 kPa 1.4 kgf/cm^2
16.9-34	120 kPa 1.2 kgf/cm^2

H はハイラグタイヤを示します。

2. タイヤの取外しの注意

タイヤは重量物です。取外し時は次の注意事項を守ってください。
- 硬くて平たんな場所で行ってください。
- 駐車ブレーキと車輪止めを併用してください。
- 後輪を外す時は、くさびで前車軸の揺動を規制してください。
- 耐荷重のあるジャッキなどを使用してください。
- 適切なタイヤリムーバを使用してください。
- ボルトやナット類は規定トルクで締めてください。



(1) タイヤリムーバ

輪距の調整

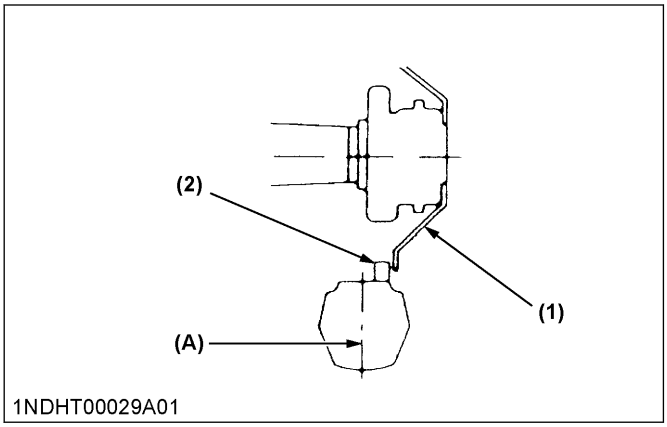
警告
- **けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は、左右の安定を良くするため、支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。**

重要：
- **決められた輪距以外では使用しないでください。**

補足：
- **タイヤは、両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。**
- **後輪ウエイトは、すべての輪距で取り付けられます。**

前輪

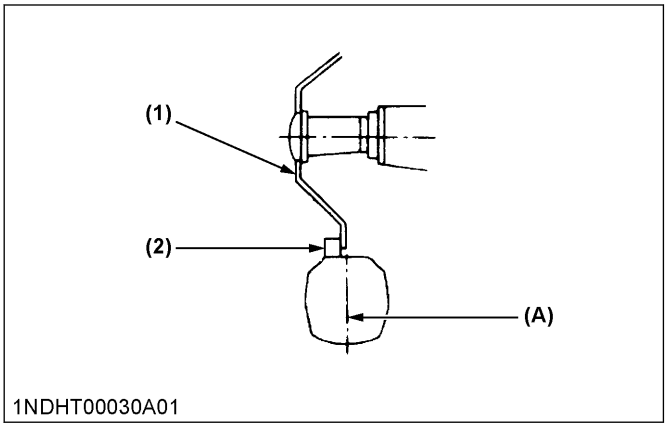
可変タイヤ仕様の場合、リムとディスクの取付け位置変更により、輪距の調整が行えます。



(1) 前輪ディスク
(2) 前輪リムブラケット
(A) 輪距

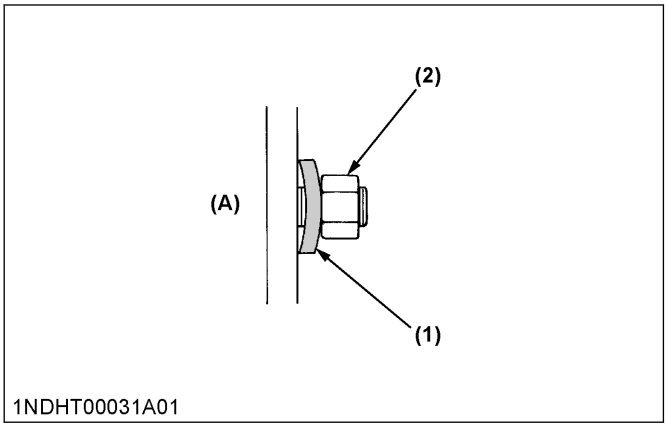
後輪

リムとディスクの取付け位置変更により、輪距の調整が行えます。（タイヤの仕様により異なります。）



(1) 後輪ディスク
(2) 後輪リムブラケット
(A) 輪距

取付け時の注意事項
- 皿バネの取付け方向にはじゅうぶん注意し、図のようにしてください。



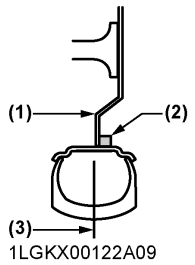
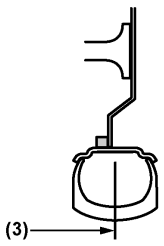
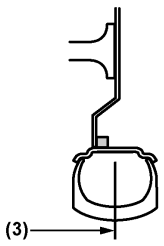
(1) 皿バネ
(2) ナット
(A) ディスク側

- フロントローダ作業など重作業時、タイヤのボルト、ナットは規定トルクでじゅうぶん締めあげ、締め忘れのないよう注意してください。また、しばら

く作業した後、再度トルクチェックを行い、増締めを行ってください。

- ボルト、ナット、スタッド、皿バネやリム、ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると、規定トルクまで締まりあがりませんので、シンナなどで油分を拭き取ってください。

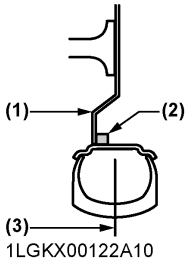
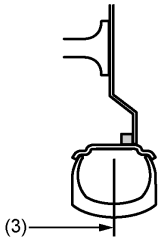
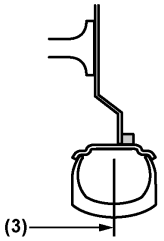
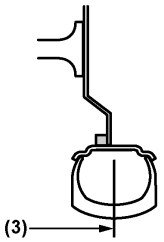
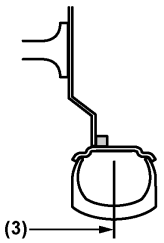
1. 前輪輪距一覧表

	バイアスタイヤ	11.2-24	12.4-24
輪距			
[1]	 1LGKX00122A09 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪ブラケット *(3)* 輪距	1560 mm	1540 mm
[2]	 1LGKX00122A02	1540 mm	1560 mm
[3]	 1LGKX00122A03	1640 mm *1*2	1660 mm *1*2

*1 出荷時の輪距

*2 ローダ装着時

2. 後輪輪距一覧表

	バイアスタイヤ	13.6-38H	16.9-34
輪距			
［1］	 1LGKX00122A10 *(1)* 後輪ディスク　*(2)* 後輪ブラケット　*(3)* 輪距	1500 mm	1500 mm
［2］	 1LGKX00122A04	1600 mm *1	1600 mm *1
［3］	 1LGKX00122A05	1700 mm	1700 mm
［4］	 1LGKX00122A06	1800 mm	1800 mm
［5］	 1LGKX00122A07	1900 mm	1900 mm

*1　出荷時の輪距

ウエイト（オプション）

⚠ 警告

- **トラクタ後部用作業機を装備したとき、かじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。**
- **装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。**
- **フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください（詳細は購入先にご相談ください）。**

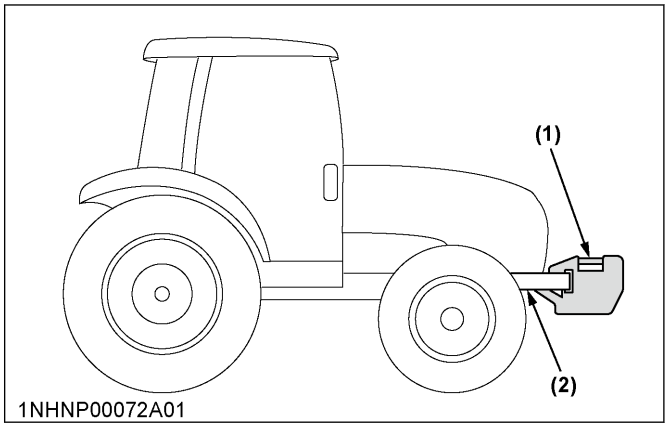
1. 前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **次表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト	45 kg×10 枚



(1) 前部ウエイト
(2) フロントウエイト取付台

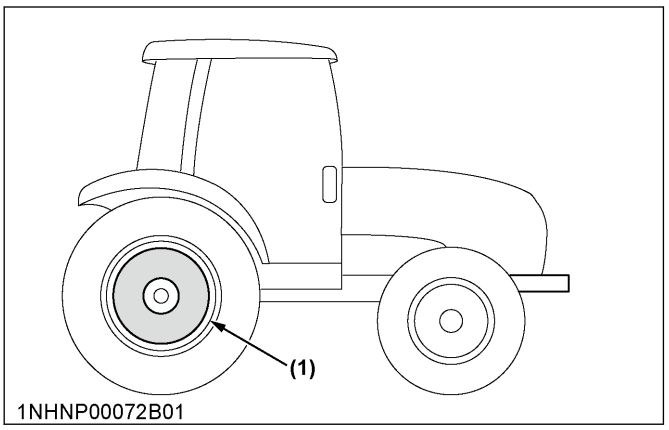
2. 後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **次表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト	50 kg×2 枚/片側タイヤ



(1) 後輪ウエイト

補足：

- **ウエイトの着脱は、オプションキット内の要領書を参照してください。**

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

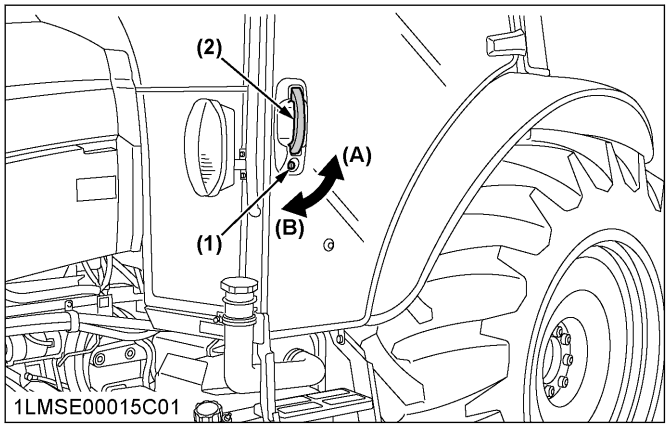
⚠ 注意
- **リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください（開放時頭などを打つおそれがあります）。**
- **ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。**
- **ガラスの取扱いはていねいに行ってください。**

1. ドア

ドアの開閉とロックのしかた

車外から

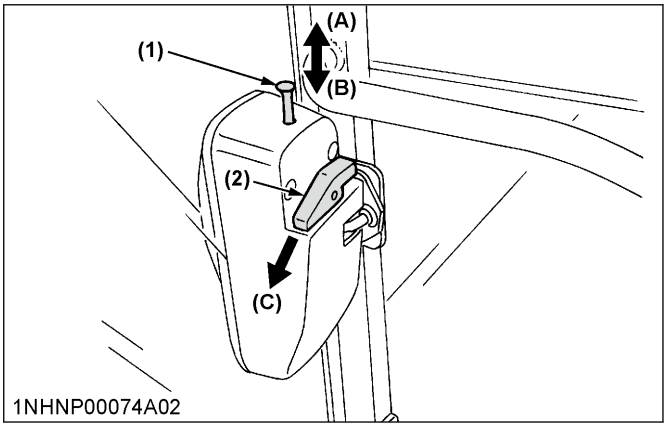
キーを回すと施錠、解錠されます。ドアアウタハンドルを引き、開けます。



(1) ドアキー　*(A)* 施錠
(2) ドアアウタハンドル　*(B)* 解錠

車内から

ロックノブを下げると施錠、上げると解錠されます。インナハンドルを引き、開けます。



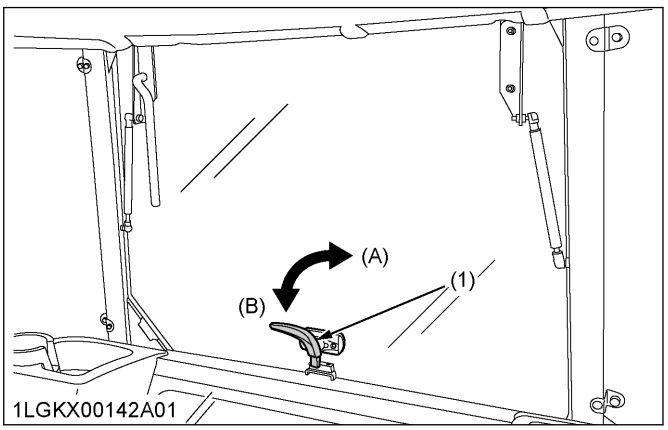
(1) ロックノブ　*(A)* 解錠
(2) インナハンドル　*(B)* 施錠
(C) 開く

補足：
- **ドアにぶらさがったり、作動範囲以上に無理に押し開かないでください。**

2. リヤウインド

重要：
- **作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので、開閉するときにはじゅうぶん確認して行ってください。**
- **リヤウインドを開放したままで、作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので、作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。**
- **リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。**

リヤウインドハンドルを時計方向に回し、そのまま押すと、ダンパの作用で容易に開くことができます。



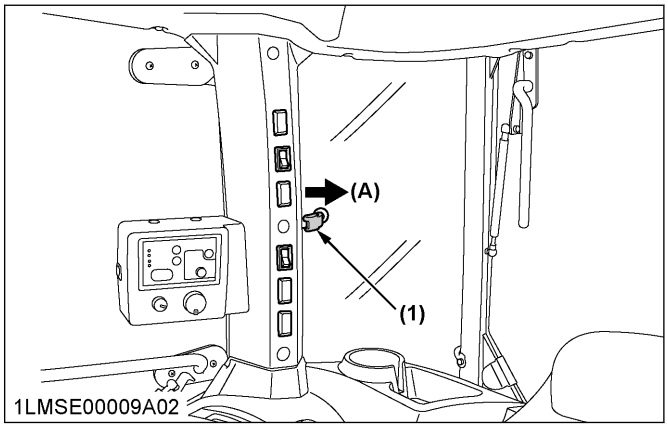
(1) リヤウインドハンドル　*(A)* 開
(B) 閉

3. クォータウインド

重要 :

- **クォータウインドを開放したままで、悪路走行をしないでください。**

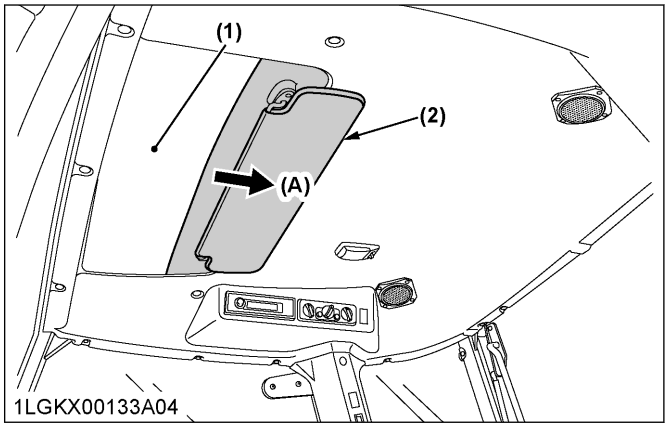
止め金具を手前に引き、ガラスと共に外側へ押すと開きます。



(1) 止め金具 *(A)* 引く

4. ルーフパネル

フロントローダ持上げ時、先端アタッチメント（バケット、フォークなど）の位置や角度が運転席より目視確認できます。
サンシェードを開けるときは、中央部を持ち、後方へスライドさせてください。



(1) 天窓 *(A)* 引く
(2) サンシェード

ルームランプ

必要に応じてスイッチを切り替えてください。

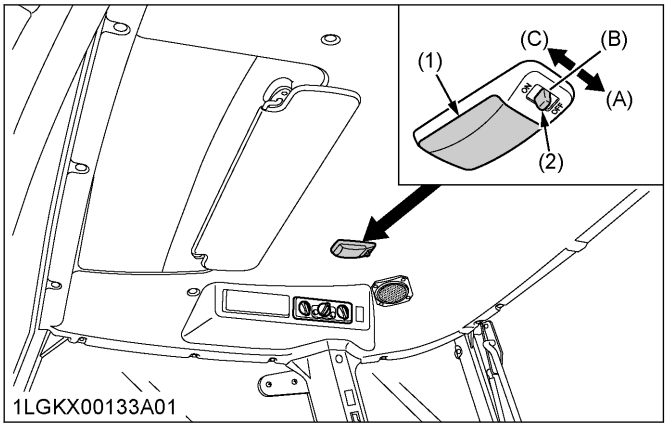
重要 :

- **ルームランプの点灯によるバッテリ上がり防止のため、左ドアは必ず閉めてください。**

[OFF]
常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[•]
左ドアを開けるとランプが点灯し、閉めるとランプは消灯します。

[ON]
ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



(1) ルームランプ
(2) スイッチ
(A) ***[OFF]***
(B) ***[•]***
(C) ***[ON]***

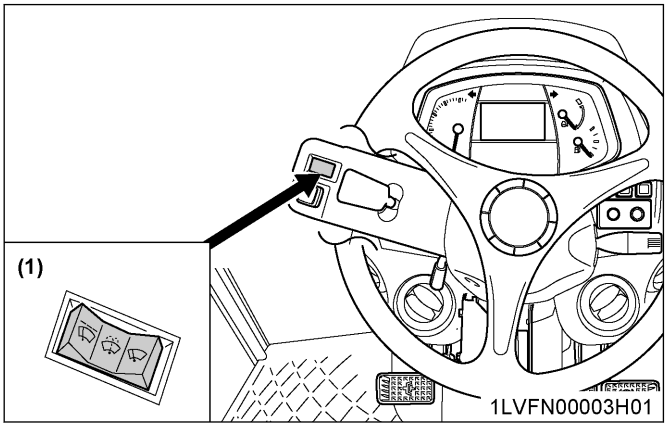
ワイパ

1. フロントワイパ･ウォッシャスイッチ

重要 :

- **から拭きはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの右側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの左側を 1 段押すと、間欠ワイパが作動します。(少雨時使用)
  さらに 2 段目を押すと、押している間のみワイパが作動したまま、ウォッシャ液が噴射します。

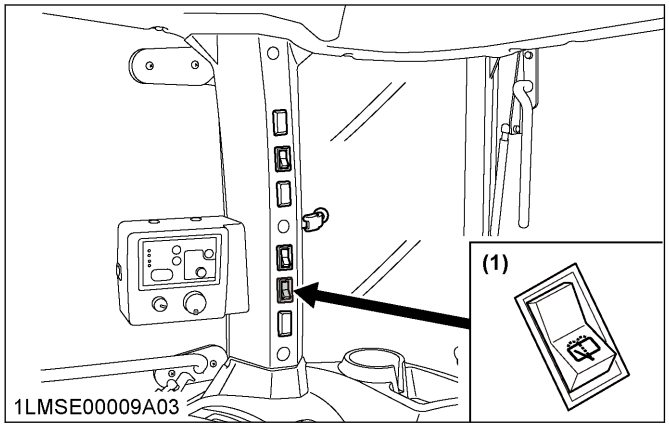


(1) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ（オプション）

重要：
- **から拭きはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの下側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの上側を押し込むと、ウォッシャ液が噴射します。



(1) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

3. 寒冷時のワイパの使用

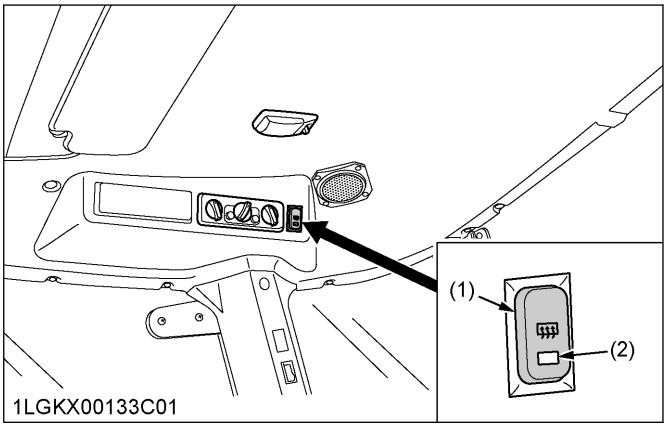
重要：
- **寒冷時には、ワイパブレードおよびワイパモータに過大な負担が掛かることがあります。そのため、ワイパブレードおよびワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため、次のことを必ず守ってください。**

- 寒冷時には、ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
- ガラスに雪が積もっているときには、雪を取り除いてからワイパを使用してください。
- ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは、必ずキースイッチを**[切]**位置にしてブレード部の氷を取り除いてから再度起動させてください。
- 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は、標準装着品と同サイズか、それ以下のサイズのものを使用してください。

4. リヤデフォッガスイッチ（オプション）

リヤウインドガラスにくもりが発生したとき、スイッチを押すとスイッチランプが点灯し、ガラスのくもりがとれます。
熱線は約 15 分間通電後、自動的に切れます。
手動で切りたいときは、再度スイッチを押してください。スイッチランプが消灯し、スイッチが切れます。

補足：
- **熱線に荷物などが当たらないようにしてください。**



(1) リヤデフォッガスイッチ
(2) スイッチランプ

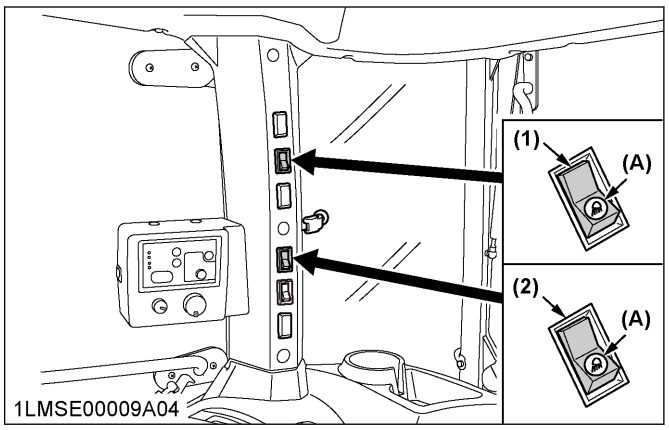
作業灯

警告
- **作業灯は道路運送車両法の保安基準第 42 条（灯火の色等の制限）において、走行中に使用しない灯火とされています。点灯したまま道路走行するとほかの交通車両の妨害となるので道路走行中は点灯しないでください。**

重要：
- **バッテリが上がりますので、ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を 1800 rpm 以上にしてください。**

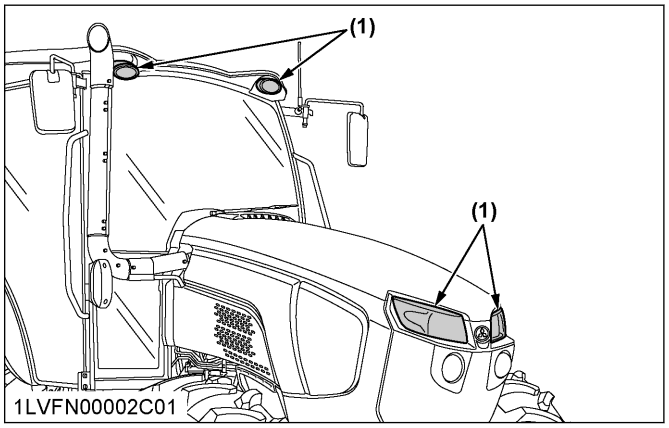
1. 作業灯スイッチ

作業灯スイッチの下側を押すと作業灯が点灯し、スイッチの上側を押すと消灯します。
またスイッチには、作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



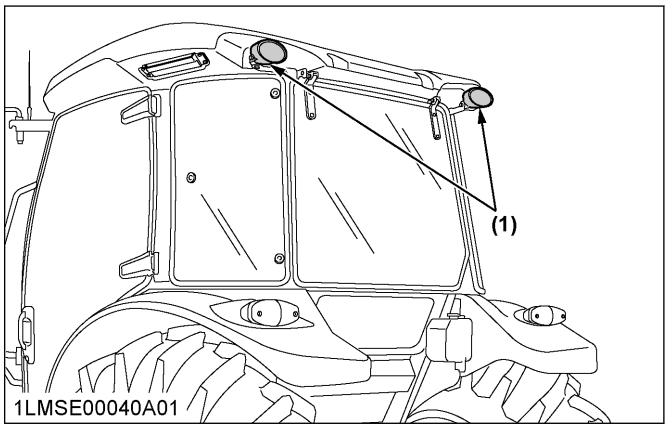
(1) 作業灯（前）スイッチ　*(A)* インジケータランプ
(2) 作業灯（後）スイッチ

2. 作業灯（前）



(1) 作業灯（前）

3. 作業灯（後）



(1) 作業灯（後）

エアコン

1. フロンの取扱いの注意

このエアコンは、フロン排出抑制法に定められる第一種特定製品です。

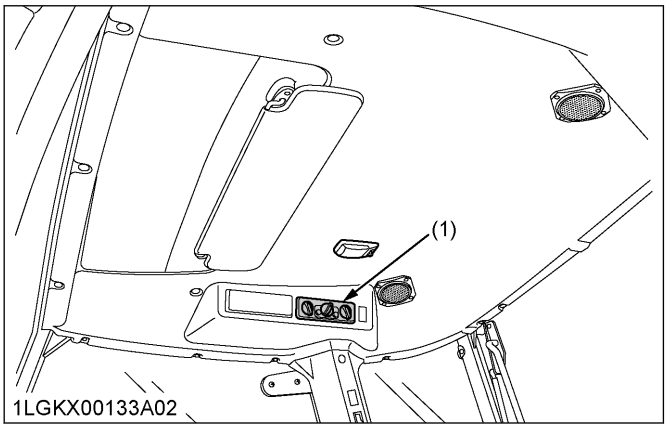
地球環境を保護するため、次のことが法律で決められており、違反した場合は罰せられます。

- この製品に封入されている冷媒をみだりに大気中に放出しないでください。
- この製品を廃棄、整備する場合にはフロン類の回収が必要となります。
  回収業者に依頼のうえ、回収済の証明をもらってください。
- フロン回収済の証明がなければ、廃棄物業者およびリサイクル業者による製品の引取りは禁止されています。
- 冷媒の種類および数量

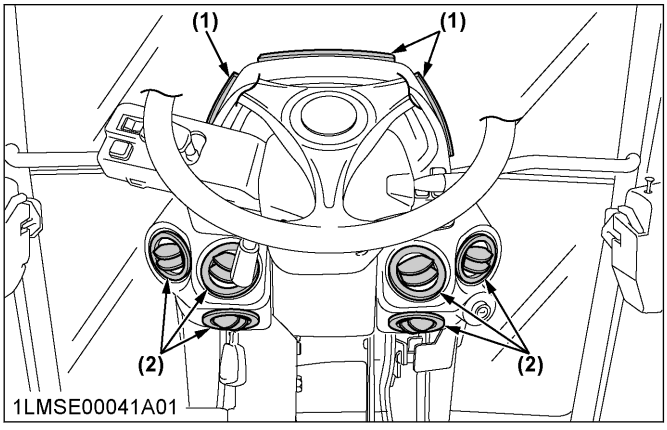
種類	冷媒番号	GWP 値	数量
HFC	R134a	1430	1.0 kg

2. 空気の流れ

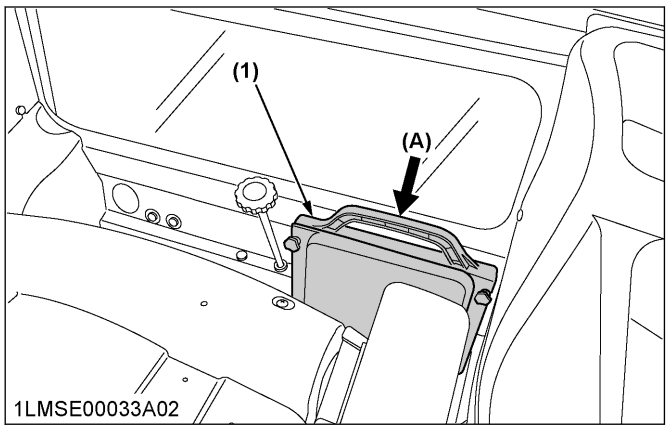
安全キャブ内の空気の流れは次の図の通りです。
吹出口の調節により、最適のコンディションが得られます。



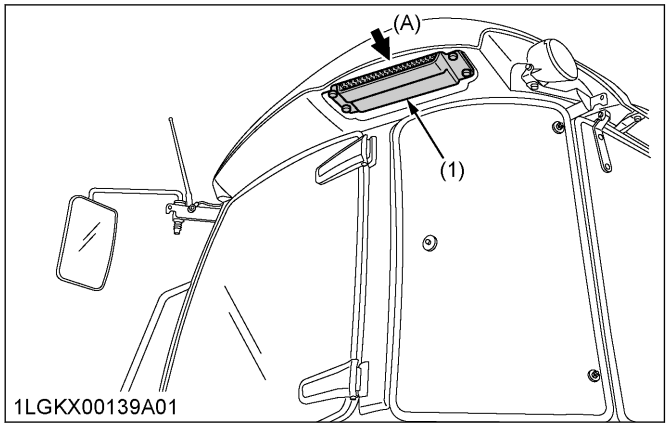
(1) コントロールパネル



(1) デフロスタ吹出口
(2) フロント吹出口



(1) 室内エアーフィルタ　*(A)* 内気循環導入口



(1) 外気フィルタ　*(A)* 外気導入口

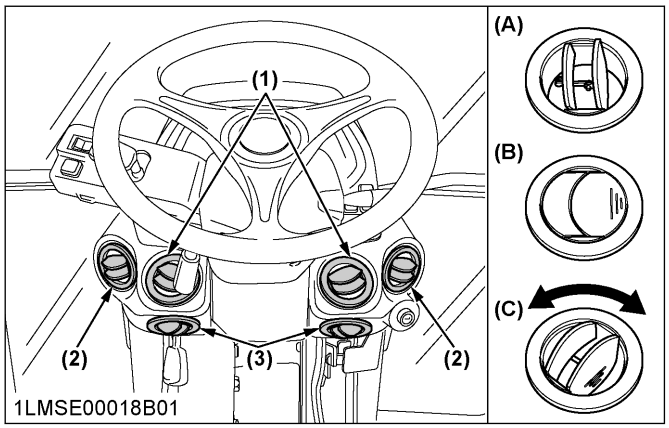
重要：

- **洗車時は外気導入口に、直接放水しないでください。**

3. 風向調整

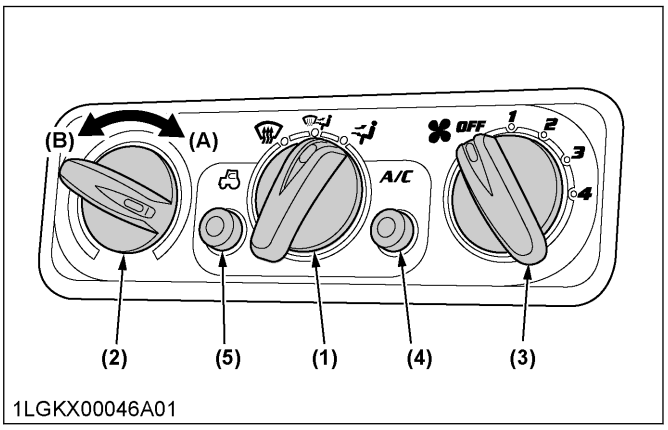
3.1 フロント吹出口

風の方向は、吹出口により自由に調整できます。



(1) 顔面用吹出口
(2) 背面用吹出口
(3) 足元用吹出口
(A) 開
(B) 閉
(C) 回す

4. エアコンコントロールパネルの名称と働き



(1) モード切換スイッチ
(2) 温度コントロールつまみ
(3) ファンスイッチ
(4) エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
(5) 内外気切換えスイッチ（インジケータランプ付）
(A) 温風
(B) 冷風

モード切換スイッチ

フェイス吹出口より風が出ます。

フロントとデフロスタ吹出口より風が出ます。

デフロスタ吹出口より風が出ます。

温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に回すと温風、左に回すと冷風が出ます。

ファンスイッチ

風量が 4 段階に切り換えられます。**[4]**は最も風量の多い位置です。

エアコンスイッチ

エアコンを使うときは、このスイッチを押して**入**にします。**入**のとき、インジケータランプが点灯します。

5. エアコンコントロールパネルの操作方法

暖房

1. モード切換スイッチを にします。
2. 内外気切換えスイッチを外気導入にします。
   早く室温を上げたいときは内気循環にします。
3. ファンスイッチ（**[1]・[2]・[3]・[4]**）と温度コントロールつまみを調整し、快適な温度にします。

   補足：
   - **夏期ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、温度コントロールつまみを冷風（左端）に寄せてください。**
4. フロント吹出口からの風量と風向を調整します。
   通常、足元用吹出口から温風を吹き出し、顔面用と背面用吹出口は閉じるように調整します。

冷房・除湿暖房

1. モード切換スイッチを にします。
2. 内外気切換えスイッチを外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し**入**にします。
4. ファンスイッチ（**[1]・[2]・[3]・[4]**）を作動させます。
5. 温度コントロールつまみを**冷風**または中間位置に調整し、快適な温度にします。
6. フロント吹出口からの風量と風向を調整します。
   通常、顔面用吹出口からの風量を増し、背面用と足元用吹出口からの風量を少なくなるように調整します。

デフロスト

フロントガラスの曇りおよび凍結除去するときは、

1. モード切換スイッチを にします。
2. 内外気切換えスイッチを外気導入にします。
3. ファンスイッチを**[4]**、温度コントロールつまみを**温風**（右端）にします。

6. ヒータ使用上の注意

警告

- **ウォータホースおよびヒータユニットに直接触れないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。**
- **異常を認めたとき、修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付きなどの重大な故障につながります。**

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
  （詳細は冷却水の交換（156 ページ）を参照）
- ウォータホースは 4 シーズンごとに交換を受けてください。

日常点検

次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
（ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付きなどの重大な故障につながります）

- ウォータホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ
- ウォータホースジョイント部の水漏れ
- ウォータホースの保護ブッシュおよびグロメットの外れ、破損
- 本体取付けボルトのゆるみ、ブラケットの破損

AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ（オプション）

注意

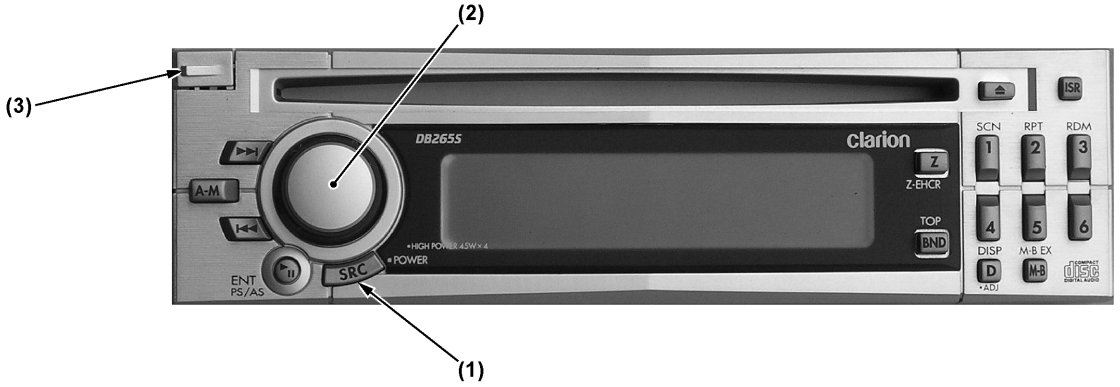
- **運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。**

1. AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ取扱い上の注意

- 本機はシステム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには、不調と処置を参照して障害を取り除いてください。障害を取り除けば、通常の動作になります。
  （詳細は AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置（169 ページ）を参照）
- 本機は、水分や高温、多湿を嫌いますので、車内清掃や換気にじゅうぶんご注意ください。
- 車内の温度に気をつけてください。
  極寒や酷暑のとき、とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。
- 本機操作は、安全性の面から停車中に行ってください。また運転中の音量は事故防止のため、車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
- 本機のお手入れは、乾いたやわらかい布で拭いてください。固い布や、ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽く拭き取ってください。

2. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのラジオモード・CD モード共通部

2.1 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの基本操作部



1NDHT00036A01

(1) ***[SRC]***ボタン　　*(2)* *VOLUME* ノブ　　*(3)* リリースボタン

電源の入 / 切とモード選択

1. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの電源が切れた状態で、**[SRC]**ボタンを押します。
   電源が入り、前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]**ボタンを押して、目的のモードを選択します。
   [SRC]ボタンを押すたびに、ラジオモードと CD モードが交互に切り換わります。
   CD モードにおいて、CD が入っていないときには、**[NO DISC]**と表示されます。
3. 電源を切るときは、**[SRC]**ボタンを約 1 秒間押します。

補足：

- **電源が切状態でも、キースイッチが[入]位置または[ACC]位置では、時計が表示されます。**
  時刻の設定は AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの時計設定部（118 ページ）を参照してください。

音量調節

1. VOLUME ノブを左右に調節します。
   - 音量を大きくしたいときは右へ回します。
   - 音量を小さくしたいときは左へ回します。

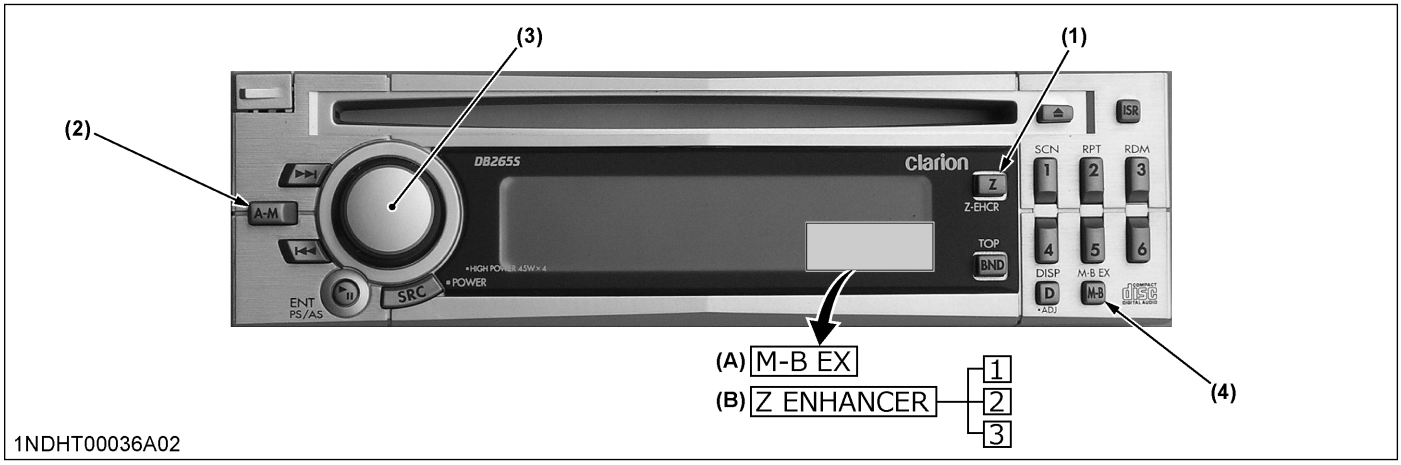
補足：

- **調節時はディスプレイに音量値が[VOLUME 0]～[VOLUME 33]の範囲内で表示されます。**

リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため、必要以上には取り外さないでください。また、頭上にあるので落とさないように注意してください。

2.2 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの音質調整部



(1) ***[Z]***ボタン
(2) ***[A-M]***ボタン
(3) *VOLUME* ノブ
(4) ***[M-B]***ボタン
(A) マグナベース *EX ON* 時点灯
(B) *Z* エンハンサーインジケータ

ワンタッチ設定での自動音質調整

補足：

- **音質は Z-エンハンサ機能が OFF のとき調整できます。**

1. **[Z]**ボタンを押して、お好みの音質に設定してください。
   [Z]ボタンを押すごとにインジケータ表示が次のように切り換わります。

インジケータ	備考	インジケータ	備考
[Z ENHANCER 1]	低音を重視したサウンド	**[Z ENHANCER 3]**	低音と高音を重視したサウンド
[Z ENHANCER 2]	高音を重視したサウンド	消灯（OFF）	初期設定

手動設定での音質調整

補足：

- **音質は Z-エンハンサ機能が OFF のとき調整できます。**

1. **[Z]**ボタンを押して、**[Z ENHANCER]**を **OFF**（消灯）にします。
2. **[A-M]**ボタンを押して、**[BASS]**または**[TREB]**を選択します。
   [A-M]ボタンを押すごとに次のようにディスプレイ表示が切り換わります。

ディスプレイ	備考	ディスプレイ	備考
[BASS]	低音部調整	**[FAD]**	–
[TREB]	高音部調整	消灯	元のソース
[BAL]	左右スピーカの調整		

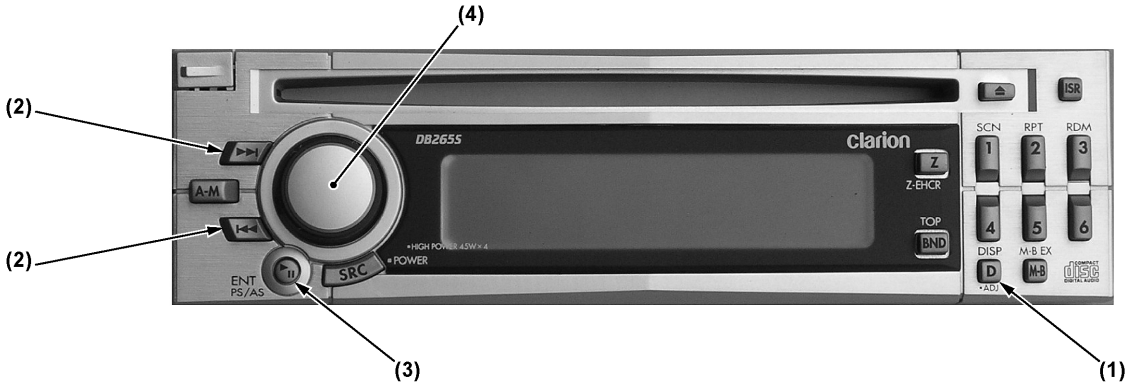
3. VOLUME ノブを左右に回し調節します。
   （調整範囲は、-7～＋ 7 です）
   - 音を強調したいときは、右へ回します。
   - 音を減衰したいときは、左へ回します。
4. **[A-M]**ボタンを再度押します。

設定が完了します。

重低音の増強

1. 重低音を増強したいときは、**[M-B]**ボタンを押します。
   マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になります。
2. マグナ・ベース EX 機能を解除するときは、**[M-B]**ボタンを再度押します。

2.3 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの時計設定部



1NDHT00036A03

(1) ***[D]***ボタン　*(2)* サーチボタン　*(3)* プレイ / ポーズボタン　*(4)* *VOLUME* ノブ

時計表示への切換え

1. **[D]**ボタンを押して、時計表示へ切り換えます。
   [D]ボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。
   - **ラジオモードの場合 (表示例)**
     周波数表示: **[FM 1 83.00]**
     時間表示: **[AM 10:05]**
   - **CD モードの場合 (表示例)**
     演奏状態表示: **[TO 1 00:01]**
     時間表示: **[PM 10:05]**

   補足：
   - **常に時計を表示させるには、スクリーンセーバー機能を[SS OFF]に設定します。**
     （詳細は AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのスピーカとスクリーンセーバー設定部（119 ページ）を参照）
   - **時計表示のときは、ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に、受信周波数やトラック No.などを表示した後、元の時計表示に戻ります。**

時計合わせの手順

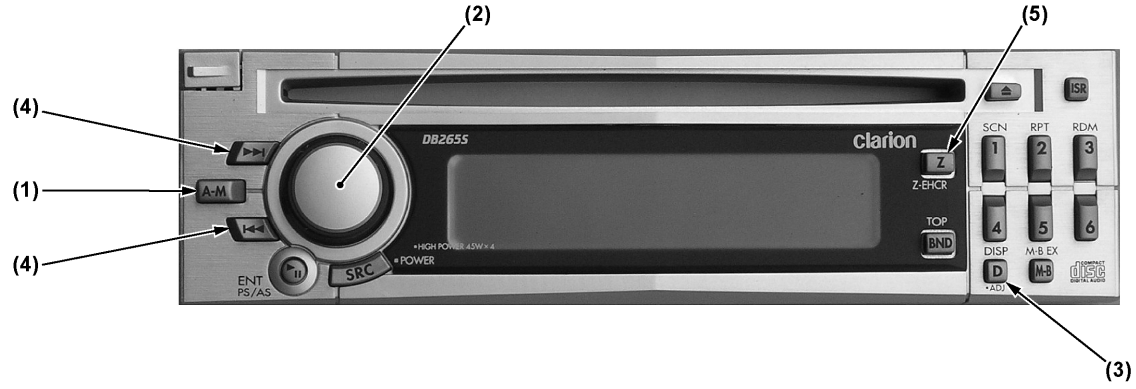
補足：
- **時計は 12 時間表示です。**

1. キースイッチを**[ACC]**位置または**[入]**位置にします。
2. **[D]**ボタンを約 1 秒間押し、**[SCRN SVR]**を表示させます。
3. サーチボタンを押して、**[CLOCK<E>]**を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
   調整時点（**[AM 10:16]**など）の時刻を表示して、時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して、「時」または「分」を選択します。
   選択した箇所が点滅します。点滅している項目が調整できます。
6. VOLUME ノブを回して、時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押します。

   補足：
   - **時刻を合わせる途中でほかのボタンを操作すると、時刻調整は解除されます。**

設定が完了します。

2.4 AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのスピーカとスクリーンセーバー設定部



1NDHT00036A04

(1) ***[A-M]***ボタン
(2) *VOLUME ノブ*
(3) ***[D]***ボタン
(4) サーチボタン
(5) ***[Z]***ボタン

左右スピーカの音量バランス調整

補足：
- **音量は Z-エンハンサ機能が OFF のとき調整できます。**
- **FAD の調整はできません。**
  （出荷時の初期設定は 0 になっています）

1. **[Z]**ボタンを押し、**[Z ENHANCER]**を **OFF**（消灯）にします。
2. **[A-M]**ボタンを押して、**[BAL]**を選択します。
   [A-M]ボタンを押すごとに次のようにディスプレイ表示が切り換わります。

ディスプレイ	備考
[BASS]	低音部調整
[TREB]	高音部調整
[BAL]	左右スピーカの調整
[FAD]	–
消灯	元のソース

3. VOLUME ノブを左右に回します。
   （調整範囲は、L13～R13 です）
   - 右側を強調したいときは、右へ回します。
   - 左側を強調したいときは、左へ回します。
4. **[A-M]**ボタンを再度押します。

設定が完了します。

スクリーンセーバーの設定

補足：
- **初期設定は[SS ON]です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は、[SS OFF]に設定しておいてください。**

1. **[D]**ボタンを約 1 秒間押し、**[SCRN SVR]**を表示させる。
2. サーチボタンを押して、**[SCRN SVR]**を選択します。
3. VOLUME ノブを回して、**[SS ON]**または**[SS OFF]**を選択します。

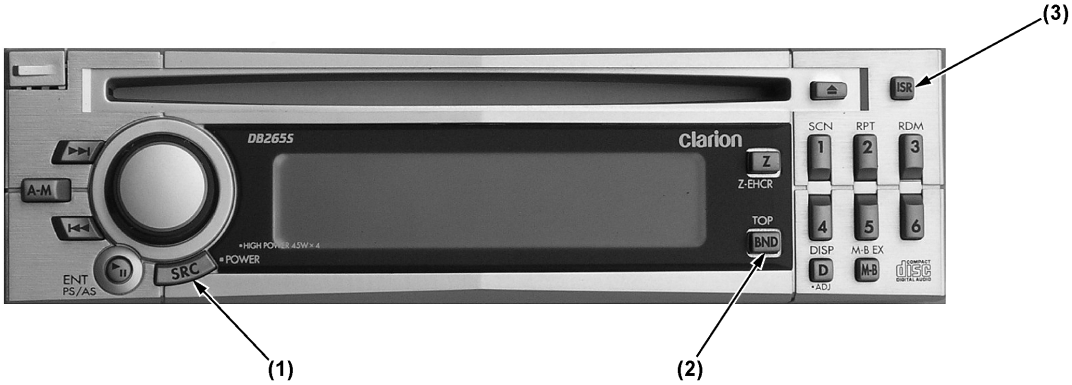
[SS ON]	スクリーンセーバー機能が ON になります。 演奏などの状態表示で 30 秒間何も操作しないと、スクリーンセーバー表示になります。
[SS OFF]	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]**ボタンを再度押します。

設定が完了します。

3. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのラジオモード

ラジオ設定部



1NDHT00036A05

(1) ***[SRC]***ボタン　　*(2)* ***[BND]***ボタン　　*(3)* ***[ISR]***ボタン



1NDHT00036A06

(1) ダイレクトボタン
(2) ***[BND]***ボタン
(3) プレイ / ポーズボタン
(4) サーチボタン
(A) ***[ST]***ステレオ放送受信時に点灯
(B) ***[MANU]***手動選局モード時点灯

ラジオモードの選択

1. **[SRC]**ボタンを押して、ラジオモードを選択します。
   - **[SRC]**ボタンを押すたびに、ラジオモードと CD モードが切り換わります。

   ラジオモードが選択されると、受信バンドと受信周波数（**[FM1 83.00]**など）を表示します。

受信バンドの選択

1. **[BND]**ボタンを押して、お好みのバンドを選択してください。
   [BND]ボタンを押すごとに次のようにディスプレイが切り換わります。
   [FM1]→[FM2]→[AM1]→[AM2]

クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに、特定の放送局を呼び出す機能です。交通情報など、運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **[ISR]**ボタンを押すと、ディスプレイに**[ISR 1620]**が表示されます。
2. **[ISR]**ボタンまたは**[SRC]**ボタンを押すと、元のソースに戻ります。

補足：

- **初期設定では、AM1620 kHz の交通情報が登録されています。**

登録のしかた

1. 登録させたい放送局を選局し、**[ISR]**ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

ISR 機能で呼び出す放送局の登録のしかた

1. 登録させたい放送局を選局します。
2. **[ISR]**ボタンを約 2 秒間押します。

選局した放送局が登録されます。

プリセット選局
あらかじめ自動または手動でメモリ登録しておくと、ダイレクトボタン（1～6）を押すだけで選局できます。

自動選局でのメモリ登録
登録できる数は FM1、FM2、AM1、AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ、計 24 局です。

補足：
- **電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。**

1. **[BND]**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1、FM2 または AM1、AM2）を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。
   受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1～6）に登録されます。

手動選局でのメモリ登録
登録できる数は FM1、FM2、AM1、AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ、計 24 局です。
1. **[BND]**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1、FM2 または AM1、AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1～6）を約 2 秒間押します。
   選択したダイレクトボタンに選択した放送局が登録されます。

メモリ登録された放送局の確認
1. プレイ / ポーズボタンを押します。
   登録された放送局を順に受信します。
2. プレイ / ポーズボタンを再度押します。
   放送局の受信が解除されます。

ラジオの自動選局
1. ディスプレイに**[MANU]**が点灯しているときは、**[BND]**ボタンを約 1 秒間押して、消灯させます。
   （消灯時のみ自動選局できます）
2. サーチボタンを押します。
   放送のある所で自動的に選局が止まります。
3. ほかを選局したいときは、再度ボタンを押してください。

ラジオの手動選局
1. ディスプレイに**[MANU]**が消灯しているときは、**[BND]**ボタンを約 1 秒間押して点灯させます。
   点灯時のみ手動選局できます。
2. サーチボタンを押して、放送のある所に合わせます。

4. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの CD モード

CD を聴く場合の注意事項

- disc マーク のついた CD をご使用ください。
  また、ハート形や八角形など、特殊形状の CD は使用しないでください。
  CD-R または CD-RW で記録されたディスクは、使用できない場合があります。
  CD が曇っているときは、やわらかい布で拭いてください。
- CD はディスク面に、傷や指紋をつけないように扱ってください。
  汚れたときは、やわらかい布で、内側から外側へ向かって、よく拭いてください。
- 8 cmCD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下するおそれがあります。
- CD は次のような場所には保管しないでください。
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気やホコリの多い場所
  - 暖房の熱が直接あたる場所
- CD 表面にほこりが付着していると、CD の挿入や取出しができなくなることがあります。汚れた手で CD を扱ったり、ほこりが付着しやすい所に CD を放置したりしないでください。
  また、安全キャブ内にはできるだけほこりが入らないように、ドアや窓の開閉は最小限にしてください。

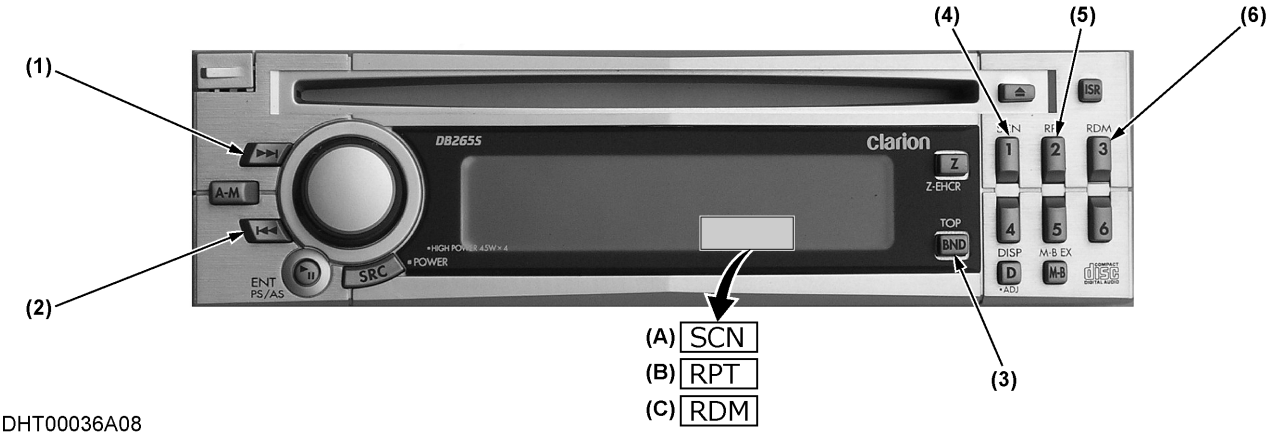
推奨クリーニングディスク	クラリオン製 CTC-007-210

CD 操作部



1NDHT00036A07

(1) ***[SRC]***ボタン　*(2)* イジェクトボタン　*(3)* プレイ / ポーズボタン



1NDHT00036A08

(1) サーチボタン（上）
(2) サーチボタン（下）
(3) ***[BND]***ボタン
(4) ***[SCN]***ボタン
(5) ***[RPT]***ボタン
(6) ***[RDM]***ボタン
(A) ***[SCN]***スキャン演奏時に点灯
(B) ***[RPT]***リピート演奏時に点灯
(C) ***[RDM]***ランダム演奏時に点灯

CD の挿入と再生

補足：
- **本機は disc マーク のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。**
- **CD-R または RW で記録されたディスクは、使用できない場合があります。**

- CD の挿入口に CD を入れます。
  8 cmCD のときは、CD 挿入口の中央に入れます。

  補足：
  – CD は印刷面を上にして入れてください。

  [T01 00:00]を表示し、自動的に演奏が始まります。
- すでに CD が入っている場合は、**[SRC]**ボタンを押して CD モードを選択します。
  トラック No.（**[T01 00:00]**など）を表示し、自動的に CD の演奏が始まります。

CD の取出し
1. CD を取り出すときは、イジェクトボタンを押します。
   CD がイジェクトされます。

   補足：
   - **CD をイジェクトしたままにしておくと、15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。**
   - **オートリロード前に無理に CD を押し込むと、CD にキズがつくおそれがあります。**
   - **8 cmCD はオートリロードされません。**
     イジェクトした場合は、8 cmCD を取り出してください。

CD 演奏の一時停止
1. プレイ / ポーズボタンを押します。
   [PAUSE]が表示され、演奏が一時停止します。
2. 演奏を再開するときは、プレイ / ポーズボタンを再度押します。

CD の次の曲 / 前の曲選択
- 演奏中の曲の次の曲を聴くときは、サーチボタン（上）を押します。
- もっと先の曲を聴くときは、さらに繰り返しサーチボタン（上）を押します。
  押した回数だけ先の曲が演奏されます。
- 演奏中の曲を最初から聴きたい場合は、サーチボタン（下）を 1 回押します。
- 演奏中の曲の 1 つ前の曲を聴くときは、サーチボタン（下）を 2 回押します。
  曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと、2 つ前の曲へ戻ることがあります。
- もっと前の曲を聴くときは、さらに繰り返しサーチボタン（下）を押します。
  押した回数だけ前の曲が演奏されます。

CD の早送り / 早戻し
- 早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
  1 秒以上押すと 5 倍速で、3 秒後には 30 倍速で、演奏曲が早送りされます。
- 早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。
  1 秒以上押すと 5 倍速で、3 秒後には 30 倍速で、演奏曲が早戻しされます。

CD のトップ機能
[BND]ボタンを押すと、最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

CD のスキャン演奏機能
CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN]ボタンを押すと、ディスプレイの**[SCN]**が点灯して、スキャン演奏します。スキャン演奏は、演奏している曲の次の曲から始まります。

CD のリピート演奏機能
演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT]ボタンを押すと、ディスプレイの**[RPT]**が点灯して、リピート演奏します。

CD のランダム演奏機能
CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM]ボタンを押すと、ディスプレイの**[RDM]**が点灯して、ランダム演奏します。

5. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ

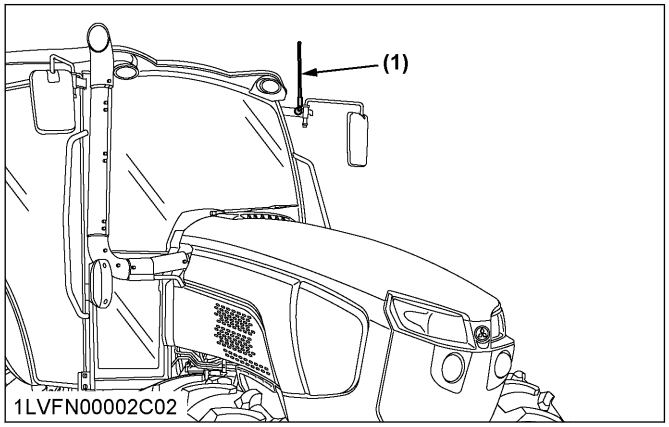
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは、次のメーカ窓口でもご相談いただけます。なお、故障修理に関しては、お買上げの購入先にご相談ください。

メーカ窓口	TEL	受付時間
クラリオン（株） お客様相談室	0120-112-140	土・日・祝除く AM9:30～AM12:00 PM1:00～PM5:00

アンテナ

重要：

- **アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。**

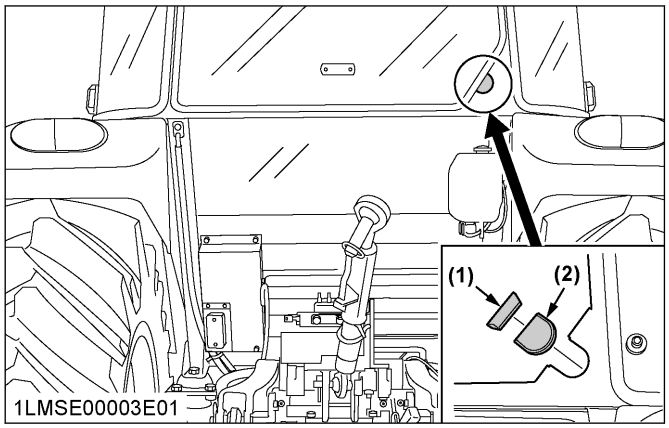


(1) アンテナ

作業機の装着

1. 作業機用操作ボックスの取付け

1. ゴムキャップまたはコーナープラグに穴を開け、作業機用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



(1) ゴムキャップ
(2) コーナープラグ

トラクタの点検・整備のしかた

⚠ 警告
給油および点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキを掛け
4. エンジンを止め
5. キーを抜き、安全を確認してから行ってください。
そうしないと死傷事故を引き起こすおそれがあります。

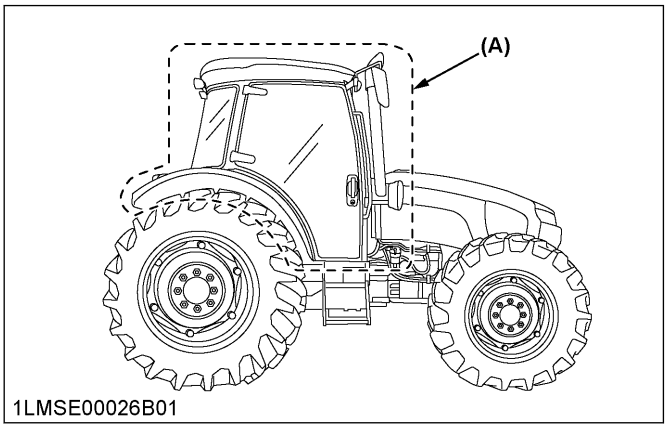
廃棄物の処理について

⚠ 警告
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

⚠ 注意
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）
- **シール・ラベルの剥がれ**
- **電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内などへの浸入による故障**
- **タイヤ、オイルシールなどのゴム類、樹脂類、ガラスなどの破損**
- **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

重要：
- **安全キャブのガラス部、ルーフ部の洗車の際には、圧力水を掛けないでください。（圧力を下げるか水流を広げてください）**
  安全キャブ室内の水漏れ、電気部品の故障の原因になります。



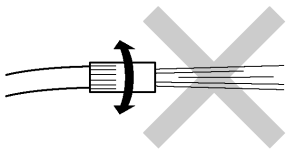
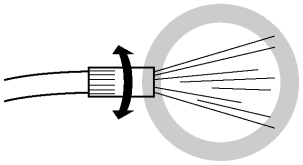
1LMSE00026B01

(A) 高圧洗車禁止

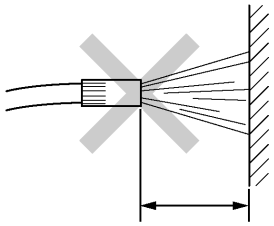
補足：
- **市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形、割れ、曇りが発生する場合があります。特に電子メータなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。**

- 高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。
  高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがあります。

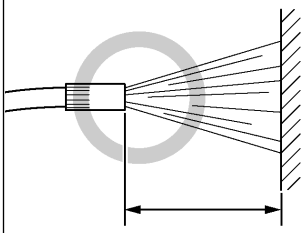
直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁



1LMSE00036A01



1LMSE00036B01

2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施してください。

	時間	項目		参照ページ
A	初回のみ 50 時間運転後	エンジンオイル	交換	138
		エンジンオイルフィルタ	交換	138
B	50 時間ごと	エンジン始動システム	点検	139
		タイヤ取付けボルト	点検	139
		タイロッドゴムブーツ	点検	139
C	100 時間ごと	エンジンの始動確認	点検	139
		エンジンの排気の状態	点検	140
		エキゾーストパイプおよびマフラの状態	点検	140
		グリースの注入	–	140
		エアクリーナエレメント（アウター）	清掃	141
		ファンベルト	調整	142
		ブレーキペダル	点検	142
		駐車ブレーキ	点検	143
		バッテリ	点検	143
D	200 時間ごと	トーイン、タイロッド	点検	144
		燃料タンク	水抜き	145
		エアコンベルト	調整	146
		内気（室内エア）フィルタ	清掃	145
		外気フィルタ	清掃	146
		エアコンコンデンサ	清掃	146
E	400 時間ごと	ウォータセパレータ	清掃	147
		燃料電磁ポンプ	清掃	147
F	500 時間ごと	エンジンオイル	交換	148
		エンジンオイルフィルタ	交換	149

（次へ続く）

	時間	項目		参照ページ
F	500 時間ごと	燃料フィルタ	交換	149
		油圧オイルフィルタ	交換	149
		燃料ホース	点検	150
		ラジエータホース	点検	150
		吸気ホース	点検	151
		パワーステアリングホース	点検	152
		リフトシリンダホース	点検	153
		傾き自動シリンダホース	点検	153
		ブレーキホース	点検	152
		エアコン配管、ホース	点検	153
G	600 時間ごと	前部デフケース前後遊び	調整	153
H	1000 時間ごと	ミッションオイル	交換	153
		前部デフケースオイル	交換	154
		前輪ケースオイル（左右）	交換	154
		エンジンバルブクリアランス	点検	154
I	1000 時間または 1 年ごと	エアクリーナエレメント（インナー / アウター）	交換	154
		エキゾーストマニフォールド	点検	155
J	1500 時間ごと	燃料インジェクタ	点検	155
		尿素水インジェクタ	清掃	155
		尿素水ホース	点検	155
		オイルセパレータエレメント	交換	155
		PCV バルブ	点検	156
		EGR クーラー	点検 清掃	156
K	2000 時間ごとまたは 2 年ごと	ラジエータ	洗浄	156
		冷却水	交換	156
L	3000 時間ごと	ターボチャージャ	点検	157
		サプライポンプ	点検	158
		インテークエアヒータ	点検	158
		EGR システム	点検 清掃	158
		DPF マフラ	清掃	158
		尿素水インジェクタ	点検	158
		尿素水ポンプエレメント	交換	158
M	8000 時間ごと	尿素水タンクサクションフィルタ	交換	158

（次へ続く）

	時間	項目		参照ページ
N	3 か月ごと	エアコン機器の簡易点検	点検	158
		尿素水(AdBlue)の品質	点検	158
O	1 年ごと	DPF 差圧センサパイプ	点検	159
		EGR パイプ	点検	159
		キャブマウントゴム	点検	159
		オイルセパレータの不凍結用ヒータ（オプション）	点検	159
P	2 年ごと	オイルセパレータホース	交換	159
		PCV バルブホース	交換	159
		ブーストセンサホース	交換	159
		DPF 差圧センサホース	交換	159
		EGR クーラホース	交換	159
Q	3 年ごと	駐車ブレーキワイヤ	交換	159
R	4 年ごと	燃料ホース	交換	159
		ラジエータホース	交換	159
		吸気ホース	交換	159
		パワーステアリングホース	交換	159
		リフトシリンダホース	交換	159
		傾き自動シリンダホース	交換	159
		マスタシリンダ/イコライザキット	交換	160
		ブレーキホース	交換	159
		ブレーキシール 1、2	交換	160
		エアコン配管、ホース	交換	160
S	給油時ごと	尿素水(AdBlue)	補充	137
T	必要に応じて	燃料系統の空気抜き	–	160
		ブレーキ系統の空気抜き	–	160
		クラッチハウジング	水抜	161
		ヒューズ類	交換	161
		ランプ類	交換	163、163
		注油	–	163
		ウォッシャ液	補充	163
		冷媒ガス	点検	163

- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

1. 早見表

表の見方

1. トラクタのアワーメータ時間と次の早見表内時間との合致点に記された○印の定期点検項目（A～R）の整備を行ってください。
2. 各メンテナンス項目の詳細は定期点検箇所一覧表（126 ページ）を参照してください。

アワーメータ	定期点検項目																	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
50	○	○																
100		○	○															
150		○																
200		○	○	○														
250		○																
300		○	○															
350		○																
400		○	○	○	○													
450		○																
500		○	○			○												
550		○																
600		○	○	○			○											
650		○																
700		○	○															
750		○																
800		○	○	○	○													
850		○																
900		○	○															
950		○																
1000		○	○	○		○		○										
1050		○																
1100		○	○															
1150		○																
1200		○	○	○	○		○											
1250		○																
1300		○	○															
1350		○																
1400		○	○	○														
1450		○																
1500		○	○			○				○								
1550		○																
1600		○	○	○	○													
1650		○																

（次へ続く）

アワーメータ	定期点検項目																	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1700		○	○															
1750		○																
1800		○	○	○			○											
1850		○																
1900		○	○															
1950		○																
2000		○	○	○	○	○		○										
2050		○																
2100		○	○															
2150		○																
2200		○	○	○														
2250		○																
2300		○	○															
2350		○																
2400		○	○	○	○		○											
2450		○																
2500		○	○			○												
2550		○																
2600		○	○	○														
2650		○																
2700		○	○															
2750		○																
2800		○	○	○	○													
2850		○																
2900		○	○															
2950		○																
3000		○	○	○		○	○	○		○		○						
8000		○	○	○	○	○		○					○					
1000 時間または 1 年									○									
2000 時間または 2 年											○							
3 か月														○				
1 年															○			
2 年																○		
3 年																	○	
4 年																		○

給油（水）一覧表

1. トラクタの給油（水）

No.	給油（水）項目	容量		備考
		GVE860	GVE1010	
1	燃料	105 L		超低硫黄ディーゼル軽油（S10）
2	尿素水(AdBlue)	12.3 L		ISO 22241-1 適合品
3	冷却水	10 L		清水（不凍液を入れた場合は、その量だけ少なく清水を入れてください。）
	リザーブタンク	1.0 L		
4	ウォッシャ液	1.3 L		自動車用ウォッシャ液
5	エンジンオイル （フィルタ含む）	10.7 L		指定オイル （詳細は、推奨オイル・尿素水・グリース一覧表（130 ページ）参照）
6	ミッションオイル （油圧オイル）	60 L		指定オイル スーパー UDT-2
7	前輪デフケース	6.0 L		
8	前輪ケース左・右	各 3.5 L		
9	各操作レバー・ペダル支点	注油		
10	3 点リンク	注入・塗布		極圧（万能）グリース
11	バッテリーターミナル	塗布		
12	油圧シリンダ ステアリングジョイント軸 前輪ケースサポート 前車軸受	注入		

補足：
- **グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。**

推奨オイル・尿素水・グリース一覧表

必ず次の推奨品を使ってください。

エンジンオイル・ミッションオイル

エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸オイル
指定オイル （DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル） D10W-30 DH-2	指定オイル スーパー UDT-2

エンジンオイルについて

DPF 搭載のディーゼルエンジンには、指定ディーゼルエンジンオイル **D10W-30 DH-2** を必ず使用してください。ほかのオイルを使用するとオイルに含まれる金属系添加剤の燃え残り（灰分）が DPF に堆積してフィルタの詰まりが助長され、DPF が機能しなくなるまでの時間が極端に早まります。

尿素水（AdBlue）

ISO 22241-1 規格に適合した尿素水（AdBlue）を使用してください。

補足：

- **AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。**

グリース

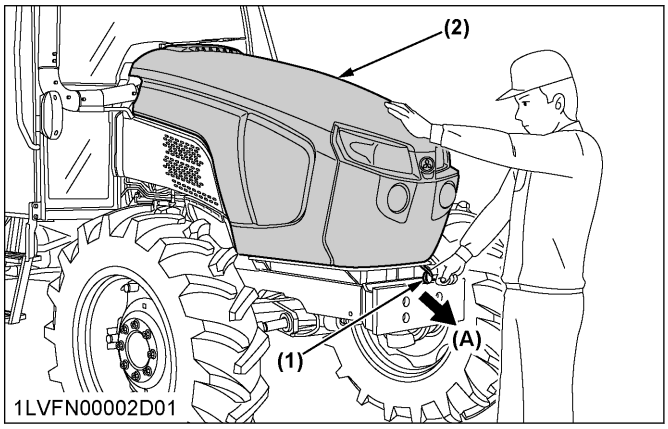
極圧（万能）グリース	推奨グリース No.2 入手できない場合は次のメーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 • JX 日鉱日石エネルギー：エピノックグリース AP2、リゾニックス EP2 • コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックス No.2 • 出光興産：ダフニーエポネックス SR2
ホーン接点用グリース	協同油脂マルテンプ PS2

ボンネットの開閉およびサイドカバーの外し方

⚠ 警告
- **エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。**
- **マフラが熱いときは触らないでください。ヤケドすることがあります。**

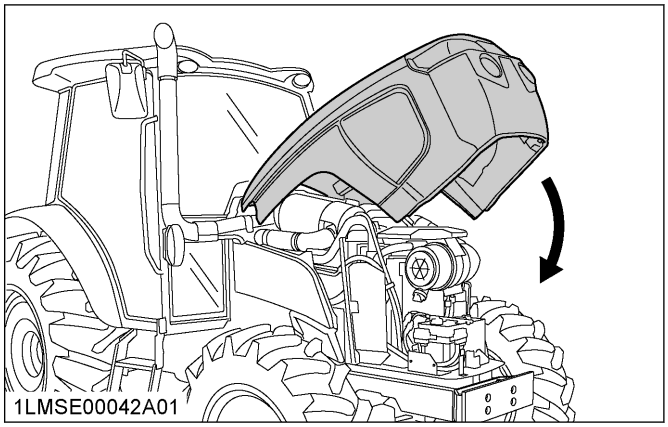
1. ボンネットの開閉

ボンネットの開け方
1. 片手でボンネットを軽く押さえながら、ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



(1) 解除レバー
(2) ボンネット
(A) 引く

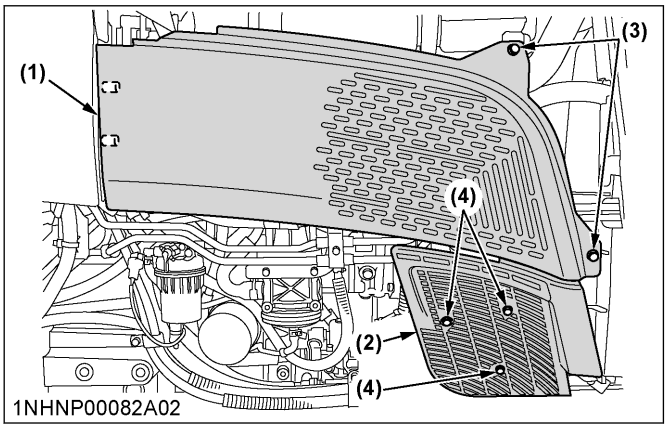
ボンネットの閉め方
1. 両手でボンネットを上から押さえ、ロックします。
2. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。



2. サイドカバーの取外し

⚠ 警告
- **サイドカバーを外したまま使用すると傷害のおそれがあるので、取り付けて使用してください。**

1. 図で示すボルトを外してください。



(1) 右サイドカバー *1*
(2) 右サイドカバー *2*
(3) ボルト、ナット
(4) ボルト

日常点検

⚠ 警告
- **火気厳禁**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると、火災の原因になります。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してから行ってください。**

1. 前日の異常箇所の点検

- 前日の作業中に異常を感じた所があれば、使用前に支障がないか点検してください。

2. トラクタの周囲の点検

トラクタの周りを歩いて、異常がないか点検します。
- ボルトやナットのゆるみおよび作業機取付けピンの脱落がないか、点検してください。
- 車体各部の変形や損傷がないか、点検してください。

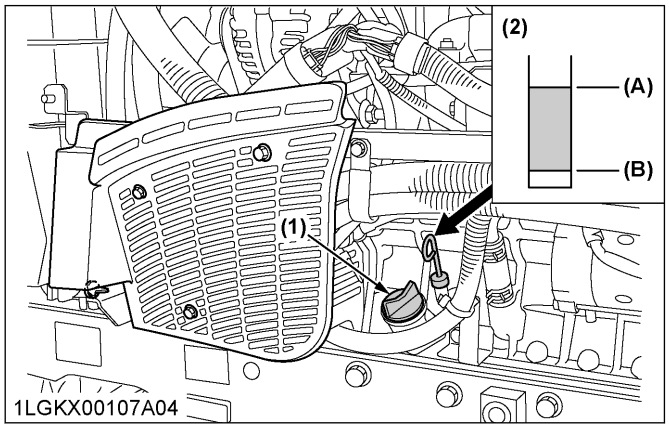
- 油や水漏れなどの異常がないか、点検してください。

3. エンジンオイル量の点検および補給

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き下限と上限の間にオイルがあるかを調べます。
2. **下限**以下の場合は補給してください。ただし、**上限**以上には入れないでください。
   エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。



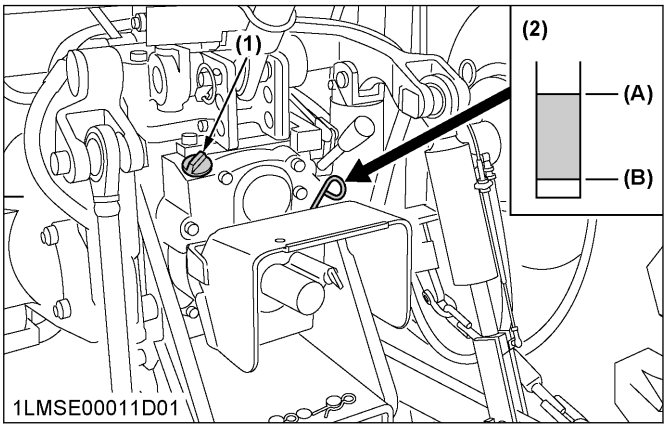
(1) 給油口　　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　　*(B)* 下限

補足：
- **DPF の再生に用いる微量燃料の一部がエンジンオイルに混ざり、エンジンオイルが注入時より増えることもありますが、これは故障ではありません。**

4. ミッションオイル量の点検および補給

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き下限と上限の間にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は、作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **下限**以下の場合は補給してください。ただし、**上限**以上には入れないでください。



(1) 給油口　　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　　*(B)* 下限

5. 冷却水量の点検および補給

⚠ 警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

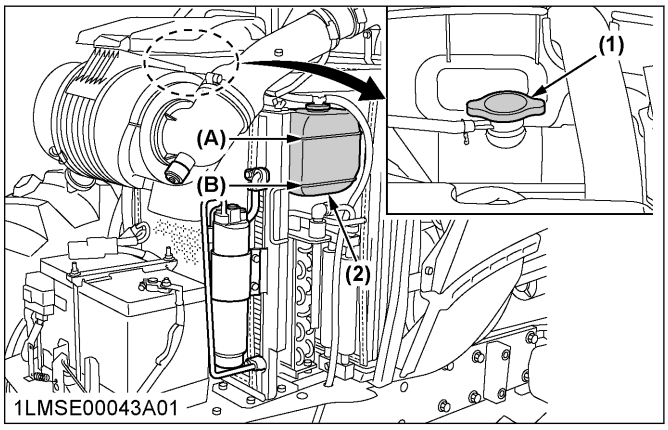
補足：
- **ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検および交換するとき以外開けないでください。**

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

1. 冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。
   [FULL]から**[LOW]**の範囲であれば正常です。
2. 冷却水が**[LOW]**以下の場合は、**[FULL]**のレベルまで補給してください。

重要：
- **[FULL]以上は入れないでください。**

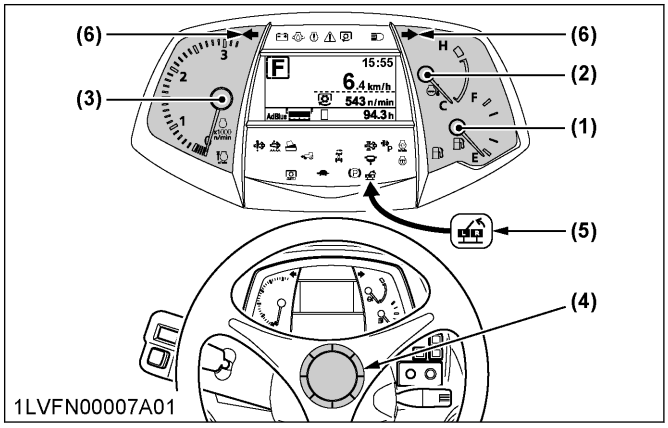
3. リザーブタンクの量が**[LOW]**以下の場合は、ラジエータキャップを外してラジエータの口元まで冷却水が入っているか確認し、少ない場合は口元まで補給してください。



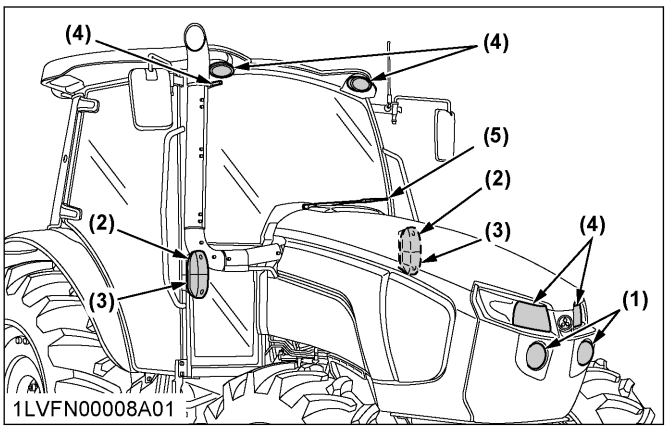
(1) ラジエータキャップ
(2) リザーブタンク
(A) 上限 ***[FULL]***
(B) 下限 ***[LOW]***

6. メータ・ランプ類の作動点検

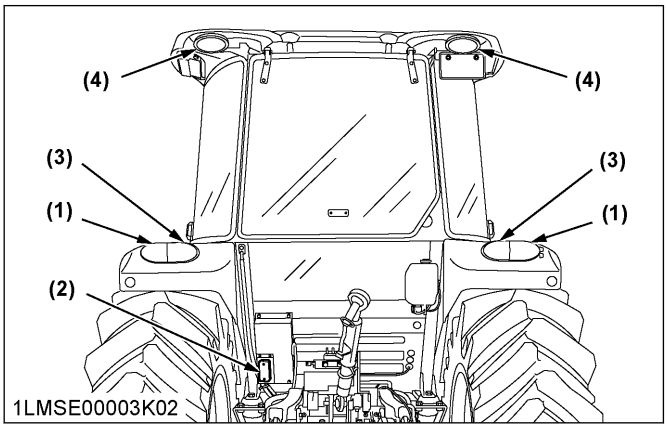
1. 次のメータおよびランプ類が正しく作動するか点検してください。



(1) 燃料計
(2) 水温計
(3) エンジン回転計
(4) ホーンボタン
(5) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯
(6) ウインカまたはハザード



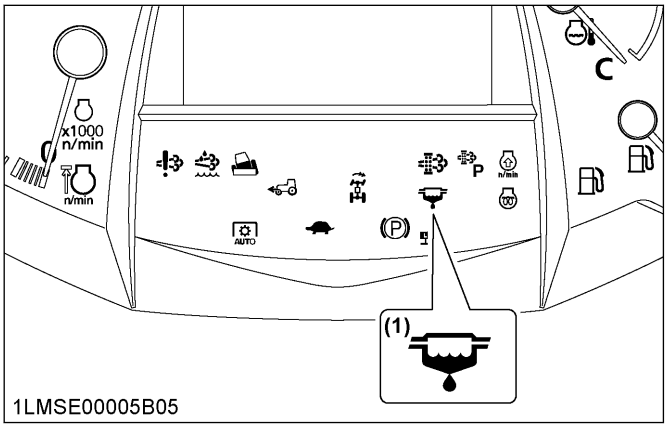
(1) ヘッドライト
(2) ウインカまたはハザード（前）
(3) 車幅灯
(4) 作業灯（前）
(5) フロントワイパ



(1) ウインカまたはハザード（後）
(2) バックランプ
(3) 尾灯、ブレーキランプ
(4) 作業灯（後）

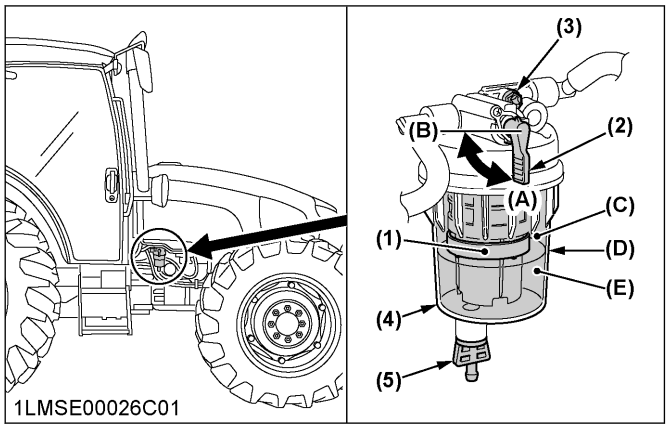
7. ウォータセパレータの水の排出

1. セパレータにたまった水が規定ラインを超えたとき、電子メータのウォータセパレータ警告灯が点灯すると共にブザーが鳴ります。



(1) ウォータセパレータ警告灯

2. このような場合、燃料コックを閉め、エアプラグとドレーンプラグを数回転させてゆるめてください。
3. 水を容器に排出してください。水の排出が終わり、燃料が流出し始めたとき、エアプラグとドレーンプラグを締め付けてください。
4. 水の排出後は必ず空気抜きをしてください。
（詳細は燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）を参照）



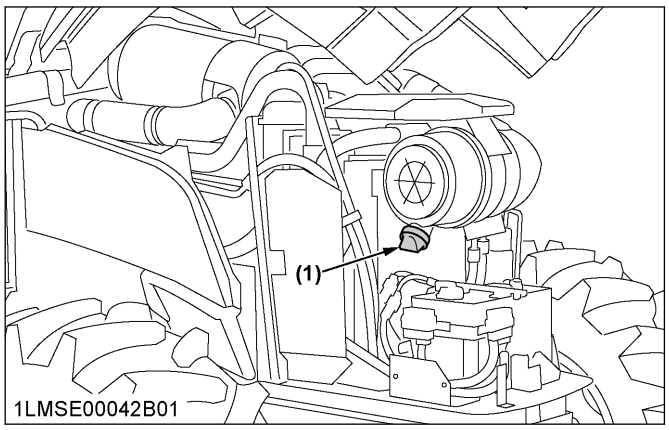
(1) 赤色フロート
(2) 燃料コック
(3) エアプラグ
(4) カップ
(5) ドレーンプラグ
(A) 開
(B) 閉
(C) 燃料
(D) 規定ライン
(E) 水

補足：
- **赤色のフロートが上昇し規定ラインに達したときは、前述の手順 2 からの操作を行ってセパレータの水を容器に排出してください。**

重要：
- **水が燃料ポンプに入ると、重大な故障が発生するおそれがあります。**

8. バキュエータバルブの清掃

1. バキュエータバルブを開き、ごみを取り除いてください。
2. 水分があるときは、エアクリーナを掃除してください。

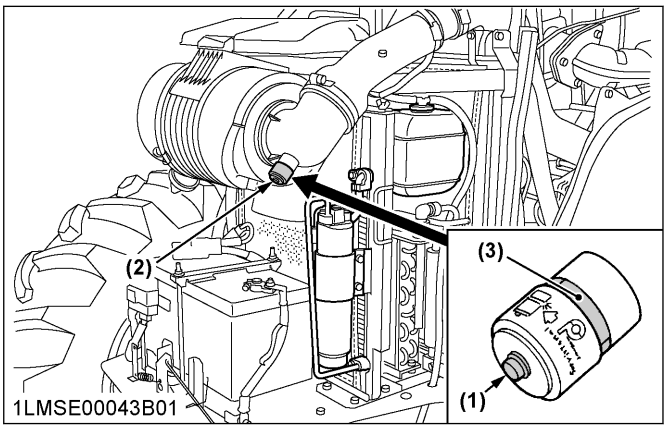


(1) バキュエータバルブ

9. ダストインジケータの点検

インジケータの透明カバー部が赤色表示に変わっていると、エアクリーナが目詰まりしています。

1. 清掃後、リセットボタンを押し赤色表示を解除してください。
（清掃のしかたはダブルエアクリーナエレメントの清掃手順（141 ページ）を参照）



(1) リセットボタン
(2) ダストインジケータ
(3) 赤色表示

10. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検・交換

⚠ 警告
- **配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になるおそれがありたいへん危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。**
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金などで代用せず、購入先に点検・整備を依頼してください。
- **また、本機の配線は、防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず、購入先に点検・整備を依頼してください。**
- **バッテリおよび電気配線の周辺部は、マフラやエンジン周辺部と同様、ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので、毎日作業前に清掃してください。**

補足：
- **点検時、3 点リンクに装着している作業機は取り外してください。**

- 配線の損傷がないか、点検してください。
配線被覆が破れているときは、購入先に点検・整備を依頼してください。
- 配線のクランプのゆるみがないか、点検してください。

配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- ターミナル（端子）、カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないか、点検してください。
- 各スイッチ、メータが確実に作動するか、点検してください。

11. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検

警告
- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください（特別教育を受けた人が行うように、法で決められています）。**

標準空気圧

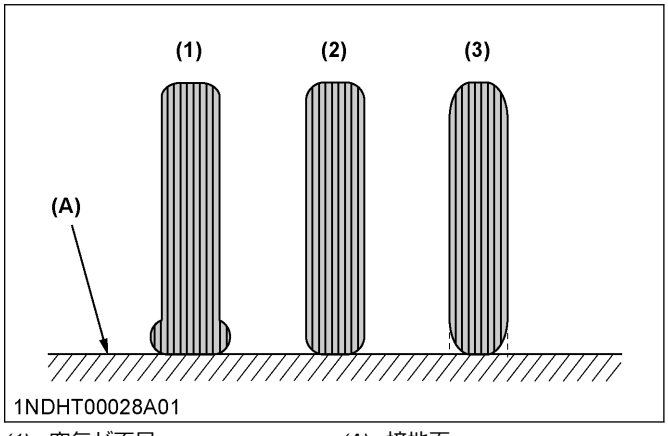
前輪

	通常時	ローダ装着時
11.2-24	180 kPa 1.8 kgf/cm^2	200 kPa 2.0 kgf/cm^2
12.4-24	160 kPa 1.6 kgf/cm^2	180 kPa 1.8 kgf/cm^2

後輪

13.6-38H	140 kPa 1.4 kgf/cm^2
16.9-34	120 kPa 1.2 kgf/cm^2

1. 前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
   外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 空気が不足
(2) 標準
(3) 空気が多い
(A) 接地面

12. ラジエータ用防虫網とエアコンコンデンサ用防虫網およびオイルクーラの清掃

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。目詰まりがないよう点検、清掃してください。

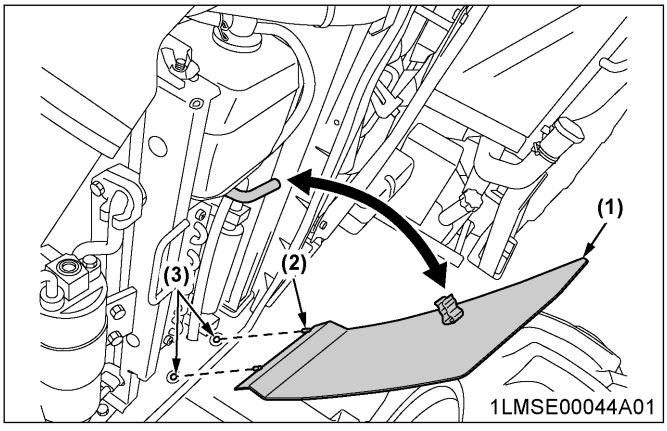
警告
- **エンジンを必ず停止して清掃してください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行ってください。**

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように、注意してください。**

1. パネルを取り外します。
   （詳細は、パネルの着脱（135 ページ）を参照）
2. エアコンコンデンサを引き出します。
   （詳細は、エアコンコンデンサの引出し（136 ページ）を参照）
3. ラジエータ用防虫網を清掃します。
   （詳細は、エンジン前周りの清掃（136 ページ）を参照）
4. エアコンコンデンサ用防虫網とオイルクーラを清掃します。
   （詳細は、エンジン前周りの清掃（136 ページ）を参照）

12.1 パネルの着脱

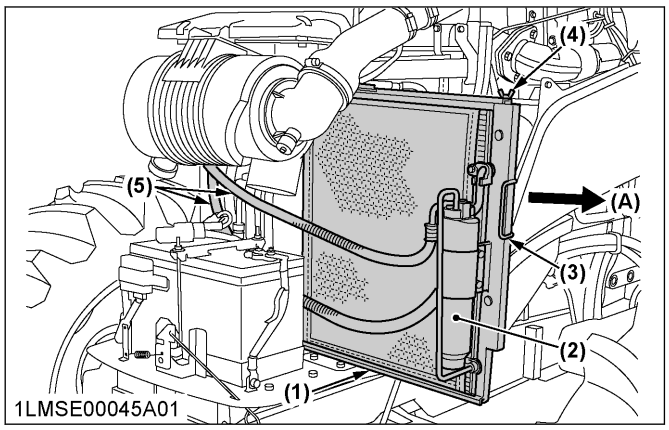
1. パネル上部を外方向へ引いて開きます。
2. ピンが抜けるまでパネルを引き上げ、カバーを外します。
3. 組付けは逆手順で行ってください。



(1) パネル
(2) ピン
(3) 穴

12.2 エアコンコンデンサの引出し

1. 蝶ナットをゆるめます。
2. ハンドルを持ち手前に引きます。



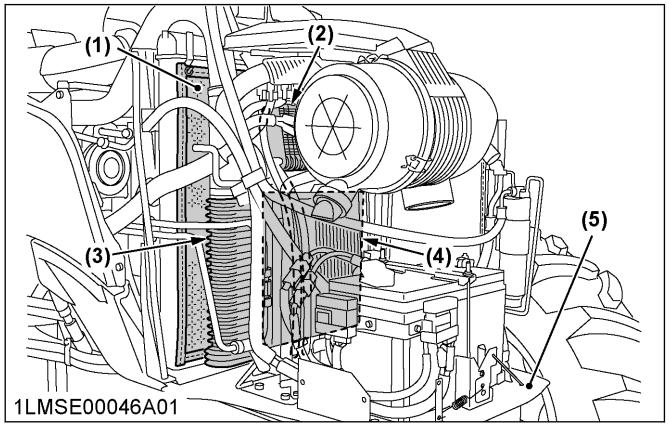
(1) コンデンサ
(2) レシーバ
(3) ハンドル
(4) 蝶ナット
(5) エアコンホース
(A) 引く

12.3 エンジン前周りの清掃

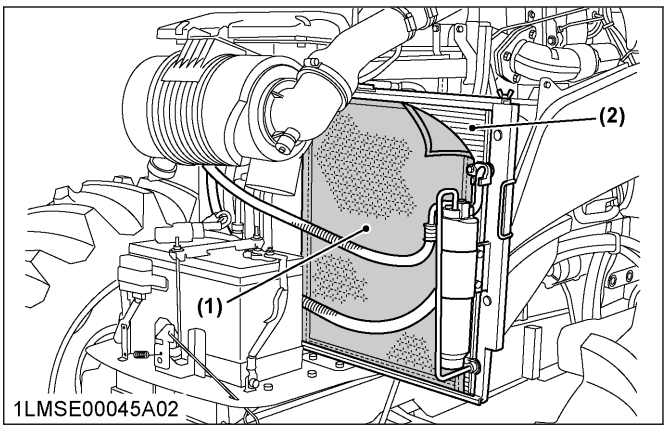
重要 :

- **高圧洗車機を使用する場合は、ラジエータやオイルクーラのフィンを損傷させないように注意してください。**

1. 防虫網を取り外して、エアブローで清掃してください。
2. 防虫網にごみが詰まっている場合は、水道水などで取り除いてください。



(1) 防虫網（ラジエータ用）
(2) 燃料クーラ
(3) インタークーラ
(4) オイルクーラ
(5) バッテリまわり



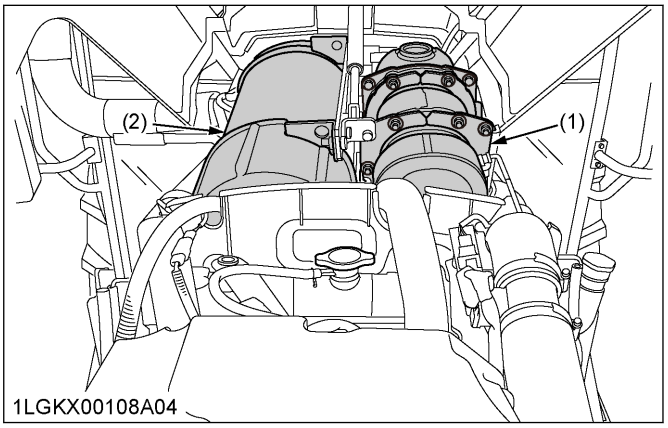
(1) 防虫網（コンデンサ用）
(2) エアコンコンデンサ

13. DPF と SCR の点検

⚠ 警告

- **点検・清掃を行うときは、必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷えてから行ってください。**

1. DPF マフラと尿素 SCR マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検してください。
   可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。



(1) *DPF* マフラ
(2) 尿素 *SCR* マフラ

14. ブレーキペダルの遊びの点検

⚠ 警告

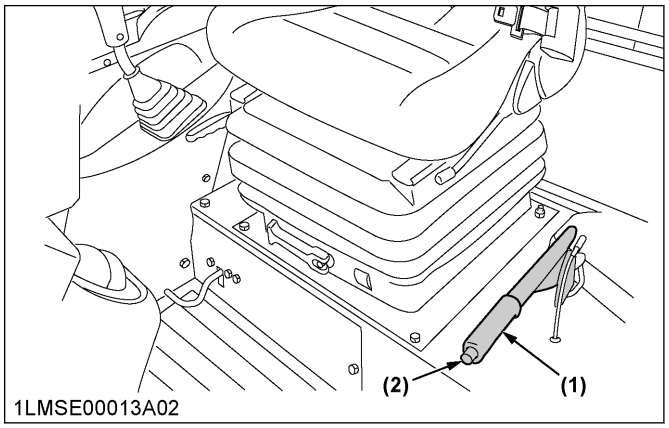
- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

ブレーキペダルの遊び量やブレーキの作動状態を点検してください。（点検などの詳細は、油圧ブレーキの点検（142 ページ）を参照）

15. 駐車ブレーキの作動点検

1. レバーを引くと駐車ブレーキが掛かります。このとき、キースイッチが**[入]**位置では、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が点灯します。
2. 駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し込み、レバーを下げると、ブレーキが解除されます。

補足：
- **ブレーキ解除時、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が消灯することを確認してください。**



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 解除ボタン

16. 燃料の補給時の注意点

警告
- **燃料を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。**
- **火気厳禁。**
- **補給後は、燃料キャップが締まっているか確認してください。**

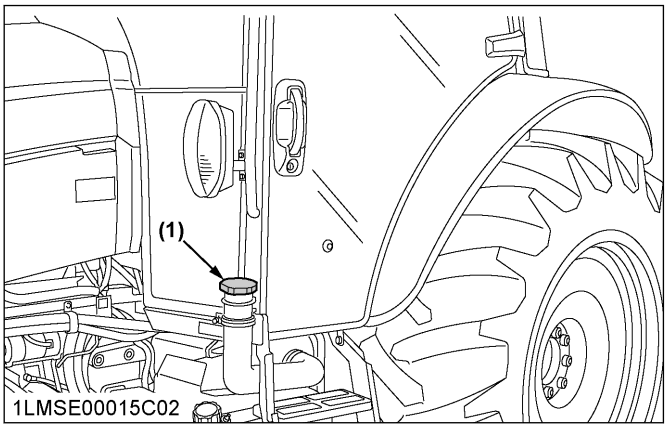
重要：
- **コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため、ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合、水や砂など異物が混入しないようじゅうぶん注意してください。**
  また補給時は、こし網を外さないでください。
- **燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。**
- **燃料切れでエンストを起こすと、エンジン各部に高温状態が生じ、エンジンの早期破損につながるおそれがあるので、燃料切れにならないように注意してください。**

補足：
- **尿素水タンクのキャップは青色です。**
  燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。

燃料には、超低硫黄ディーゼル軽油(S10)を使用してください。
超低硫黄ディーゼル軽油(S10)には次表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	超低硫黄ディーゼル軽油(S10)の流動点
特 1 号	+ 5 ℃以下
1 号	−2.5 ℃以下
2 号	−7.5 ℃以下
3 号	−20 ℃以下
特 3 号	−30 ℃以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動が困難になります。



(1) 燃料給油口

17. 尿素水(AdBlue)の点検と補給

警告
- **尿素水(AdBlue)を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。また補給時は、保護めがねや手袋の装着を推奨します。**

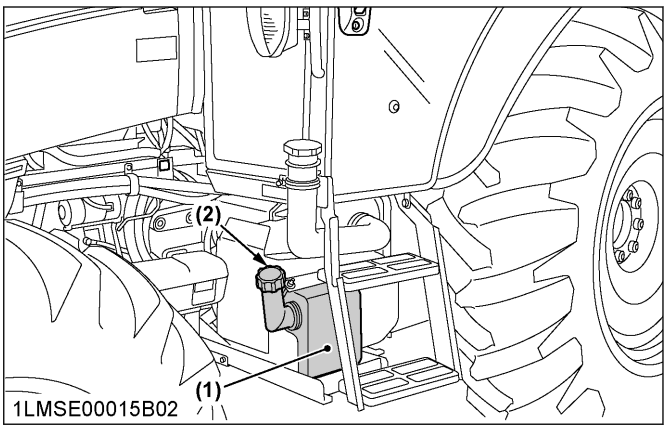
注意
尿素水(AdBlue)の取扱いに関して、次の点にご注意ください。
- **目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。**
- **絶対に飲まないでください。**
  誤って飲んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。
- **皮膚に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。**
  まれに皮膚を刺激する場合があります。
- **衣服や靴に掛かったときは、すぐに洗い流してください。**
  そのまま拭き取ったり、乾かしたりすると、白い残留物が残ります。

詳細については、尿素水(AdBlue)の購入先から安全データシート(SDS)を入手してご確認ください。

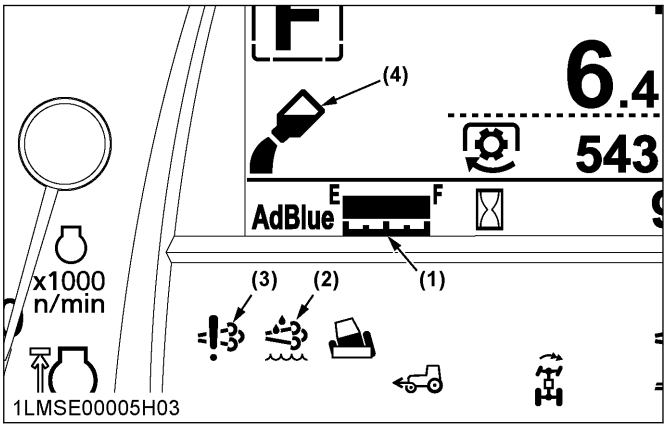
重要：
- **ISO 22241-1 規格に適合した尿素水(AdBlue)を使用してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを微量でも混入してエンジンを始動すると、尿素 SCR システムが故障します。エンジンを始動させず、すぐに購入先に連絡してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを混入した場合、保証対象外となります。修理、メンテナンスに掛かる費用はお客様負担となりますのでご注意ください。**
- **尿素水タンクのキャップを外す時、尿素水タンクに泥や異物が混入しないよう注意してください。**
  尿素水タンクの吸引フィルタが詰まったり、尿素水(AdBlue)の品質が下がったりし、SCR システムの故障になる可能性があります。
- **前述のように尿素水(AdBlue)の汚染が発生した場合は、購入先に SCR システムの点検を依頼してください。**
  必要に応じて修理や分解が必要になります。
- **尿素水タンクの上に立ったり、物を置いたりしないでください。尿素水タンク、パイプ、センサーが損傷する場合があります。**
- **エキゾーストパイプおよびマフラを改造しないでください。尿素水タンクの位置を変更しないでください。**
  排ガス浄化機能に悪影響を及ぼします。
- **尿素水(AdBlue)が尿素水タンクの補給口に付着し乾いた場合、白い粉が出てくることがありますが、これは異常ではありません。尿素水タンク内に入らないように注意して拭き取ってください。**

電子メータのレベルゲージで残量を確認し、少ない時は尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素水タンクのキャップを外す前に、キャップの汚れやキャップの周辺にたまっている汚れを除去してください。
尿素水(AdBlue)の残量が少なくなると尿素水(AdBlue)残量警告インジケータが点灯し、ブザーが鳴ります。そのまま運転を続けると、エンジン出力が約 50%に制限されます。さらに運転を続けるとエンジンがアイドリング状態になります。
（詳細は、SCR の警告情報一覧と対応（46 ページ）参照）
SCR システムの性能を維持するため、燃料補給のたびに尿素水タンクに尿素水(AdBlue)を規定量まで補給することを推奨します。

補足：
- **尿素水タンクのキャップは青色です。燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。**
- **尿素水(AdBlue)をこぼした場合は、すぐに水道水で洗い流してください。そのまま放置すると、金属部が錆びたり、塗装面が腐食する可能性があります。また、樹脂部分やゴム部品が変形する可能性があります。**



(1) 尿素水タンク
(2) 尿素水タンクキャップ（青色）



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(2) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(3) *SCR* システム警告灯
(4) 尿素水*(AdBlue)*残量警告

尿素水タンク容量	12.3 L

50 時間後の点検・整備（初回のみ）

新車時、運転開始から 50 時間経過した時点でメンテナンスを必ず 1 回実施してください。

1. エンジンオイルの交換（初回 50 時間運転後）

- エンジンオイルの交換を行ってください。
  （詳細はエンジンオイルの交換（148 ページ）を参照）

2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換（初回 50 時間運転後）

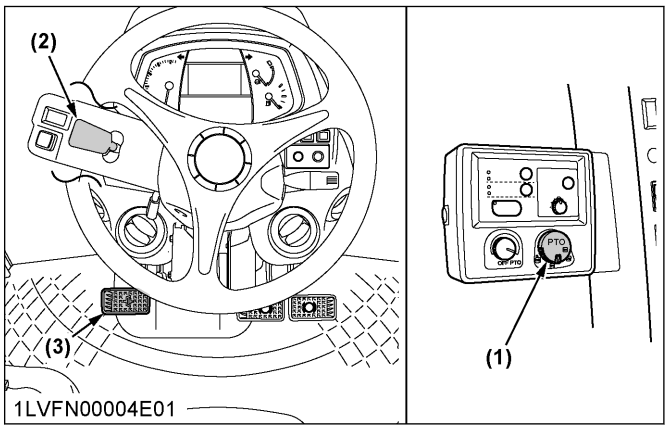
- エンジンオイルフィルタカートリッジの交換を行ってください。
  （詳細はエンジンオイルフィルタカートリッジの交換（149 ページ）を参照）

50 時間ごとの点検・整備

1. エンジン始動システムの点検

⚠ 警告
- **点検中、トラクタに人を近づけないようにしてください。**
- **装置に異常があれば必ず整備をした後、ご使用ください。**

1. 運転席に座り、シャトルレバーを**中立**（**[N]**位置）、PTO クラッチコントロールスイッチを**[切]**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**最低速**位置にします。
4. クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回れば正常です。
5. シャトルレバーを**前進**（**[F]**位置）または**後進**（**[R]**位置）または PTO クラッチコントロールスイッチを**[入]**位置にし、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回らなければ正常です。
   もし、不良の場合は、購入先へご相談ください。

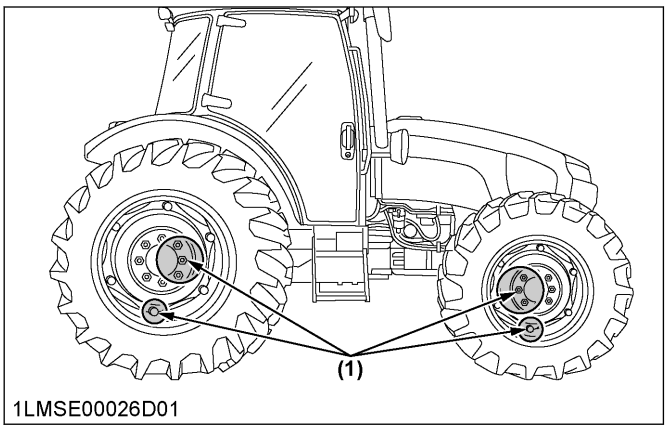


(1) *PTO* クラッチコントロールスイッチ
(2) シャトルレバー
(3) クラッチペダル

2. タイヤ取付けボルトの点検

⚠ 警告
- **タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

1. 図で示された箇所のタイヤ取付けボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。



(1) ボルト、ナット

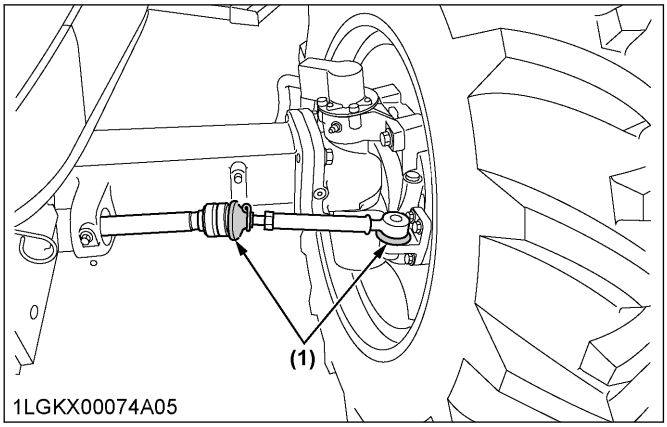
締付けトルク

前輪	後輪	リムとディスク
260～304 N·m (26.5～31.0 kgf·m)	368～402 N·m (37.6～41.0 kgf·m)	260～304 N·m (26.5～31.0 kgf·m)

3. タイロッドゴムブーツの点検

重要：
- **ゴムブーツが破損すると水やゴミがタイロッドに入り込み、早期破損につながるおそれがあります。**

1. タイロッドのゴムブーツが傷んでいないか常に注意してください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) ゴムブーツ

100 時間ごとの点検・整備

1. エンジンの始動確認

- エンジンを始動し、掛かり具合、異音がないかを確認してください。
- アクセルペダルを操作し、加速・減速がスムーズか確認してください。

2. エンジンの排気状態の確認

1. エンジンを始動し、排気色に異常がないか確認してください。
（詳細はエンジンの不調と処置（166 ページ）を参照）

3. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認

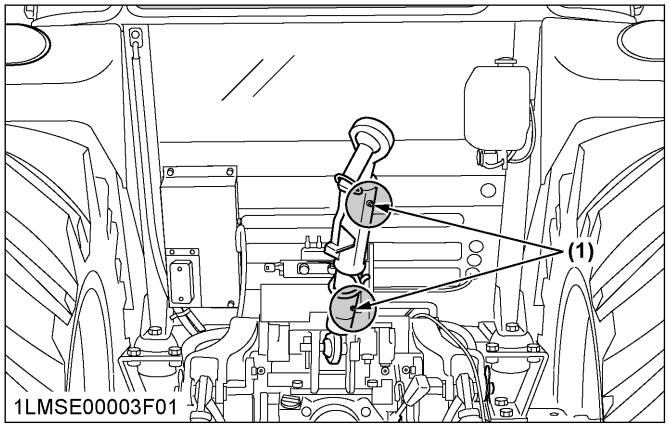
- エキゾーストパイプ、マフラに破損、取付けボルトのゆるみなどがないか確認してください。
- 排気音に異常がないか確認してください。

4. グリースの注入

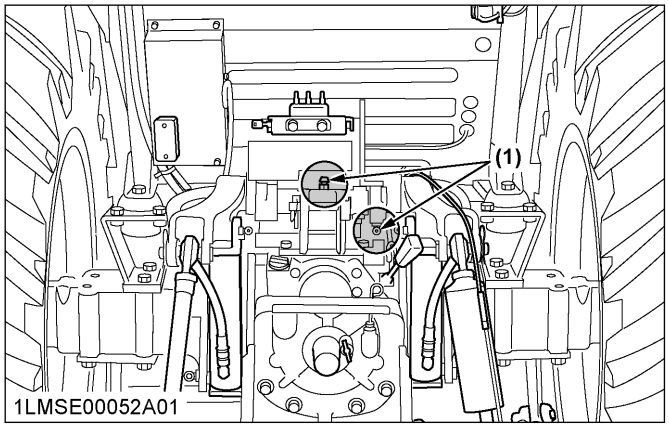
グリースは、**推奨グリース**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。

代かき作業などで泥水の中に入ったときは、1 日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしてください。

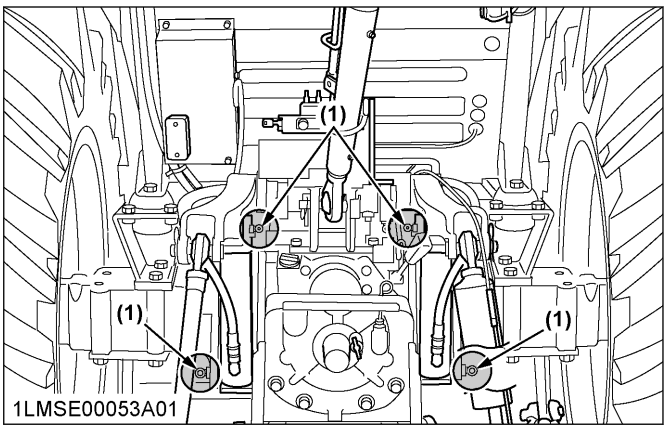
1. 図で示された箇所にグリースを注入します。



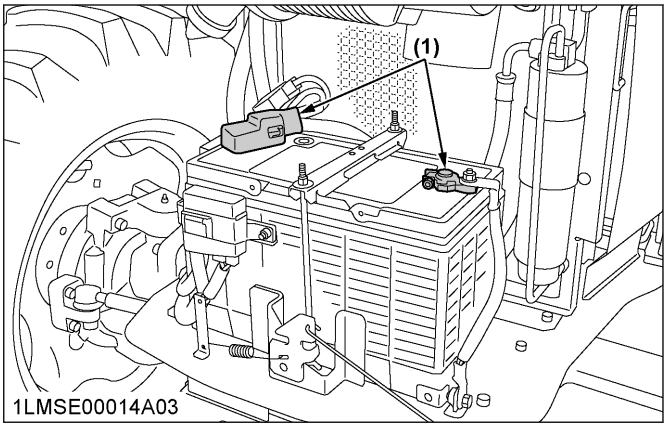
(1) トップリンク



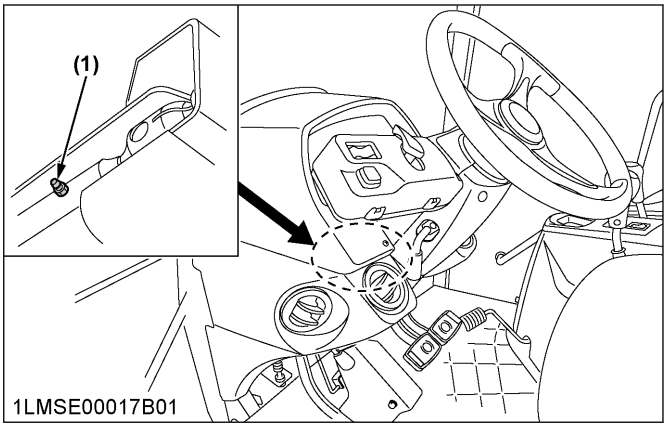
(1) トップリンクブラケット



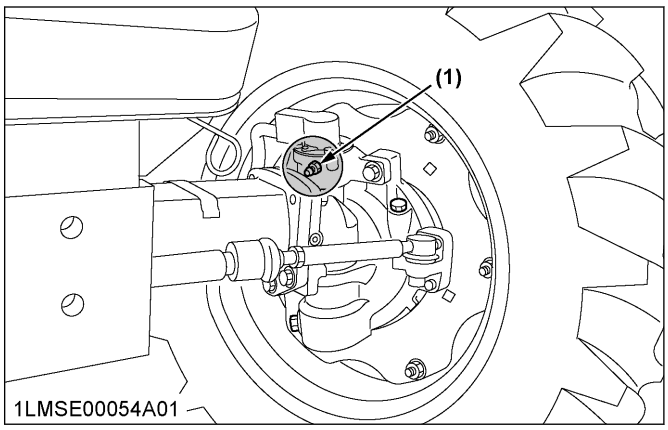
(1) リフトロッド



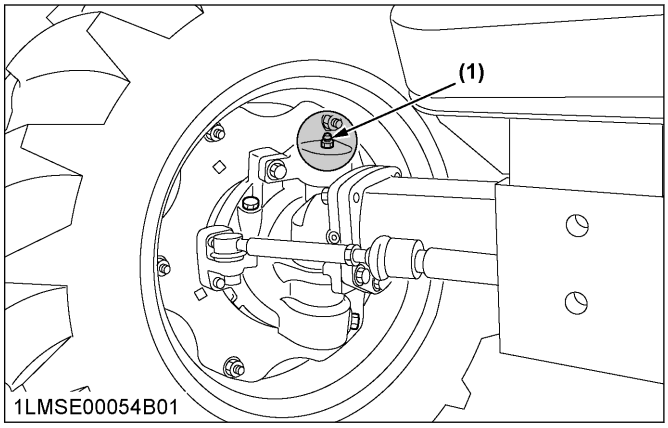
(1) バッテリターミナル



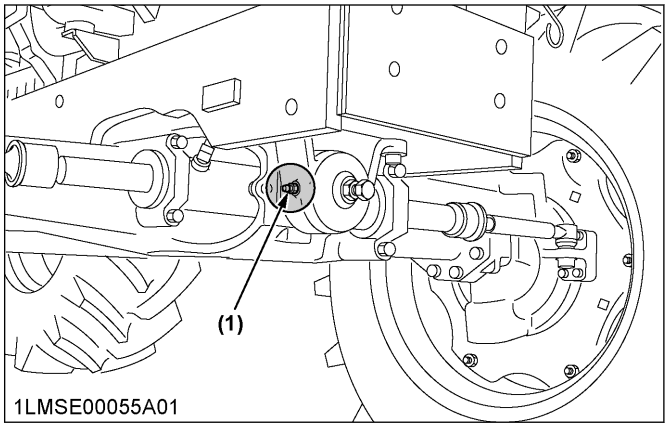
(1) ステアリングジョイント軸



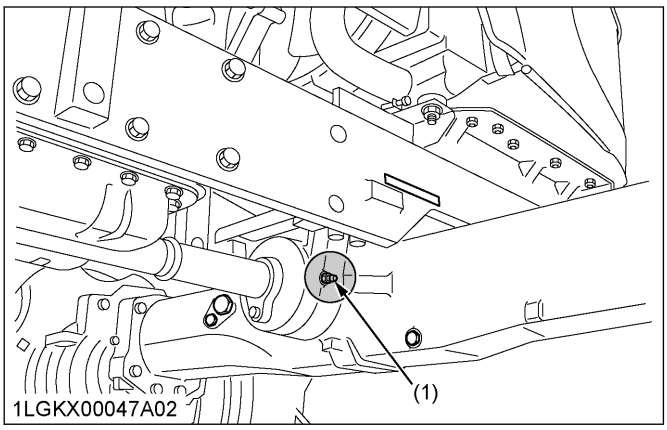
(1) 前輪ケースサポート（左）



(1) 前輪ケースサポート（右）



(1) 前車軸受（前）

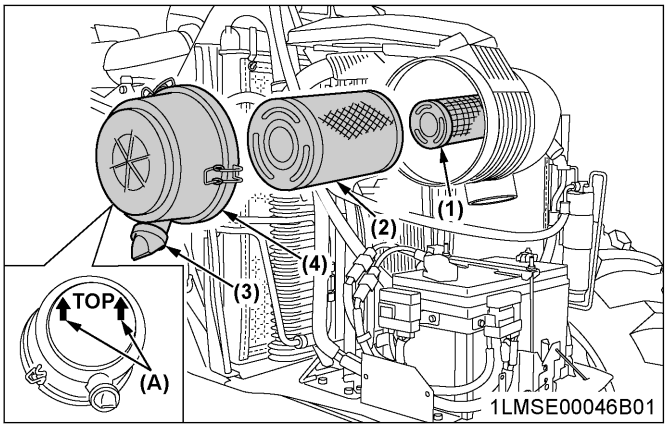


(1) 前車軸受（後）

5. ダブルエアクリーナエレメントの清掃手順

重要：

- **エレメントは、清掃・交換以外は不必要に触らないでください。**
- **乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
- **清掃時、エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。変形したときは、すぐに新しいエレメントと交換してください。**
- **ダストカップの（ ⬆ マーク）を必ず上向きになるように取り付けてください。**



(1) インナーエレメント
(2) アウターエレメント
(3) バキュエータバルブ
(4) ダストカップ
(A) 上方向マーク

1. ダストカップを外します。
2. アウターエレメント、バキュエータバルブを外します。
   インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。

アウターエレメントの清掃・交換

1. 乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205 kPa(2.1 kgf/cm^2)を越えない

ように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
2. エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は、中性洗浄剤をご使用ください。

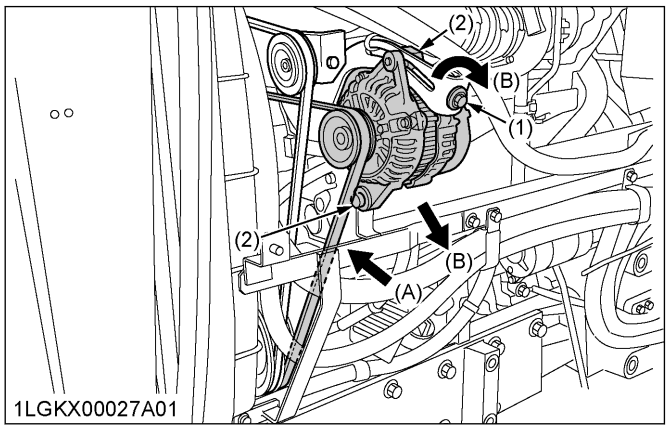
アウターエレメントの交換
アウターエレメントは、1000 時間または 1 年間使用ごとに交換が必要です。

バキュエータバルブの清掃
1. バキュエータバルブを開きます。
2. 大きなごみを取り除いてください。

6. ファンベルトの点検・調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**
- **ファンベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。**



(1) 調整ボルト　*(A)* 押す
(2) オルタネータ取付けボルト　*(B)* 張る

1. ファンベルトの張り強さが適正か点検します。

適正張り強さ	ベルトの中央部を 10 kgf の荷重で押さえて、約 13~15 mm たわむ程度

2. ファンベルトの張り強さが適正でないときは、調整します。

ファンベルトの調整方法
1. オルタネータ取付けボルトをゆるめます。
2. 調整ボルトで張ります。
3. オルタネータ取付けボルトを締めます。

7. 油圧ブレーキの点検

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めて行ってください。**
- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

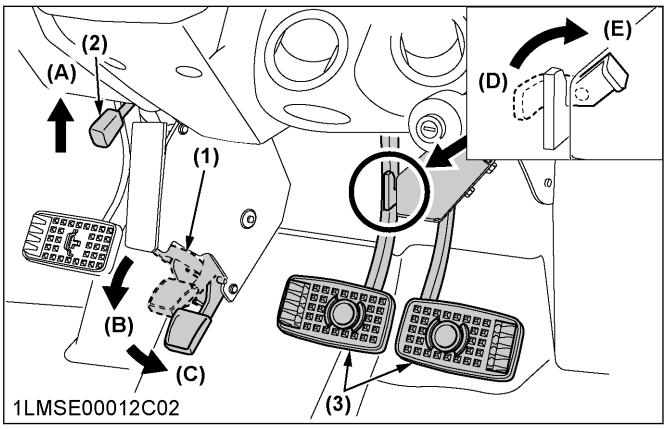
7.1 遊び量の点検

1. ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し、遊びの量を調べます。

ブレーキペダルの遊び量	7～14 mm
	左右のブレーキペダルの遊び量を同じにする。

7.2 踏込み量の点検

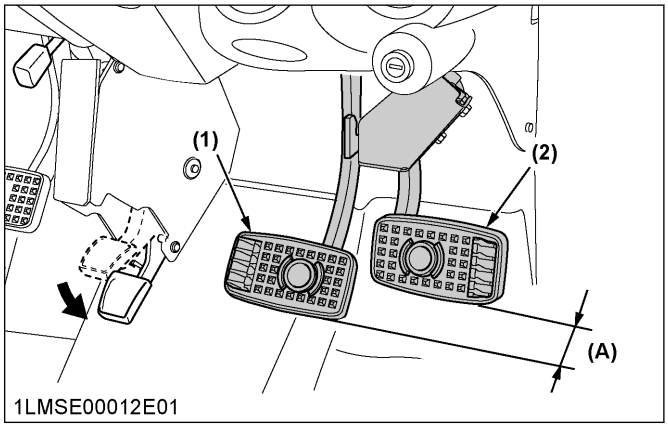
1. 連結解除ペダルロックレバーのロックを解除し、連結解除ペダルを踏み込み、左右のブレーキペダルの連結を外します。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 上げる
(B) 連結解除ペダル引出位置
(C) 連結解除ペダル踏込位置
(D) 左右ブレーキ連結
(E) 左右ブレーキ連結解除

2. 右のブレーキペダルのみを踏み込み、左のブレーキペダルとの段差（踏込み量）を測定します。

3. 左のブレーキペダルも同様に段差（踏込み量）を測定します。



(1) 左ブレーキペダル
(2) 右ブレーキペダル
(A) 踏込み量

踏込み量	100 mm 以下
左右ペダルの踏込み量の差	5 mm 以下

4. もし、点検の結果が基準外であれば購入先へブレーキの調整を依頼してください。

7.3 イコライザの作動量の点検（片効き防止装置）

1. 左右のペダルを両足で同時に軽く踏み込みます。
2. 前述の状態から、右ペダルを強く踏み込み（左ペダルは上昇する）、両ペダルの段差を測定します。
3. 次に、左ペダルを強く踏み込み左右ペダル上での段差を測定します。

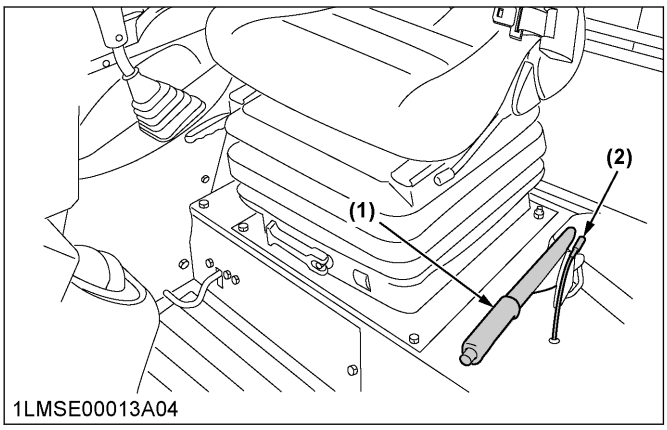
イコライザの作動量	左右ペダル上での段差 5 mm 以上

4. もし、点検結果基準外であれば、購入先へブレーキの調整を依頼してください。

8. 駐車ブレーキの点検・調整

適正遊び量	2 ノッチ

1. 駐車ブレーキレバーを解除します。
2. ロックナットをゆるめ、ワイヤを調節します。
3. 元どおりに組み付け、遊び量を確認します。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) ロックナット

9. バッテリ電解液の点検

危険

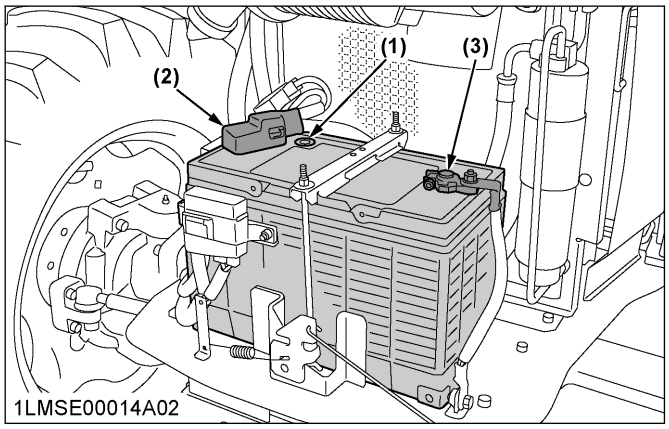
- **バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し、身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。**
- **バッテリの点検および取外し時は、エンジンを必ず停止し、キースイッチを[切]位置にしておいてください。**
- **バッテリを取り外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリ（−）コードを外し、接続するときは、最後にバッテリ（−）コードを接続してください。**
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

重要：

- **バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。**

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。

1. 上面のインジケータの表示状態を点検します。



(1) インジケータ
(2) （+）コード
(3) （−）コード

インジケータ表示状態

緑	電解液比重、電解液量ともに良好です。
黒	要充電です。 11 A の普通充電電流で補充充電を行ってください。
白	交換が必要です。

2. インジケータの表示状態により補充電が必要なときは、バッテリを取り外します。
（詳細はバッテリの取付け・取外し時の注意点（144 ページ）を参照）
3. バッテリを補充電します。
（詳細はバッテリの補充電のしかた（144 ページ）を参照）

9.1 バッテリの取付け・取外し時の注意点

警告
- **バッテリを取り外すときは、バッテリ（−）コードを最初に外し、次に（+）コードを外してください。**
- **取り付けるときは、必ず（+）側から取り付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。**

重要：
- **新品のバッテリと交換する場合には必ず指定の純正バッテリを使用してください。**

交換用バッテリ品番	呼称
99990000170	31-900 (BCI サイズ-CCA)

- **バッテリを外し、再度取り付けるときにはバッテリの（+）、（−）のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締め付けてください。**

9.1.1 エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意

キースイッチを**[切]**位置にしてエンジンを停止すると、SCR システムが自動でシステムを冷却し、尿素水(AdBlue)を配管から抜き取ります。
バッテリまたは主要な電気接続を点検、修理または長期保管のためにバッテリ回路を切断するときは、SCR システムがこの機能を完了するまで少なくとも 15 分間待ってください。この機能の完了前にバッテリを外すとシステムエラーやシステム機器の損傷が起こる場合があります。
エンジンの停止後に、SCR システム（例えば尿素水タンクまたは尿素水ポンプ）から作動音が継続して聞こえることがあります。これは、SCR システムの冷却と尿素水(AdBlue)を配管から抜き取る機能の作動音であり異常ではありません。

9.2 バッテリの補充電のしかた

危険
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行わないでください。

1. バッテリコードを充電器に接続します。
（+）と（−）を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリと電気系統が故障します。
バッテリの（+）を充電器の（+）に、バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続します。
2. 充電は、急速充電ではなく、普通充電を行ってください。

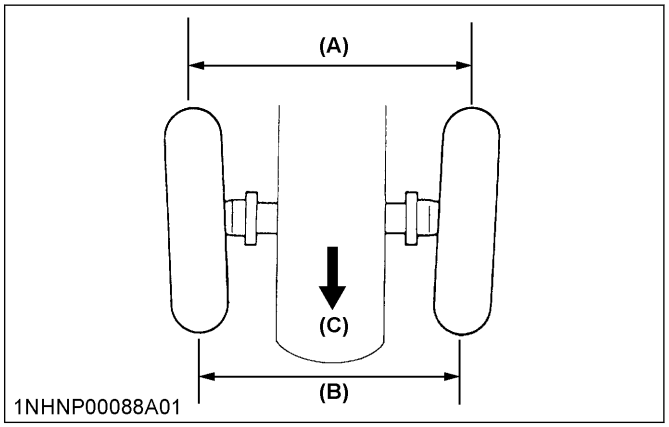
200 時間ごとの点検・整備

1. トーインおよびタイロッドの点検･タイロッドのトーイン調整

警告
- **トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。**

補足：
- **トーインの点検・調整時、タイロッドエンド（関節球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。**
- **標準空気圧で、トーインの点検・調整を行ってください。**
- **測定はタイヤ高さの 1/2、タイヤ幅の中央部間を測ります。**

1. 前輪の前幅(B)と後幅(A)を測り、(A)の値が(B)の値より大きいトーイン状態であることを点検し、また、その差分が基準値であるか点検します。



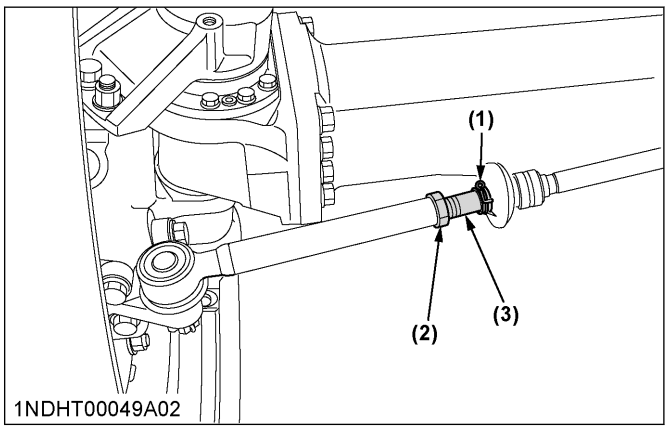
(A) 後幅
(B) 前幅
(C) 前

トーインの基準値 (A) − (B)	2 mm～8 mm

2. 前輪の前幅(B)と後幅(A)の差分が基準値でない場合、調整します。
(詳細はタイロッドのトーイン調整手順（145 ページ）を参照)

1.1 タイロッドのトーイン調整手順

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回してトーインの調整をします。



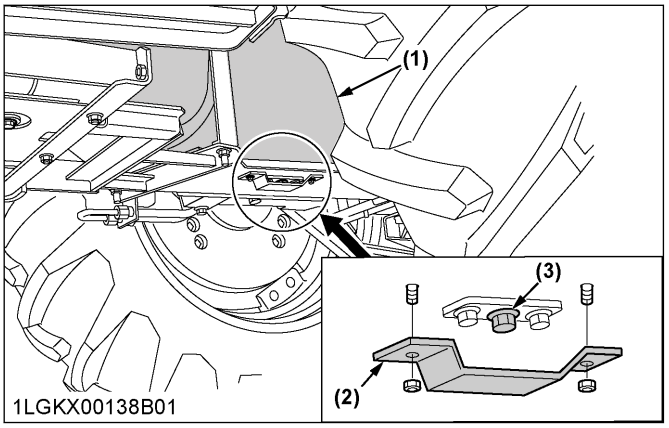
(1) スナップストッパ
(2) ロックナット
(3) タイロッドジョイント

3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。

2. 燃料タンクの水抜き

重要：
- **水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は、水抜きの間隔は更に短くしてください。**
- **トラクタを長時間格納後使用する前に行ってください。**

1. カバーを外す。
2. 燃料タンク下部のドレーンプラグを外します。
3. 沈澱している不純物や水分を容器に排出します。
4. ドレーンプラグを元通りに締めます。

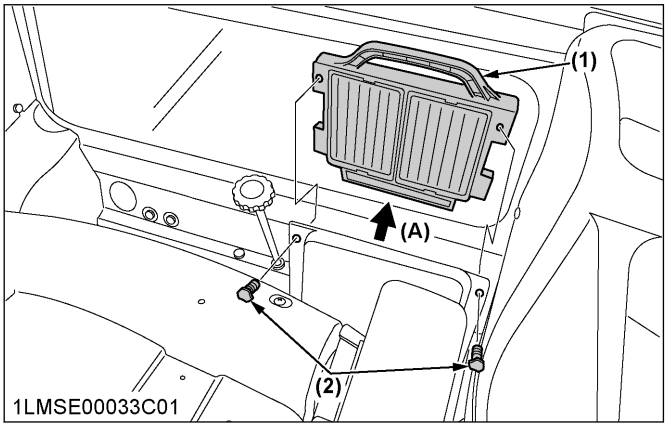


(1) 燃料タンク
(2) カバー
(3) ドレーンプラグ

3. 室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。

1. ノブボルトを外し、フィルタを外します。

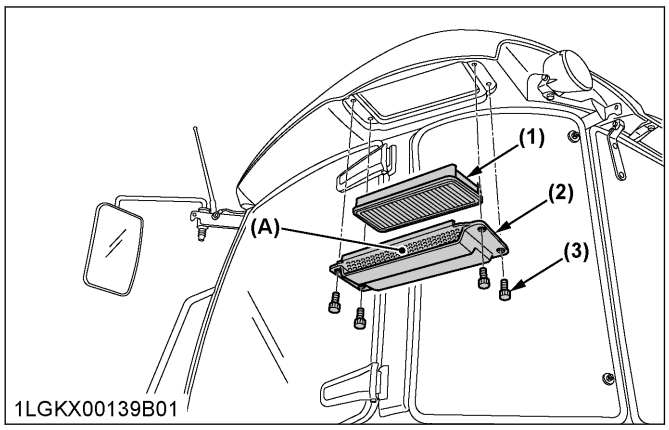


(1) 内気フィルタ
(2) ノブボルト
(A) 引く

2. 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
(エアの圧力は 205 kPa(2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

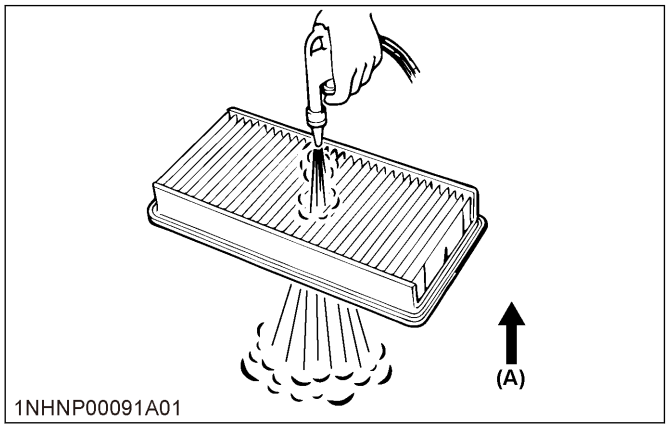
4. 外気フィルタの清掃

1. ノブボルトを外し、カバーとフィルタをいっしょに外します。



(1) 外気フィルタ
(2) カバー
(3) ノブボルト
(A) 空気導入口

2. 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
(エアの圧力は 205 kPa(2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください)



(A) 風の流れ

重要：
- **エレメントをたたかないでください。エレメントが変形すると、エアコンユニットにほこりが浸入し、エアコンを損傷する場合があります。**

3. 汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。

重要：
- **洗浄にガソリン、シンナなどを使用しないでください。**

補足：
- **カバーを元に戻すときは、カバーの空気導入口を外側に向けて組み付けてください。**

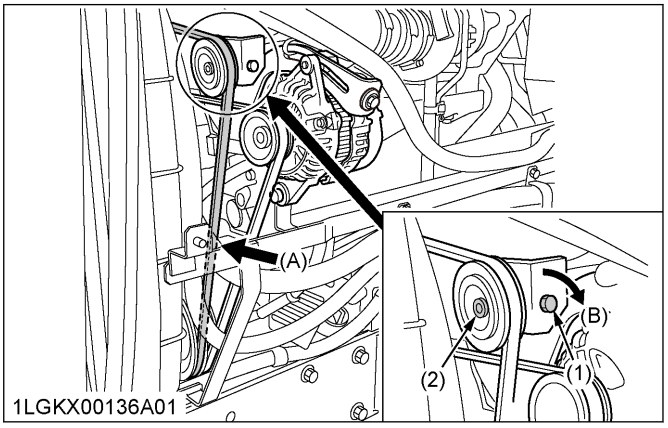
5. エアコンベルトの張りの点検・調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. エアコンベルトの張り強さが適正か点検します。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N (10 kgf)の力で押さえて、10 mm～12 mm たわむ程度

2. 調整はナットをゆるめ、調整ボルトで張ります。



(1) 調整ボルト
(2) テンションプーリ取付けナット
(A) 押す
(B) 張る

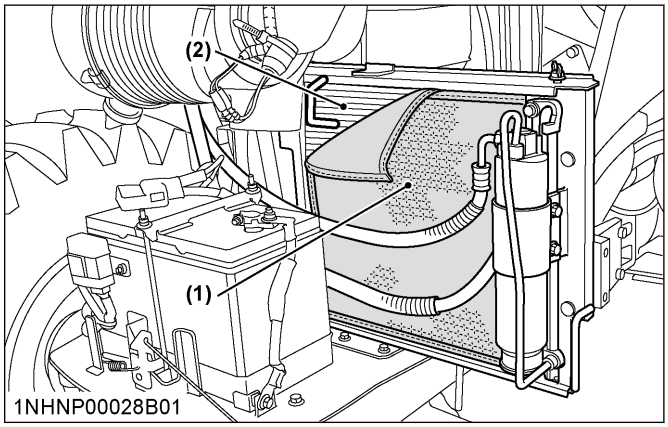
6. エアコンコンデンサの清掃

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行ってください。**

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、コンデンサのフィンを損傷させないように、注意してください。**

1. 蝶ナットをゆるめ、ハンドルを持ちコンデンサを手前に引き出します。
(詳細はエアコンコンデンサの引出し（136 ページ）を参照)

2. 防虫網を外し、コンデンサフィンにごみが詰まっていれば水道水などで取り除いてください。



(1) エアコンコンデンサ用防虫網
(2) コンデンサ

400 時間ごとの点検・整備

1. ウォータセパレータの清掃

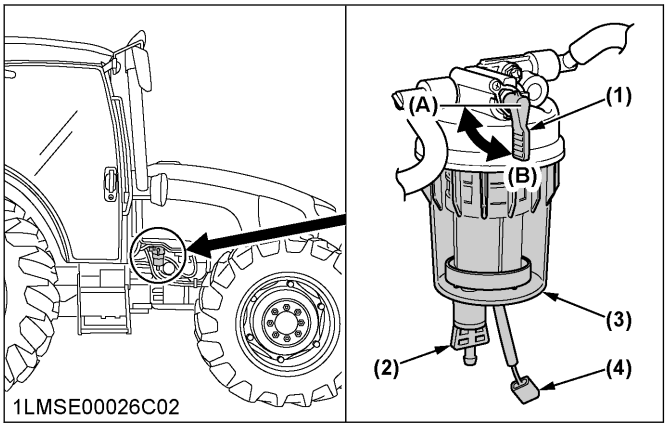
重要：
- **セパレータや燃料フィルタがじゅうぶん点検・整備されていない場合、サプライポンプやインジェクタの部品寿命が早まる可能性があります。**
- **エレメントが破損している場合、新しいものに交換してください。**

1. 水位センサのコネクタを外してください。
2. 燃料コックを“閉”にしてください。
3. 下部ドレーンプラグをゆるめて燃料を容器に排出後カップを外します。
4. カップやエレメントなどを容器で受けながら軽油で洗浄します。
5. 次の図を参考に元通りに組み付けてください。

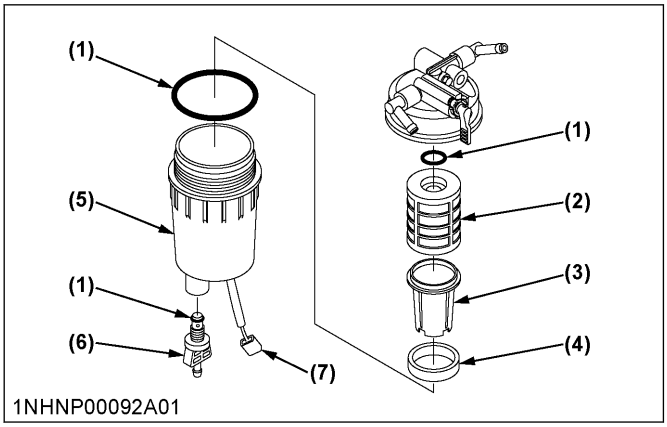
   重要：
   - **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**

6. 水位センサのコネクタを取り付けてください。
7. 燃料コックを“開”にしてください。

   重要：
   - **組付け後、必ず空気抜きをしてください。（詳細は燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）を参照）**



(1) 燃料コック
(2) ドレーンプラグ
(3) カップ
(4) 水位センサのコネクタ
(A) 閉
(B) 開



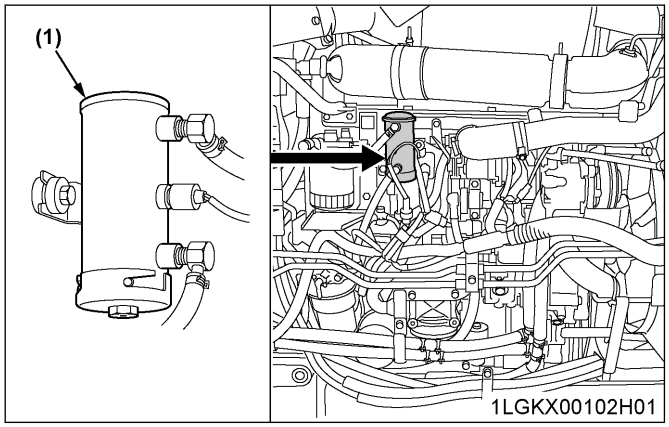
(1) O リング
(2) エレメント
(3) エレメントカップ
(4) 赤色フロート
(5) カップ
(6) ドレーンプラグ
(7) 水位センサのコネクタ

2. 燃料電磁ポンプ内フィルタの清掃

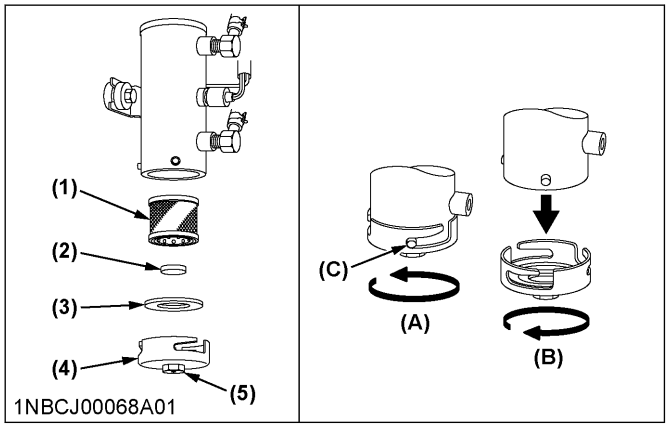
1. 燃料コックを**[閉]**にしてください。
2. カバーのナットをゆるめて燃料電磁ポンプからカバーを外します。
3. カバー、マグネットやエレメントなどを軽油で洗浄します。
4. 次図を参考に元通りに組み付けてください。

5. 燃料コックを**[開]**にしてください。

補足：
- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**
- **カバーを組み付けるときは確実に固定されているか確認してください。**
- **組付け後、必ず空気抜きをしてください。（詳細は燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）参照）**



(1) 燃料電磁ポンプ



(1) エレメント
(2) マグネット
(3) ガスケット
(4) カバー
(5) ナット
(A) “締める”
(B) “ゆるめる”
(C) ピンの頭にあたる位置まで締める

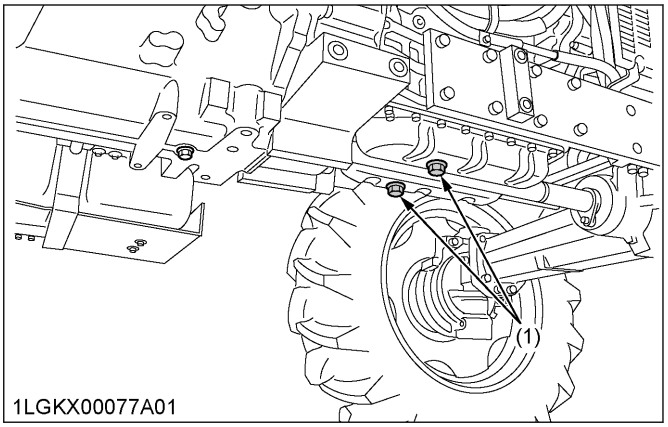
500 時間ごとの点検・整備

1. エンジンオイルの交換

⚠ 警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

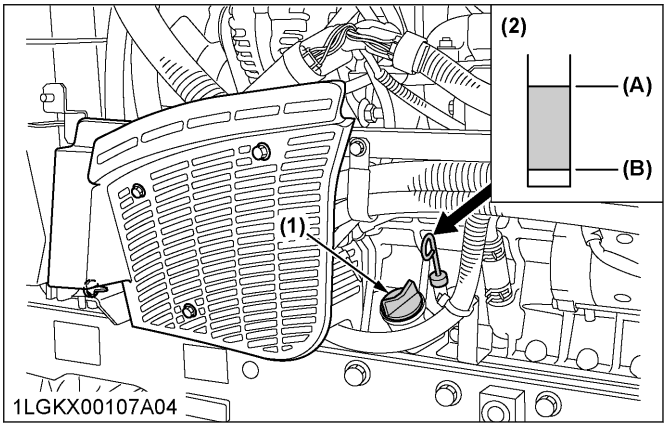
重要：
- **今まで使用していたオイルと異なるメーカ、あるいは粘度 NO.の異なるものを使用する場合は、オイルを容器に全部排出してから、新しいオイルと交換してください。**
  注ぎ足し使用は絶対しないでください。
- **オイルは必ず指定オイルを使用してください。D10W-30 DH-2（DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル）**
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. ドレーンプラグを外してオイルを容器に排出します。



(1) ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

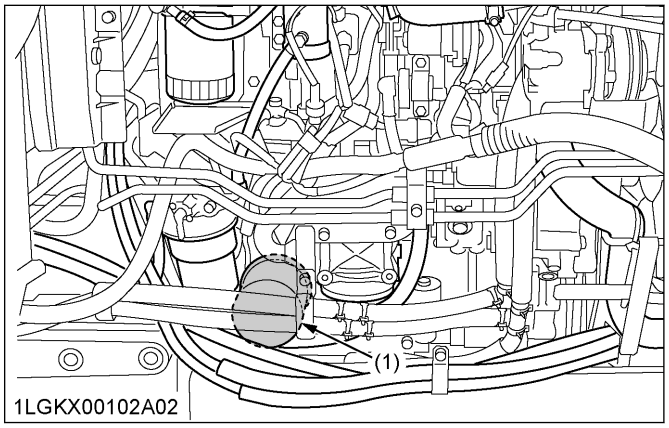
エンジンオイル規定量（フィルタ含む）	10.7 L

2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

補足：
- **オイルフィルタは、カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると、バイパスバルブが作動して、オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので、ろ過されないオイルで潤滑が行われます。これを防ぐため、オイルフィルタの詰まりがないように、規定時間で、新しい純正部品のカートリッジと交換してください。**

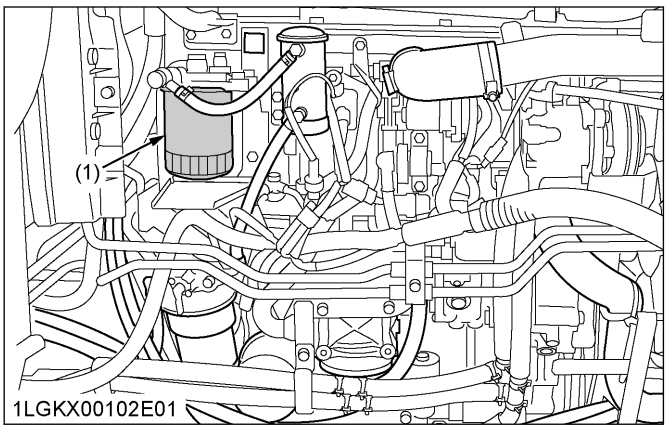
1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを取り外します。
2. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約 5 分間運転し、オイルランプの作動に異常がないかまた、油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給してください。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

3. 燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを外してください。
2. 新しいフィルタカートリッジの組付けは、パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けてください。



(1) 燃料フィルタカートリッジ

重要：
- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**

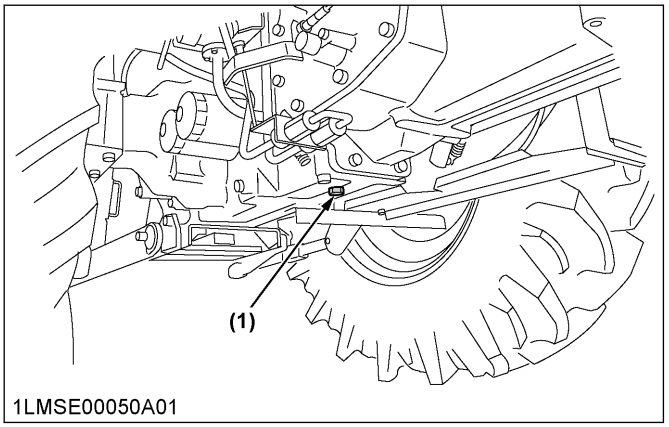
3. カートリッジ交換後は、必ず空気抜きをしてください。
（詳細は燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）を参照）

4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換

警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

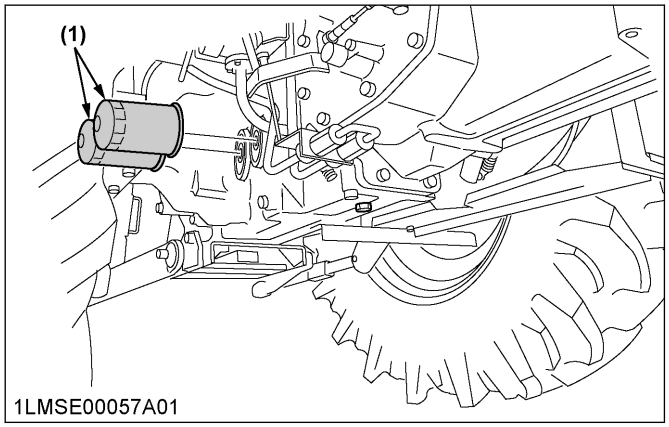
純正部品のカートリッジと交換してください。

1. ドレーンプラグを外してオイルを容器に排出します。



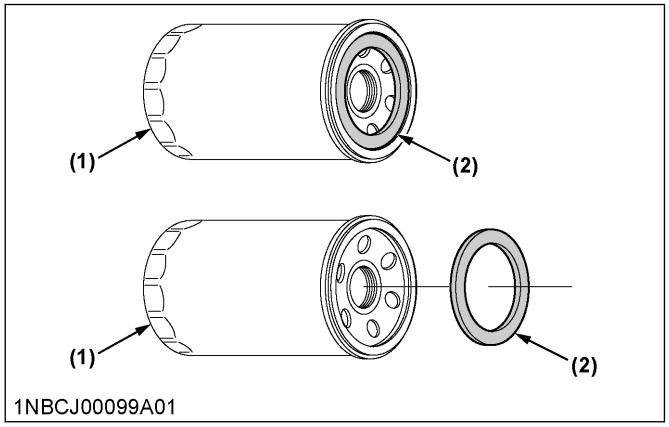
(1) ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを取り付けた後に、フィルタレンチでフィルタカートリッジを取り外します。



(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ

3. カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したごみを拭き取ります。



(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ
(2) マグネットフィルタ

4. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約 2 分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
7. 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給してください。
   ミッションオイルの抜き方、補給のしかたはミッションオイルの交換（153 ページ）を参照してください。

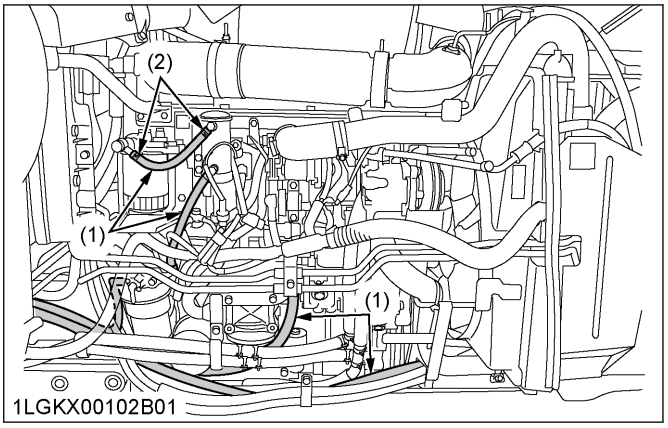
5. 燃料ホースの点検・交換

⚠ 警告

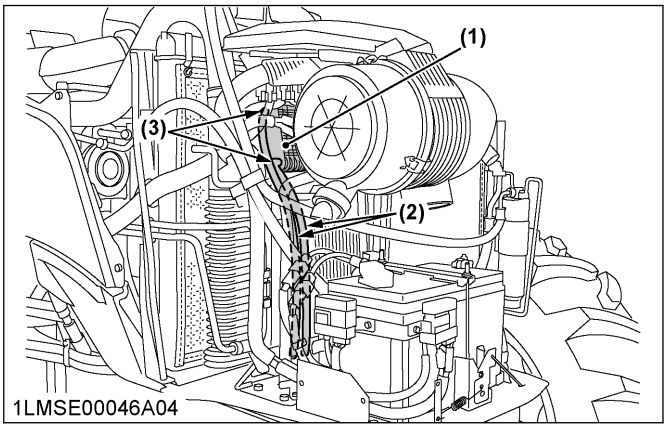
- **ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。**
  燃料漏れなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. 燃料ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 燃料ホース
(2) 締付けバンド



(1) 燃料クーラ
(2) 燃料ホース
(3) 締付けバンド

6. ラジエータホースの点検・交換

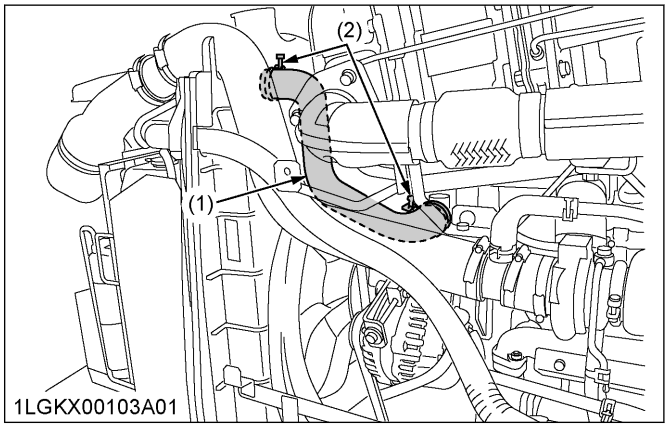
⚠ 警告

- **ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。熱湯漏れによるヤケドなどの原因になります。**

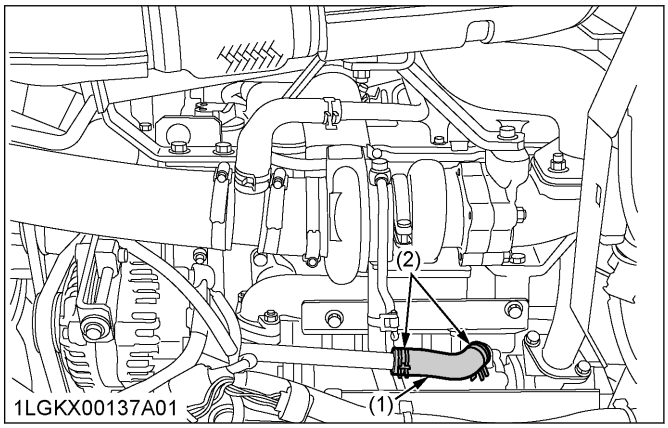
ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. ラジエータホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。

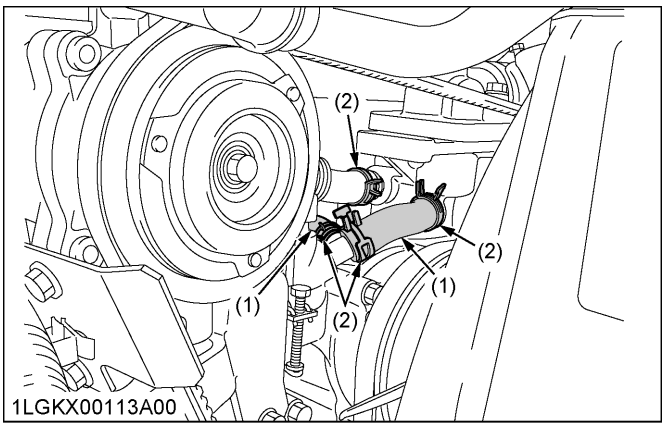
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

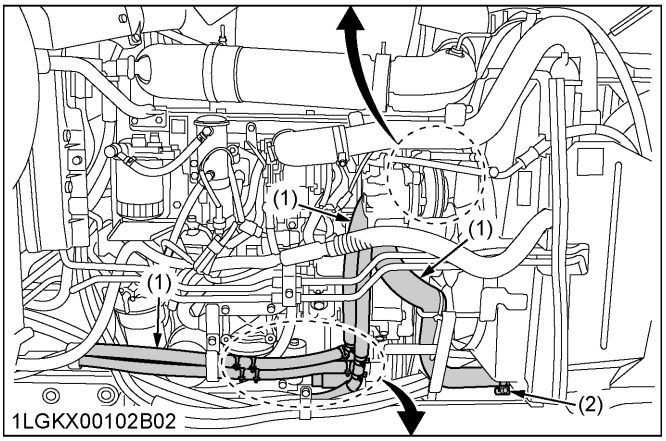


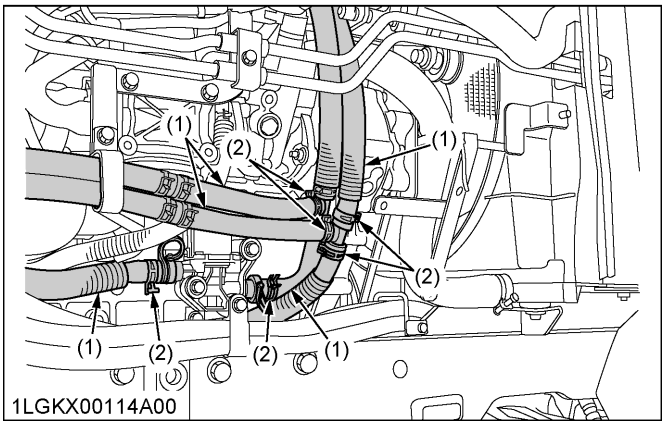
(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド



(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド







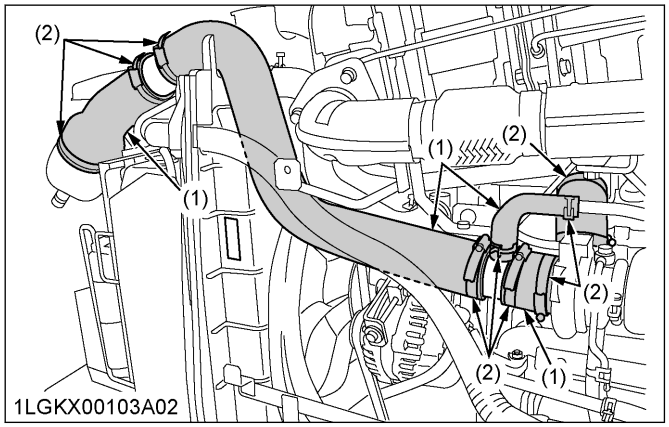
(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド

7. 吸気ホースの点検・交換

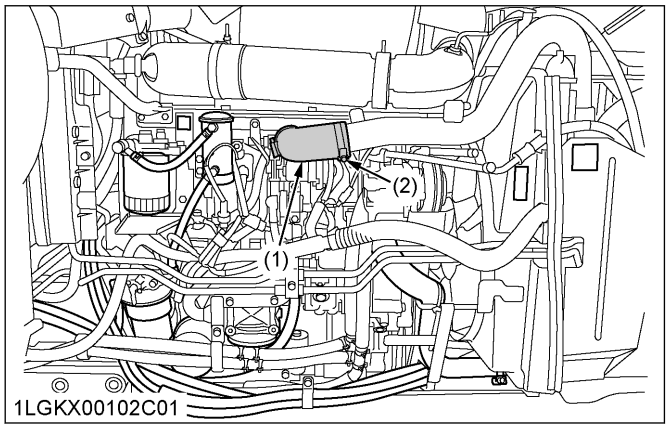
ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. 吸気ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。

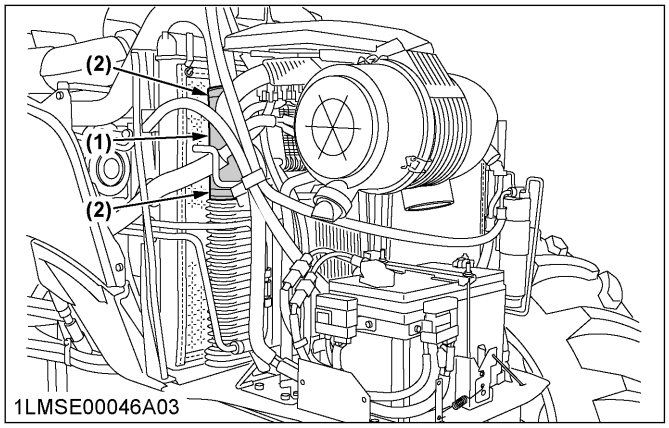
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



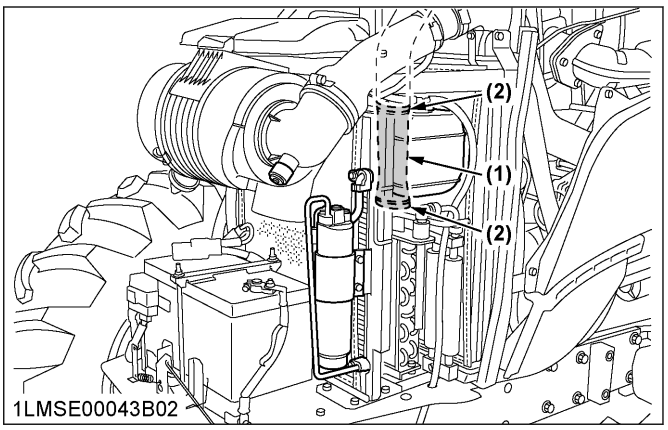
(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド

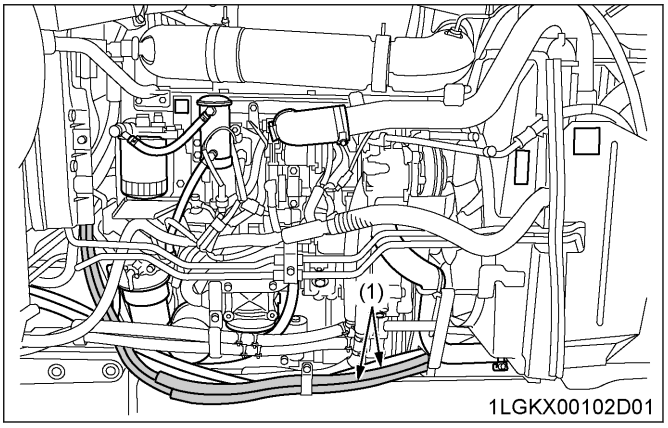
8. パワーステアリングホースの点検･交換

⚠ 警告

- **ホースの傷みは、必ず点検してください。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。

1. パワーステアリングホースが傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) パワーステアリングホース

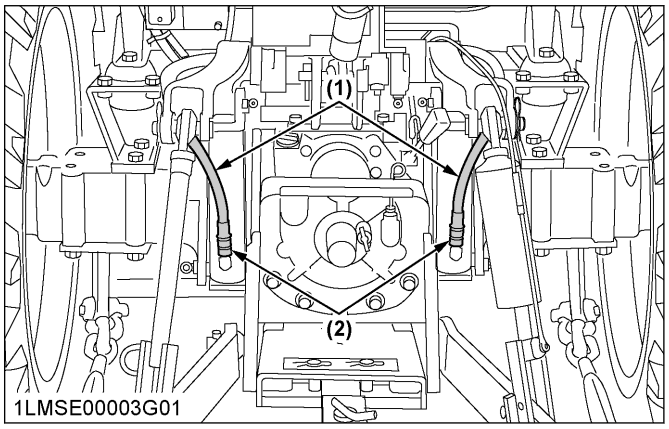
9. ブレーキホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。
購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

10. リフトシリンダホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. リフトシリンダホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

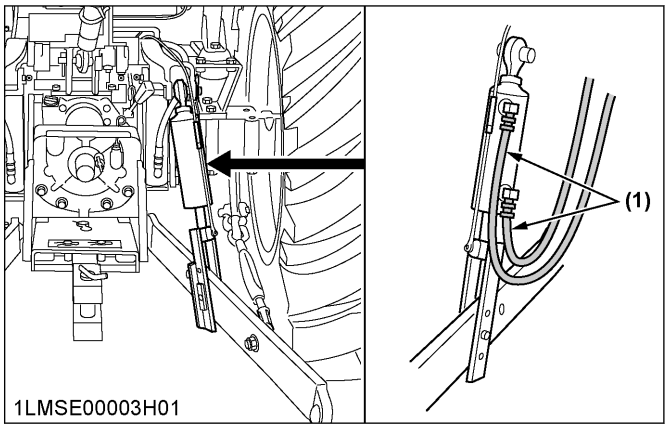


(1) リフトシリンダホース
(2) 締付けバンド

11. 傾き自動シリンダホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドとともにホースを新品と交換する必要があります。

1. 傾き自動シリンダホースが傷んでないか点検してください。異常があれば交換･整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 傾き自動シリンダホース

12. エアコン配管、ホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。

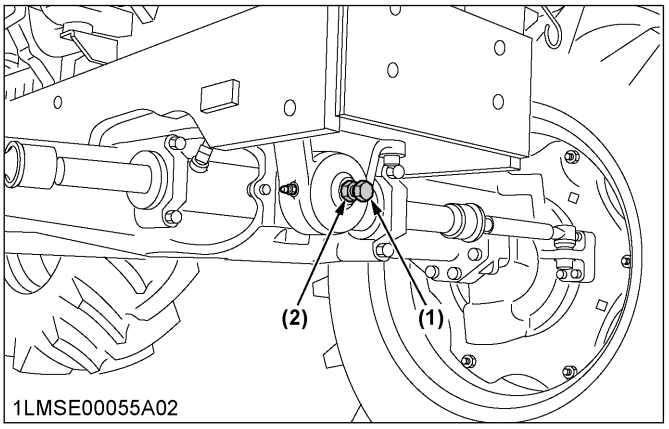
1. エアコン用ホースや配管に損傷がないか点検してください。異常があれば交換･整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

600 時間ごとの点検・整備

1. 前部デフケースの前後遊びの点検･調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

1. ロックナットをゆるめ、調整ボルトを前輪デフケースに接するまで締め込みます。
2. その位置より調整ボルトをさらに 1/6 回転締め込み、ロックナットで固定します。



(1) 調整ボルト
(2) ロックナット

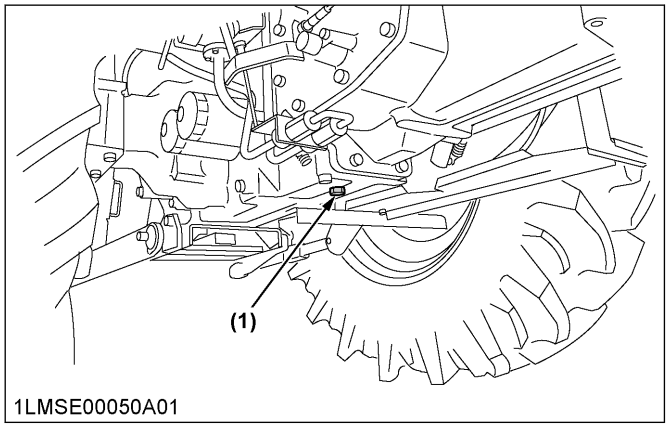
1000 時間ごとの点検・整備

1. ミッションオイルの交換

警告

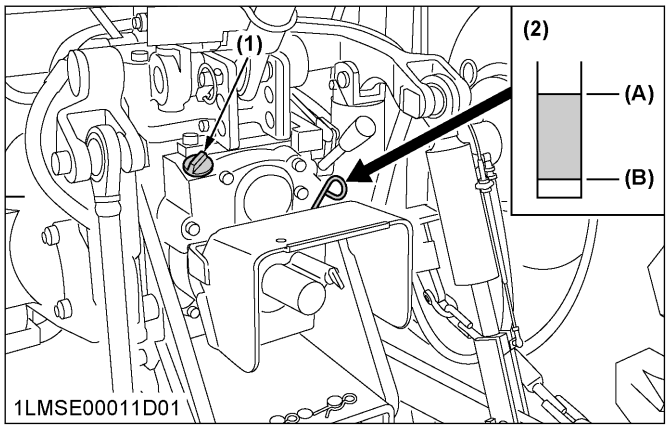
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. ドレーンプラグを外してオイルを容器に排出します。



(1) ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。
4. エンジンを始動して 2〜3 分運転してから止め、再度油量を点検して規定量まで補給してください。

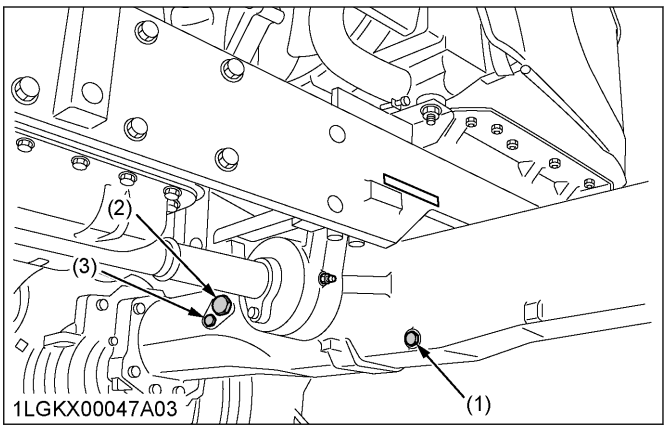


(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

ミッションオイル規定量	60 L

2. 前部デフケースのオイル交換

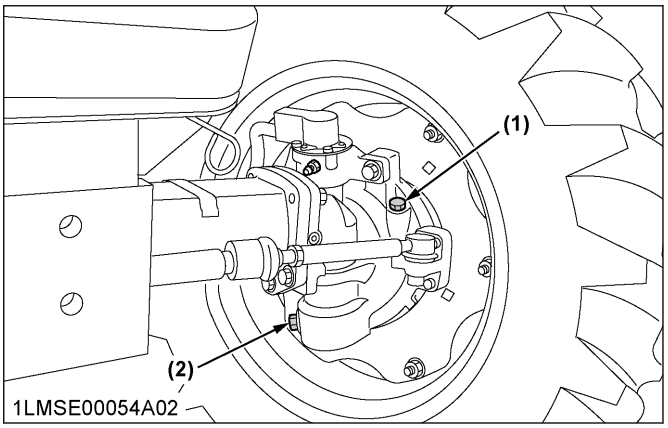
1. ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを容器に排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. 給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。



(1) ドレーンプラグ
(2) 給油口
(3) 検油プラグ

3. 前輪ケース左・右のオイル交換

1. 左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを容器に排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. 給油口から新しいオイルを規定量入れてください。



(1) 給油（検油）プラグ
(2) ドレーンプラグ

4. エンジンバルブクリアランスの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

1000 時間ごとまたは 1 年ごとの点検・整備

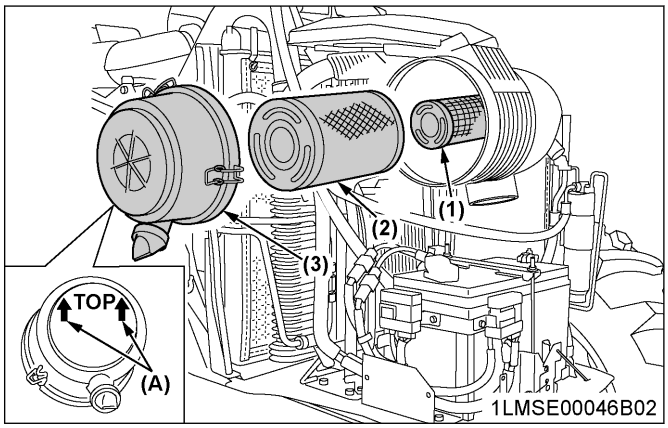
1000 時間使用ごと、または 1 年間使用ごとの内、どちらか早く経過した時点でメンテナンスを必ず実施してください。

1. ダブルエアクリーナエレメントの交換時期

アウターエレメントの交換は 1000 時間または 1 年間使用ごとに交換が必要です。

インナーエレメントは 1 年ごとに交換が必要です。

重要 :
- **エレメントは、清掃・交換以外は不必要に触らないでください。**
- **ダストカップの（ ⬆ マーク）を必ず上向きになるように取り付けてください。**



(1) インナーエレメント
(2) アウターエレメント
(3) ダストカップ
(A) 上方向マーク

1. ダストカップを外します。
2. アウターエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。
3. インナーエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。

2. エキゾーストマニフォールドの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

1500 時間ごとの点検・整備

1. 燃料インジェクタの点検

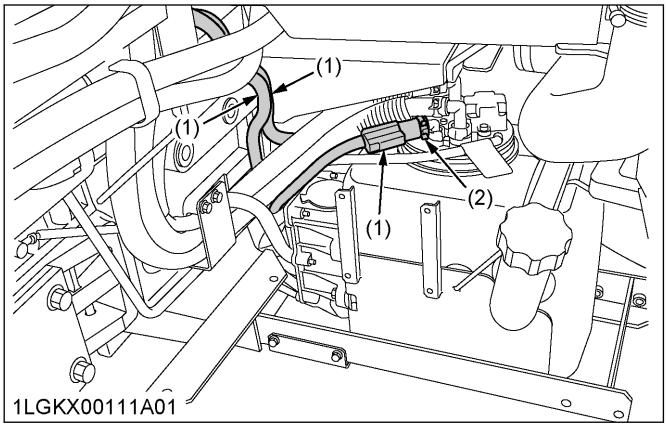
購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. 尿素水インジェクタの清掃

購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. 尿素水ホースの点検

尿素水ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。もし、異常があれば購入先へ整備を依頼してください。



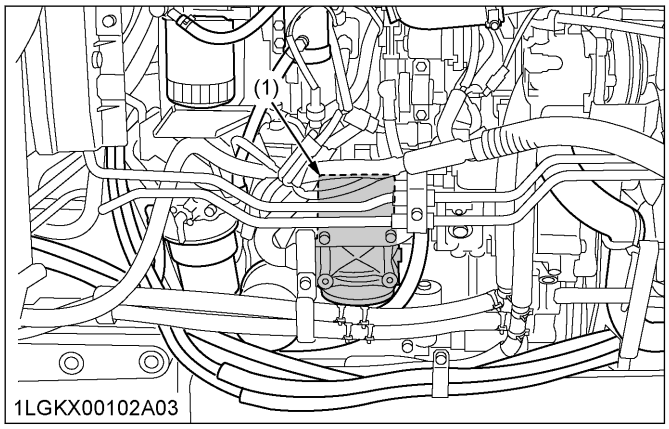
(1) 尿素水ホース
(2) 締付けバンド

4. オイルセパレータエレメントの交換

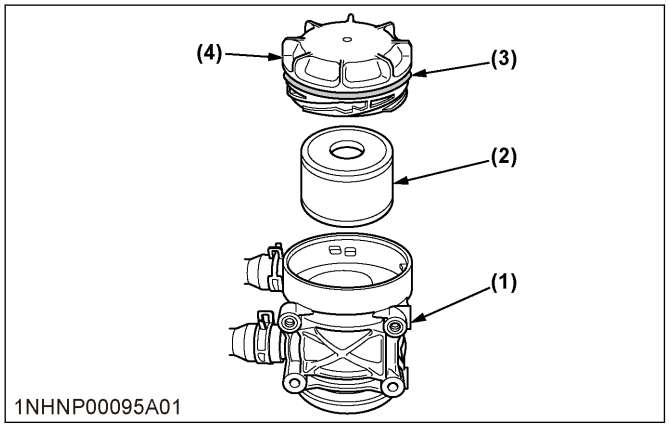
⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. カバーを外してエレメントを外します。ケース内のオイルやカーボンをきれいな布で拭き取ります。
2. エレメントを新しいものに交換します。

3. カバーを取り付けます。



(1) オイルセパレータ



(1) 本体
(2) エレメント
(3) ガスケット
(4) カバー

5. PCV バルブの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

6. EGR クーラの点検・清掃

購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2000 時間ごとまたは 2 年ごとの点検・整備

2000 時間使用ごと、または 2 年間使用ごとの内、どちらか早く経過した時点でメンテナンスを必ず実施してください。

1. ラジエータ洗浄剤

ラジエータの洗浄には、ラジエータ洗浄剤を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。
ラジエータ洗浄剤は、次のような場合に使用してください。

- 2000 時間ごとまたは 2 年使用ごと
- 不凍液を混入するとき
- 不凍液混入から水だけに変えるとき

2. 冷却水の交換

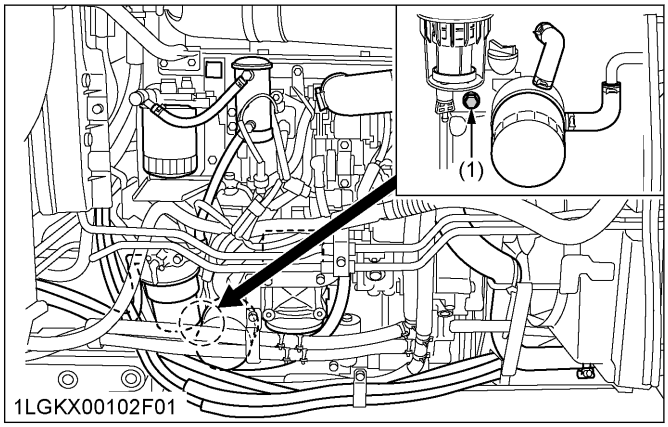
⚠ 警告

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

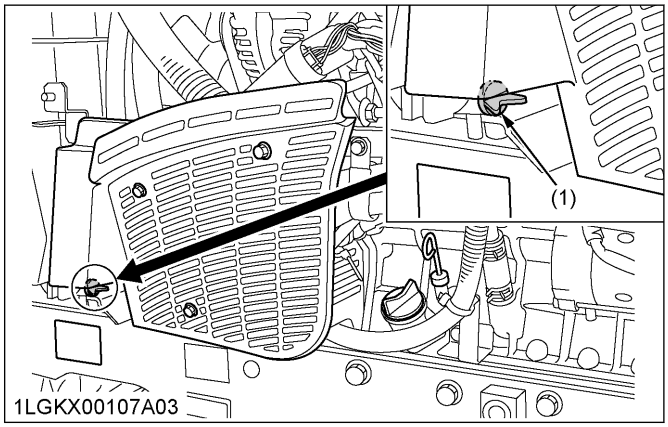
重要 :

- **冷却水交換作業では、冷却水系統にエアが混入する可能性があります。心配な時は、購入先にご相談ください。**

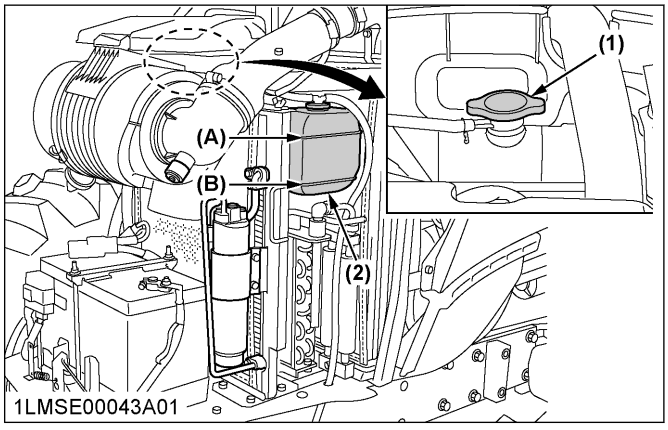
1. ラジエータのドレーンプラグとラジエータキャップを開き、冷却水を容器に排出します。



(1) ドレーンプラグ



(1) ドレーンプラグ



(1) ラジエータキャップ
(2) リザーブタンク
(A) 上限
(B) 下限

2. ポンプなどを用いリザーブタンクから容器に排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を容器で受けながら洗浄し、ドレーンプラグを締めます。
4. ラジエータおよびリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に閉めてください。

重要：

- **冷却水補給後エンジンを運転し、リザーブタンク内の量およびラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。冷却水の量が不足している場合、エンジンの破損につながるおそれがあります。**

5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約 1.5 L ヒータ部に必要となります。冷却水を交換した場合、冷却水をリザーブタンクの注入口までいっぱいにし、ヒータ **ON**（温度コントロールつまみを **WARM**（右端）に回して、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖め、エンジンを止めてください。
   このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ、リザーブタンクの冷却水が適量になります。

2.1 不凍液

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

重要：

- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を 50%入れ、よく水と混ぜ合せてからお使いください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2000 時間または 2 年間です。必ず 2000 時間または 2 年で交換してください。**

冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータおよびリザーブタンクに補給するか、または冷却水を完全に容器などに排水してください。〔工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比	%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度	℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

3000 時間ごとの点検・整備

1. ターボチャージャの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. サプライポンプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. インテークエアヒータの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. EGR システムの点検・清掃

購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

5. DPF マフラの清掃

DPF には灰（燃えカス）が堆積していきます。堆積した灰は DPF の性能を低下させます。
灰（燃えカス）の除去は、購入先で DPF の清掃をしてもらってください。

重要：

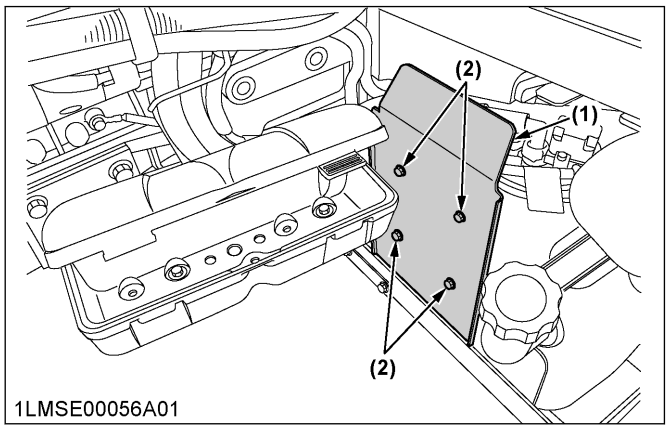
- **DPF は専用機での洗浄が必要です。分解したりせず購入先で専用機による洗浄をしてもらってください。**

6. 尿素水インジェクタの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

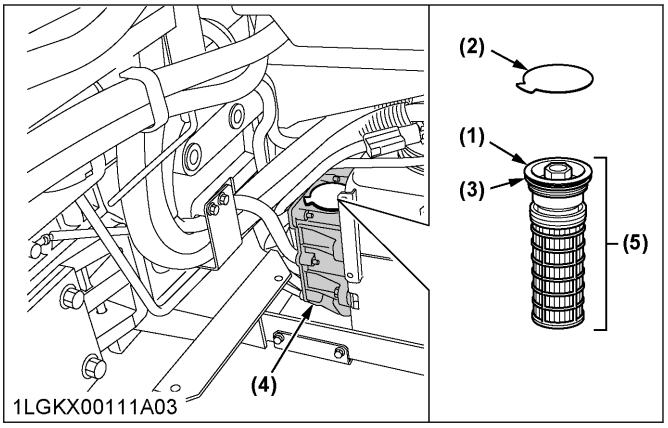
7. 尿素水ポンプエレメントの交換

1. ボルトを外し、ポンプカバーを外します。



(1) ポンプカバー
(2) ボルト

2. フィルタの取付け部を清掃します。
3. フィルタカバーをゆるめ、エレメントを外します。
4. 新しいエレメントと交換します。



(1) フィルタアッシ
(2) フィルタカバー
(3) O リング
(4) 尿素水ポンプ
(5) エレメント

補足：

- **エンジン停止時、インジェクタ冷却用尿素水(AdBlue)が数分間回路内を循環します。冷却用循環が停止後、交換作業を行ってください。（冷却中は尿素水(AdBlue)の循環音がします）**
- **O リングにはオイルを塗布しないでください。**

8000 時間ごとの点検・整備

1. 尿素水タンクサクションフィルタの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3 か月ごとの点検・整備

1. エアコン機器の簡易点検

- 当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により 3 か月に 1 回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行い、その記録を残してください。点検記録は、当機を使用中および廃棄後 3 年間は保存してください。当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。
  冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

2. 尿素水(AdBlue)の品質の点検

尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。

重要：

- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**

- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)をすべて容器に排出してください。（尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（48 ページ）を参照）その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。

（詳細は、尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管（49 ページ）を参照。）

1 年ごとの点検・整備

1. DPF 差圧センサパイプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. EGR パイプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. キャブマウントゴムの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. オイルセパレータの不凍結用ヒータ（オプション）

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2 年ごとの点検・整備

1. オイルセパレータホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. PCV バルブホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. ブーストセンサホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. DPF 差圧センサホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

5. EGR クーラホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3 年ごとの点検・整備

1. 駐車ブレーキワイヤの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4 年ごとの点検・整備

1. 燃料ホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. ラジエータホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. 吸気ホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. パワーステアリングホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

5. 傾き自動シリンダホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

6. リフトシリンダホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

7. ブレーキホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

8. マスタシリンダ / イコライザキットの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

9. ブレーキシール１、２の交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

10. エアコンホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

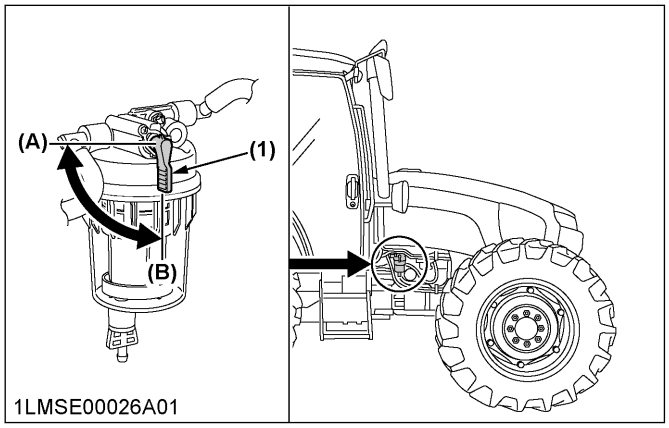
必要に応じた点検・整備

1. 燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは、次のようなときに行う必要があります。

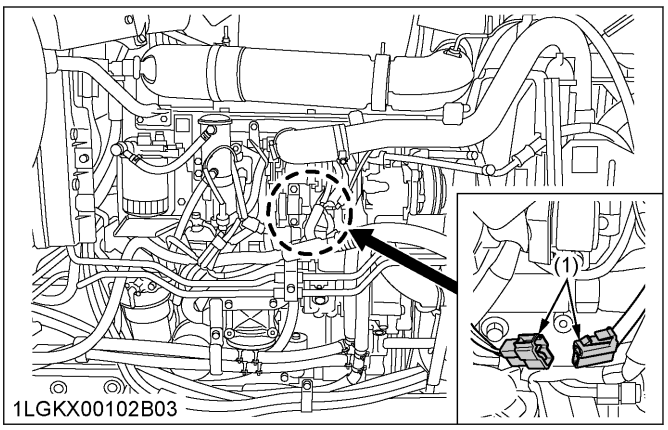
- セパレータより排水および分解洗浄したとき
- 燃料フィルタおよび配管を取り外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが“開”になっているか確認します。



(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

3. ヒータ（予熱）用コネクタを外します。

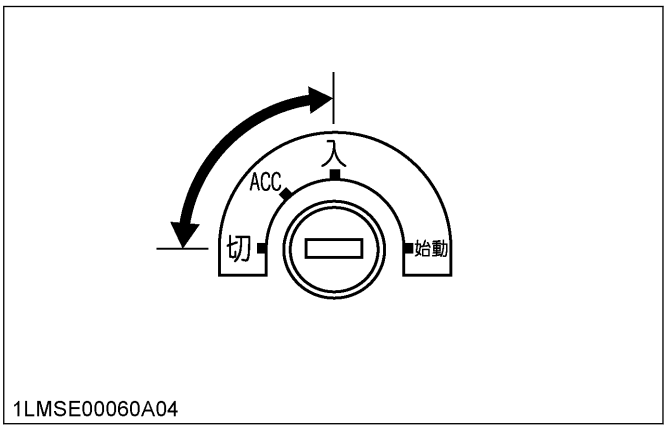


(1) コネクタ

重要：

- **バッテリが放電しますので、コネクタを接続したまま空気抜きを行わないでください。**

4. 次のインターバルでキースイッチの切換えを 10 回程度繰り返し行います。
   a. キースイッチを**[入]**位置にして 30 秒間保ちます。
   b. キースイッチを**[切]**位置にして 15 秒間保ちます。



5. ヒータ（予熱）用コネクタを接続します。
6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し、アクセルレバーを中速回転（約 1500 rpm）位置に戻します。
   （スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は、30 秒間休み、この操作を再度 1～2 回くり返します）
7. エンジンをふかす操作をし、燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
8. 以上の操作後、まだ空気が抜けずにエンストする場合は、手順 1.～7.で再度空気抜きを行います。

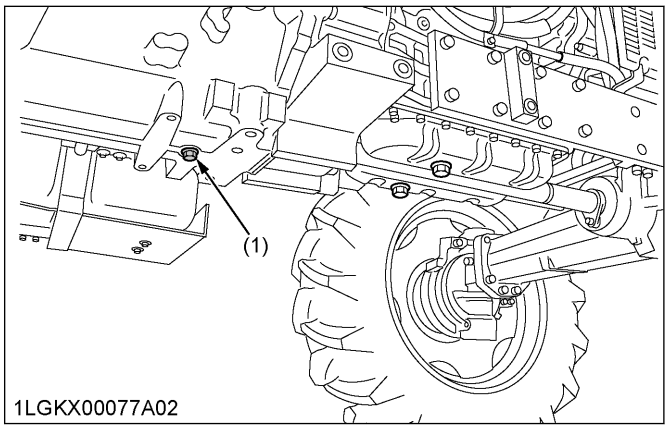
2. ブレーキの空気抜き

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて空気抜きをしてもらってください。

3. クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで、クラッチハウジングに多量の水が掛かった場合はクラッチハウジングの水抜きをします。

1. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水の浸入がないことを確認してください。



(1) ドレーンプラグ

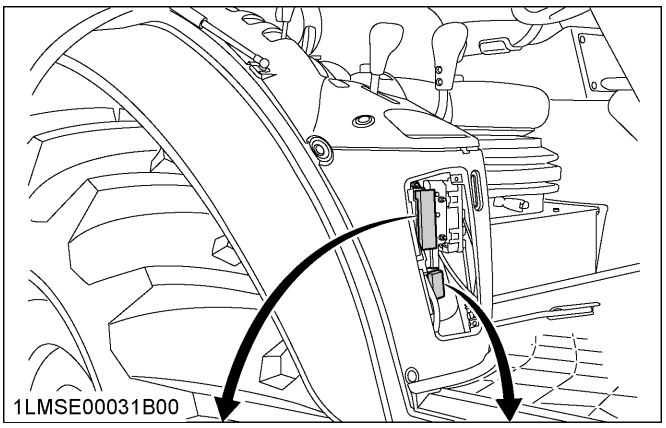
2. もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥してください。

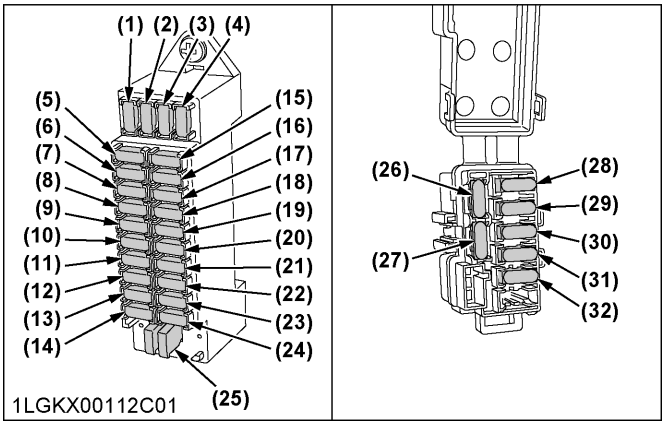
4. ヒューズの交換

警告

- **ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先で点検、修理してください。**

1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

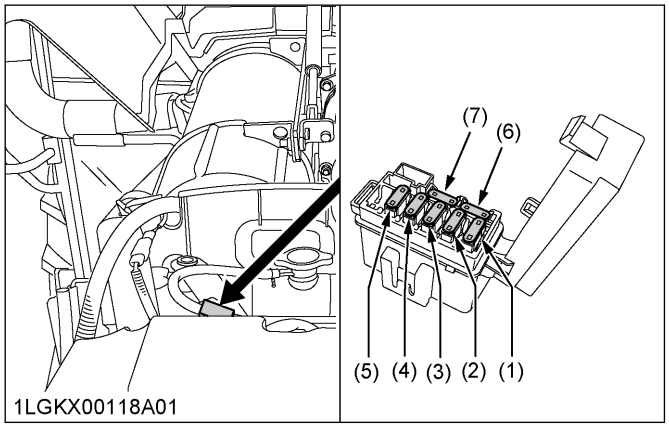




番号	容量	保護回路
(1)	20 A	予備
(2)	15 A	予備
(3)	10 A	予備
(4)	5 A	予備
(5)	15 A	作業灯（後）
(6)	15 A	作業灯（前）
(7)	15 A	シガライタ
(8)	30 A	エアコン（ファンモータ）
(9)	10 A	エアコン（コンプレッサ）
(10)	20 A	作業灯（ボンネット）
(11)	5 A	トランスミッションコントロール
(12)	15 A	ローダプラグ
(13)	15 A	ECU
(14)	5 A	スターターリレー
(15)	5 A	ラジオ
(16)	5 A	エアコン（コントロール）
(17)	15 A	ワイパー
(18)	10 A	オルタネータ、PTO、エンジン
(19)	5 A	メーター
(20)	20 A	ウインカ
(21)	10 A	バックアップ（メーター）
(22)	20 A	ヘッドライト
(23)	20 A	ハザード
(24)	5 A	バックアップ（ECU）

（次へ続く）

番号	容量	保護回路
(25)	ヒューズ抜き	
(26)	15 A	予備
(27)	10 A	予備
(28)	10 A	リヤクォータウインドデフォッガ
(29)	20 A	リヤウインドデフォッガ
(30)	15 A	作業灯（オプション）
(31)	15 A	ストップランプ
(32)	5 A	傾き自動システム

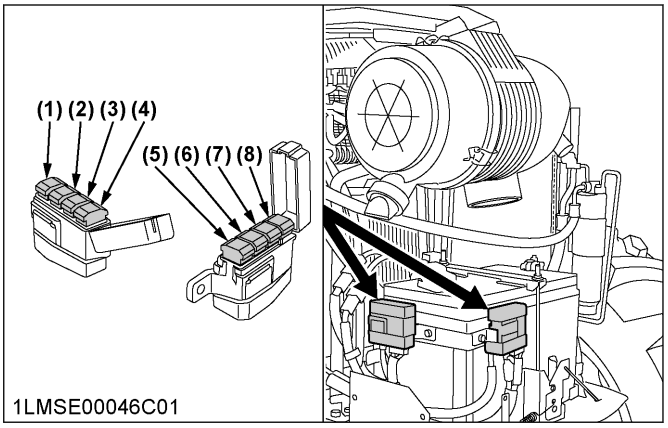


番号	容量	保護回路
(1)	30 A	CRS システム
(2)	20 A	SCR システム
(3)	30 A	SCR ヒータ
(4)	10 A	NOx センサ、SCR タンクセンサ
(5)	10 A	EGR バルブ吸気センサ
(6)	10 A	予備
(7)	30 A	予備

補足：
- **トラクタに作業灯やラジオなどを取り付けるときの電源取出しは、購入先にご相談ください。**
- **保護回路はカバーのラベルを参照してください。**

5. スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。



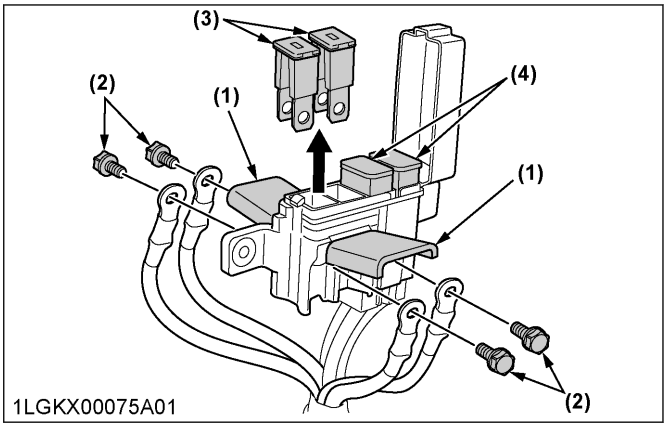
番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
(1)	30 A	キースイッチ	ボルトタイプ
(2)	100 A	オルタネータ	ボルトタイプ
	130 A（オプション）	オルタネータ	ボルトタイプ
(3)	50 A	デフォッガ、ハザード	プラグインタイプ
(4)	60 A	SCR システム	プラグインタイプ
(5)	120 A	予熱（グロー）	ボルトタイプ
(6)	30 A	作業灯	ボルトタイプ
(7)	30 A	電源取出し（予備電源）	プラグインタイプ
(8)	60 A	スタータ、エアコン	プラグインタイプ

［プラグイン（差込みタイプ）のスローブローヒューズ］の交換手順

1. バッテリの（–）コードを外します。
2. ケースからヒューズを引き抜きます。
3. 同じ容量（アンペア）のヒューズを取り付けます。

［ボルトタイプ（ボルトで固定）のスローブローヒューズ］の交換

- 交換は購入先へ依頼してください。



(1) ヒューズケース
(2) ボルト
(3) ボルトで固定しているスローブローヒューズ
(4) プラグインタイプのスローブローヒューズ

6. ランプ類の交換

⚠ 注意
- **電球を落としたり、キズをつけたりしないでください。破損した場合、ガラス片が飛散しケガの原因となります。特にハロゲン電球は、ガラス内部の圧力が高いため、注意してください。**
- **電球を交換するときは、じゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドの原因となることがあります。**

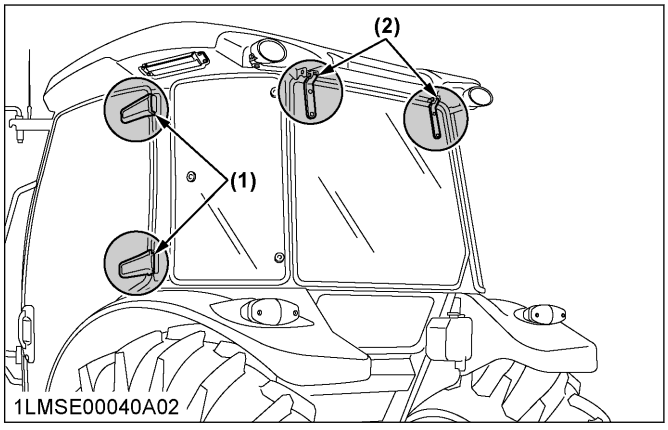
重要：
- **ワット数の大きい電球を取り付けないでください。**
- **素手でガラス面を触らないでください。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。**

6.1 ランプ一覧

ヘッドランプ	60 W/55 W
ウインカランプ（前）	21 W
ウインカランプ（後）	21 W
車幅灯	5 W
作業灯（前後）※ヘッドライト上除く	55 W
作業灯（前）※ヘッドライト上	35 W
尾灯、ブレーキランプ	5 W/21 W
バックランプ	21 W

7. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油

1. ドアやリヤウインドの開閉がうまくいかないときは、図で示された箇所に注油してください。

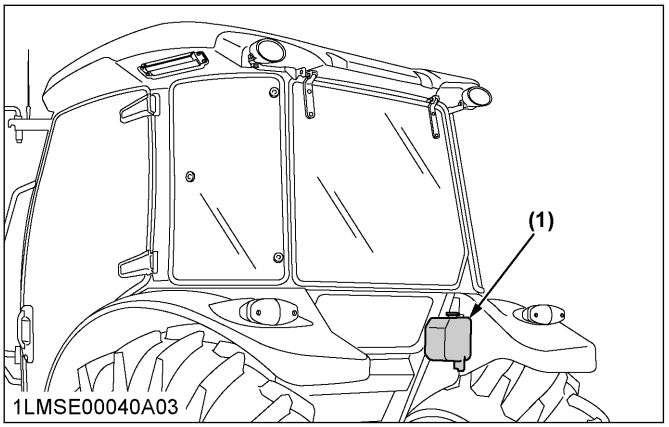


(1) ドアヒンジ部
(2) リヤウインドヒンジ部

8. ウォッシャ液の補充

重要：
- **凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。**
- **空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。**
- **ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために、ごみが入らないようにしてください。**

1. ウォッシャタンク内のウォッシャ液が少なくなってきたら、自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



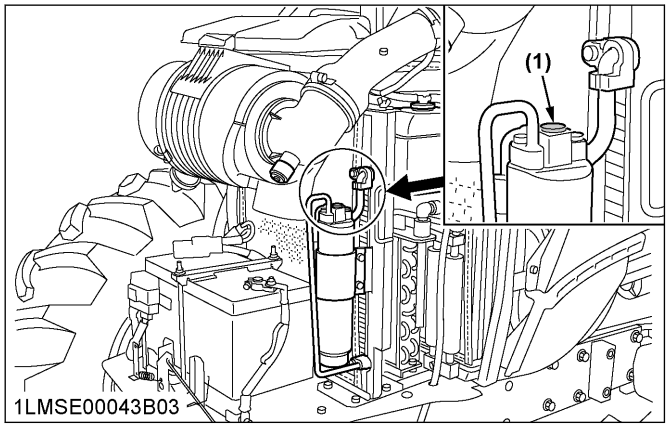
(1) ウォッシャタンク

9. 冷媒（ガス）量の点検・充てん

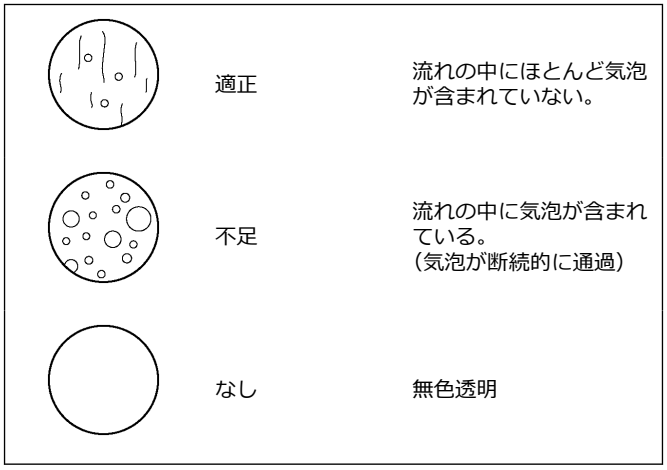
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

1. エアコンを次の条件で運転します。
   - エンジン回転数：約 1500 rpm
   - 温度コントロール：最強冷位置
   - ファンスイッチ：最強風
   - エアコンスイッチ：ON

2. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。



(1) サイトグラス



3. 冷媒が不足しているときは、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

格納

1. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告

- **シートを掛ける場合、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **洗車するときは、次の点に注意して行ってください。**
  - **エンジンを止めてから行ってください。もしエンジンを掛けて行うときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **灯火類は消灯した状態で行ってください。もし点灯した灯火類に直接水が掛かるとランプのバルブが切れるおそれがあります。**
  - **傾き自動外部操作スイッチには直接水が掛からないようにしてください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドア、リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。**
- **格納時は、必ず[切]位置でキーを抜いておいてください。**
- **バッテリの取付けの際には、(+)と(−)をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタの電子機器類が破損する場合があります。**

そのほかの"洗車時の注意"は、洗車時の注意（125 ページ）を参照してください。

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納してください。

- 不具合箇所は整備してください。
- エンジンオイルを交換し、2000 rpm 以上で 10 分～15 分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
  その後も 1 か月～2 か月ごとに同様に防錆運転をしてください。
- 定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
  (詳細は、定期点検箇所一覧表（126 ページ）を参照)
- 車体の錆びやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ、各油圧シリンダの防錆運転を 1 か月～2 か月ごとに行ってください。
  1. ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで 1 回～2 回まわす。
  2. 油圧（ポジション）レバーで 3 点リンク（作業機）を最上昇位置まで 1 回～2 回上下させる。
  3. 傾き手動スイッチで、リフトシリンダ（右）を 1～2 回全ストローク伸縮させる。(作業機が装着されているときは作業機を上げてから行ってください)
- 燃料コックを**閉**にしておいてください。
- 冷却水は抜いておいてください。
  ただし、オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
- クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- タイヤの空気圧は、標準より少し多めにしてください。
- バッテリを本機から取り外すときは、SCR システムの冷却機能が完了するまで、エンジン停止から少なくとも 15 分待ってください。
  (詳細は、エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意（144 ページ）を参照)
- バッテリを本機から取り外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取り付けた

まま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
- ウエイトは取り外し、作業機は、外すか地面に降ろした状態にしてください。
- 後輪の前後に車止めをしておいてください。
- 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
- 格納中バッテリは、1 か月に 1 回充電器で完全充電するようにしてください。
- 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨の掛からない乾燥した場所を選定し、シートを掛けるようにしてください。
- 燃料は満タンにしてください。
  空にしておくと水滴ができ、燃料系統故障の原因になります。
- 尿素水(AdBlue)は尿素水タンクからすべて排出してください。
  尿素水(AdBlue)を排出するときは、ドレーンプラグを外して容器に排出してください。ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。
  （尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（48 ページ）を参照）
- 再度運転するときは、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに補給してください。
  （尿素水(AdBlue)の補給については、尿素水(AdBlue)の補給（48 ページ）を参照）
- ドアを確実に閉め、キーを抜いておいてください。

不調と処置

1. エンジンの不調と処置

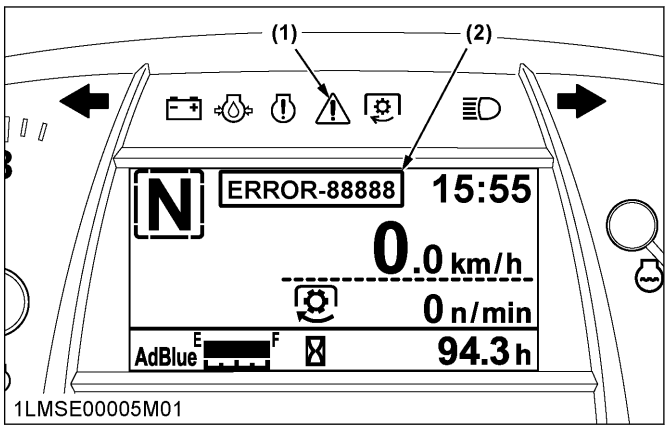
もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合	燃料が流れない。	• 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く。 • 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	• ホース・プラグ・袋ナットおよび締付けバンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換または補修しておく。 • 空気抜きをする。 （詳細は、燃料の空気抜きのしかた（160 ページ）を参照）
	寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	• ラジエータに熱湯をそそぐ。
	バッテリが上がり気味のため。	• バッテリを充電する。
	吸気ヒータの故障	• 吸気ヒータのスローブローヒューズを点検する。 • 寒冷時の吸気ヒータの作動を点検する。
出力不足の場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	燃料の流れ不足	• 燃料フィルタの清掃をする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
	尿素水(AdBlue)不足	• 尿素水(AdBlue)を補給する。
突然停止した場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	燃料が流れない。	• 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	燃料不良	• 良質の燃料に交換する。
	エンジンオイルの入り過ぎ。	• 正規のオイル量にする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
水温計が H 付近を示すとき（オーバーヒート）	冷却水が 125 ℃付近になったため。	• 冷却水の量（不足）および水漏れの点検 • ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 • フロントグリル、ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合、または冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	• 負荷を掛けてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し、および、長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	ノズル不良	• ノズルを点検する。
	燃料不良	• 良質の燃料に交換する。
エンジンがオーバーヒートしていないにもかかわらずエンジン異常警告灯が点灯する	–	• いったんエンジンを止め、再始動を行ってください。 • エンジンが再始動できない場合や警告灯が消灯しない場合、購入先へご相談ください。 • 警告灯が点灯時、エンジンの故障箇所により次の現象が現れます。 – エンジンが突然止まった。 – エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。 – エンジン出力がじゅうぶんでない。 – エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。 – エンジン回転がアイドリングから上がらない。

わからない場合は、購入先にご相談ください。

2. トラクタの故障と処置

異常が生じた場合、電子メータ内のシステム異常警告灯が点滅し、故障箇所を示すエラーコードも表示されます。
もし表示された場合、すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。



(1) システム異常警告灯
(2) エラーコード

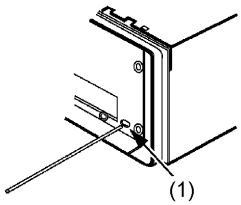
表示エラーコード	状態
"ERROR - 1"	アクセルセンサ（主）の異常
"ERROR - 2"	アクセルセンサ（副）の異常
"ERROR - 3"	アクセルセンサ（主/副）の位相ずれ異常
"ERROR - 4"	シャトルセンサ（主）の異常
"ERROR - 5"	シャトルセンサ（副）の異常
"ERROR - 6"	シャトルセンサ（主/副）の位相ずれ異常
"ERROR - 7"	シャトルセンサの信号異常
"ERROR - 11"	PTO ソレノイドの異常
"ERROR - 12"	4WD（DT）ソレノイドの異常
"ERROR - 13"	倍速用ソレノイドの異常
"ERROR - 14"	シャトル前進側ソレノイドの異常
"ERROR - 15"	シャトル後進側ソレノイドの異常
"ERROR - 20"	PTO スイッチの同時 ON の異常
"ERROR - 21"	副変速（H）スイッチの異常
"ERROR - 22"	主変速（6 速）スイッチの異常
"ERROR - 23"	シャトル回転センサまたはスイッチの異常
"ERROR - 24"	車速回転センサまたはスイッチの異常
"ERROR - ENG" ("ERROR - 41")	エンジン通信異常
"ERROR - ACU" ("ERROR - 42")	ACU 通信異常
"ERROR - ECU" ("ERROR - 43")	ECU 通信異常または電子メータの通信異常
"ERROR - 44"	傾き自動コントローラ通信異常
"ERROR - 49"	上昇 PTO 停止センサの異常
"ERROR - 50"	前輪切れ角センサの異常

（次へ続く）

表示エラーコード	状態
“ERROR - 52”	リフトアームセンサの異常
“ERROR - 53”	ストロークセンサの異常
“ERROR - 54”	傾き自動角度調整ダイヤルの異常
“ERROR - 55”	傾き自動上げソレノイドの異常
“ERROR - 56”	傾き自動下げソレノイドの異常
“ERROR - 57”	傾き自動コントローラの基準電圧（＋ 5 V）の異常
“ERROR - 60”	基準電圧（＋ 5 V）の異常
“ERROR - 61”	STG センサの異常
“ERROR - 63”	アクセルとエンジンの調整異常
“ERROR - NET”	通信異常

3. AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置

次のような症状は、故障ではないことがあります。
修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

現象	原因	処置
電源が入らない （音が出ない）	ヒューズが切れている。	入っていたものと同じ容量のヒューズと交換する。 再度切れる場合は、購入先にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れる。
音飛びする ノイズなどが入る	CD が汚れている。	CD をやわらかい布で拭く。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換する。
電源を入れた直後 音質が悪い	湿気の多い所に駐車すると、内部のレンズに水滴が付くことがあるため。	電源を入れた状態にして 1 時間乾燥させる。
ボタンを押しても動作しない ディスプレイが正確に表示されない	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している。	リセットボタンを、細い棒などで約 2 秒間押す。リセットボタンを押したときは、設定したプリセットメモリなどすべて消えるので、もう一度設定し直す。  1XZMN00031A01 *(1)* リセットボタン

エラー表示について
異常が生じたときには、各種のエラーが表示されますので、対処方法に従って障害を取り除いてください。

表示エラーコード	原因	対処方法
“ER2”	本機の CD デッキ内の CD が引っ掛かってイジェクトされないとき	引っ掛かる要素を取り除く。CD がイジェクトされない場合は、機器の故障と思われるので、購入先にご相談ください。
“ER3”	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり、演奏できないとき	傷やソリのない CD と交換する。

※前述の対処を行っても復帰しない場合は、本体の電源を切り、購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

1. トラクタの主要諸元

型式			GVE860		GVE1010	
販売型式名			GVE860SELH	GVE860SELA	GVE1010SELH	GVE1010SELA
駆動方式			4 輪駆動			
機体寸法	全長		3950 mm			
	全幅		1980 mm	2040 mm	1980 mm	2040 mm
	全高		2610 mm	2620 mm	2610 mm	2620 mm
	軸距		2250 mm			
	輪距	前輪	1540 mm～1640 mm	1540 mm～1660 mm	1540 mm～1640 mm	1540 mm～1660 mm
		後輪	1500 mm～1900 mm			
	最低地上高		445 mm	455 mm	445 mm	455 mm
質量（重量）			3180 kg	3200 kg	3180 kg	3200 kg
エンジン	機関型式		V3800-TIEF4			
	形式		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル			
	総排気量		3.769 L			
	出力／回転速度（ネット）		63.3 kW/2600 rpm (86 PS/2600 rpm)		74.3 kW/2600 rpm (101 PS/2600 rpm)	
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		105 L			
	尿素水タンク容量		12.3 L			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）			
タイヤ	前輪		11.2-24	12.4-24	11.2-24	12.4-24
	後輪		13.6-38H	16.9-34	13.6-38H	16.9-34
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板			
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（油圧式）			
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング			
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			
	変速方式		主変速：シンクロシフト、副変速：コンスタント			
変速段数			前進 36、後進 36			
走行速度	前進		0.34～33.9 km/h	0.34～34.1 km/h	0.34～33.9 km/h	0.34～34.1 km/h
	後進		0.34～34.3 km/h	0.34～34.5 km/h	0.34～34.3 km/h	0.34～34.5 km/h
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			3.3 m			
PTO	PTO 回転速度/エンジン回転速度	1 段	540 rpm/2405 rpm			
		2 段	750 rpm/2350 rpm			
	軸寸法		JIS 35			
作業機昇降装置		制御方式	ポジションコントロール、ドラフトコントロール、ミックスコントロール			
		装着方式	3 点リンク JIS 2 形			

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 走行速度表

型式		GVE860 GVE1010			
販売型式名		GVE860SELH GVE1010SELH			
後輪タイヤ		13.6-38H			
副変速	主変速	デュアル Hi （高速）		デュアル Lo （低速）	
		前進	後進	前進	後進
（クリープ）	1	0.40	0.41	0.34	0.34
	2	0.55	0.56	0.46	0.47
	3	0.71	0.72	0.59	0.60
	4	0.91	0.92	0.77	0.78
	5	1.1	1.1	0.95	0.96
	6	1.6	1.6	1.4	1.4
（低速）	1	2.7	2.8	2.3	2.3
	2	3.7	3.8	3.1	3.2
	3	4.8	4.9	4.0	4.1
	4	6.2	6.3	5.2	5.3
	5	7.7	7.8	6.5	6.5
	6	11.0	11.1	9.2	9.4
（高速）	1	12.1	12.2	10.1	10.3
	2	16.5	16.7	13.9	14.0
	3	21.2	21.5	17.9	18.1
	4	27.4	27.8	23.1	23.4
	5	33.9	34.3	28.5	28.9
	6 *1	33.6	34.1	28.3	28.7

（km/h：エンジン定格回転時 2600 rpm）

*1　ただし、エンジン回転数は 1800 rpm に上限規制されます。

型式		GVE860 GVE1010			
販売型式		GVE860SELA GVE1010SELA			
後輪タイヤ		16.9-34			
副変速	主変速	デュアル Hi （高速）		デュアル Lo （低速）	
		前進	後進	前進	後進
 （クリープ）	1	0.40	0.41	0.34	0.34
	2	0.55	0.56	0.46	0.47
	3	0.71	0.72	0.60	0.61
	4	0.92	0.93	0.77	0.78
	5	1.1	1.1	0.95	0.97
	6	1.6	1.6	1.4	1.4
 （低速）	1	2.7	2.8	2.3	2.3
	2	3.8	3.8	3.2	3.2
	3	4.8	4.9	4.1	4.1
	4	6.2	6.3	5.3	5.3
	5	7.7	7.8	6.5	6.6
	6	11.0	11.2	9.3	9.4
 （高速）	1	12.1	12.3	10.2	10.3
	2	16.6	16.8	14.0	14.1
	3	21.4	21.7	18.0	18.2
	4	27.6	28.0	23.2	23.5
	5	34.1	34.5	28.7	29.0
	6 *1	33.8	34.3	28.5	28.8

（km/h：エンジン定格回転時 2600 rpm）

*1　ただし、エンジン回転数は 1800 rpm に上限規制されます。

3. 標準付属品

品名	数量／台
取扱説明書	1
取扱説明確認カード	1
保証書	1
メンテナンスブック	1
メインスイッチキー	2
ニップル（油圧取出用）	2
O リング（油圧取出用）	2

索引

記号・数字

3 点リンク
　各部の名称.....99
3 点リンク
　作業機の注意.....18
4WD（4 輪駆動）の使い方.....60

アルファベット

AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ
　CD モード.....122
　お問合わせ.....124
　音質調整部.....117
　基本操作部.....116
　スピーカとスクリーンセーバー設定部.....119
　時計設定部.....118
　不調と処置.....169
　ラジオモード.....120
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ
　取扱い上の注意.....115
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ（オプション）.....115
DPF 差圧センサ
　パイプの点検.....159
　ホースの交換.....159
DPF マフラ
　PM 堆積の警告レベルと必要な処置（再生禁止モード時）.....41
　PM 堆積の警告レベルと必要な処置（自動再生モード時）.....39
　再生禁止モードの操作.....40
　再生に関する豆知識.....42
　再生方式.....37
　自動再生モードの操作.....38
　清掃.....158
　駐車再生の操作手順.....42
　点検.....136
　取扱いポイント.....36
EGR
　クーラの点検・清掃.....156
　クーラホースの交換.....159
　システムの点検・清掃.....158
　パイプの点検.....159
PCV バルブ
　点検.....156
　ホースの交換.....159
PTO クラッチコントロールスイッチ.....102
PTO 軸カバー.....104
PTO 軸キャップ.....104
PTO 変速レバー.....104
SCR 警告情報.....45

あ

アクセルペダル.....57
アクセルレバー.....57
暗証番号の入力方法.....71
安全キャブ.....50
　空気の流れ.....113
安全キャブ部.....35
安全ラベル
　取扱い.....26
　貼付け位置.....21
アンテナ.....124
インストラクタシート.....51
　使用時の注意と手順.....51
インテークエアヒータ
　点検.....158
イージーチェッカ.....67
ウインカスイッチ.....53
ウエイト（オプション）.....109
　後輪.....109
　前部.....109
ウォッシャ液
　補充.....163
ウォータセパレータ
　清掃.....147
　水の排出.....133
運転席部.....34
運転免許.....29
エアコン
　外気フィルタの清掃.....146
　機器の簡易点検.....158
　コントロールパネルの操作方法.....114
　コントロールパネルの名称と働き.....114
　フロント吹出口.....114
エアコンコンデンサ
　清掃.....146
　引出し.....136
エアコン配管
　点検.....153
エアコンベルト
　張りの調整.....146
　張りの点検.....146
エアコンホース
　交換.....160
　点検.....153
液晶モニタ
　PTO 回転数の設定.....65
　初期設定.....63
　タイヤ周長の確認と設定.....64
　時計の設定.....64
　時計の表示/非表示設定.....64
　パフォーマンスモニタ.....66
　表示一覧.....63
　表示単位の設定.....65
エキゾーストパイプ
　点検.....140
エキゾーストマニフォールド
　点検.....155

絵目次
安全キャブ部....35
運転席部....34
電子メータ....62
トラクタの外観....31
ハンドル部....33
エンジン
始動確認....139
停止時の尿素 SCR システムの注意....144
排気状態の確認....140
バッテリ上がりの処置....95
不調と処置....166
前周りの清掃....136
エンジンオイル
交換....148
交換（初回 50 時間運転後）....138
点検....132
補給....132
エンジンオイルフィルタカートリッジ
交換....149
交換（初回 50 時間運転後）....138
エンジン回転規制....57
エンジン回転計....69
エンジン回転メモリ....75
解除方法....76
設定方法（設定回転数の変更）....75
エンジン過回転警告....67
エンジン始動システム
点検....139
エンジン始動セキュリティ....72
暗証番号設定....74
入/切設定....73
概要....71
エンジン低温規制....92
エンジンの始動と停止
寒冷時の始動のしかた....91
警告....88
始動のしかた....88
停止のしかた....92
エンジンバルブクリアランス
点検....154
オイルクーラ
清掃....135
オイルセパレータ
エレメントの交換....155
不凍結用ヒータ（オプション）....159
ホースの交換....159

か

外気フィルタ
清掃....146
外部油圧取出し....84
片側の車輪がスリップするとき....96
傾き自動外部操作スイッチ....101
傾き自動角度調節ダイヤル....83
傾き自動切替スイッチ....81
位置制御....83
切....83
傾斜地....82
傾斜地傾き自動の微調整....82
水平....82
傾き自動シリンダホース
交換....159
点検....153
傾き自動の安全ロック機能....84
傾き自動の各部の名称....80
傾き手動スイッチ....83
寒冷時の暖機運転....95
寒冷時のワイパの使用....112
キャブマウントゴム
点検....159
吸気ホース
交換....151,159
点検....151
キースイッチ
機能....55
クォータウインド
開閉のしかた....111
クラッチハウジング
水抜き....161
クラッチペダル....57
クラッチボタン....60
グリースの注入....140
クリープ速度....58
けん引ヒッチ（ドローバ）（オプション）....102
公道走行時
注意....29
後輪ウエイト（オプション）....109
後輪輪距一覧表....108
小型特殊自動車取得の届出....29
故障診断コード（DTC：Diagnostic Trouble Code）. 45
ご相談窓口....27
困ったときの参照頁一覧....9

さ

サイドカバー
取外しかた....131
取外しの注意事項....131
坂道での運転....96
作業機昇降装置
ランプ表示一覧....84
作業機の取付け....100
作業機用操作ボックスの取付け....124
作業機を取り付けないときの注意....102
作業灯
後側....113
注意事項....112
前側....113
作業灯スイッチ....112
サプライポンプ
点検....158
室内エアフィルタの清掃....145
リフトシリンダホース
点検....153

シャトルレバー.....59
車幅灯.....55
主変速レバー.....57
上昇 PTO 停止モード.....103
シート.....50
シートベルト.....50
水温計.....69
推奨オイル・尿素水・グリース一覧表.....130
スローブローヒューズ
　交換.....162
前日の異常箇所の点検.....131
洗車時の注意.....125
前部ウエイト（オプション）.....109
前部デフケース
　オイル交換.....154
　前後遊びの点検・調整.....153
前輪ケース
　左・右のオイル交換.....154
前輪輪距一覧表.....107
走行モード切換スイッチ.....59
損害賠償保険.....29

た

タイヤ.....104
　空気圧.....104
　空気圧、摩耗、損傷の点検.....135
　取付けボルトの点検.....139
タイヤの取外しの注意.....105
タイロッド
　ゴムブーツの点検.....139
　点検.....144
　トーイン調整手順.....145
ダストインジケータ
　点検.....134
ダブルエアクリーナエレメント
　交換時期.....154
　清掃手順.....141
ターボチャージャ
　点検.....157
チェックチェーン
　調整.....101
注意事項
　DPF マフラ.....20
　PTO 軸の保護.....15
　PTO の回転数.....15
　油漏れの点検.....19
　あゆみ板の使用.....14
　安全キャブの改造禁止.....11
　安全キャブの目的.....11
　運転してはいけない人.....11
　運転に不適切な場所.....13
　エンジン停止時の注意.....18
　屋内で運転するとき.....13
　改造禁止.....12
　急旋回禁止.....14
　共同作業時.....14
　傾斜地作業時.....15
　けん引作業時の注意.....13
　高圧洗浄後.....19
　交通法規遵守.....16
　後方転覆の危険.....14
　後輪を浮かせての始動禁止.....19
　コモンレール仕様.....19
　坂道走行.....16
　作業機の着脱.....15
　作業後.....19
　作業に適した服装.....12
　作業前の点検・確認.....12
　周囲の安全確認.....12
　シートの掛けかた.....17
　シートベルトを併用すること.....11
　整備時の安全確認.....17
　整備時の適した服装.....17
　旋回時.....96
　旋回速度.....16
　タイヤの確認.....18
　正しい運転方法.....11
　駐車場所.....17
　低速車（SMV）マークの表示.....17
　ディーゼルパーティキュレートフィルタ（DPF）マフラ.....20
　デフロックの禁止.....16
　転倒防止のための重量バランス.....15
　同乗禁止.....13
　途中変速の危険.....14
　燃料補給時の注意.....17
　廃棄物の処理.....19
　ブレーキペダルの使い方.....16
　フロントローダ作業.....15
　ほ場外での作業機落下防止.....14
　ほ場への出入り.....14
　油圧部品を外すときの注意.....19
　レバー、スイッチやブレーキの確認.....12
　レバーの状態.....17
駐車ブレーキ.....56
　作動点検.....137
　点検・調整.....143
　ワイヤの交換.....159
長期格納時の手入れ.....164
チルトステアリングハンドル.....53
定期点検箇所一覧表.....126
定期点検項目
　早見表.....128
低速車（SMV）マークの表示.....29
ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ
　概要.....36
デフロック
　禁止事項.....16
　注意事項.....60
デュアルスピード（DS）ボタン.....59
電源取出し.....87
電子エンジン制御.....75
電子メータ.....62

ドア
開閉とロックのしかた..... 110
ヒンジ部の注油.....163
ドア・窓
開閉とロックの注意事項.....110
道路走行中の注意..... 96
トップリンク
取付け穴の選択.....100
長さの調整.....100
トラクタ
運転中の作動確認..... 96
運転前の点検.....88
外観.....31
給油（水）一覧.....129
故障と処置..... 167
周囲の点検..... 131
主要諸元.....170
乗降.....88
走行速度表..... 171
停止と駐車..... 94
発進と走行..... 93
補修用部品の供給年限..... 28
トラックへの積み・降ろし.....97
ドラフトコントロールレバー..... 77
ドラフト感度の調整.....78
フローティングの使い方.....78
トレーラカプラ電源.....87
トーイン
調整.....144
点検.....144

な

ならし運転（最初の約 50 時間）.....95
ナンバープレートの取付け.....29
日常点検
注意事項.....131
尿素 SCR システム
エンジン停止後の取扱注意点..... 49
概要.....43
寒冷地での使用時の注意点.....49
関連部品のメンテナンス.....50
警告情報一覧と対応.....46
尿素 SCR マフラ
点検.....136
尿素水(AdBlue)
概要.....44
残量低下時の警告表示..... 44
点検（日常点検）..... 137
凍結警告.....92
取扱い..... 44
尿素水タンク内での保管.....49
廃棄.....49
排出.....48
品質.....44
品質の点検（3 か月ごと）.....158
保管.....48
補給.....48
補給（日常点検）..... 137
尿素水(AdBlue)ゲージ.....68
尿素水インジェクタ
清掃.....155
点検.....158
尿素水タンクサクションフィルタ
点検.....158
尿素水ポンプエレメント
交換.....158
尿素水ホース
点検.....155
燃料
空気抜きのしかた..... 160
補給時の注意点.....137
燃料インジェクタ
点検.....155
燃料計
機能.....68
燃料タンク
水抜き..... 145
燃料電磁ポンプ内フィルタ
清掃.....147
燃料フィルタカートリッジ
交換.....149
燃料ホース
交換.....150,159
点検.....150
農機型式名一覧表..... 28

は

排ガス後処理装置..... 36
廃棄物の処理.....125
倍速ターンの使い方.....60
バキュエータバルブ
清掃.....134
ハザードスイッチ..... 54
バックミラー.....53
バックランプ.....54
バッテリ
電解液の点検.....143
取扱いの注意事項..... 18
取付け・取外し時の注意点.....144
補充電のしかた.....144
バッテリ（+）コード
交換.....134
点検.....134
パネル
着脱.....135
パワーアシスト制御.....76
パワーステアリング
取扱い..... 97
パワーステアリングホース
交換.....152,159
点検.....152
ハンドル部..... 33
尾灯.....55

ヒューズ
交換.....161
標識の取付け.....29
標準付属品.....173
ヒータ
使用上の注意.....115
ファンベルト
点検・調整.....142
吹出口
フロント.....114
副変速レバー.....58
不凍液（ロングライフクーラント）の使い方.....157
ブレーキ
空気抜き.....160
ホースの交換.....159
ブレーキシール１、２
交換.....160
ブレーキペダル.....55
遊び量の点検.....136,142
イコライザの作動量の点検.....143
点検時の注意事項.....142
踏込み量の点検.....142
ブレーキホース
点検.....152
ブレーキランプ.....55
フロントウォッシャスイッチ.....111
フロント吹出口.....114
フロントワイパスイッチ.....111
フロンの取扱いの注意.....113
ブーストセンサホース
交換.....159
平行復帰スイッチ.....83
ヘッドライトスイッチ.....53
防虫網（ラジエータ用、エアコンコンデンサ用）
清掃.....135
ポジションレバー.....77
レバーストッパの使い方.....77
ほ場への出入り時の注意.....96
補助コントロールバルブ
単複切換えつまみ.....85
ボンネット
開閉時の注意事項.....131
開閉のしかた.....131
ホーンボタン.....54

ま

マグネットフィルタ
清掃.....149
マスタシリンダ / イコライザキット
交換.....160
マフラ
点検.....140
ミックスコントロール.....78
ミッションオイル
交換.....153
点検.....132
補給.....132
メータ・ランプ類の作動点検.....133
モニタランプ.....70

や

油圧オイルフィルタカートリッジ
交換.....149
油圧ブレーキ
遊び量の点検.....142
イコライザの作動量の点検.....143
点検時の注意事項.....142
踏込み量の点検.....142
油圧補助コントロールレバー.....84
油圧ロックの取扱い.....79

ら

ラジエータ
洗浄.....156
ラジエータホース
交換.....150,159
点検.....150
落下速度調整グリップ.....78
ランプ
交換の注意.....163
ランプ一覧.....163
リフトシリンダホース
交換.....159
リフトロッド（左）
長さ調整.....100
リヤウインド
開閉のしかた.....110
ヒンジ部の注油.....163
リヤデフォッガスイッチ（オプション）.....112
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ（オプション）.....112
流量調節バルブ
装着位置と特徴.....86
流量調節のしかた.....86
流量調節バルブ（オプション）.....85
輪距
前後輪タイヤ組合わせ表.....30
調整.....105
輪距一覧表
後輪.....108
前輪.....107
ルーフパネル
開閉のしかた.....111
ルームランプ.....111
冷却水
交換.....156
点検.....132
補給.....132
冷媒（ガス）
充てん.....163
量の点検.....163
連結解除ペダルロックレバー解除警告灯.....56
ロアーリンク
取付け穴の選択.....100
ローダ作業を安全に行うための注意事項.....98

わ

ワイヤハーネス
交換.....134
点検.....134